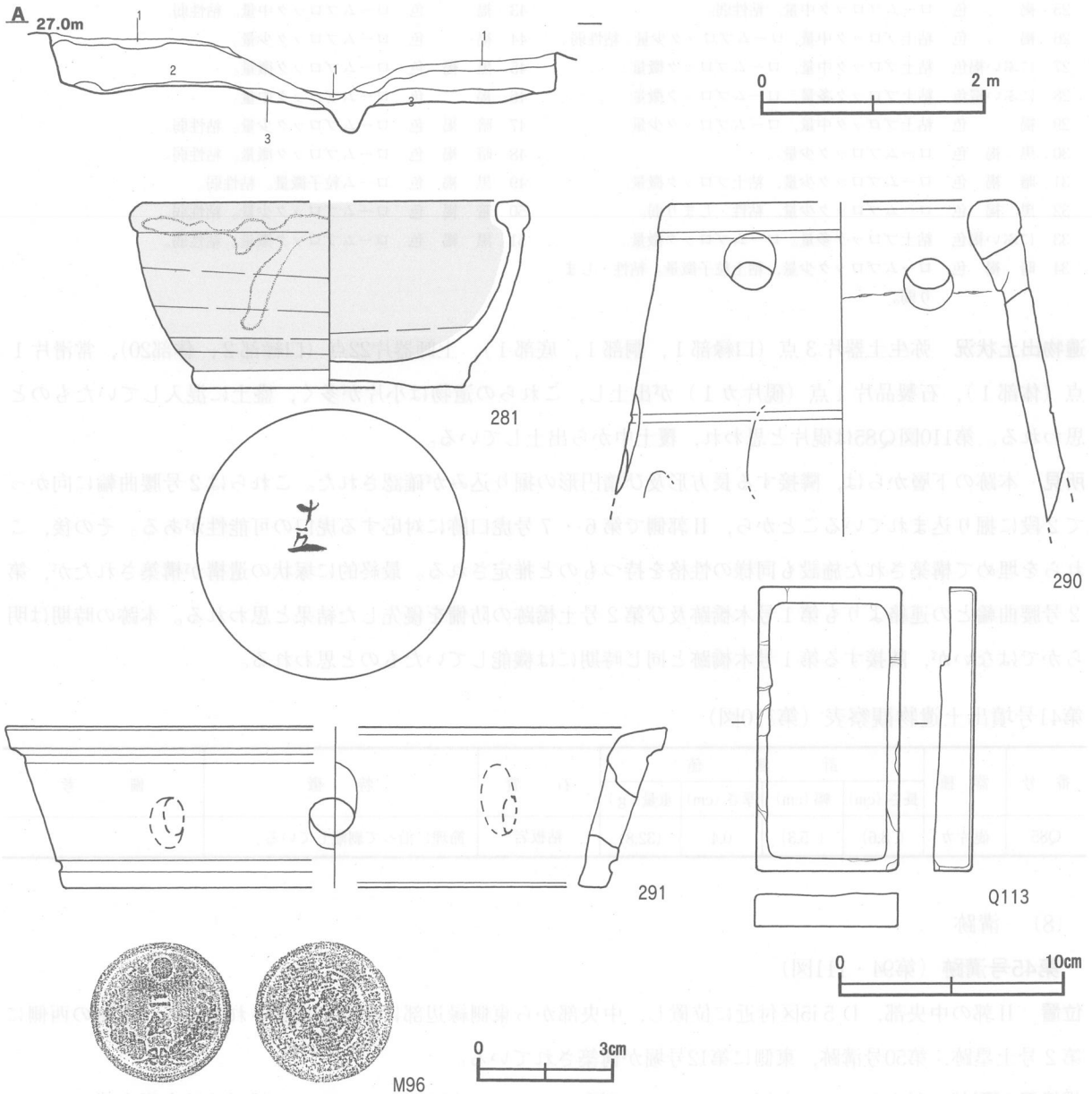


点(硯カ)が出土している。縄文土器片、弥生土器片、土師器片は埋没に伴って混入したものである。第111図P281・290, M96, Q11は覆土中から出土し, これらを含めて土師質土器片, 陶器片などは投棄されたものと思われる。

所見 本跡は当初城郭に伴う遺構と思われたが, 出土した遺物などから, 第2・3号土塁跡, 第50号溝跡などとともに, 長峰城の破脚後にⅡ郭内部と区画するために設けられた施設と考えられる。



第111図 第45号溝跡・出土遺物実測図

第45号溝跡出土遺物観察表 (第111図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P281	陶器	捏ね鉢	[16.7]	8.3	11.8	砂粒	橙色	—	黄褐色	在地系	近世	覆土中	65% PL74
P290	陶器	置き竈	[15.1]	(14.3)	—	石英	橙色	—	—	在地系カ	近世	覆土中	30% PL74
P291	陶器	不明	[29.2]	7.1	[24.0]	石英	暗赤褐色	—	—	在地系カ	近世	覆土中	30%

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q113	硯	12.5	6.3	(1.7)	(255)	粘板岩	表面一部欠	PL78

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M96	二銭	3.16	—	2.3	13.8	銅カ	明治	—	明治□十五年	

第50号溝跡 (第94・112図)

位置 II郭の南側，D4i9区付近に位置し，II郭中央部から西側縁辺部にかけて構築されている。本跡の南側に接して第2・3号土塁跡，南西に第13号堀，東側に第45号溝跡が構築されている。

規模及び形状 長さ32m，上幅1.6～2m，下幅0.3～0.5m，深さ0.80～1.10mで，断面はU字形である。主軸はN-70°-Wを指す。

覆土 5層からなる。含有物を均等に含むことから，自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量。 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量。 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量。 | 5 褐色 | ロームブロック少量。 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | | |

遺物出土状況 土師器1点(体部1)，埴輪片1点が出土しており，これらは本跡が埋没する過程で混入したものであろう。いずれも小片で，図化できなかった。

所見 本跡は当初城郭に伴う遺構と思われたが，第2・3号土塁跡との関連性が強く，これらと共に長峰城の破脚後にII郭内部を区画するために設けられた施設と考えられる。

第52号溝跡 (第94・112図)

位置 II郭の南東部，E5a7区付近に位置しており，東側に第12号堀，南に第10号虎口跡，西側に第1号道路跡が構築されている。

規模及び形状 長さ14m，上幅0.6～0.88m，下幅0.2～0.4m，深さ0.35～0.40mで，断面はU字形である。主軸はN-74°-Eを指す。

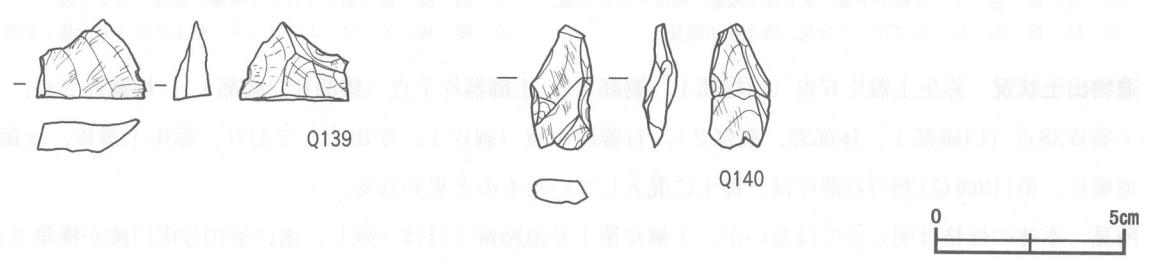
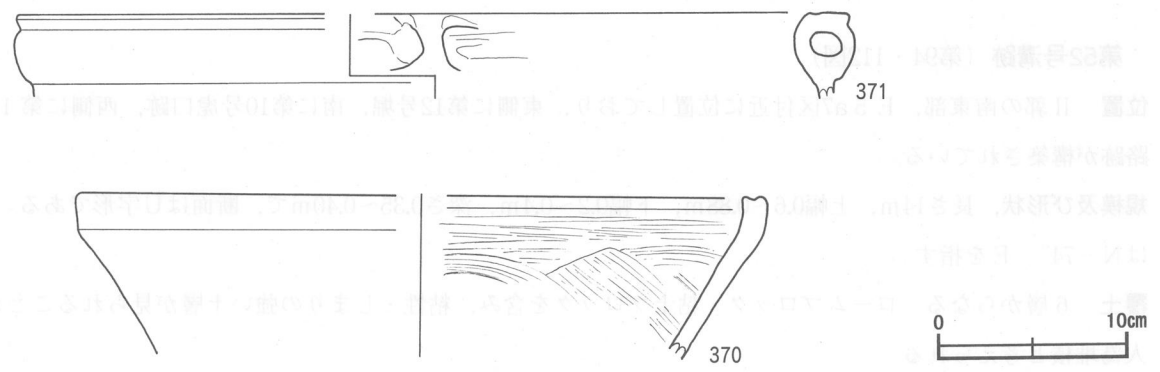
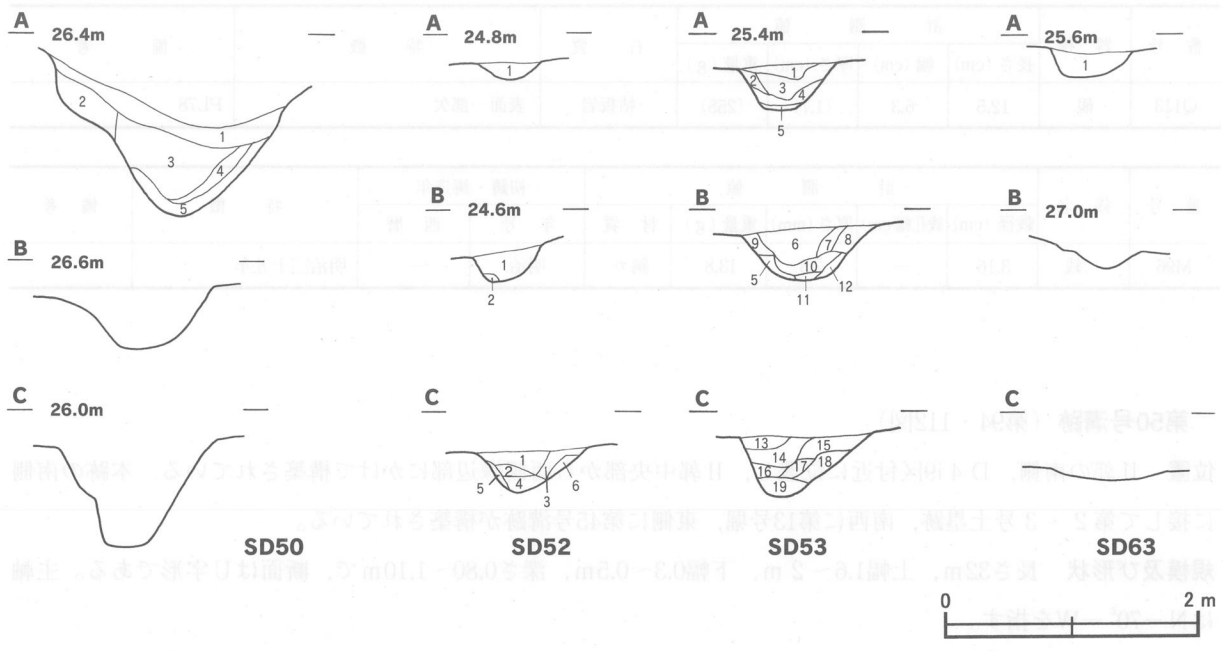
覆土 6層からなる。ロームブロック・粘土ブロックを含み，粘性・しまりの強い土層が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量。 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量。 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量。粘性・しまり強。 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック多量。粘性・しまり強。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量。 | 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量。粘性強。 |

遺物出土状況 弥生土器片6点(口縁部1，胴部5)，土師器片7点(体部6，底部1)，埴輪片2点，土師質土器片38点(口縁部1，体部35，底部2)，石器片1点(剥片1)が出土しており，弥生土器片，土師器片，埴輪片，第112図Q139の石器片は，覆土に混入していたものと思われる。

所見 本跡の性格は明らかではないが，主軸が第1号道路跡とほぼ一致し，南に第10号虎口跡が構築されていることから，これらと関連がある施設と思われる。



第112図 第50・52・53・63号溝跡実測図，出土遺物実測図

第53号溝跡（第112図）

位置 II 郭の南西部，E 5 b1区に位置しており，西側に第13号堀，第2号木橋跡，東側に第5号掘立柱建物跡，また南側にはほぼ並行して第1号道路跡が構築されている。

重複関係 第1号道路跡と重複している。

規模および形状 E 4 b0区付近で屈曲しており，長さ18.6m，上幅0.30～1 m，下幅0.2～0.5m，深さ0.22～0.50mで，断面はU字形である。主軸はN-77°-Eで，E 4 b0区付近ではN-1°-Eを指す。

覆土 19層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量。 | 11 褐色 | ローム粒子少量。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量。 | 12 褐色 | ロームブロック微量。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 13 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。粘性強。 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量。 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。 |
| 5 褐色 | ロームブロック微量。粘性強。 | 15 暗褐色 | ローム粒子微量。しまり弱。 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量。 | 16 黒褐色 | ロームブロック微量。 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量。 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量。 | 18 暗褐色 | ロームブロック微量。しまり弱。 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子少量。 | 19 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量。 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック微量。 | | |

遺物出土状況 土師器片11点（口縁部2，体部8，底部1），須恵器片1点（体部1），埴輪片3点，土師質土器片18点（口縁部9，体部8，底部1），石器片1点（剥片1）が出土している。第112図P370～372は屈曲部付近の覆土中から上層にかけて出土し，P370の破片は2群に分かれて出土している。これらは溝跡の廃絶に伴って投棄されたと思われる。土師器片，須恵器片，埴輪片，石器片は，覆土に混入していたものである。

所見 本跡の性格は明らかではないが，東側の主軸が第1号道路跡とほぼ平行することから何らかの関連がある施設と思われる。本跡の時期は出土した遺物などから，第1号道路跡に先行する15～16世紀頃と考えられる。

第63号溝跡（第94・112図）

位置 II 郭の西側縁辺部，D 4 j8区付近に位置している。本跡の西に第13号堀，北東に第154号住居跡，南に第1号道路跡が構築されている。

重複関係 第459・461号土坑を掘り込んでいる。

規模及び形状 本跡の北西は調査区域外に延びる。現存で長さ13.01m，上幅0.36～1.12m，下幅0.14～0.46m，深さ0.08～0.17mで，断面はU字形である。主軸はN-62°-Wを指す。

覆土 1層からなる。含有物を均等に含むことから，自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量。粘性弱。

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は，重複関係などから中世以降と考えられる。

第52号溝跡出土遺物観察表（第112図）

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q139	剥片	2.1	2.9	1.0	3.5	安山岩		

第53号溝跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P370	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(8.5)	—	白色粒子・雲母	外：暗褐色 内：にぶい黄橙色	普通	内外面ナデ	覆土中～上層	10%
P371	土師質土器	内耳鍋	[44.0]	(4.0)	—	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	良	内外面ナデ	覆土中層	5%
P372	土師質土器	かわらけ	6.7	2.2	2.9	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい橙色	良	内外面ロクロナデ、 底部回転糸切り	覆土上層	90% PL74

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP184	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目、内面ナデ	覆土中層	円筒埴輪

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q140	剥片	3.2	1.6	0.6	3.72	安山岩		

(9) 土坑

II郭では46基の土坑が確認され、性格の不明なものが多い。その代表的な土坑について記述し、その他は実測図と一覧表に掲載する。

第455号土坑（第113図）

位置 II郭の西部，E 5 a1区に位置している。本跡の北に第155号住居跡，南に第1号道路跡がそれぞれ構築されている。

重複関係 第457号土坑を掘り込み，第456号土坑に掘り込まれている。

規模及び形状 長径2.49m，短径0.59m，深さ60cmの長楕円形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。主軸はN-53°-Eを指す。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む層が多く，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------|------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量。 | 3 褐色 | ロームブロック微量。しまり弱。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量。 | 4 褐色 | ローム粒子中量。 |

遺物出土状況 縄文土器片2点（胴部2），土師器片1点（体部1）が出土しており，本跡に混入したものである。

所見 本跡の性格は明らかではないが，墓壇の可能性が想定される。本跡の時期は不明であるが，第456号土坑に先行する。

第456号土坑（第113図）

位置 II郭の西部，E 4 a0区に位置している。本跡の北に第155号住居跡，南に第1号道路跡がそれぞれ構築されている。

重複関係 第455号土坑を掘り込んでいます。

規模及び形状 長軸2.10m，短軸0.64m，深さ12cmの隅丸長方形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。主軸はN-79°-Eを指す。

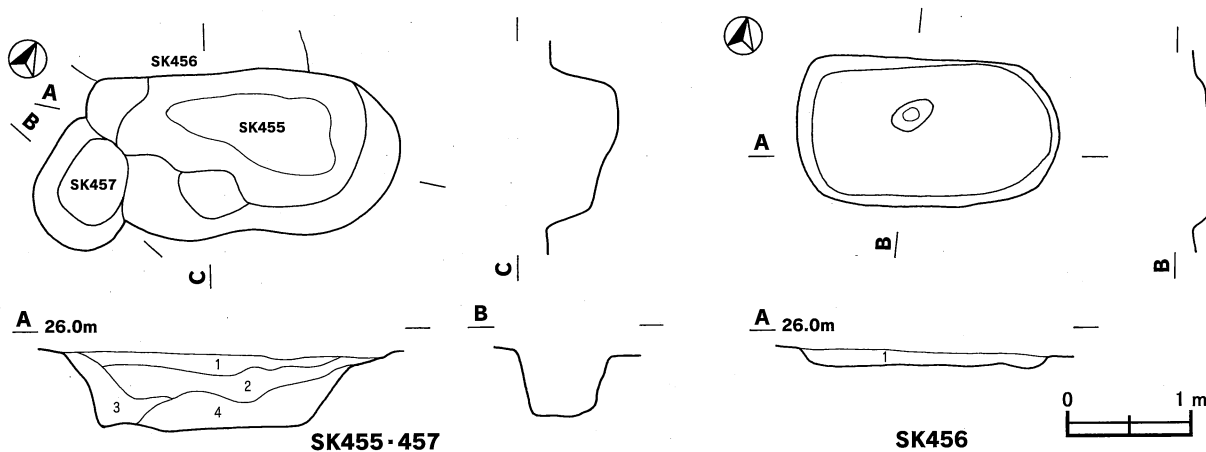
覆土 1層からなる。粘土ブロックを多量に含むことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック微量。しまり強。

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は覆土に粘土を多量に含むことから、粘土貼土坑の可能性はある。時期は、VI郭に構築された同様の遺構から、中世と想定される。



第113図 第455～457号土坑実測図

以下に実測図を掲載した土坑の土層解説を記載する。

第409号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量。
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 4 黒褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量。
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。

第415号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。
- 4 褐色 ロームブロック多量。しまり弱。
- 5 暗褐色 ロームブロック多量。しまり弱。

第426号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量。しまり強。

第428号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 黒褐色 ロームブロック少量。粘性強。

第429号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子微量。
- 4 褐色 ローム粒子少量。

第437号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量。しまり強。
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。
- 4 褐色 ロームブロック微量。

第441号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子少量。粘性強。

第444号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック多量，炭化粒子微量。
- 3 黒褐色 ロームブロック多量，炭化粒子少量。
- 4 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 5 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量。

第445号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量。
- 3 暗褐色 ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量。
- 4 暗褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量。
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量。
- 6 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量。
- 7 暗褐色 ロームブロック多量，炭化粒子少量。

第446号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量，炭化粒子少量。
- 2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量。
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 4 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 5 黒褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量。
- 6 黒褐色 ロームブロック中量。
- 7 黒褐色 ロームブロック少量，炭化物微量。
- 8 褐色 ロームブロック中量，炭化物微量。
- 9 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。
- 10 暗褐色 ロームブロック中量。

第450号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量。
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量。

第451号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量。

第454号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量。
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。
- 3 褐色 ロームブロック少量。
- 4 暗褐色 ロームブロック中量。
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 7 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量。
- 8 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量。

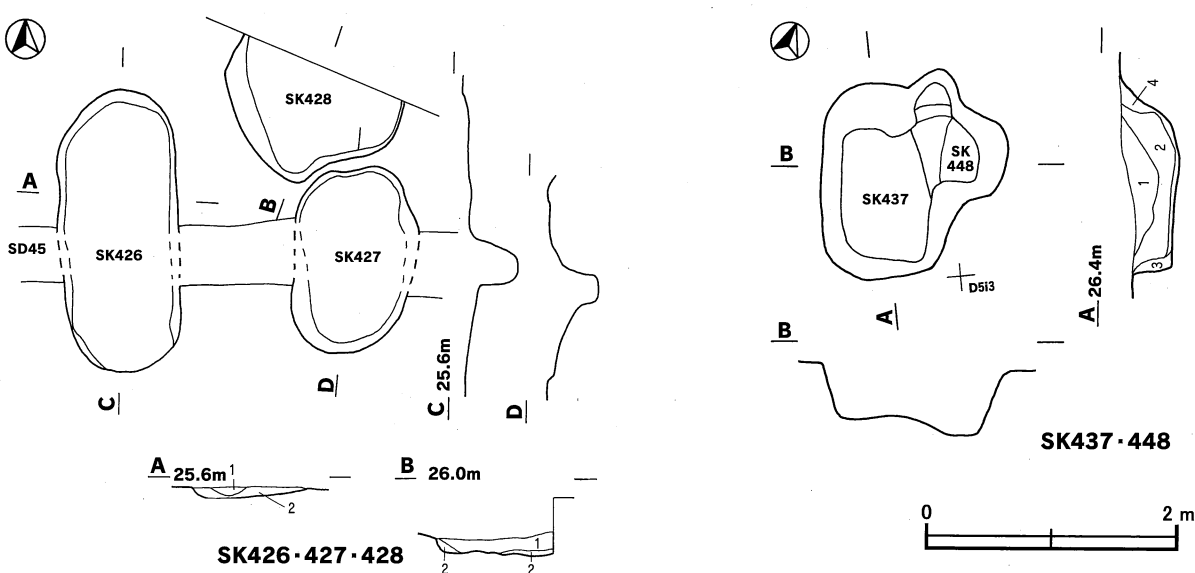
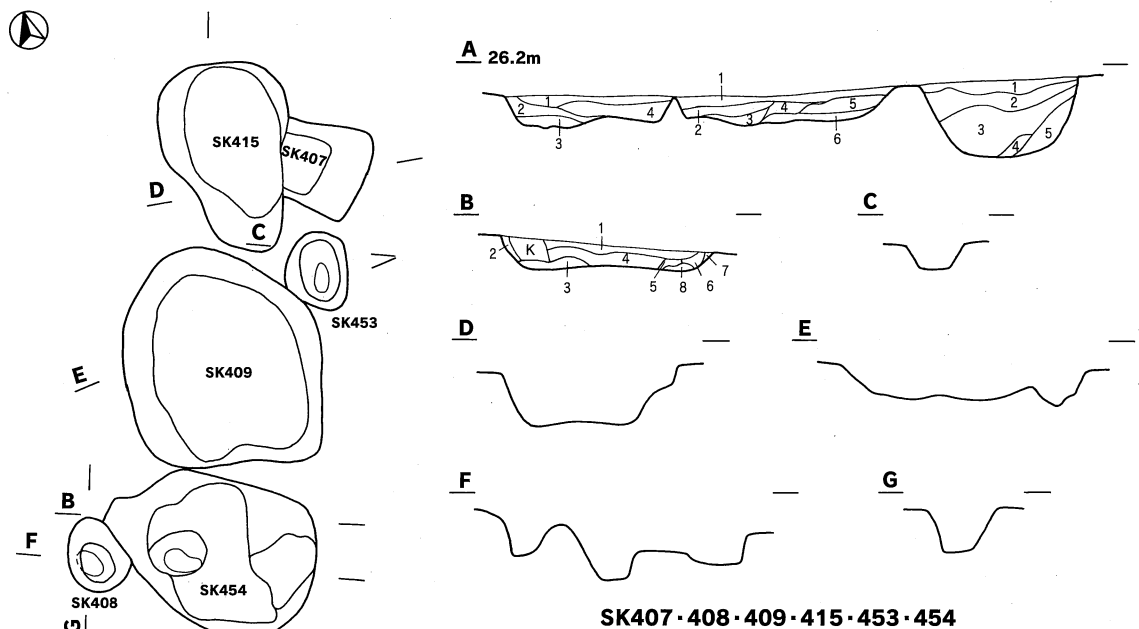
第459号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 ロームブロック中量。
- 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 4 暗褐色 ロームブロック中量。

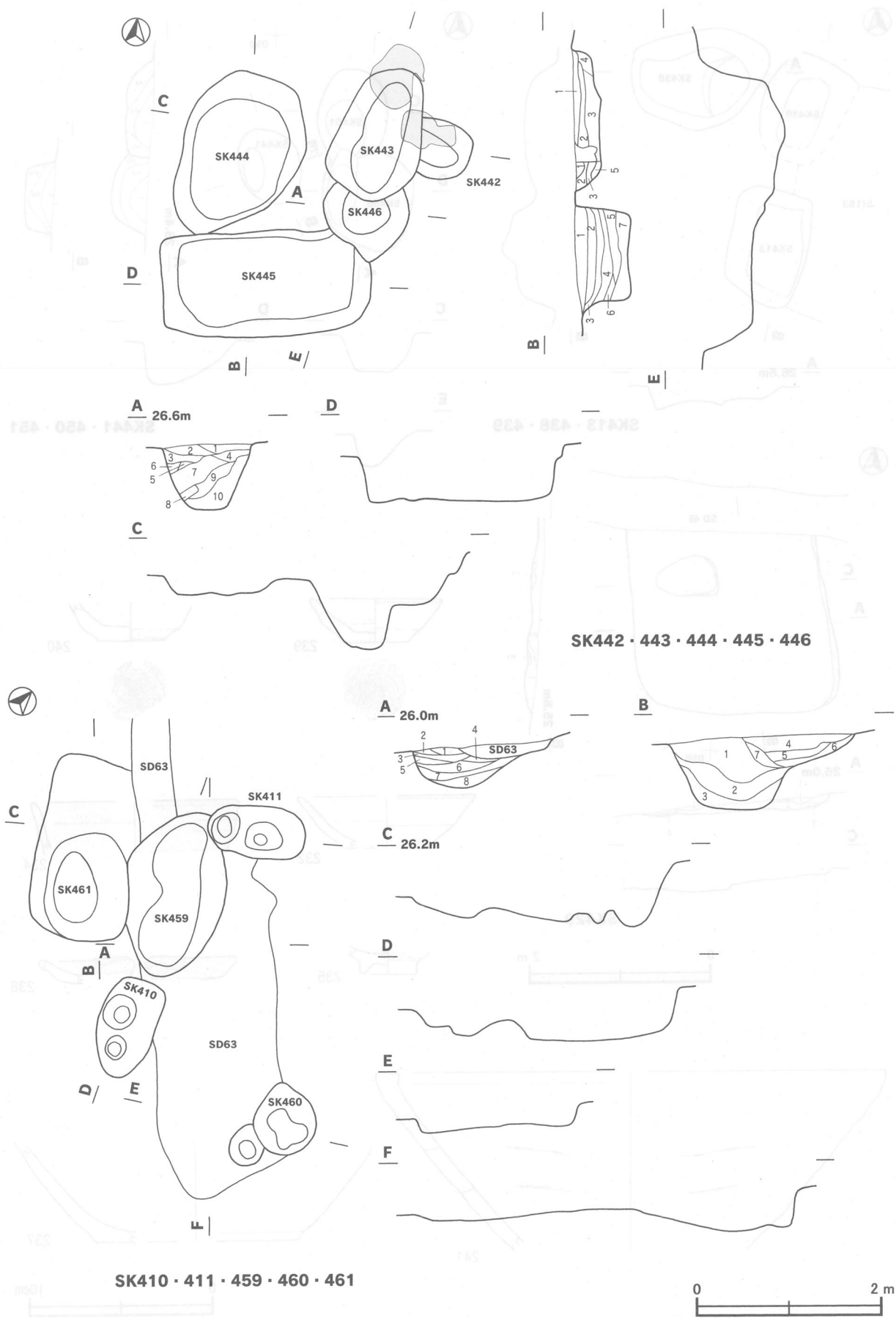
- 5 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック微量。
- 6 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子中量。
- 7 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量。
- 8 褐色 ロームブロック中量。

第461号土坑土層解説

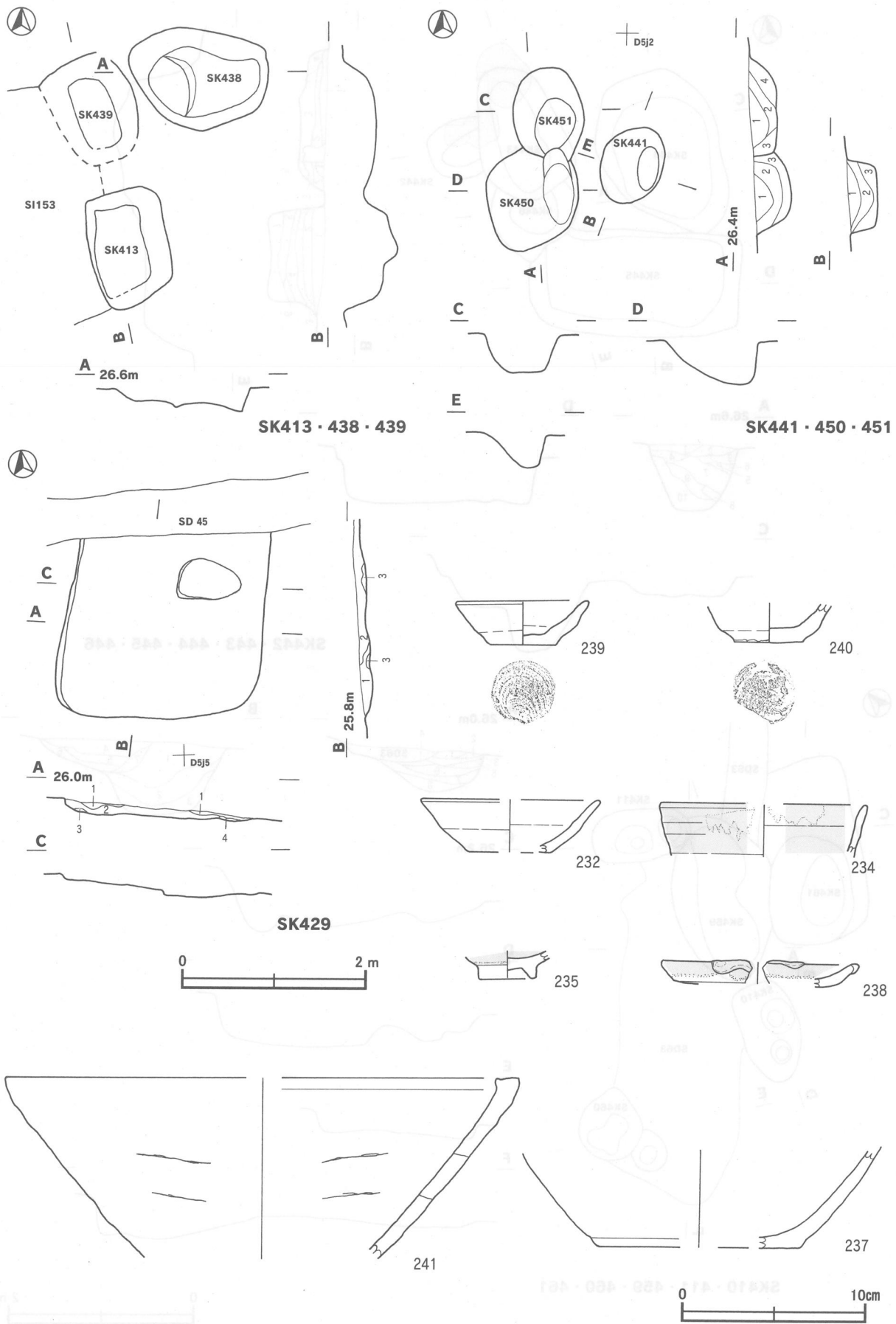
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量。
- 4 暗褐色 炭化粒子微量。粘性弱。
- 5 灰褐色 粘土粒子少量。
- 6 褐灰色 焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。
- 7 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量。



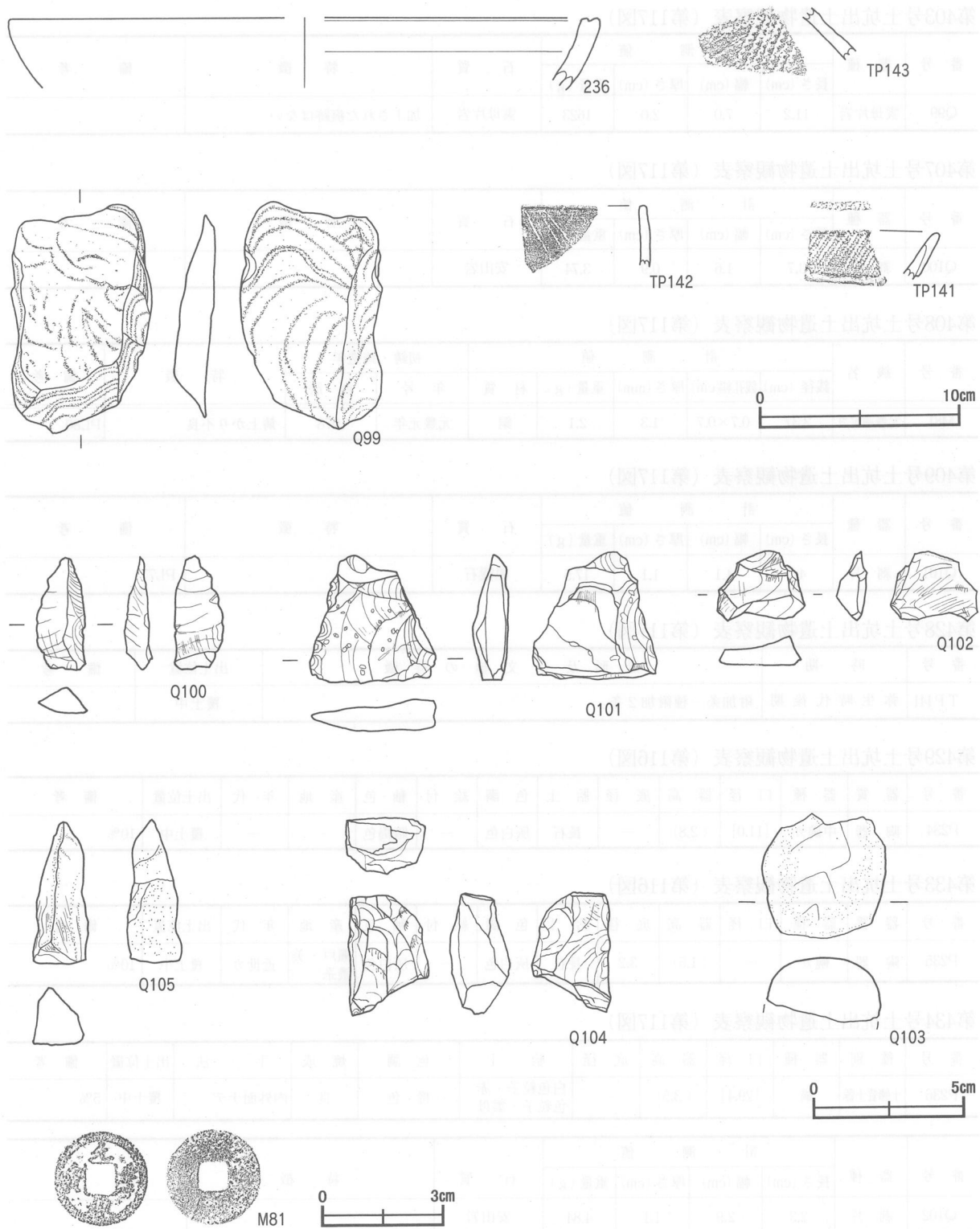
第114図 II 郭その他の土坑実測図 (1)



第115図 II 郭その他の土坑実測図 (2)



第116図 II 郭その他の土坑実測図 (3), 出土遺物実測図 (1)



第117図 II 郭その他の土坑出土遺物実測図 (2)

第401号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P232	土師質土器	かわらけ	[9.6]	2.8	[4.6]	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ, 底部不明	覆土中	20%

第403号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q99	雲母片岩	11.2	7.0	2.0	1623	雲母片岩	加工された痕跡はない	

第407号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q100	剥片	3.7	1.6	0.9	3.74	安山岩		

第408号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M81	元豊通宝カ	2.37	0.7×0.7	1.3	2.1	銅	元豊元年	1078	鑄上がり不良	PL80

第409号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q101	剥片	4.1	4.1	1.1	17.5	黒曜石		PL77

第428号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP141	弥生時代後期	附加条一種附加2条。	覆土中	

第429号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P234	陶器	中碗カ	[11.0]	(2.8)	—	長石	灰白色	—	暗褐色	—	—	覆土中	10%

第433号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P235	陶器	碗カ	—	(1.5)	3.2	長石	灰白色	—	灰白色	瀬戸・美濃系	近世カ	覆土中	10%

第434号土坑出土遺物観察表 (第117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P236	土師質土器	鍋	[29.4]	(3.5)	—	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q102	剥片	2.3	2.9	1.1	4.84	安山岩		

第435号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P237	土師質土器	鍋	—	(5.2)	[11.0]	雲母	橙色	良	内外面ナデ	覆土中	5%

第437号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P238	陶器	不明	[10.2]	(1.2)	—	長石	灰色	—	褐色	—	—	覆土中	10%

第443号土坑出土遺物観察表（第117図）

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP142	古墳時代後期	碗ヘラ状工具による沈線。	覆土中	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q103	石核	4.1	4.0	2.1	40.1	石英	原石カ	
Q104	石核	3.9	2.7	2.0	18.5	流紋岩		
Q105	石片	4.6	1.9	1.8	15.7	雲母片岩		

第445号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P239	土師質土器	かわらけ	7.1	2.4	3.6	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ、 底部回転糸切り	覆土中	80% PL74

第447号土坑出土遺物観察表（第117図）

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP143	弥生時代中期後半	S字状結節文を施文。	覆土中	

第459号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P240	土師質土器	かわらけ	—	(2.1)	3.6	白色粒子・黒色 粒子・雲母	黄橙色	良	内外面ロクロナデ、 底部回転糸切り	覆土中	65%

第461号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P241	土師質土器	内耳鍋	[27.6]	(9.7)	—	赤色粒子・雲母	明赤褐色	普通	内外面ナデ	覆土中	5%

3 III郭（第49・118図）

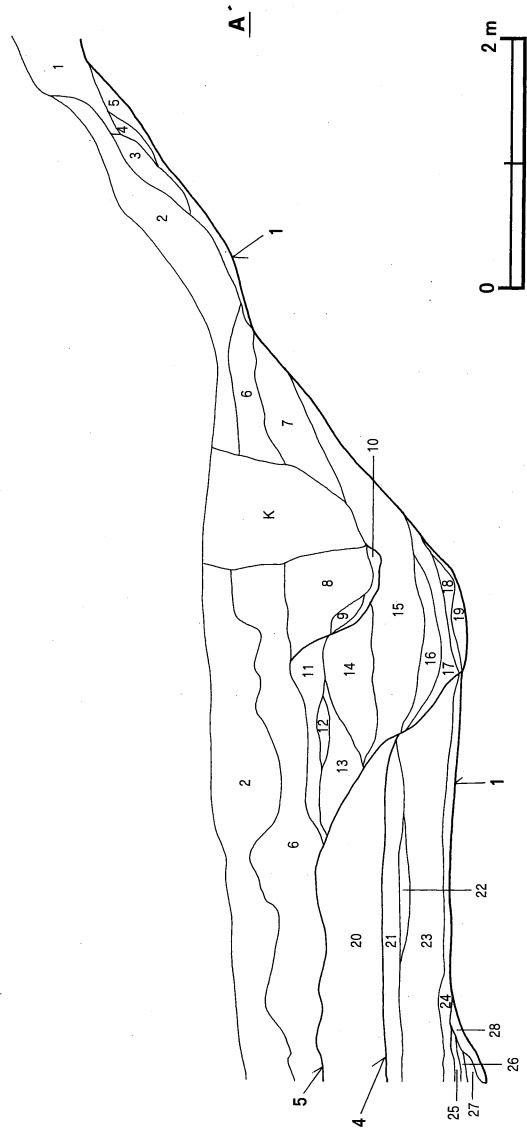
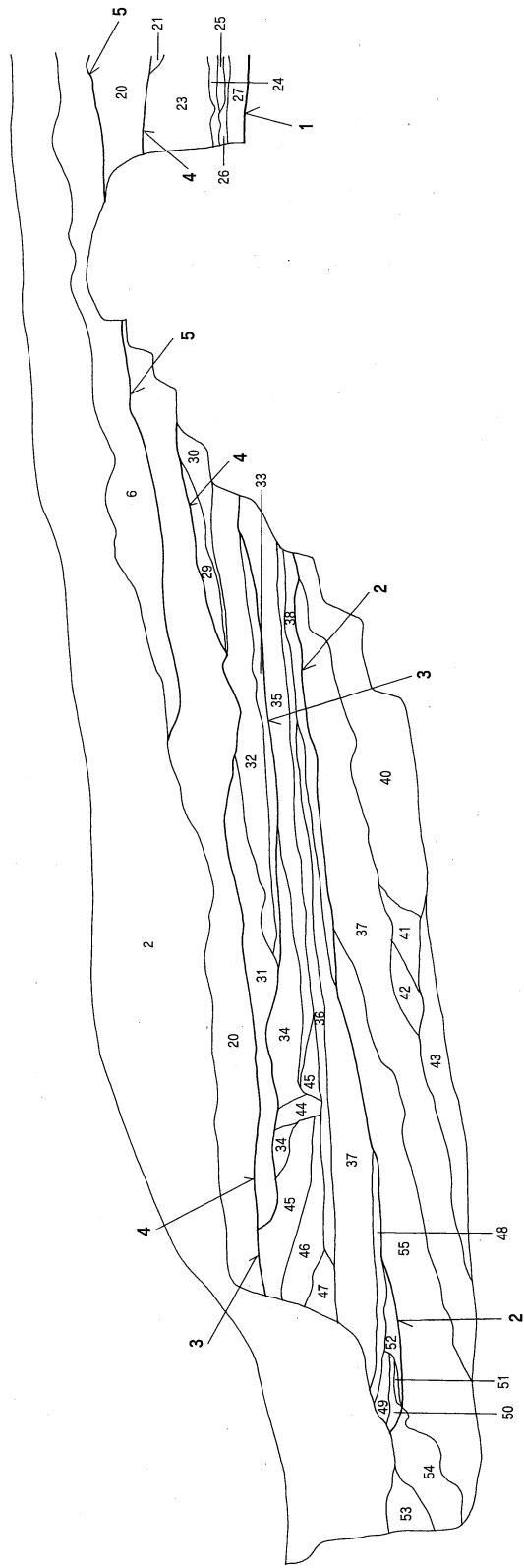
概要 本跡はI郭とVII郭が築かれた台地に挟まれた谷状の地形上に構築されている。規模と形状は、本跡の平坦部で底辺約45m、長さ約40mの三角形で、南西から北東に向かって緩やかに傾斜している。面積は約900㎡で、このうち南東側の約122㎡が調査の対象となった。

本跡は、第12号堀上端部より2.5～4m、またVII郭より約4mほどそれぞれ下がった位置に構築され、東側の長峰集落との比高差は約10mである。また、本跡の北側からVII郭東側に帯曲輪が構築されている。III郭へは、西は第44号墳付近から降りるか、あるいは東の長峰集落から登る通路がある。

III郭の地業（第118図） 調査区域の境界に沿って南北にトレンチを設定し、構築状況を観察した。南側では地山を確認したが、北側では約2.8mまで掘り下げたものの地山は確認できず、安全のため調査を打ち切った。

観察された土層は55層からなり、薄い土層が版築状に積み上げられている。1・2層は現表土、8～10層は第57号溝跡の覆土、7・11～19層は第58号溝跡の覆土で、1～5の土層堆積上の境界が観察された。そのうち1のラインは地山で、2～5のラインが構築の際に生じた境界である。2・3のラインの上面にはそれぞれ38・33層と硬化した黒褐色及び暗褐色土が薄く堆積し、一時生活面として使用されたものと思われる。特に3のラインは、44層が示すようにピット状の遺構が確認されていることから、何らかの構築物があった可能性が想定される。その後4のラインまで積み上げられ、第58号溝跡が構築されている。その後さらに埋め立てて第

A 19.0m



第118図 Ⅲ郭地業層

57号溝跡が構築され、最終状況に至るまで4期の変遷が認められる。

第58号溝跡とI郭斜面との境界に幅30~80cmほどの平坦部が確認され、犬走りと思われる。本跡の北端は高さ約1.3mのほぼ垂直に立ち上がる壁となっているが、構築時のものか後世の改変によるものかは不明である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 明褐色 粘土粒子中量。粘性強。 | 28 褐色 ローム粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 2 暗褐色 炭化粒子微量。しまり弱。 | 29 褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量。粘性弱。 | 30 にぶい黄褐色 炭化粒子少量、粘土粒子微量。粘性強。 |
| 4 褐色 ローム粒子微量。しまり弱。 | 31 褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性強。 |
| 5 褐色 ローム粒子中量。 | 32 灰褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量。 |
| 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量。しまり強。 | 33 暗褐色 粘土粒子微量。粘性強。 |
| 7 灰褐色 粘土ブロック・炭化物中量。粘性強。 | 34 灰褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 |
| 8 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 35 暗赤褐色 粘土粒子少量、ロームブロック微量。粘性・しまり強。 |
| 9 褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 | 36 暗褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 10 にぶい黄褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 | 37 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 11 暗褐色 粘土粒子微量。しまり強。 | 38 黒褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 12 暗褐色 粘土粒子少量。しまり強。 | 39 褐色 粘土ブロック多量。粘性強。 |
| 13 灰黄褐色 粘土粒子多量、炭化粒子少量。粘性強。 | 40 極暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 14 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。しまり強。 | 41 暗褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 15 黒褐色 粘土ブロック微量。 | 42 灰褐色 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。 |
| 16 灰褐色 粘土ブロック多量。粘性・しまり強。 | 43 褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 17 褐色 粘土粒子中量。 | 44 褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 18 灰褐色 粘土粒子中量。粘性強。 | 45 黒色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量。 |
| 19 暗褐色 粘土粒子微量。 | 46 暗赤褐色 焼土粒子少量。 |
| 20 褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量、ロームブロック微量。しまり強。 | 47 極暗赤褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量。粘性強。 |
| 21 褐色 炭化粒子少量。粘性・しまり強。 | 48 黒褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量。粘性強。 |
| 22 暗褐色 粘土粒子微量。粘性強。 | 49 黒色 粘土ブロック中量。粘性・しまり強。 |
| 23 暗褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量。粘性強。 | 50 灰褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 |
| 24 にぶい褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 | 51 灰褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 |
| 25 にぶい黄褐色 粘土粒子・炭化粒子微量。粘性強。 | 52 黒色 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 26 黒褐色 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 | 53 褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 27 褐灰色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 | 54 灰褐色 粘土ブロック中量。焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| | 55 褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量。粘性・しまり強。 |

(1) 溝跡

第57号溝跡 (第119図)

位置 III郭の南部、B7j4区付近に位置しており、南側はI郭の斜面である。

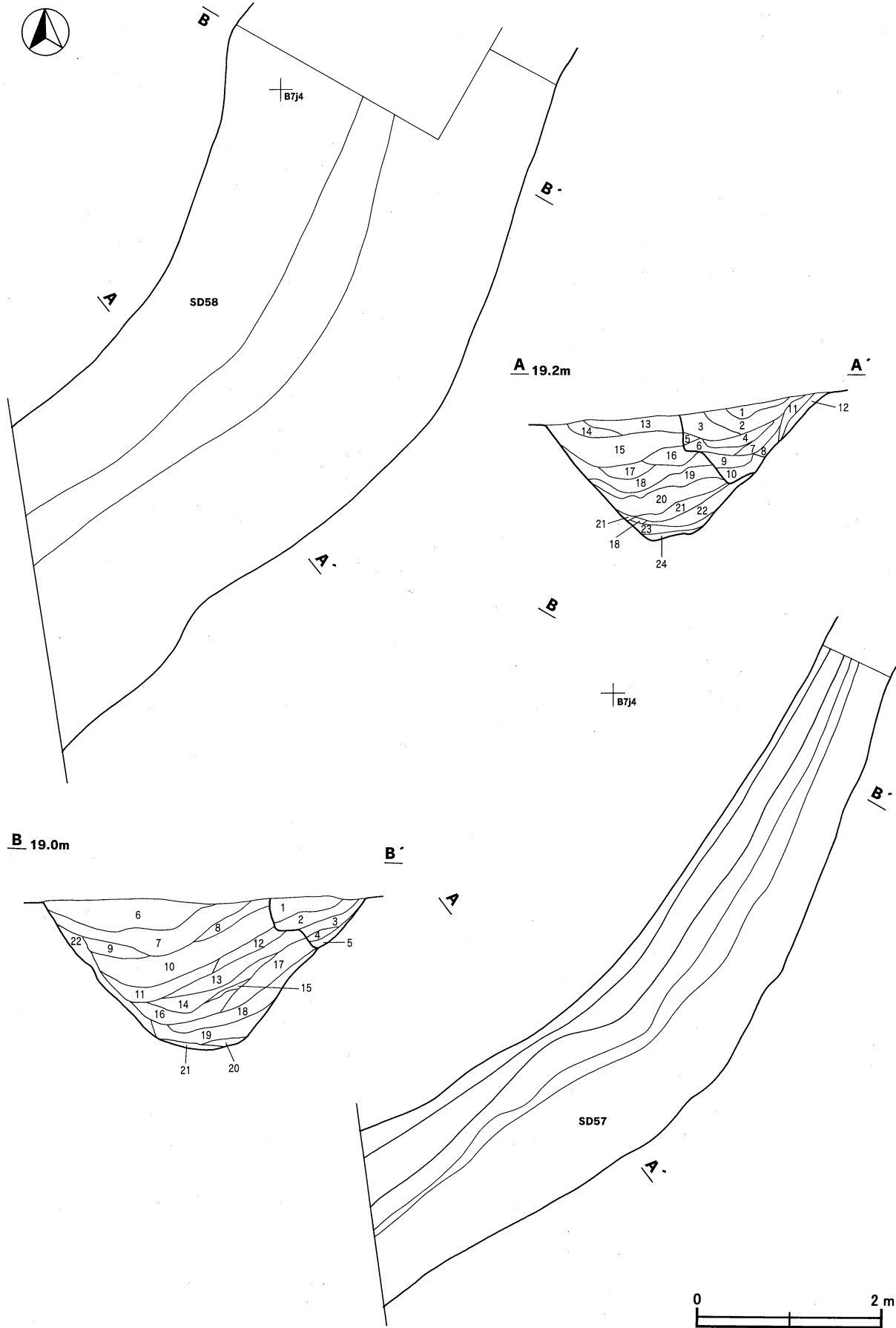
重複関係 第2号炭窯跡に掘り込まれ、第58号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 調査した範囲で、長さ8.2m、上幅0.9~1.6m、下幅0.1~0.25m、深さ0.5~0.8mで、断面はU字形で、一部北壁が2段にわたって掘り込まれている。主軸はN-33°-Eを指す。

覆土 A-A'及びB-B'の2か所で土層の堆積状況を観察し、それぞれ12層及び5層からなる。ロームブロック・粘土ブロックを含み、粘性の強い土層が多いことから人為堆積と考えられる。

A-A' 土層解説 (土層は第58号溝跡と通し番号)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量。粘性強。 | 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量。粘性強。 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物微量。粘性強。 | 8 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量。粘性強。 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量。粘性強。 | 9 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量。粘性強。 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量。粘性強。 | 10 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量。粘性強。 |
| 5 暗褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 | 11 暗褐色 粘土粒子中量。粘性強。 |
| 6 暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量。粘性強。 | 12 暗褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 |



第119图 第57·58号沟迹实测图

B-B' 土層解説 (土層番号は第58号溝跡と通し番号)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物微量。粘性強。 | 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量。 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量。 | 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量。粘性強。 |
| | 5 暗褐色 粘土粒子少量。粘性強。 |

遺物出土状況 土師器片2点(体部2)が出土している。本跡の埋土に混入していたものである。

所見 本跡は後述する第58号溝跡を埋めて構築され、Ⅲ郭とⅠ郭斜面の境界に沿って延びると推定される。本跡はⅠ郭斜面とⅢ郭を区画し、防御上斜面の高さを増すために構築された溝と思われる。本跡の時期は明らかではないが、長峰城の破却に伴って廃棄されたものであろう。

第58号溝跡(第119図)

位置 Ⅲ郭の南部, B7j4区付近に位置しており, 南側はⅠ郭の斜面である。

重複関係 第2号炭窯跡, 第57号溝跡に掘り込まれている。

規模及び形状 調査した範囲では, 長さ7.5m, 上幅2.8~3.5m, 下幅0.4~0.8m, 深さ1.4~1.6mで, 断面はU字形である。主軸はN-28°-Eを指す。

覆土 A-A' 及びB-B' の2か所で土層の堆積状況を観察し, それぞれ12層及び17層からなる。粘土ブロックを含み, 粘性の強い土層が多いことから人為堆積と考えられる。

A-A' 土層解説 (土層は第57号溝跡と通し番号)

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 13 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量。粘性強。 | 19 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量。粘性強。 |
| 14 暗褐色 粘土ブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量。粘性強。 | 20 におい黄褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量。粘性強。 |
| 15 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量。粘性強。 | 21 暗褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量。粘性強。 |
| 16 暗褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 | 22 暗褐色 粘土粒子中量。粘性強。 |
| 17 暗褐色 粘土ブロック多量。粘性強。 | 23 褐色 粘土粒子中量。粘性強。 |
| 18 におい黄色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量。粘性強。 | 24 褐色 砂粒多量。粘性弱。 |

B-B' 土層解説 (土層は第57号溝跡と通し番号)

- | | |
|---|---|
| 6 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量。粘性強。 | 14 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化物微量。 |
| 7 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化物少量。粘性強。 | 15 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量。粘性強。 |
| 8 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量。粘性強。 | 16 褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量。粘性強。 |
| 9 褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量。粘性強。 | 17 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子少量。粘性強。 |
| 10 暗褐色 粘土ブロック多量。ロームブロック中量, 炭化物微量。粘性強。 | 18 暗褐色 粘土ブロック多量。粘性強。 |
| 11 暗褐色 粘土ブロック多量, 炭化物少量。粘性強。 | 19 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量。粘性強。 |
| 12 暗褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子少量。粘性強。 | 20 褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子中量。粘性強。 |
| 13 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 炭化物少量。 | 21 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量。粘性強。 |
| | 22 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量。粘性強。 |

遺物出土状況 弥生土器片1点(胴部1), 土師器片1点(体部1)が出土している。本跡の埋土に混入していたものである。

所見 本跡はⅢ郭とⅠ郭斜面の境界に沿って延びると推定され, Ⅰ郭斜面とⅢ郭を区画し, さらに斜面の見かけの高さを増して防御を強化するために構築された遺構と考えられる。本跡の時期は不明であるが, 第58号溝跡に先行する時期である。

(2) その他

犬走り状遺構(第49図)

位置 Ⅲ郭の南部D7i5区付近に位置しており, 南側はⅠ郭斜面であり, 北側には第57・58号溝跡が構築され

ている。

規模と形状 調査した範囲では約12m、幅は先行する第58号溝跡が存続した際は0.3~0.6m、新しい第57号溝跡が存続した際には0.5~0.8mで、主軸はN-33°-Eを指す。

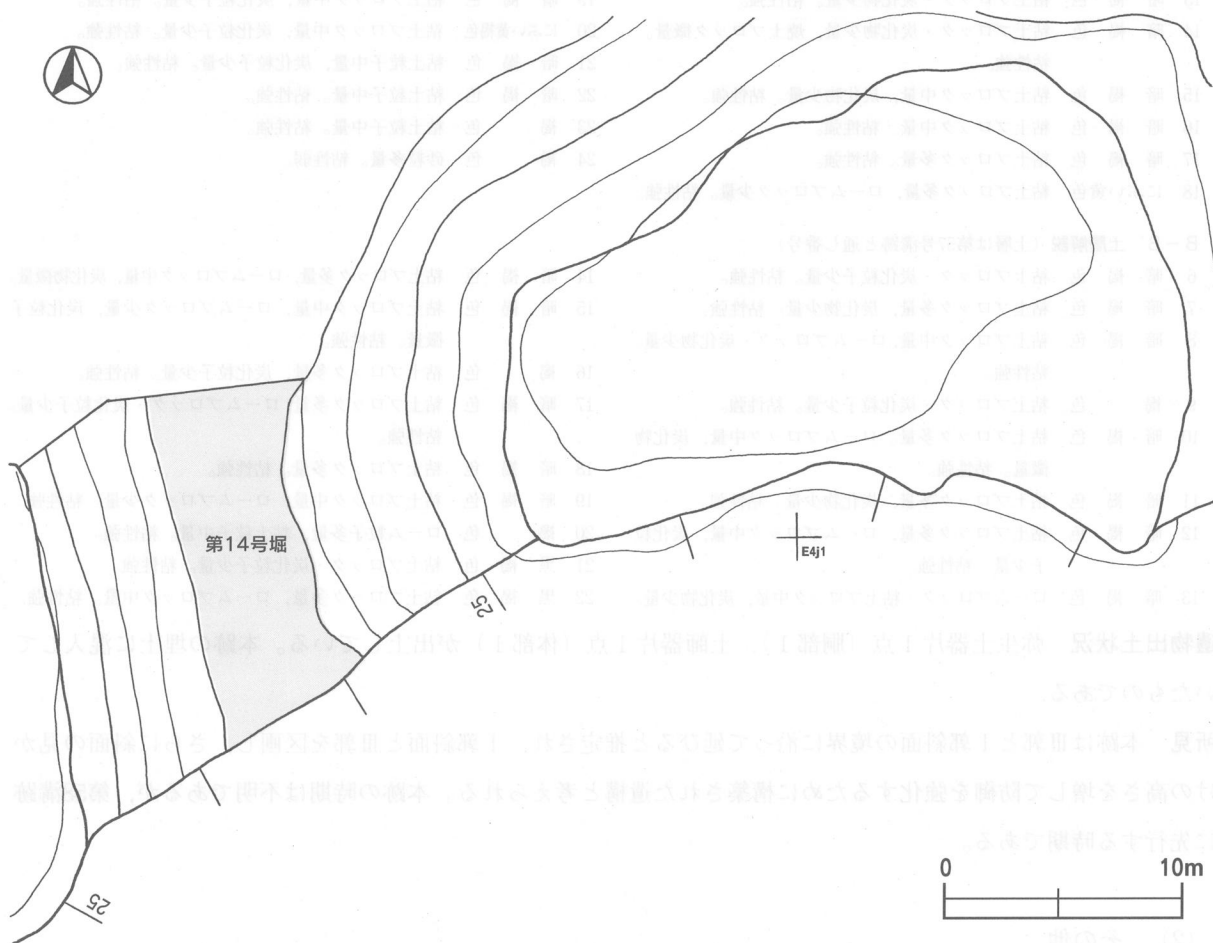
所見 本跡は第57・58号溝跡とI郭斜面の境界に位置し、当初は地山を削り出して構築され、第57号溝跡が築かれた際には若干幅を広げている。本跡の年代は不明であるが、長峰城跡に伴う施設である。

4 IV郭 (第120・121図)

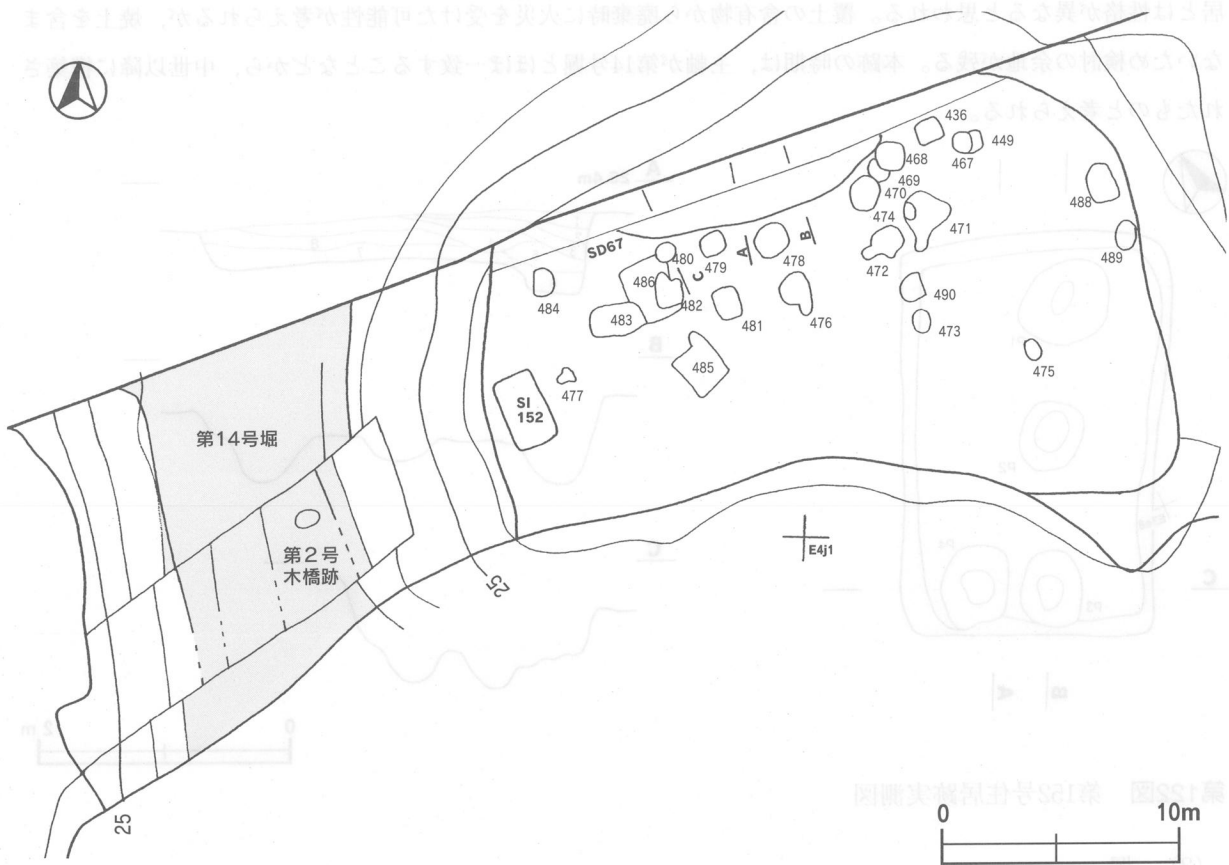
概要 本跡は長峰城跡の築かれた台地が、北方から入り込む谷によって最も狭くなった東側に構築されている。規模と形状は、本跡の平坦部で長辺約27m、短辺約20mの東西に長く、西側縁辺部が短い台形である。面積は約374㎡で、北側の斜面を除いてほぼ調査の対象となった。

本跡は東側を第13号堀によってII郭と分断され、西側は現況で幅19~20m、深さ3.5~4mの第15号堀によって分断されている。本跡の南壁はほぼ垂直に切り立っており、調査区域外となるが約14m下がって3号腰曲輪が構築されている。北側は造成工事により旧地形を損なうものの、谷が本跡とV郭の間に大きく入り込み、長峰城跡の築かれた台地はこの箇所でも最も狭くなっている。現況では土塁跡等の痕跡は確認できなかった。

本跡への通路は、明確に認められず、第13号堀の底部を利用したものと思われる。



第120図 IV部測量図



第121図 IV郭遺構配置図

(1) 竪穴住居跡

第152号住居跡 (第122図)

位置 IV郭の西側縁辺部, E 3 d8区に位置している。本跡の西側に第14号堀が構築されている。

規模及び形状 長軸3.19m, 短軸2.18mの長方形である。壁高は34~38cmで外傾して立ち上がり, 主軸はN-25°-Wを指す。

床 平坦で, あまり踏み固められていない。

ピット 4か所。P 1~P 3は深さ20~34cmで, ほぼ主軸に沿って一直線に並んでおり, 柱穴の可能性はある。P 4は深さ35cmで, 性格は不明である。

覆土 8層からなる。2・3層には灰の粒子と思われるものを含んでおり, またロームブロック・炭化粒子を含む層が多く見られることから人為堆積と考えられる。

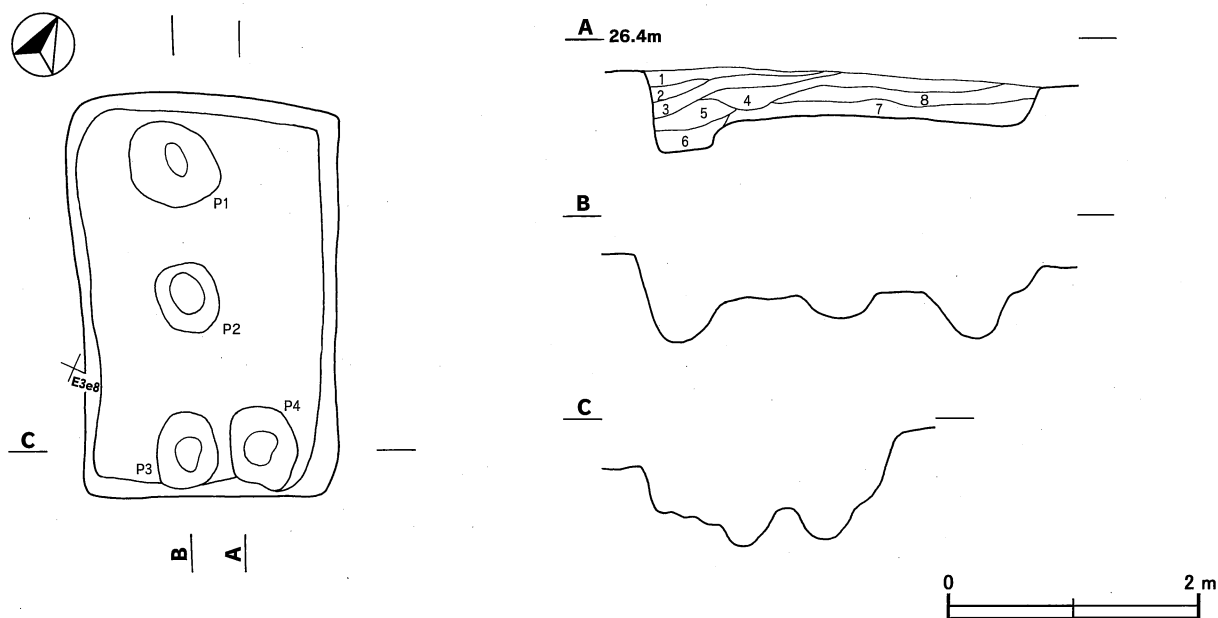
土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量。 | 5 褐色 | ロームブロック多量。 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 灰粒子微量。 | 6 褐色 | ロームブロック多量, 赤色粒子少量。 |
| 3 褐灰色 | 灰粒子多量, ロームブロック・炭化粒子中量。 | 7 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量。 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量。 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量。 |

遺物出土状況 土師器片1点(体部1), 土師質土器片1点(口縁部1)が出土している。いずれも小片で図化できなかった。

所見 本跡は柱穴と思われるピットが一行に並び, 屋根などの構造物があったものと想定され, 通常の竪穴住

居とは性格が異なると思われる。覆土の含有物から廃棄時に火災を受けた可能性が考えられるが、焼土を含まないため検討の余地が残る。本跡の時期は、主軸が第14号堀とほぼ一致することなどから、中世以降に構築されたものと考えられる。



第122図 第152号住居跡実測図

(2) 堀

第14号堀 (第123図)

位置 IV郭の西側、E3e4区付近に位置している。

現況 北側は造成事業により埋め立てられている。現存している部分で長さ約14m、上幅19~20m、下幅約5.5m、深さ3.5~4mで、断面は逆台形である。長峰城跡が築かれた台地とほぼ直交して構築されている。

重複関係 本跡を横断する形で第2号木橋跡が構築されている。

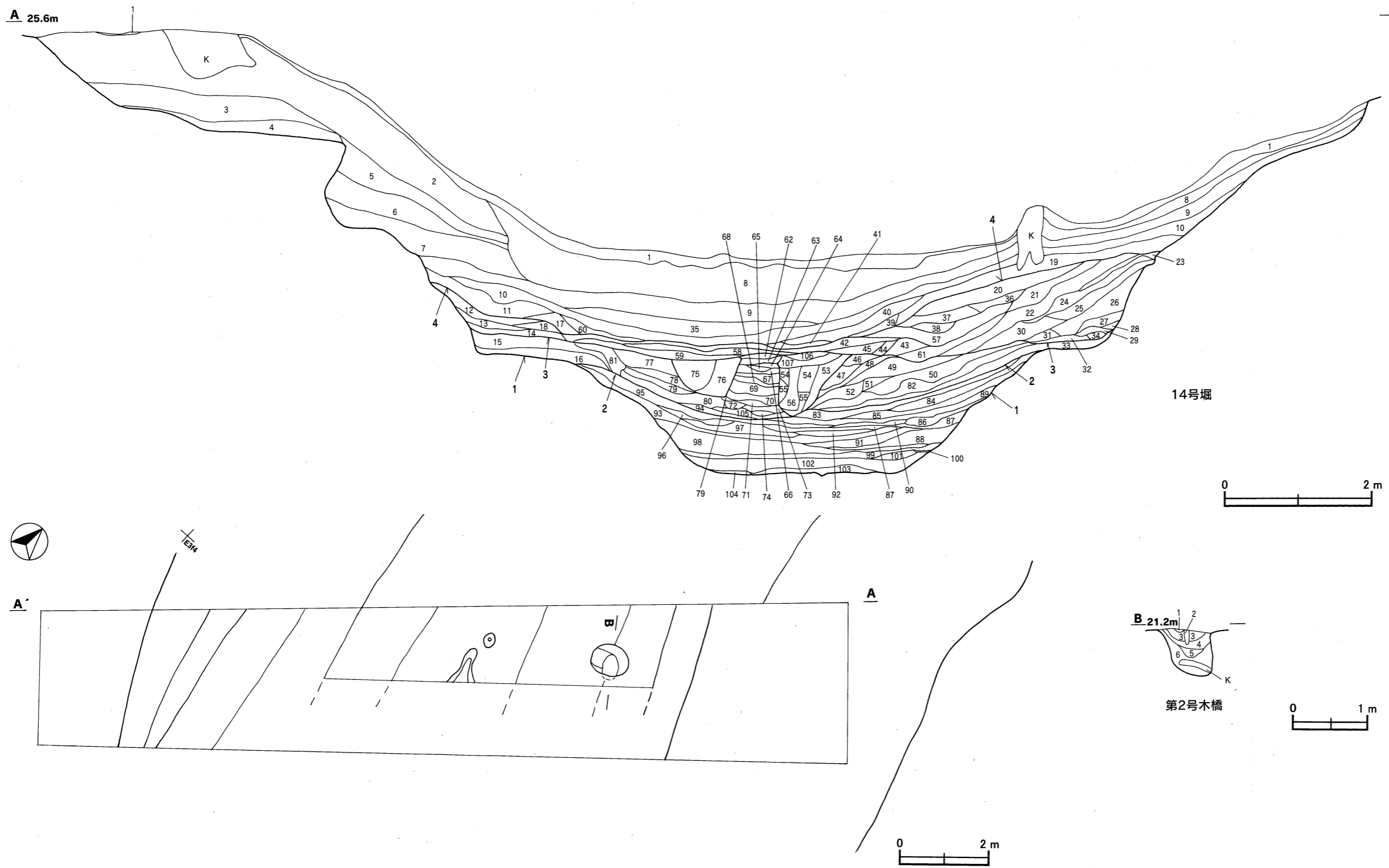
調査 本跡の付近で調査区域が狭くなることから、安全とV郭への通路を確保するために南側縁辺部と平行してトレンチを設定した。

規模及び構築状況 調査の結果、本跡の規模は上幅約20m、下幅2.6m、深さ5.9mで、断面は逆台形である。西壁は3段、東側に1段、幅0.6~1.4mの平坦部が認められ、標高21.1m付近では東西両側に平坦部が設けられている。底面には地山の掘り残しは見られなかった。

本跡は1のラインまで掘り込んだあと、2のラインまで粘性の強い土層を積み上げている。さらに3のラインまで埋め立て、第2号木橋跡が構築されている。53~56・106・107層及び75・76層は、堀に立てられた第2号木橋跡の橋脚の土層で、版築状に突き固められたものと思われる。3のラインより上層は本跡の廃棄に伴う土層と思われ、主にV郭側から土砂が投入されている。4のラインはその工程上の土層の境界と想定される。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量。 | 8 暗褐色 粘土粒子・炭化粒子微量。 |
| 2 褐色 ロームブロック微量。粘性強、しまり弱。 | 9 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。 |
| 3 褐色 ロームブロック微量。粘性強。 | 10 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 | 11 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量。 |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量。しまり弱。 | 12 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量。粘性強。 |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量。 | 13 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。 |
| 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。 | 14 褐色 粘土ブロック微量。粘性強。 |



第123図 第14号堀・第2号木橋跡実測図

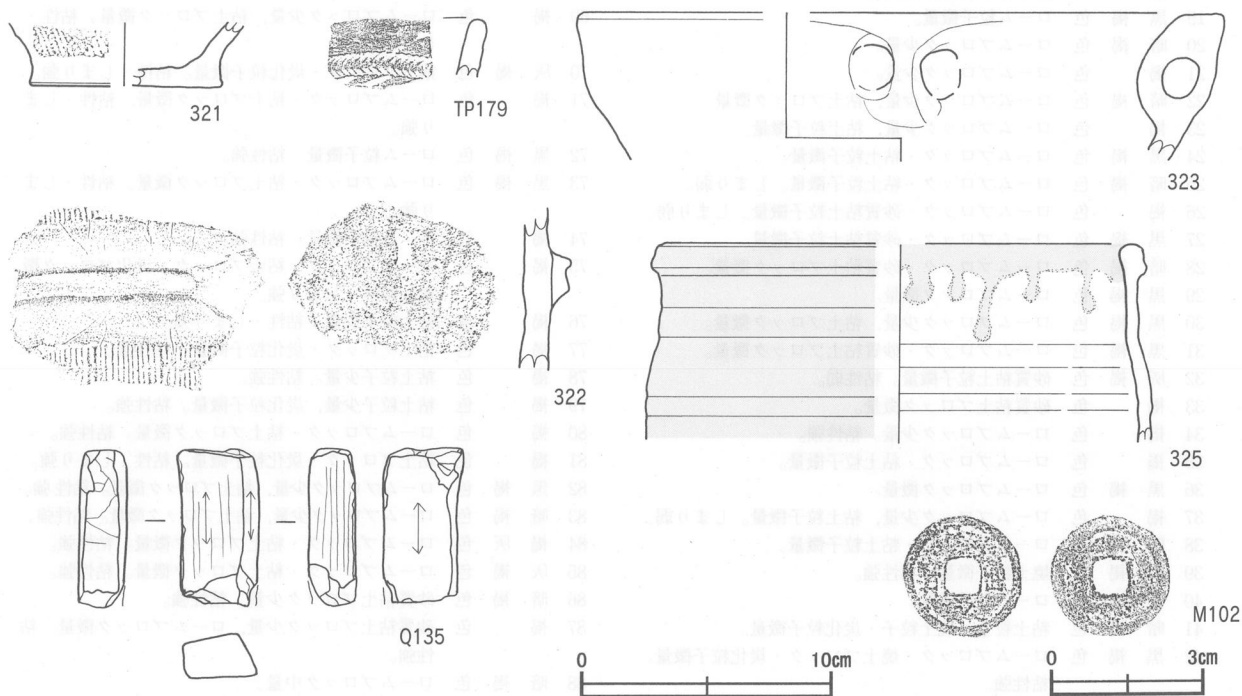
土層解説

15	暗 褐 色	ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック微量。	65	黒 褐 色	粘土粒子微量。しまり強。
16	褐 色	砂質粘土ブロック少量。粘性強。	66	褐 色	粘土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。
17	暗 褐 色	ローム粒子微量。	67	灰 褐 色	粘土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。
18	褐 色	粘土粒子微量。粘性強。	68	褐 色	粘土粒子微量。粘性・しまり強。
19	黒 褐 色	ローム粒子微量。	69	褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
20	暗 褐 色	ロームブロック少量。	70	灰 褐 色	粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり強。
21	褐 色	ロームブロック少量。	71	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
22	暗 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。	72	黒 褐 色	ローム粒子微量。粘性強。
23	褐 色	ロームブロック少量, 粘土粒子微量。	73	黒 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
24	黒 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	74	褐 色	ローム粒子微量。粘性強。
25	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。しまり弱。	75	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化ブロック微量。粘性・しまり強。
26	褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量。しまり弱。	76	褐 色	粘土粒子少量。粘性・しまり強。
27	黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量。	77	褐 色	粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性強。
28	暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量。	78	褐 色	粘土粒子少量。粘性強。
29	黒 褐 色	ロームブロック微量。	79	褐 色	粘土粒子少量, 炭化粒子微量。粘性強。
30	黒 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。	80	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。
31	黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量。	81	褐 色	粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり強。
32	灰 褐 色	砂質粘土粒子微量。粘性弱。	82	黒 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。粘性強。
33	褐 色	砂質粘土ブロック微量。	83	暗 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。粘性強。
34	褐 色	ロームブロック少量。粘性強。	84	褐 灰 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。
35	褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	85	灰 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。
36	黒 褐 色	ロームブロック微量。	86	暗 褐 色	砂質粘土ブロック少量。粘性強。
37	褐 色	ロームブロック少量, 粘土粒子微量。しまり弱。	87	褐 色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量。粘性強。
38	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	88	暗 褐 色	ロームブロック中量。
39	黒 褐 色	焼土粒子微量。粘性強。	89	灰 褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
40	黒 褐 色	ローム粒子微量。	90	灰 褐 色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量。粘性・しまり強。
41	暗 褐 色	粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。	91	暗 褐 色	砂質粘土ブロック少量。粘性強。
42	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量。粘性強。	92	にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量。粘性強。
43	褐 色	ロームブロック・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。	93	褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量。粘性・しまり強。
44	褐 色	粘土粒子・炭化粒子微量。	94	褐 色	粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
45	褐 色	粘土粒子微量。しまり強。	95	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
46	褐 色	焼土粒子微量。しまり強。	96	にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量, ロームブロック微量。粘性強。
47	灰 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。	97	褐 色	粘土ブロック中量, ロームブロック微量。粘性強。
48	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	98	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量。粘性弱。
49	暗 褐 色	ロームブロック少量。しまり弱。	99	褐 色	粘土粒子微量。粘性・しまり強。
50	黒 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量。	100	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量。粘性弱, しまり強。
51	褐 色	ローム粒子微量。しまり強。	101	暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
52	褐 色	粘土ブロック・焼土粒子少量。	102	暗 褐 色	粘土ブロック中量, ロームブロック少量。粘性・しまり強。
53	褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	103	褐 色	ロームブロック少量。粘性強。
54	褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量。	104	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量。
55	褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量。しまり強。	105	褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量。
56	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。	106	暗 褐 色	粘土粒子微量。
57	黒 褐 色	ロームブロック中量。	107	暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性強。
58	褐 色	ロームブロック微量。しまり強。			
59	褐 色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子少量。しまり強。			
60	暗 褐 色	ロームブロック微量。粘性強。			
61	暗 褐 色	ロームブロック・粘土粒子微量。			
62	褐 色	粘土粒子・炭化粒子微量。			
63	褐 色	粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量。			
64	褐 色	ローム粒子少量。しまり強。			

遺物出土状況 縄文土器片3点(口縁部1, 胴部2), 弥生土器片2点(胴部1, 底部1), 土師器片3点(口縁部1, 体部2), 埴輪片5点, 土師質土器片8点(口縁部3, 体部4, 底部1), 陶器片2点(口縁部2), 古銭1点(寛永通寶), 石製品片1点(砥石1)が出土している。縄文土器片, 弥生土器片, 土師器片, 埴輪片は, 本跡の覆土に混入していたものである。第124図P323, M102, Q135は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は長峰城跡の築かれた台地が最も狭くなる部分に構築され, 台地を大きく分断している。このこと

から、本跡以東の郭は長峰城跡の主要部分と思われる。また、第12・13号堀で認められた大規模な改変は確認できなかった。本跡の時期は、出土した遺物などから近世には機能を失っていたものと思われる。



第124図 第14号堀出土遺物実測図

第14号堀出土遺物観察表 (第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
P321	弥生土器	広口壺	—	(2.5)	[7.7]	附加条一種附加2条。	石英・赤色粒子・雲母	良	にぶい橙色	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P322	埴輪	円筒	—	(6.2)	—	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	普通	外面ハケ目, 内面ナデ	覆土中層	5%
P323	土師質土器	内耳鍋	[25.2]	(5.9)	—	石英・長石・赤色粒子・雲母	外: 暗赤灰色 内: 橙色	良	内外面ナデ	覆土上層	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P325	陶器	甕	[19.2]	(7.9)	—	—	褐灰色	—	暗赤褐色	笠間	近世	覆土上層	10%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP179	縄文時代前期	竹管による圧痕。	覆土上層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q135	砥石	(6.2)	3.2	1.8	(22.0)	凝灰岩	側面に縦方向の加工痕	

番号	銭名	計測値				初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号		
M102	寛永通寶	2.44	0.7×0.7	0.8	1.6	銅	寛永3年	1636	鑄上がりやや不良

(3) 木橋跡

第2号木橋跡 (第123図)

位置及び確認状況 第14号堀のほぼ中央部付近、B 3 e4区付近に位置し、IV郭とV郭を結ぶ。本跡は第14号堀跡の土層断面に柱穴の土層が認められたので、東西の壁を精査したところ東壁の平坦部で柱痕を確認した。

規模及び形状 本跡の柱穴は3か所で確認され、そのうち2か所は第14号堀の土層断面で確認された(第123図)。P1は長径98cm、短径68cmの楕円形で、深さは60cmである。柱穴間の距離は約2.8mで、主軸はN-71°-Eを指す。橋脚は標高約21.1mの平坦部に掘り込まれていたと思われる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 におい褐色 粘土粒子微量。 | 4 におい黄褐色 砂質粘土粒子微量。 |
| 2 におい黄褐色 砂質粘土ブロック微量。粘性・しまり弱。 | 5 におい黄褐色 砂質粘土粒子微量。粘性弱。 |
| 3 におい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。 | 6 におい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性弱。 |

遺物出土状況 本跡に直接伴う遺物は出土していない。

所見 本跡はIV・V郭を結ぶ木橋跡と思われ、第14号堀を埋め立てた上で構築されている。本跡の時期は明らかではないが、第14号堀の廃棄に先立って機能を失ったものと思われる。

(4) 土坑

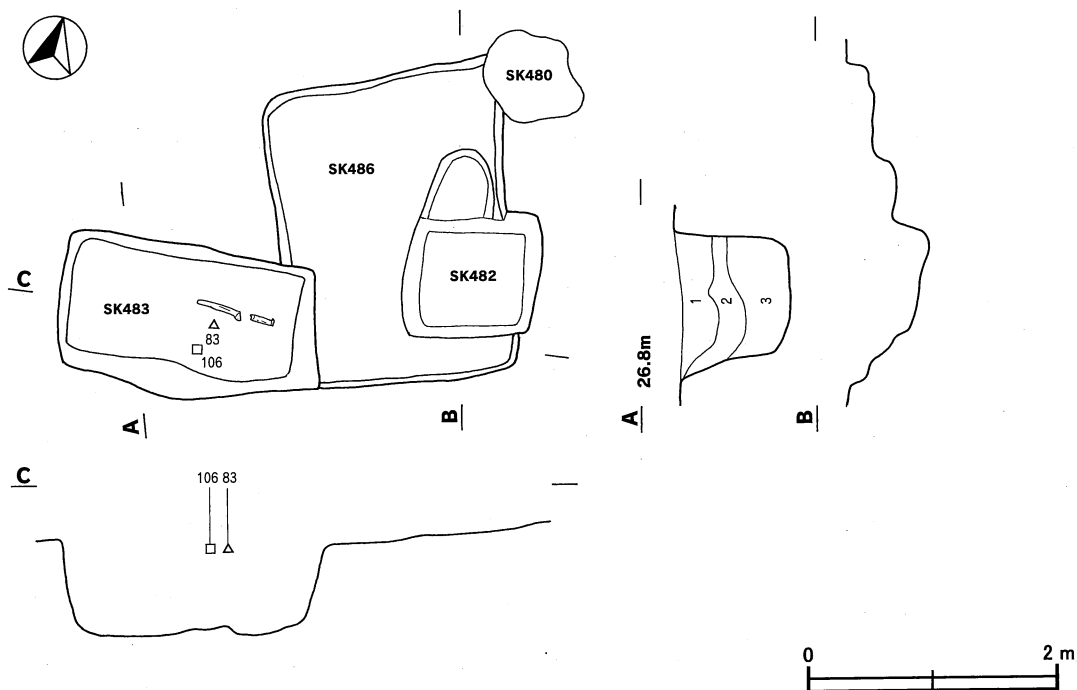
IV郭では25基の土坑が確認され、人骨及び蔵骨器などが出土していることから、墓墳と想定されるものが存在する。その中から代表的なものを記述し、その他は実測図と一覧表に掲載する。

第483号土坑 (第125図)

位置 IV郭の西部、E 3 c9区に位置している。本跡の東に第486・482号土坑、南東に485号土坑、北西に484号土坑がそれぞれ構築されている。

重複関係 第486号土坑と重複している。

規模 長軸2.07m、短軸1.21m、深さ88cmの長方形で、壁面は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。主軸



第125図 第480・482・483・486号土坑実測図

はN-81°-Eを指す。

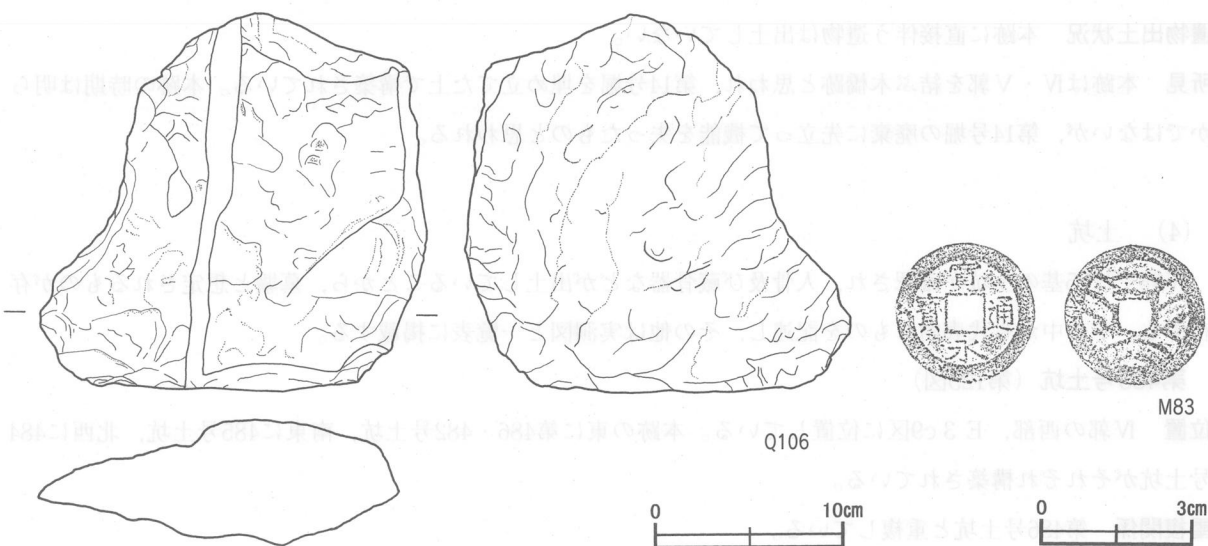
覆土 3層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量。炭化物少量。
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量。
- 3 褐色 ロームブロック多量。

遺物出土状況 埴輪片2点、石片1点（安山岩片1）、古銭1（寛永通寶1）、人骨片2点が出土している。埴輪片は本跡の埋土に混入したものである。石片及び古銭は覆土上層、また大腿骨と考えられる人骨片が下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は人骨片が出土していることから、墓塚と考えられる。時期は不明であるが、中世以降と想定される。



第126図 第483号土坑出土遺物実測図

第483号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	年号	西暦		
M83	寛永通寶	2.83	0.7×0.7	1.8	6.1	銅	寛永3年	1636	鑄上がり良	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
Q106	石片	19.7	20.2	6.5	2700	安山岩	加工痕不明	

第485号土坑（第127図）

位置 IV郭の西部，E 3 d9区に位置している。本跡の北西に第482・483・486号土坑が構築されている。

規模及び形状 長軸1.96m，短軸1.94m，深さ25cmの方形で，壁面は外傾して立ち上がる。底面は起伏があり，踏み固められて硬化している。

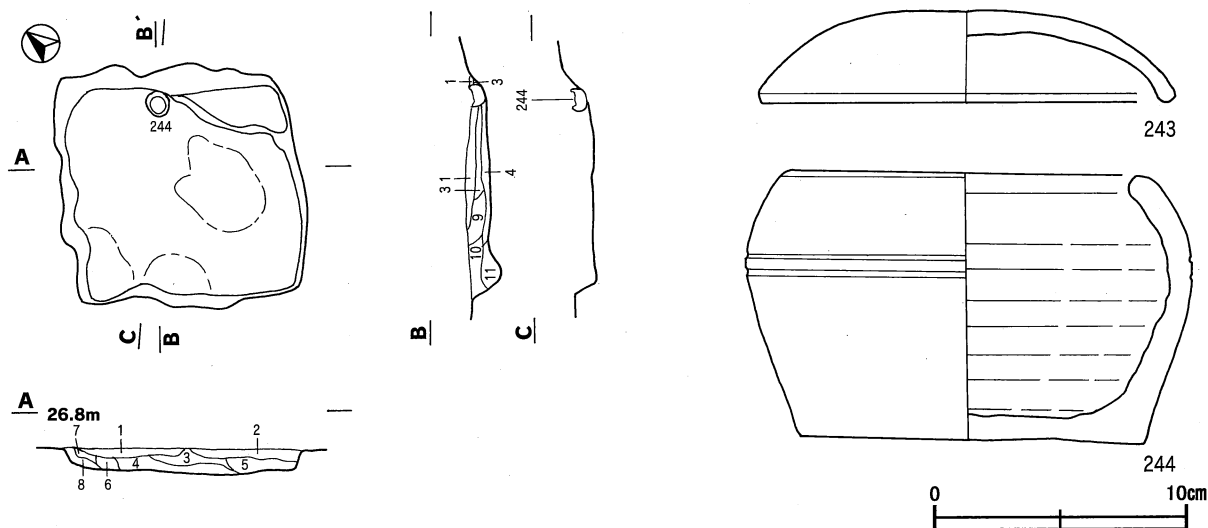
覆土 11層からなる。ロームブロックを含むことから，人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量。 | 7 明褐色 | ロームブロック中量。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量。 | 8 明褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子中量。 | 9 明褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量。 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量。 | 10 褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量。 |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量。 | 11 褐色 | ロームブロック多量。 |
| 6 明褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量。 | | |

遺物出土状況 土師質土器片20点（口縁部16，蓋1，体部3）が出土している。P243・244は北東壁際の底面上から出土し，P243は破片の状態の一部P244の内部に落ち込み，内部に骨粉が認められた。

所見 本跡は蔵骨器と思われる土器が出土していることから，墓壙と考えられる。時期は，出土した遺物などから長峰城の破却後に構築されたものと考えられる。



第127図 第485土坑・出土遺物実測図

第485号土坑出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P243	土師質土器	蓋	16.2	3.6	—	雲母	にぶい赤褐色	良	内外面ロクロナデ	底面上	95% PL74
P244	土師質土器	蔵骨器	13.8	10.7	13.7	石英・黒色粒子・赤色粒子・雲母	明赤褐色	良	内外面ロクロナデ，底部ナデ	底面上	100% PL74

以下に実測図を掲載した土坑の土層解説を記載する。

第471号土坑土層解説

- | | | | |
|------|-----------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量。しまり弱。 | 2 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量。 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量。 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量。 |

第472号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色
- 4 暗褐色
- 5 褐色

第478号土坑土層解説

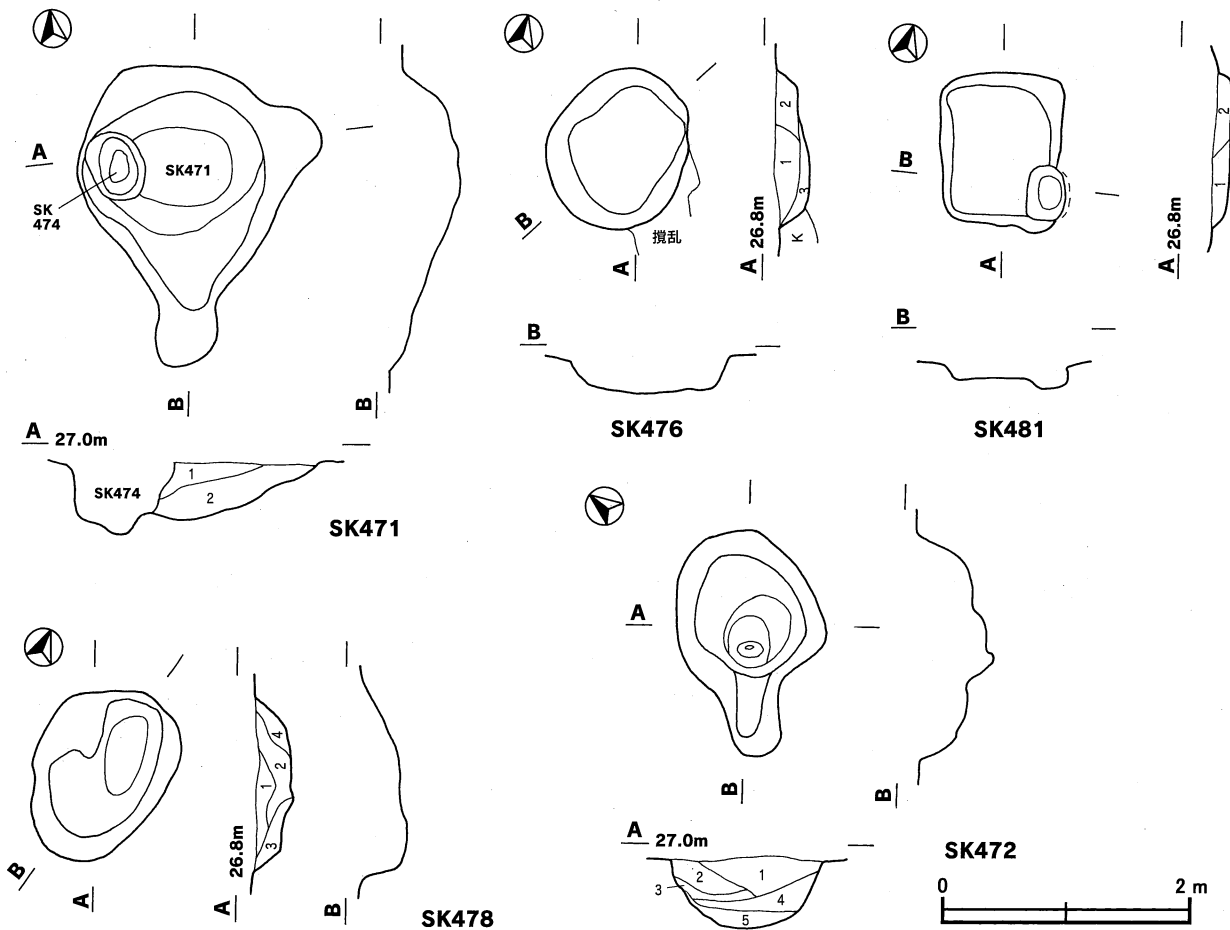
- 1 暗褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色
- 4 褐色

第476号土坑土層解説

- 1 褐色

第481号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 暗褐色



第128図 IV郭その他の土坑実測図

5 V郭 (第129・130図)

概要 本跡は長峰城跡の築かれた台地が、北方から入り込む谷によって幅が最も狭くなった位置に構築されている。規模と形状は、本跡の平坦部で長辺約29m、短辺約21mの東西方向に長い長方形である。面積は約643㎡で、ほぼ全域が調査の対象となった。

本跡は東側を第14号堀によってIV郭と分断され、西側は現況で幅12~14m、深さ約1.5mの第15号堀によって分断されている。本跡の南側はほぼ切り立った壁となっており、低地との比高差は約19mである。北側は造成されているが、旧状は大きく谷が入り込んでいる。北西コーナーに第42号墳が構築され、その他では土塁等の痕跡は確認されなかった。本跡への通路は西側から入り、第15号堀には第3号土橋跡が認められた。

V郭南側縁辺部の地業 本跡の南側縁辺部には地業を行った形跡が認められ、その規模は南西コーナーから長さ約22m、幅0.7~3.3mほどである。2か所で構築状況を観察した結果、A-A'では深さ1mほど、B-B'では深さ0.7mほど掘り込み、途中0.8~1mほどの平坦面を構築していることが判明した。その後ロームブロックを含む土層で埋め戻しているが粘性・しまりが弱く、突き固められた形跡は認められない。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量。粘性・しまり弱。 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量。 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 7 褐色 | ロームブロック中量。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量。しまり強。 | 8 灰褐色 | ローム粒子中量。粘性・しまり弱。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量。 | 9 褐色 | 炭化粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量。 | 10 褐色 | ローム粒子中量。 |

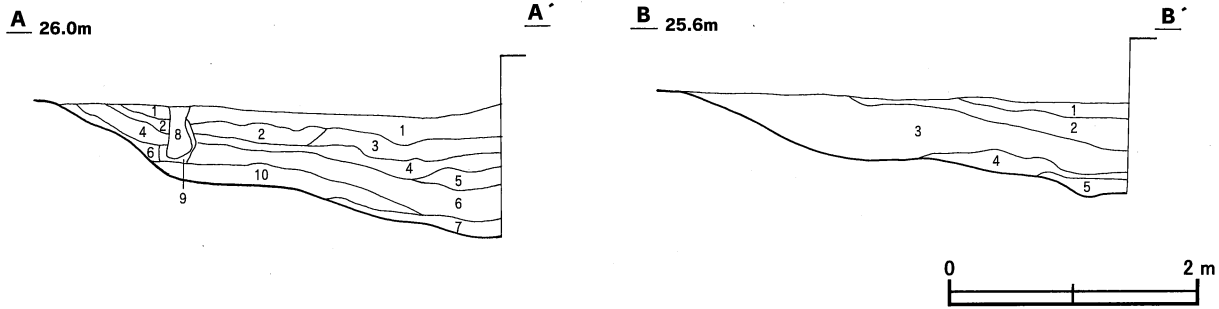


第129図 V 郭測量・遺構配置図

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|-------|--------------------|------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。 | 4 褐色 | ロームブロック少量。 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量。粘性・しまり弱。 | 5 褐色 | 粘土ブロック微量。粘性強。 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 | | |

所見 本跡は当初南側の縁辺部を削り出しており、後に土坑群の造営などによって平坦部の拡張の必要が生じたために埋め戻して平坦部を確保したものと想定される。



第130図 V郭地業層実測図

(1) 堀

第15号堀 (第131図)

位置 V郭の西側，E 2 h5区付近に位置しており，中央部を第3号土橋跡によって分断されている。本跡の東に第42号墳が構築されている。

現況 北側は造成工事により失われており，現存している部分は長さ約24m，上幅8～17m，下幅4～8m，深さ約1.5m，断面はU字形を呈し，長峰城跡の築かれた台地とほぼ直交して構築されている。中央部付近には第3号土橋跡が構築され，南北に分断されている。

重複関係 第11号堀と重複している。

調査 第3号土橋跡を境に北側を第15a号堀，南側を第15b号堀とし，それぞれ構築状況を観察した。

規模及び形状 第15a号堀は直線的に長さ3.5m伸び，上幅3.5m，下幅2mで，V郭縁辺部からの深さは2.7m，第42号墳の墳頂からは同じく4.5mの，断面は逆台形で，主軸はN-11°-Wを指す。覆土はA-A'での観察では，30層からなる。1のラインは本跡の掘り込み面，2のラインは本跡の廃棄に伴い投入されたと思われる土層で，これより上の層は含有物を均等に含むことから自然堆積と考えられる。

第15b号堀は長さ14.8mで鍵の手に屈曲し，上幅4～9.5m，下幅0.8～2.5m，V郭縁辺部からの深さは2.6～4mの，断面は逆台形で，主軸はN-5°-Eを指す。堀の南側の標高24.4m付近には，幅約40～90cmの平坦部を設け，堀底は南側に向かって階段状に下がっている。覆土はB-B'で観察し，24層からなる。粘性・しまりの弱い土層が多いが，1のラインまで本跡を掘り込んで構築した後，2のラインまで埋めて小規模な改変を行ったものと思われる。2のラインより上の土層は，本跡の廃棄に伴う土層と考えられる。

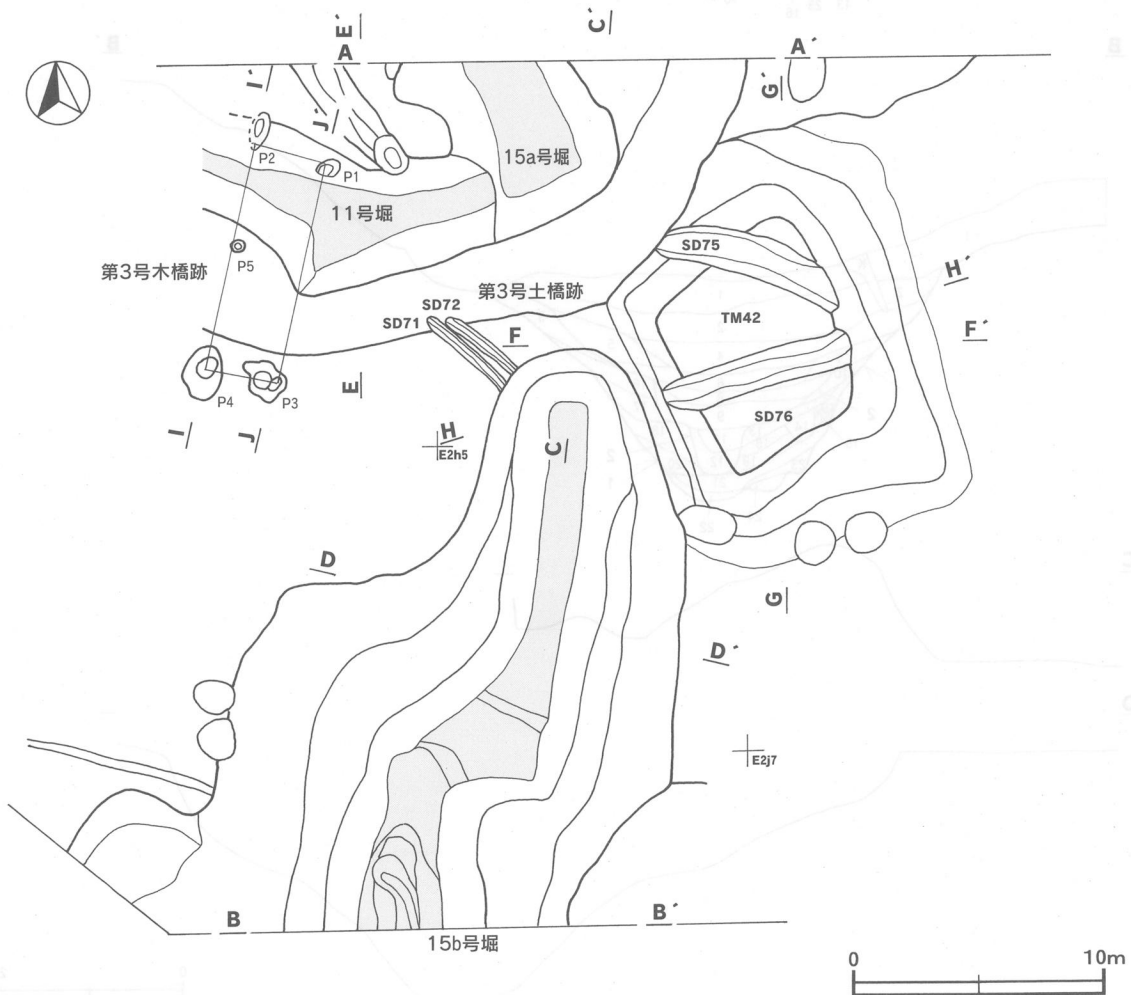
土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|--------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 11 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 | 12 褐色 | ロームブロック中量。しまり弱。 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック少量。 | 13 黒褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量。粘性・しまり弱。 | 14 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量。 |
| 7 黒褐色 | 粘土ブロック微量。粘性・しまり弱。 | 15 黒褐色 | 粘土粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 8 暗褐色 | 粘土ブロック少量。粘性・しまり弱。 | | |

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|---------------------|
| 16 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量。 | 23 褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 |
| 17 黒褐色 | 炭化粒子少量。しまり弱。 | 24 黒褐色 | 炭化粒子微量。 |
| 18 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 | 25 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 19 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量。粘性・しまり弱。 | 26 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量。 |
| 20 暗褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 27 暗褐色 | ロームブロック少量。 |
| 21 褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 28 褐色 | ロームブロック少量。 |
| 22 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | 29 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量。 |
| | | 30 褐色 | ロームブロック少量。 |

土層解説 (B-B')

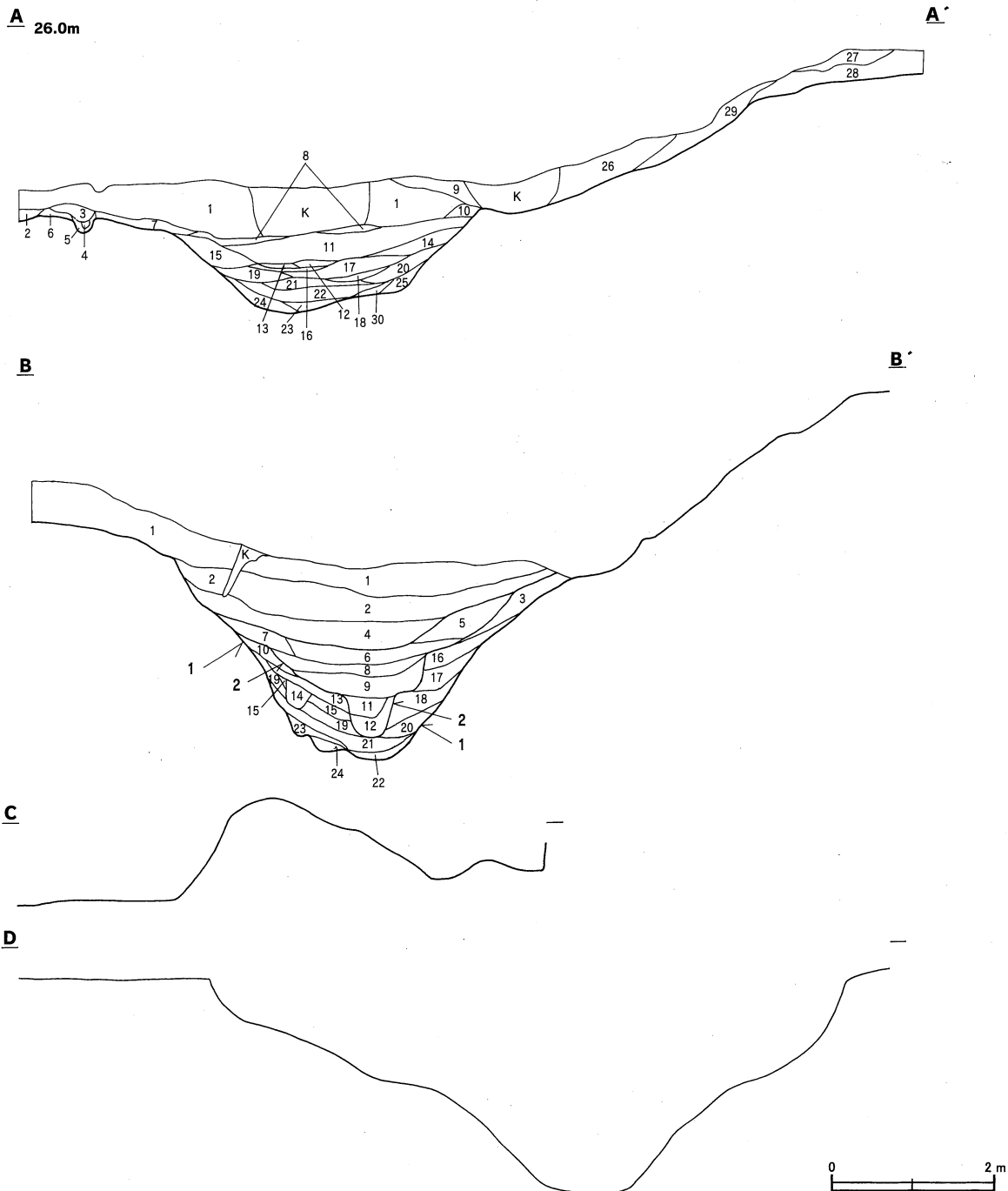
- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量。 | 13 褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量。 | 14 褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック少量，炭化粒子微量。しまり弱。 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。しまり弱。 | 15 暗褐色 | 粘土ブロック少量。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量。 | 16 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量。 | 17 褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック少量，しまり弱。 |
| 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量。しまり弱。 | 18 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 7 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 | 19 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 8 暗褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック微量。しまり弱。 | 20 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 9 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量。しまり弱。 | 21 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，粘土ブロック少量，ロームブロック微量。 |
| 10 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量・ロームブロック微量。 | 22 褐色 | ロームブロック中量。 |
| 11 褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量。 | 23 褐色 | ロームブロック中量。しまり弱。 |
| 12 褐色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック少量。 | 24 褐色 | ロームブロック少量。 |



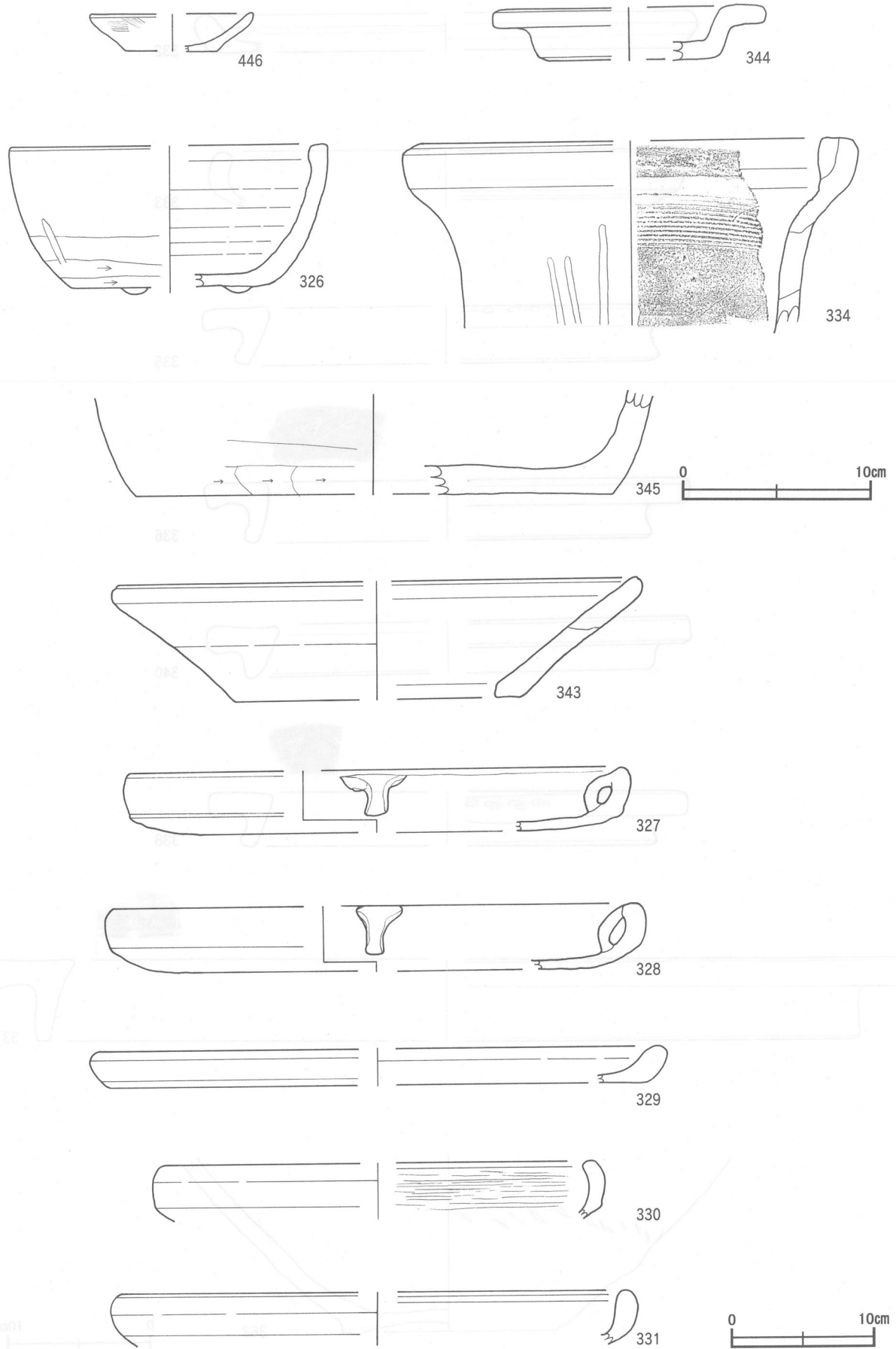
第131図 第11・15号堀実測図 (1)

遺物出土状況 土師器片17点（口縁部1，体部15，底部1），埴輪片10点，土師質土器片95点（口縁部33，体部21，底部16，鏝12，不明13），常滑片12点（口縁部1，体部10，底部1），陶器片112点（口縁部38，体部43，底部18，注口1，天上10，つまみ1，把手1），陶磁器片233点（口縁部84，口～底部88，体部14，底部38，天上9），鉄製品2点（鎌1，不明1），古銭1点（銭名不明），石製品片3点（砥石片3）が出土しており，土師器片，埴輪片は覆土に混入したもので，陶器片・磁器片の多くも投棄されたものである。第15a号堀では，P327～338・340・343～346・353～355・361・363・364，M103，Q136は覆土上層，P326，M104は覆土中層から出土し，第15b号堀では，P349・M105は覆土中層から出土している。

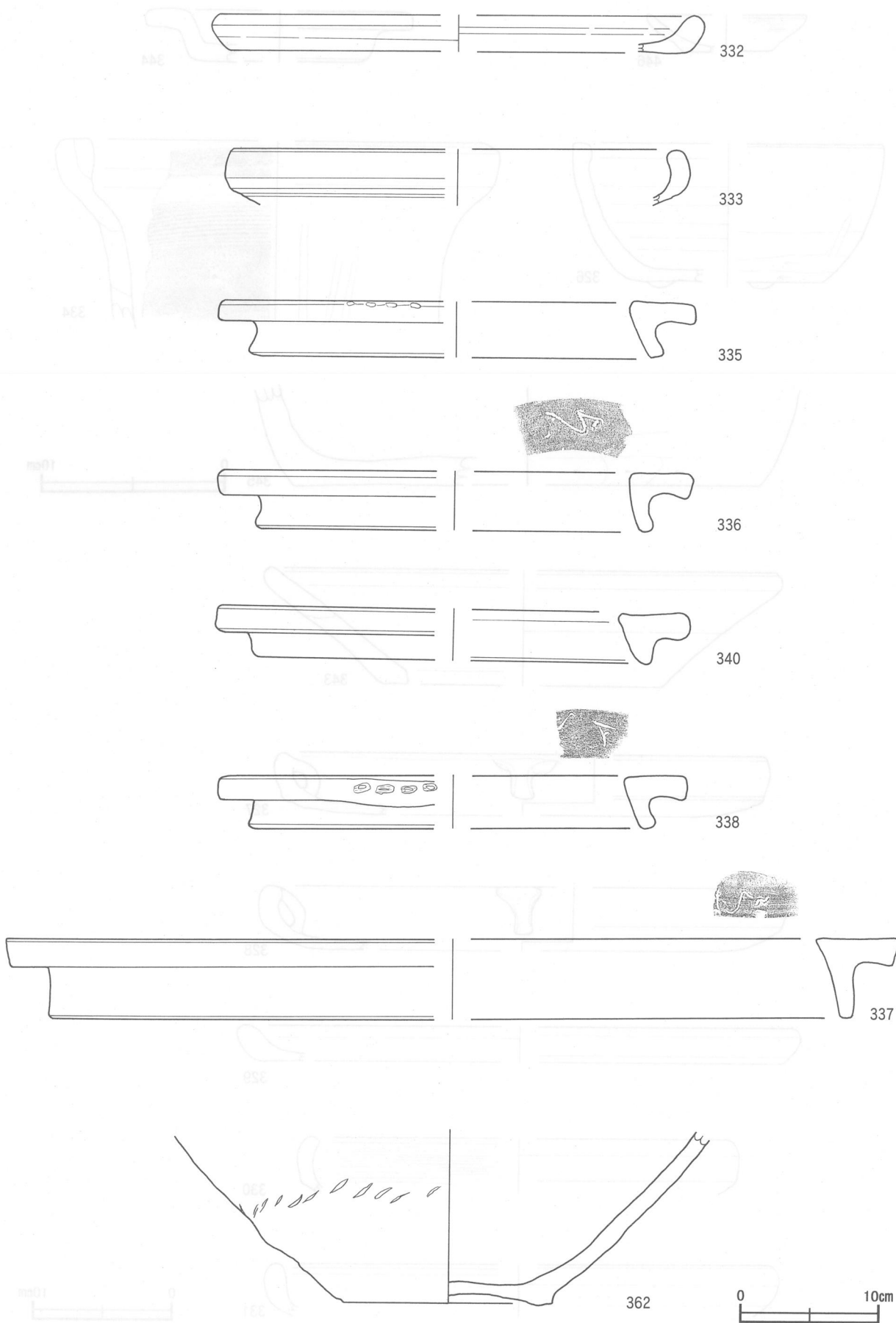
所見 本跡では第14号堀と同じく掘り直しを伴う大規模な改変は認められず，出土した遺物などから15世紀後半以降にはその機能を失ったものと思われる。



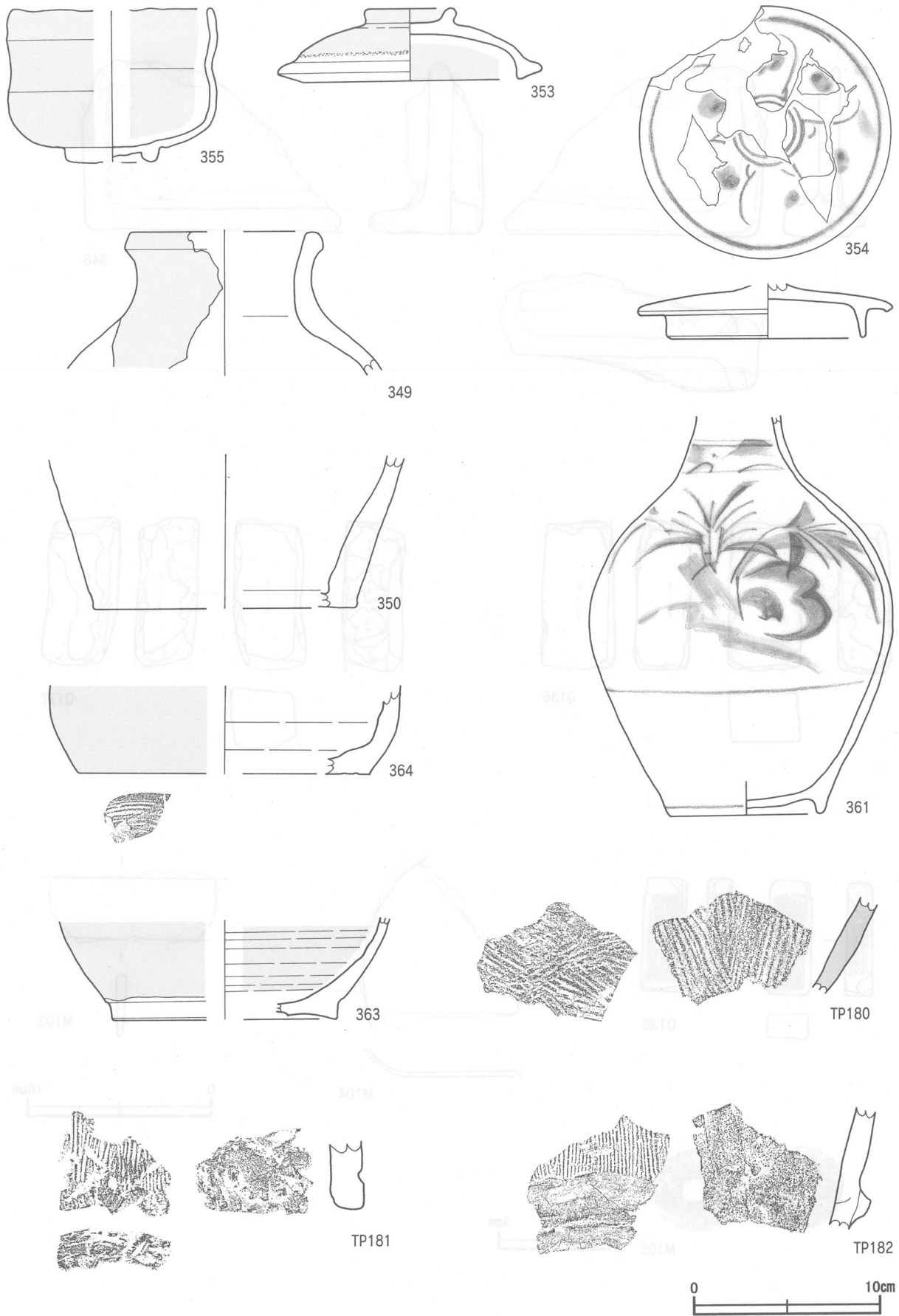
第132図 第15号堀実測図（2）



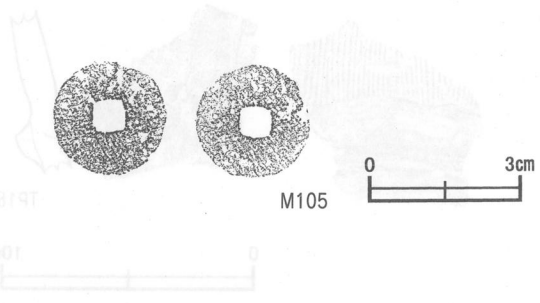
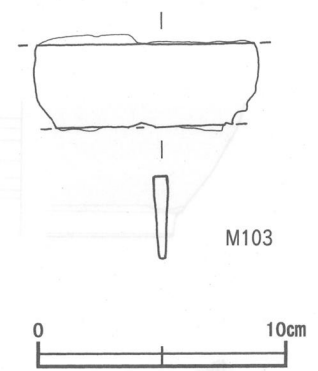
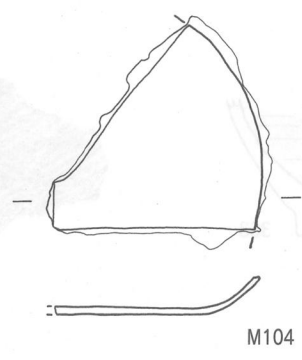
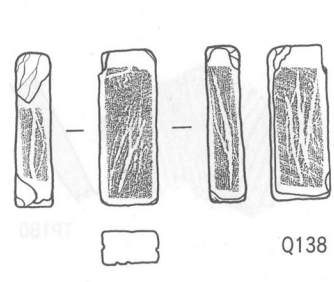
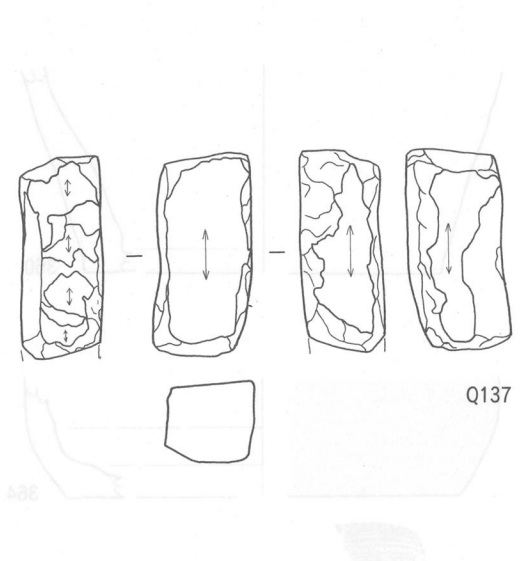
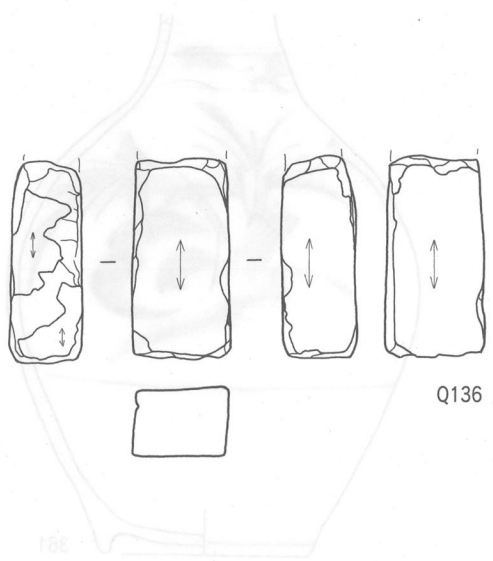
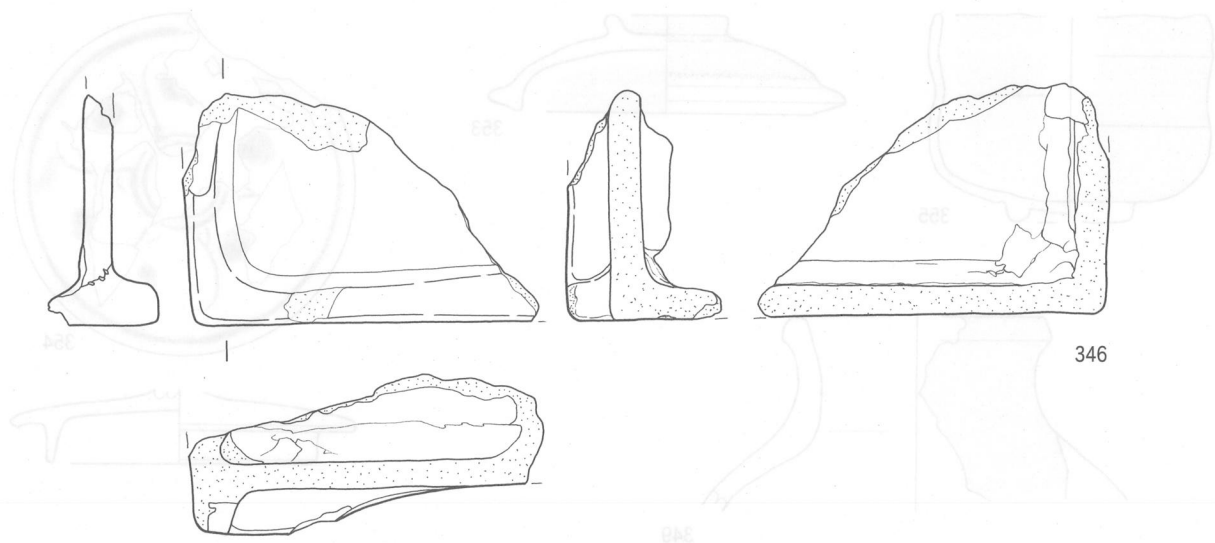
第133图 第15号堀出土遺物実測图 (1)



第134图 第15号掘出土遺物実測图 (2)



第135图 第15号掘出土遺物実測图 (3)



第136图 第15号掘出土遺物実測图 (4)

第15号堀出土遺物観察表 (第133・134・135・136区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P326	土師質土器	鉢	[16.6]	7.8	[10.5]	石英・赤色粒子・雲母	にぶい橙色	普通	内外面ロクロナデ、底部へラ削り、底部に脚3個貼り付け	覆土中層	45% PL74
P327	土師質土器	焙烙鍋	[34.6]	4.3	[34.0]	雲母	黒色	普通	内外面ナデ、底部不明	覆土上層	10% PL75
P328	土師質土器	焙烙鍋	[36.8]	3.0	[36.8]	石英・赤色粒子・雲母	外：オリブ黒色 内：灰黄色	普通	内外面ナデ、底部不明	覆土上層	5%
P329	土師質土器	焙烙鍋	[38.8]	2.6	37.6	石英・赤色粒子・雲母	外：黒色 内：灰黄色	普通	内外面ロクロナデ、底部不明	覆土上層	10% 炭化物付着
P330	土師質土器	焙烙鍋	[30.0]	(4.0)	—	雲母	灰褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	5%
P331	土師質土器	焙烙鍋	[36.0]	(3.6)	—	赤色粒子・雲母	灰黄褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	5%
P332	土師質土器	焙烙鍋	[34.0]	2.7	[32.8]	赤色粒子・雲母	外：黒色 内：灰黄褐色	普通	内外面ロクロナデ、底部不明	覆土上層	10%
P333	土師質土器	焙烙鍋	[32.0]	(4.0)	—	石英・雲母	黒色	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	5%
P334	土師質土器	甕	[22.0]	(9.6)	—	石英・長石・赤色粒子・雲母	黒色	良	内外面ナデ、外面一部ミガキ、内面上部に平行沈線	覆土上層	5%
P335	土師質土器	罽	[34.0]	4.0	[29.6]	赤色粒子・雲母	にぶい褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	10%
P336	土師質土器	罽	[34.0]	4.2	[28.4]	赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	30%
P337	土師質土器	罽	[64.2]	5.7	[57.8]	石英・赤色粒子・雲母	外：褐色 内：黒色	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	20% 炭化物付着
P338	土師質土器	罽	[33.4]	3.8	[29.2]	赤色粒子・雲母	にぶい赤褐色	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	20% 内面炭化物付着
P340	土師質土器	罽	[34.0]	3.6	[28.4]	赤色粒子・雲母	にぶい黄褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	5% 内面炭化物付着
P343	土師質土器	不明土器	[36.4]	8.2	[20.0]	石英・白色粒子・赤色粒子・雲母	外：明赤褐色 内：黒色	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	45% PL75
P344	土師質土器	蓋	[14.4]	2.7	[9.4]	石英・白色粒子・赤色粒子・雲母	黒色	良	内外面ロクロナデ、黒色処理	覆土上層	20%
P345	土師質土器	内耳鍋	—	(5.4)	[25.2]	白色粒子・赤色粒子・雲母	黒褐色	良	内外面ロクロナデ、体部下端回転へラ削り、底部ナデ	覆土上層	5%
P346	土師質土器	土製品	—	—	—	石英・雲母	にぶい赤褐色	良	内外面ナデ	覆土上層	14.0×6.1×9.2cm
P446	土師質土器	かわらけ	[8.4]	2.0	[4.8]	雲母	にぶい橙色	良	内外面ナデ、底部静止糸切り	覆土上層	25%
P349	常滑	短頸壺	[10.2]	(7.9)	—	石英	外：灰黄色 内：灰黄褐色	普通	調整不明	覆土中層	10% PL75
P350	常滑	壺?	—	(8.5)	[14.2]	石英	外：灰黄色 内：にぶい赤褐色	普通	調整不明	覆土中層	5%
P362	常滑	甕	—	(12.4)	15.0	石英・長石	明赤褐色	普通	内外面ナデ	覆土上層	15% PL74

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P353	陶器	蓋	10.4	3.9	4.7	砂粒	黄褐色	—	暗赤褐色	在地系	近世	覆土上層	100% PL75
P354	陶器	蓋	13.7	(2.9)	—	—	明赤褐色	草花	灰黄色	—	近世カ	覆土上層	75% PL75
P355	陶器	茶碗カ	[10.8]	3.2	[4.8]	—	灰黄褐色	—	暗赤褐色	瀬戸・美濃	近世カ	覆土上層	60% PL75
P361	磁器	壺	—	(21.5)	8.4	—	灰白色	草花	灰白色	肥前系	近代	覆土上層	90% PL75
P363	陶器	甕	—	(5.4)	[12.0]	—	赤褐色	—	黒褐色	—	近代カ	覆土上層	20%
P364	陶器	甕	—	(4.8)	[15.6]	石英	黄橙色	—	黒色	—	—	覆土上層	10%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP180	縄文時代早期	内外面に条痕文を施文。	覆土上層	
TP181・182	古墳時代後期	外面ハケ目、内面ナデ。TP182は突帯有り。	覆土中層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q136	砥石	(8.0)	4.0	2.9	(166)	凝灰岩	縦位の研磨痕	
Q137	砥石	(8.0)	3.3	3.9	(162)	凝灰岩	縦位の研磨痕	
Q138	砥石	6.1	2.4	1.4	(47)	滑石	縦位の研磨痕	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
M103	鎌	(6.0)	0.5	2.4	(22.4)	鉄	直刃カ。	

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M104	不明	(5.6)	(5.7)	0.2	(27.2)	円板状で端部反る	

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M105	不明	2.31	0.6×0.6	0.5	1.9	銅	—	—	銭名不明	

(2) 土橋・木橋跡

第3号土橋跡 (第131図)

位置 第15号堀の内部，E 2 g5区付近に位置し，本跡の東には第42号墳，西に第71・72号溝跡がそれぞれ隣接して構築されている。

現況 第15号堀跡に高さ約1.5m，幅約5mほどの掘り残しとして確認された。

規模及び形状 本跡は地山を削り出して構築され，第71・72号溝跡がVI郭側に掘り込まれている。規模は，長さ3.1m，基底部幅6.2m，上幅0.5～1.5m，高さは2.5mで，主軸はN-82°-Eを指す。

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡はVI郭からV郭へ移動する際の土橋跡と考えられる。上面の幅は狭く，正面には第42号墳が位置していることから多人数の移動はかなり制限され，さらには第15b号堀が屈曲しているためにV郭から横方向の攻撃を受けやすい。本跡は第1・2号土橋跡と異なり，地山を削り出して構築されていることから，第15号堀と同時に構築されたものと考えられる。

(3) 塚

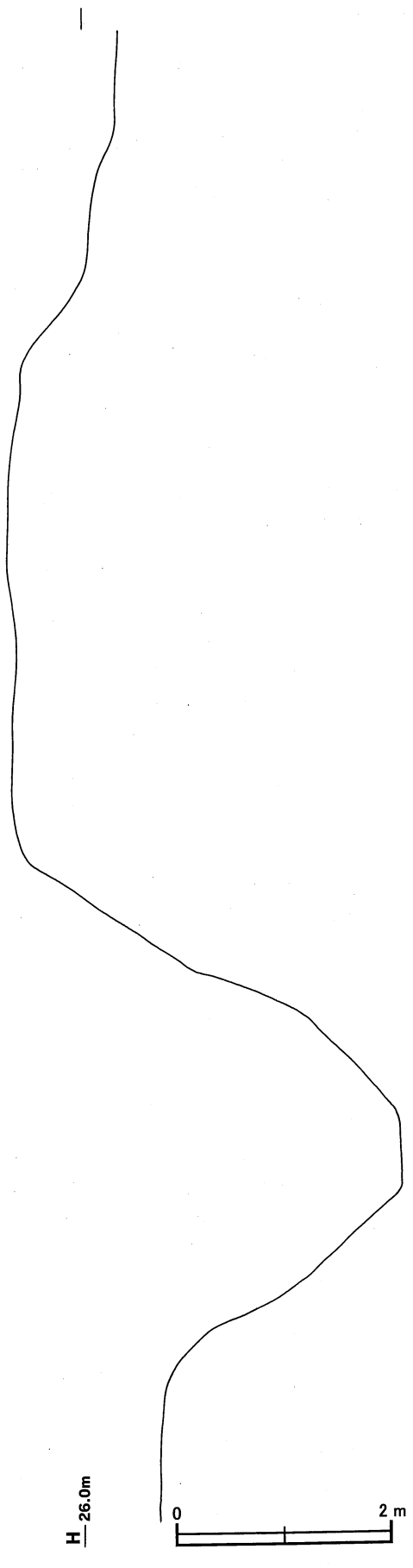
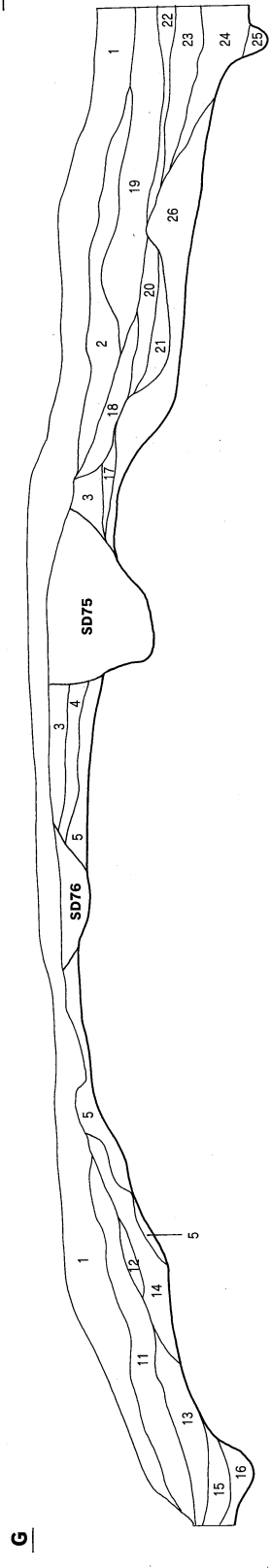
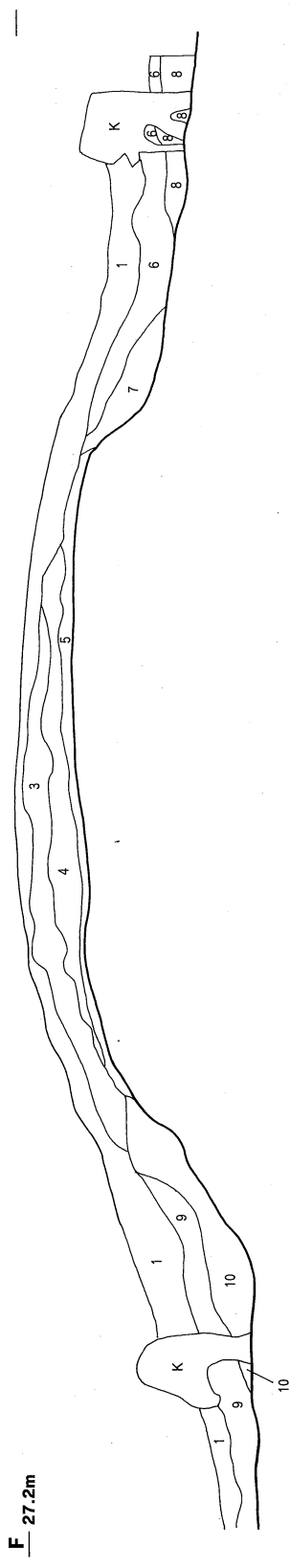
第42号墳 (第131・137図)

位置 V郭の北西コーナー，E 2 g7区付近に位置している。本跡は，北から入る谷の谷奥に位置し，第15号堀・第3号土橋跡を見下ろしている。

重複関係 第75・76号溝跡に掘り込まれ，第541・542・543号土坑と重複している。

規模と形状 調査前の状況では，長辺約14m，短辺約11mの長方形であり，高さは約1.5mの塚状を呈している。主軸はN-22°-Wを指す。

構築状況 当初古墳と想定していたが，周溝やその他の施設は確認されなかった。本跡は地山を長辺10.8m，



第137图 第42号墳実測図

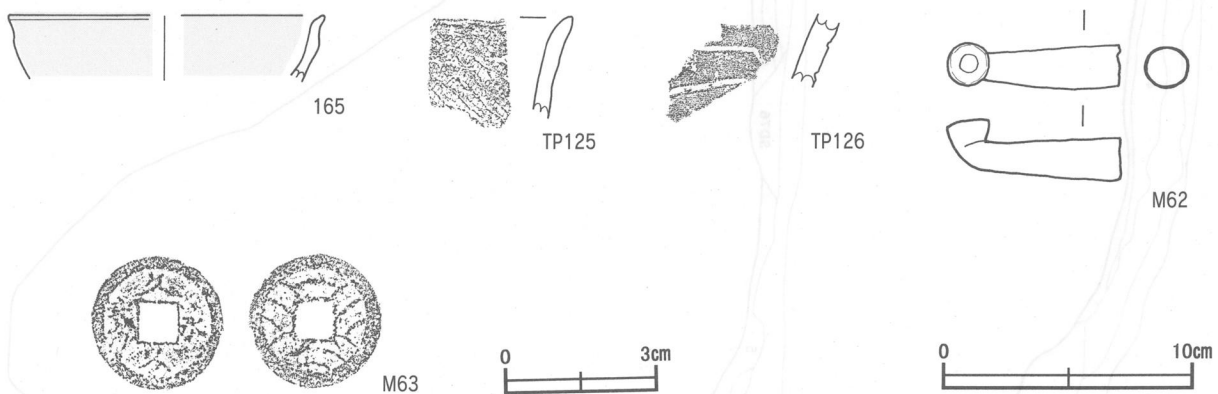
短辺7.5m, 高さ1.5mほどの2段に削り出し, その後ロームブロックを含む土層を薄く積み上げて構築されている。上面からは, 2条の溝跡を除いて構築物の痕跡は確認できなかった。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量。しまり弱。 | 14 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子少量。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量。 | 15 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物微量。 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量, ロームブロック微量。 | 16 褐色 | ローム粒子多量。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量。 | 17 黒褐色 | 炭化物微量。 |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量。 | 18 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量。 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量。 | 19 暗褐色 | ロームブロック少量。 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量。 | 20 黒褐色 | ロームブロック中量。 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量。 | 21 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量。 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量。 | 22 暗褐色 | ロームブロック中量。 |
| 10 褐色 | ロームブロック多量。 | 23 褐色 | ロームブロック中量。しまり強。 |
| 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量。 | 24 黒褐色 | ロームブロック微量。 |
| 12 褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量。しまり弱。 | 25 暗褐色 | ロームブロック少量。 |
| 13 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化物少量。 | 26 褐色 | ロームブロック少量。 |

遺物出土状況 縄文土器片11点 (口縁部1, 胴部10), 土師器片25点 (口縁部2, 体部23), 土師質土器片12点 (口縁部9, 体部3), 常滑片8点 (体部8), 磁器片2点 (口縁部2), 金属製品1点 (煙管1), 古銭1点 (文久永寶1) が出土しており, 縄文土器片は本跡の盛土に混入していたものである。第137図P165は東側墳丘の封土, M62・63は北東コーナー付近からそれぞれ出土している。

所見 本跡は第3号土橋跡の東側に位置し, VI郭からV郭への入口の正面に構築されていることから, 第3号土橋跡の防御のために構築されたと思われる。また地山を削りだして築かれているため, 周溝などは確認できなかったものの, 第39号墳と同じく古墳を利用している可能性がある。



第138図 第42号墳出土遺物実測図

第42号墳出土遺物観察表 (第138図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P165	陶器	天目茶碗	[12.5]	(2.5)	—	白色粒子	灰白色	—	暗褐色	—	中世	盛土中	5%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP125	弥生時代後期	R Lの単節斜縄文を施文。	盛土中	
TP126	弥生時代中期	沈線を施文。	盛土中	

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M62	煙管	4.6	1.1	1.1	4.7	火口銀製	PL79

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M63	文久永寶	2.69	0.7×0.7	1.3	3.1	銅	文久3年	1863	鑄上がりやや不良	

(4) 溝跡

第75号溝跡 (第139図)

位置 V郭の北西部, E 2 f7区に位置している。本跡の南に第76号溝跡, 西に第15号堀, 第3号土橋跡が構築されている。

重複関係 第42号墳を掘り込んでいる。

規模及び形状 長さ5m, 上幅0.9~1.1m, 下幅0.44~0.68m, 深さ0.45~0.47mで, 断面は逆台形である。主軸はN-69°-Wを指す。

覆土 6層からなる。含有物が均等に含まれることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量。 | 4 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量。 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量。 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量。 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量。 |

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期及び性格は明らかではないが, 第42号墳が防御施設としての役割を終えた後に構築されたものと考えられる。

第76号溝跡 (第139図)

位置 V郭の北西部, E 2 g7区に位置している。本跡の北に第75号溝跡, 西に第15号堀, 第3号土橋跡が構築されている。

重複関係 第42号墳を掘り込んでいる。

規模及び形状 長さ5m, 上幅0.86~0.98m, 下幅0.32~0.46m, 深さ0.28~0.32mで, 断面はU字形である。主軸はN-73°-Eを指す。

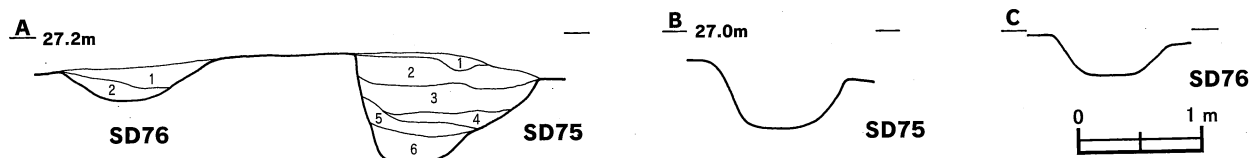
覆土 2層からなる。含有物を均等に含んでいることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。 | 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量。 |
|-----------------------|--------------------------|

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期及び性格は明らかではないが, 第42号墳が防御施設としての役割を終えた後に構築されたものと考えられる。



第139図 第75・76号溝跡実測図

(5) 土坑

V郭では54基の土坑が確認され、南東部の一群は小仏像、古銭等が出土していることから墓壙と想定される。その中から代表的なものを記述し、その他は実測図と一覧表を掲載する。

第607号土坑（第140図）

位置 V郭の南西部，E 2j8区に位置している。本跡の北に第609号土坑，北西に第610号土坑が構築されている。

重複関係 第608号土坑を掘り込んでいる。

規模及び形状 長径1.03m，短径0.99m，深さ52cmの円形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は皿状である。主軸はN-15°-Eを指す。

覆土 4層からなる。ロームブロック・焼土粒子を含む層があることから，人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子微量。 | 3 黒褐色 ローム粒子少量。 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量。 | 4 褐色 ローム粒子中量。 |

遺物出土状況 鉄製品1点（小柄），古銭2点（不明）が出土している。第140図M87・133は覆土中層から，M86は覆土上層から出土している。

所見 本跡は円形を呈し，古銭などが出土したことから墓壙と考えられる。時期は，出土した遺物などから中世以降と考えられる。

第609号土坑（第140図）

位置 V郭の南西部，E 2j8区に位置している。本跡の西に第610号土坑，南に第607・608号土坑，東に第605号土坑がそれぞれ構築されている。

重複関係 第616号土坑を掘り込んでいる。

規模及び形状 長径0.95m，短径0.93m，深さ21cmの隅丸方形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は皿状である。主軸はN-8°-Eを指す。

覆土 4層からなる。灰の粒子を含む層があることから，人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 灰粒子微量。 | 3 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。 |
| 2 灰褐色 焼土粒子少量，灰粒子中量。 | 4 褐色 焼土粒子微量。 |

遺物出土状況 陶磁器片1点（底部1），古銭1点（永楽通寶）が出土している。第140図P441とM88は覆土中層から出土している。

所見 本跡の性格は明らかではないが，円形を呈する墓壙の可能性はある。本跡の時期は出土した遺物から中世末頃と思われる。

第610号土坑（第140図）

位置 V郭の南西部，E 2j8区に位置している。本跡の東から南にかけて第607～609号土坑，西に第604号土坑，北に第611号土坑が構築されている。

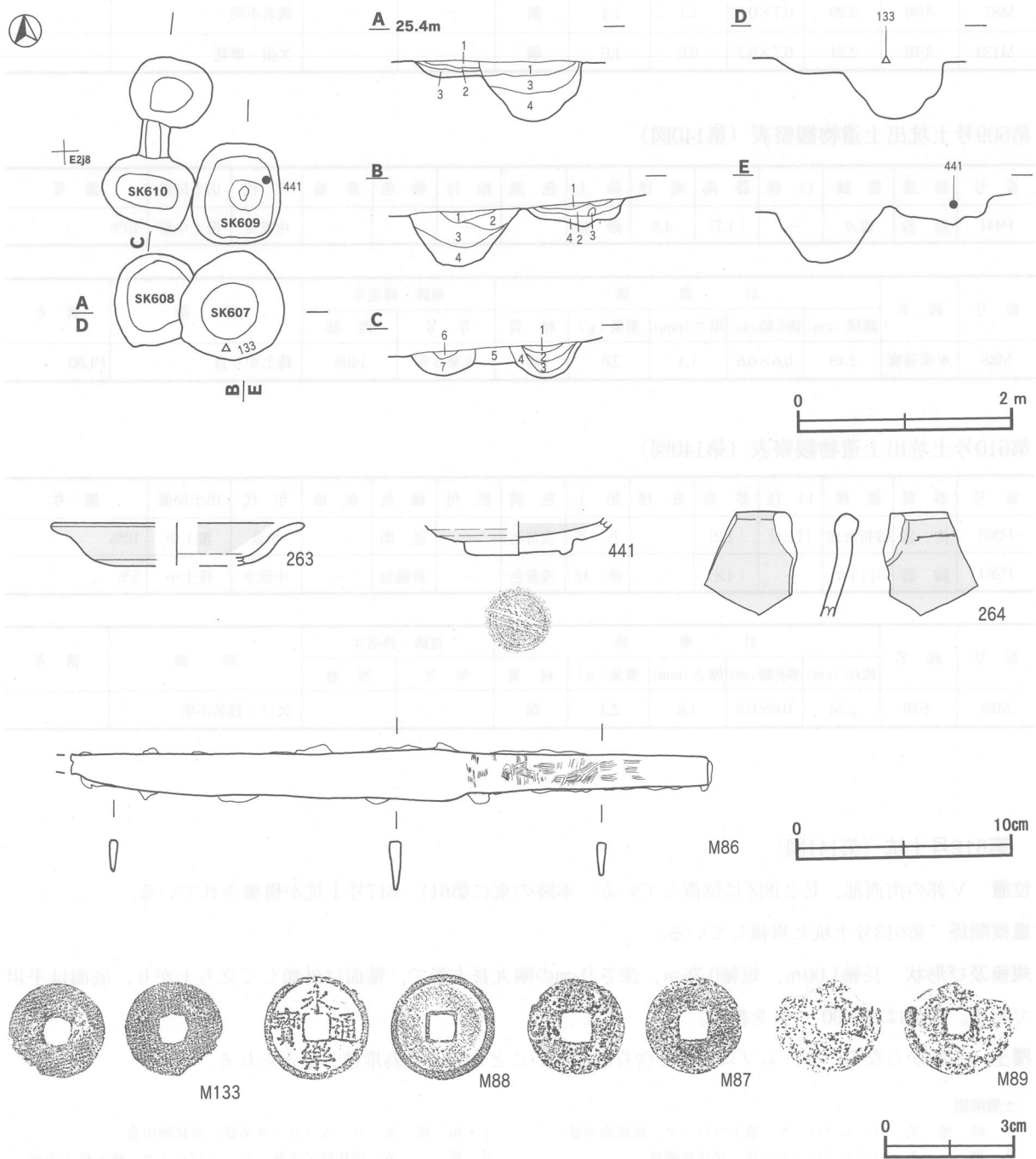
規模及び形状 全長1.55mで，長軸0.74～0.84m，短軸0.63～0.60m，深さ22～28cmの隅丸長方形の土坑を深さ0.15mの溝で結んでおり，鉄垂鈴状を呈している。壁面は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。主軸はN-10°-Wを指す。

覆土 7層からなる。焼土粒子・炭化粒子を含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量。 | 5 褐色 | ローム粒子中量。しまり強。 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・灰少量。 | 6 黒褐色 | 焼土粒子微量。 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・灰微量。 | 7 暗褐色 | 炭化粒子微量。 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量。 | | |

遺物出土状況 陶磁器片2点(口縁部2), 古銭1点(不明)が出土している。第140図P263・264, M89は覆土中から出土している。



第140図 第607~610号土坑実測図, 出土遺物実測図

所見 本跡は覆土に焼土粒子，炭化粒子を含み，形態から火葬施設の可能性が考えられるが，底面には熱を受けた形跡は認められなかった。時期は出土した遺物などから中世以降と考えられる。

第607号土坑出土遺物観察表（第140図）

番号	器種	計測値					材質	特徴	備考	
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)				重量(g)
M86	小柄	(19.8)	(12.1)	1.6	0.4	7.7	28.9	鉄	切先部柄尻部欠	PL79

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M87	不明	2.29	0.7×0.7	1.1	1.4	銅	—	—	銭名不明	
M133	不明	2.24	0.7×0.7	0.6	1.9	銅	—	—	欠損・摩耗	

第609号土坑出土遺物観察表（第140図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P441	陶器	皿カ	—	(1.7)	4.9	砂粒		—		—	中世カ	覆土中層	40%

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M88	永楽通寶	2.49	0.6×0.6	1.4	2.8	銅	永楽6年	1408	鑄上がり良	PL80

第610号土坑出土遺物観察表（第140図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P263	陶器	縁折れ皿	[11.4]	(1.2)	—	石英	淡黄色	—	透明	—	中世	覆土中	10%
P264	陶器	片口カ	—	(4.8)	—	砂粒	浅黄色	—	黄褐色	—	中世カ	覆土中	5%

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M89	不明	2.54	0.6×0.6	1.6	2.3	銅	—	—	欠け・銭名不明	

第612号土坑（第141図）

位置 V郭の南西部，E2i8区に位置している。本跡の東に第611・617号土坑が構築されている。

重複関係 第613号土坑と重複している。

規模及び形状 長軸1.00m，短軸0.76m，深さ9cmの隅丸長方形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は平坦である。主軸はN-90°-Eを指す。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量。 | 4 黒褐色 | ロームブロック多量，炭化物中量。 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量。 | 5 褐色 | 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック少量。 | 6 黒褐色 | 炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック少量。 |

遺物出土状況 陶磁器片1点(底部1),古銭4点(永楽通寶1,洪武通寶1,不明2),銅製品1点(小仏像)が出土してる。第141図P442, M90・134・135は覆土中層, M91は覆土上層からそれぞれ出土している。
 所見 本跡は小仏像を伴うことから墓壙と想定される。時期は出土した遺物などから中世末頃と考えられる。

第613号土坑(第141図)

位置 V郭の南西部, E2i7区に位置している。

重複関係 第612号土坑と重複している。

規模及び形状 長径1.60m, 短径0.99m, 深さ99cmの楕円形で, 壁面は外傾して立ち上がり, 底面は皿状である。主軸はN-32°-Eを指す。

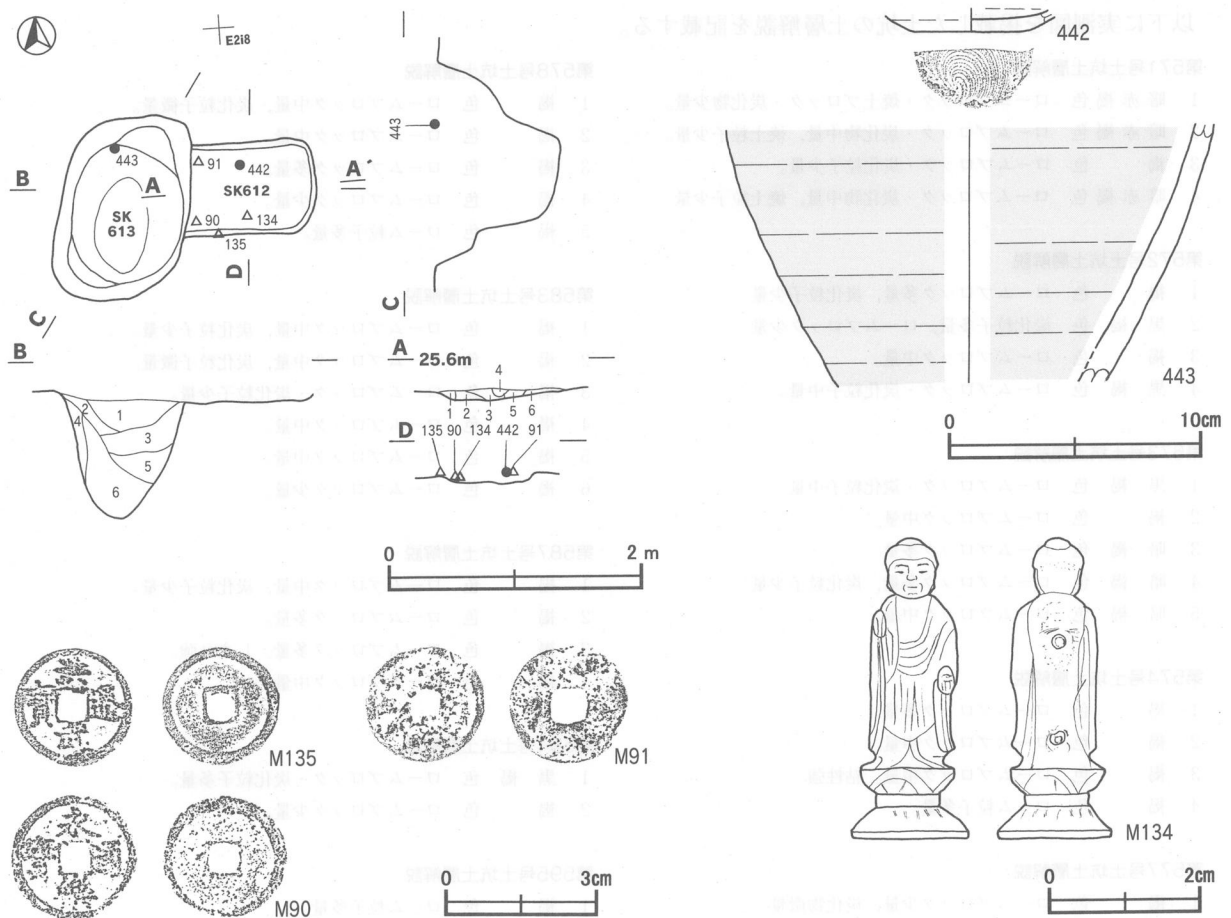
覆土 6層からなる。ロームブロックを含む層があることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量。 | 4 褐色 ロームブロック少量。粘性強。 |
| 2 褐色 炭化粒子微量。粘性弱。 | 5 褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 6 暗褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 |

遺物出土状況 陶磁器片3点(体部3)が出土している。第141図P443は覆土上層から出土している。

所見 本跡は墓壙の可能性が想定される。本跡の時期は出土した遺物から中世と考えられる。



第141図 第612・613号土坑実測図, 出土遺物実測図

第612号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P442	陶器	皿カ	—	(0.9)	4.2	砂粒	黄橙色	—	灰黄色	—	中世カ	覆土中層	20%

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M134	小仏像	4.1	1.5	1.5	18.9	薬師如来像カ 背面に光背用の鋳留め痕あり	PL80

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M90	永楽通寶	2.47	0.6×0.6	1.3	2.7	銅	永楽6年	1408	鑄上がりやや不良	PL80
M91	不明	2.41	0.6×0.6	1.6	5.7	銅	—	—	2枚接合	
M135	洪武通寶	2.37	0.6×0.6	1.3	3.2	銅	洪武元年	1368	鑄上がり良	PL80

第613号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P443	磁器	壺	—	(10.1)	—	—	浅黄色	—	灰色	—	—	覆土上層	10%

以下に実測図を掲載した土坑の土層解説を記載する。

第571号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量。
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子少量。
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。
- 4 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子少量。

第572号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量。
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量。
- 3 褐色 ロームブロック中量。
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量。

第573号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量。
- 2 褐色 ロームブロック中量。
- 3 暗褐色 ロームブロック多量。
- 4 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量。
- 5 暗褐色 ロームブロック中量。

第574号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量。
- 2 褐色 ロームブロック中量。
- 3 褐色 ロームブロック中量。粘性強。
- 4 褐色 ローム粒子多量。

第577号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量。
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 4 褐色 ロームブロック多量。

第578号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量。
- 2 褐色 ロームブロック中量。
- 3 褐色 ロームブロック多量。
- 4 褐色 ロームブロック少量。
- 5 褐色 ローム粒子多量。

第583号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量。
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量。
- 4 褐色 ロームブロック中量。
- 5 褐色 ロームブロック中量。
- 6 褐色 ロームブロック少量。

第587号土坑土層解説

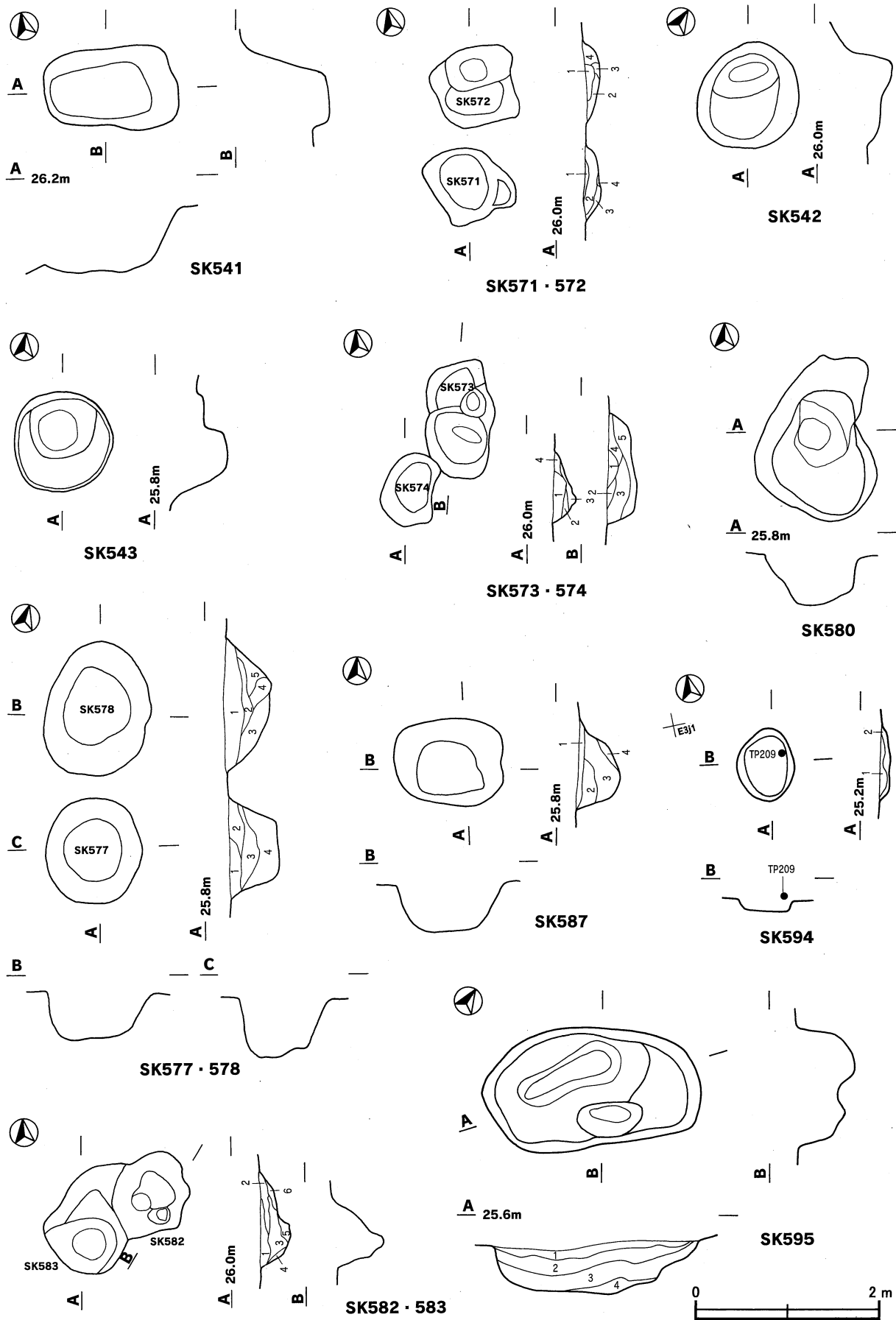
- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量。
- 2 褐色 ロームブロック多量。
- 3 褐色 ロームブロック多量。しまり強。
- 4 褐色 ロームブロック中量。

第594号土坑土層解説

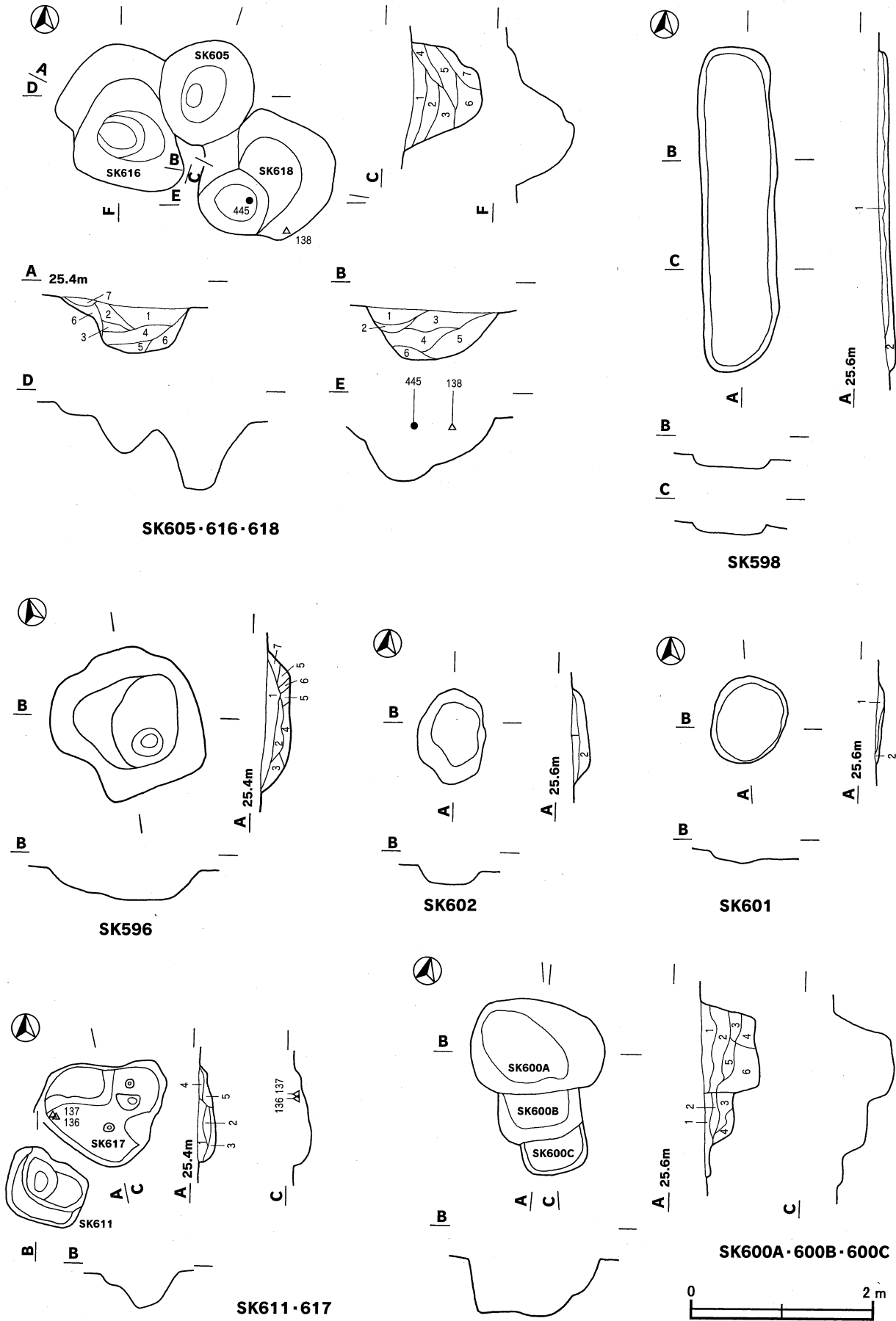
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子多量。
- 2 褐色 ロームブロック少量。

第595号土坑土層解説

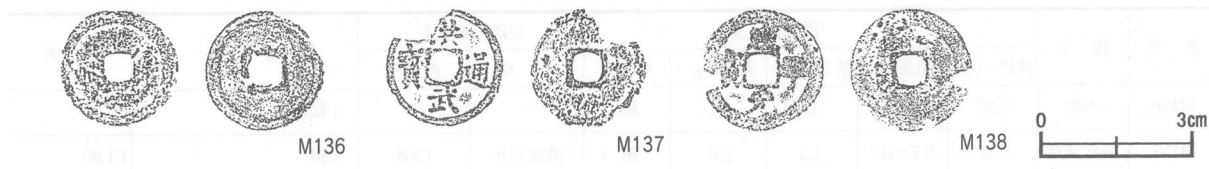
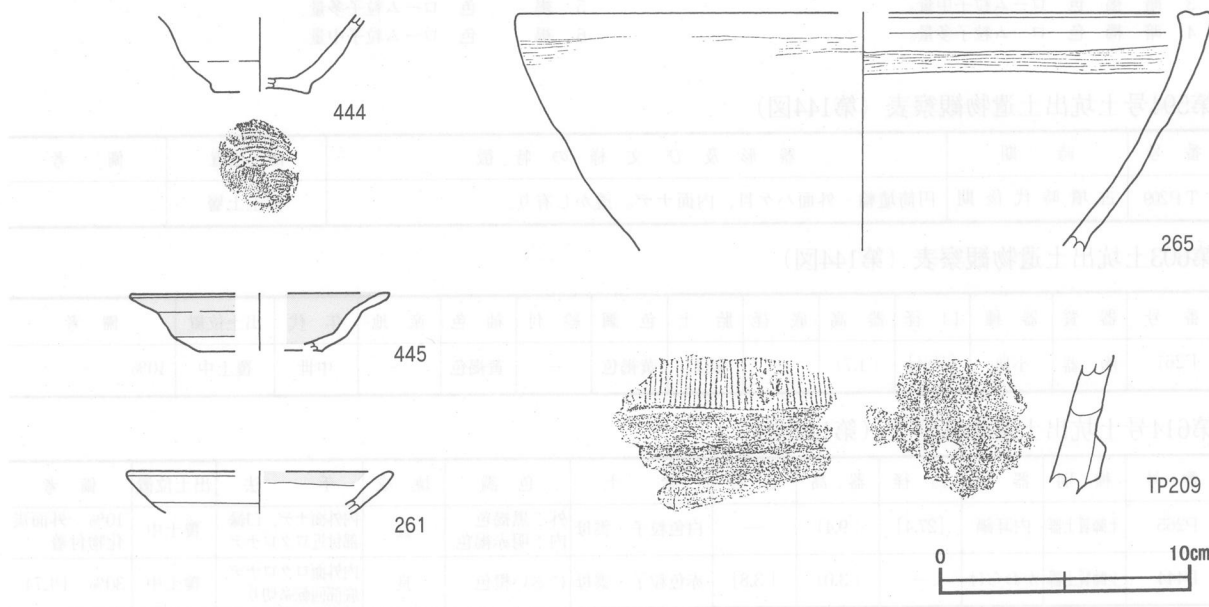
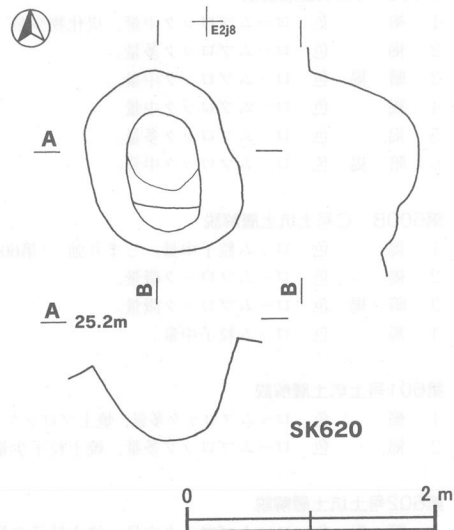
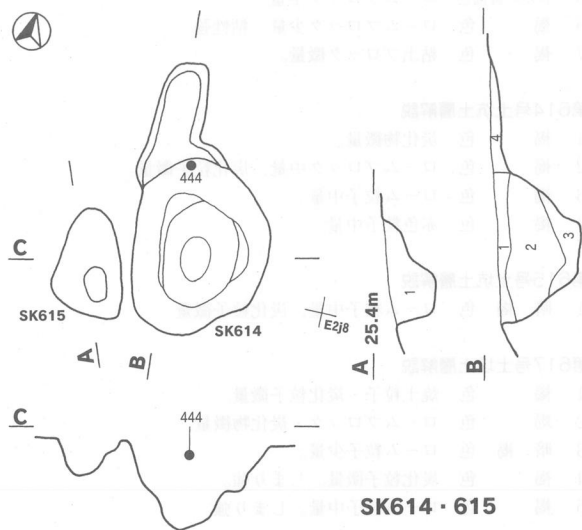
- 1 褐色 ローム粒子多量。
- 2 褐色 ロームブロック多量。
- 3 褐色 ロームブロック多量。しまり強。
- 4 褐色 ロームブロック多量。粘性・しまり強。



第142図 V郭その他の土坑実測図 (1)



第143図 V郭その他の土坑実測図(2)



第144図 V郭その他の土坑・出土遺物実測図

第596号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量，炭化物中量，焼土ブロック少量。しまり強。
- 2 暗褐色 ロームブロック多量，炭化物中量。
- 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化物少量。
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量，焼土ブロック少量。
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量。

- 6 褐色 ロームブロック少量，炭化物微量。

- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量。

第598号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量。
- 2 褐色 ロームブロック多量。

第600A号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量。
- 2 褐色 ロームブロック多量。
- 3 暗褐色 ロームブロック中量。
- 4 褐色 ロームブロック中量。
- 5 褐色 ロームブロック多量。
- 6 暗褐色 ロームブロック中量。

第600B・C号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量。しまり強。(第600C号土坑)
- 2 褐色 ロームブロック微量。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。
- 4 褐色 ローム粒子中量。

第601号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量。
- 2 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量。

第602号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量。
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量。

第605号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量。
- 2 褐色 ロームブロック少量。粘性弱。
- 3 暗褐色 ローム粒子中量。
- 4 暗褐色 ローム粒子多量。

- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量。
- 6 褐色 ロームブロック少量。粘性強。
- 7 褐色 粘土ブロック微量。

第614号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物微量。
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量。
- 4 褐色 赤色粒子中量。

第615号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量。

第617号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物微量。
- 3 暗褐色 ローム粒子少量。
- 4 褐色 炭化粒子微量。しまり強。
- 5 褐色 ローム粒子中量。しまり強。

第618号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量。
- 3 褐色 炭化粒子微量。
- 4 にぶい黄褐色 炭化粒子微量。しまり強。
- 5 褐色 ローム粒子多量。
- 6 褐色 ローム粒子中量。

第594号土坑出土遺物観察表 (第144図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP209	古墳時代後期	円筒埴輪-外面ハケ目, 内面ナデ。透かし有り。	覆土上層	

第603号土坑出土遺物観察表 (第144図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P261	陶器	小皿	[10.4]	(1.7)	—	長石	黄褐色	—	黄褐色	—	中世	覆土中	10%

第614号土坑出土遺物観察表 (第144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P265	土師質土器	内耳鍋	[27.4]	(9.4)	—	白色粒子・雲母	外: 黒褐色 内: 明赤褐色	良	内外面ナデ, 口縁部付近ロクロナデ	覆土中	10% 外面炭化物付着
P444	土師質土器	かわらけ	—	(3.0)	[3.8]	赤色粒子・雲母	にぶい橙色	良	内外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	覆土中	30% PL74

第617号土坑出土遺物観察表 (第144図)

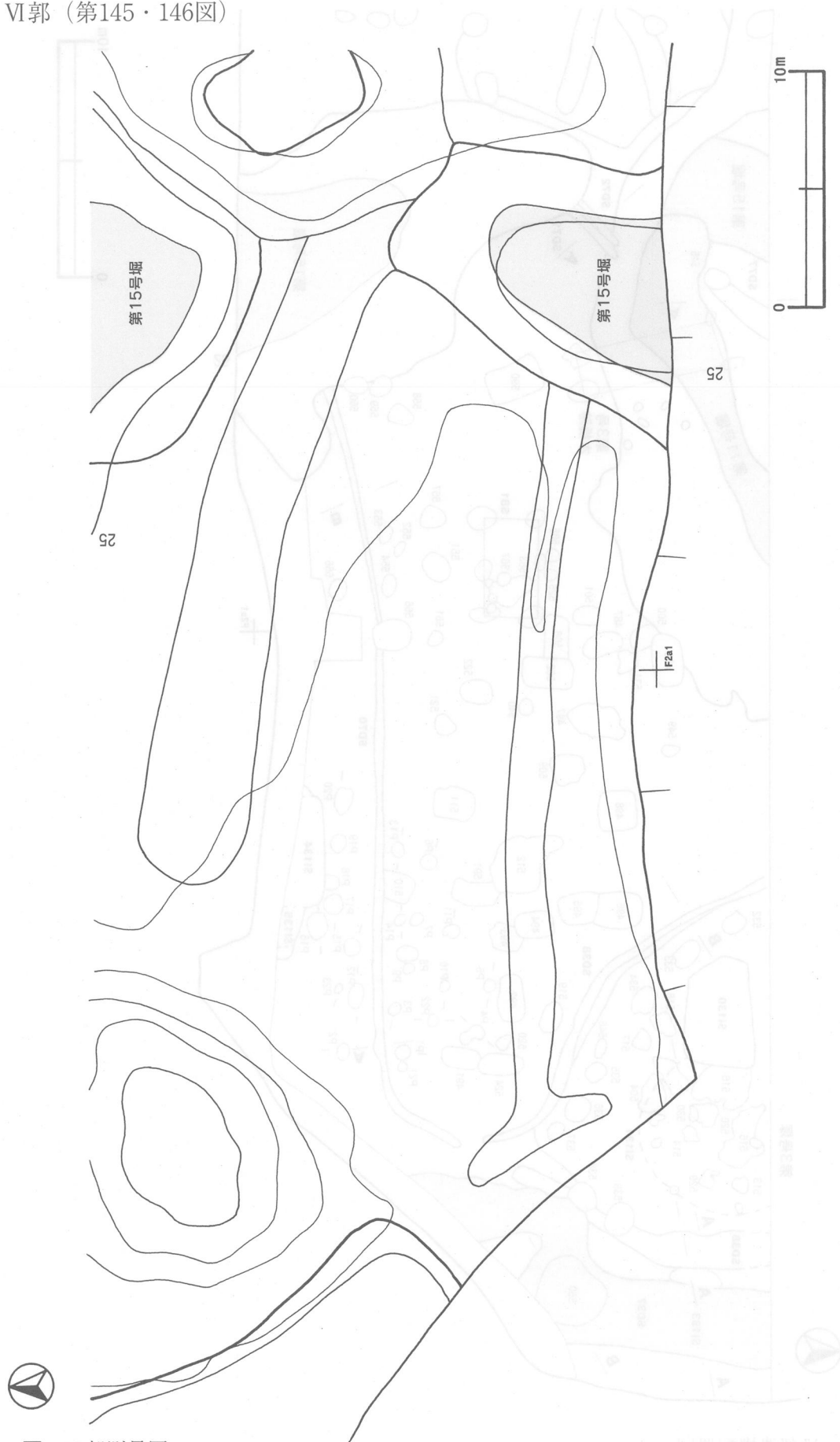
番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M136	不明	2.30	0.6×0.6	3.6	9.8	銅	—	—	3枚鑄着	
M137	洪武通寶	2.31	0.7×0.7	1.3	2.6	銅	洪武元年	1368	欠損	PL80

第618号土坑出土遺物観察表 (第144図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P445	陶器	縁折れ皿	[10.2]	(2.3)	—	—	浅黄色	—	オリブ黄色	—	中世カ	覆土上層	10% PL74

番号	銭名	計測値					初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	年号	西暦		
M138	咸平元寶カ	2.40	0.7×0.7	0.9	2.4	銅	咸平元年	998	欠損	

6 VI郭 (第145·146图)



第145图 VI郭测量图

第146图 VI郭测量图



概要 本跡は、北方から入り込む谷の西側に構築されている。規模と形状は、本跡の平坦部で長辺約51m、短辺約24mの東西方向に長く、西側の縁辺部が長い台形を呈している。面積は約1243㎡で、北西部の一部は平成8年度に調査され、今回は約951㎡が調査の対象となった。

本跡は、東側が第15号堀によってV郭と分断され、北から西側にかけて近年の造成工事により旧地形を大きく損なっている。また南側は切り立った崖となっており、低地との比高差は約19mである。北西コーナーには第3号塚が位置し、西南西方向に遠く龍ヶ崎城跡を望む。本跡には、現況ではV郭から第3号土橋跡へ入る通路があり、本来は西側からの通路も存在していたと考えられる。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第147図)

位置 VI郭の東部、E2h1区に位置している。本跡の北西に第502・508号土坑、北東に第3号木橋跡が構築されている。

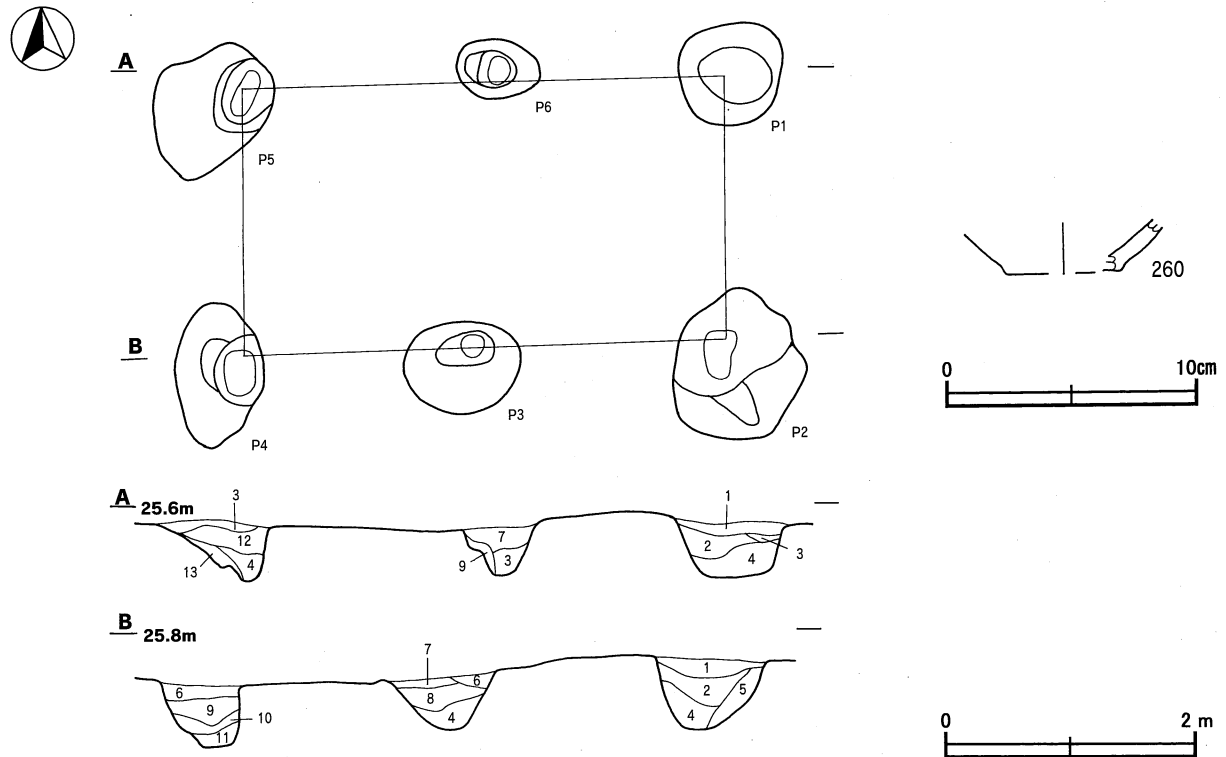
重複関係 第563・567～570号土坑と重複している。

規模と形状 桁行2間、梁行1間の建物跡で、桁行方向をN-88°-Eとする東西棟である。桁行は3.81m、梁行は2.12mで、柱間寸法は桁行1.72～2.02m、梁行2.16～2.20mである。

柱穴 平面形は楕円形を呈し、深さは38～60cmである。4～13層は粘性・しまりの強い土層が多く、埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量。 | 5 褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量。粘性強。 | 6 褐色 | ローム粒子微量。粘性強。 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量。しまり弱。 | 7 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 4 褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり強。 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量。しまり強。 |



第147図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 9 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量。 | 12 褐色 ロームブロック微量。粘性強。 |
| 10 暗褐色 ロームブロック微量。粘性強。 | 13 褐色 ローム粒子中量。粘性強。 |
| 11 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。粘性強。 | |

遺物出土状況 埴輪片1点, 土師質土器片1点(底部1)が出土しており, 埴輪片は覆土に混入したものである。第147図P260は, P3の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土した遺物などから長峰城が機能していた頃に構築されたものと考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P260	土師質土器	かわらけ	—	(2.0)	[4.6]	雲母	にぶい橙色	良	外面ロクロナデ, 内面剥離のため不明	覆土中	15%

(2) 堀

第11号堀(第131・148図)

位置 VI郭の北側斜面, E1・E2区付近に位置している。本跡の東に第15号堀, 第3号木橋跡, 南東に第3号土橋跡が構築されている。

重複関係 第3号木橋跡・第77号溝跡に掘り込まれ, 第15号堀と重複している。

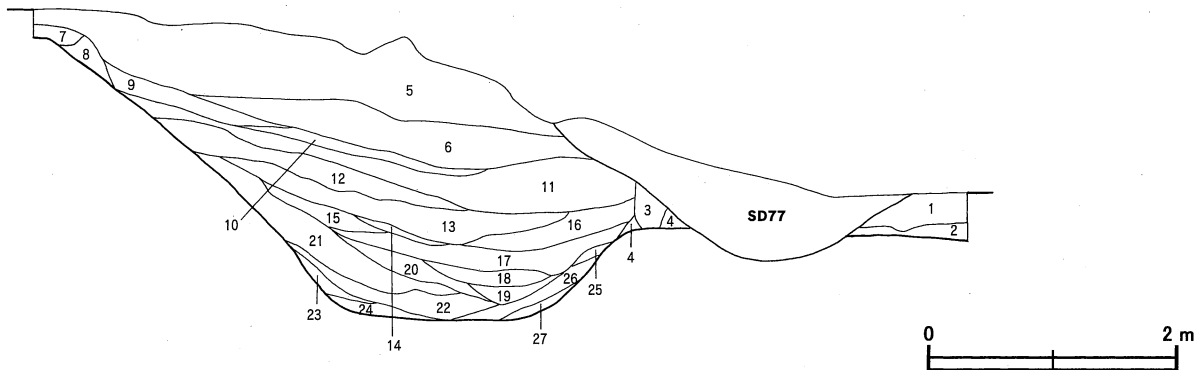
規模及び形状 西側は調査区域外に延び, 第37号溝跡へとつながる。現況で長さ15.32m, 上幅1.2~3.84m, 下幅0.46~2.2m, 深さ2.42~2.54mで, 断面は逆台形である。主軸はN-68°-Wを指す。

覆土 27層からなる。15・17・21層より下層はロームブロックを多く含むことから, 人為的に埋め戻され, それより上層は含有物を均等に含むことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | 9 黒褐色 ロームブロック微量。 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 10 黒褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 11 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 4 褐色 ローム粒子中量。粘性・しまり弱。 | 12 黒褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 |
| 5 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | 13 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量。 |
| 6 暗褐色 炭化粒子微量。 | 14 黒褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 |
| 7 黒褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 | 15 暗褐色 ロームブロック少量。 |
| 8 黒褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 | 16 褐色 ロームブロック少量。 |

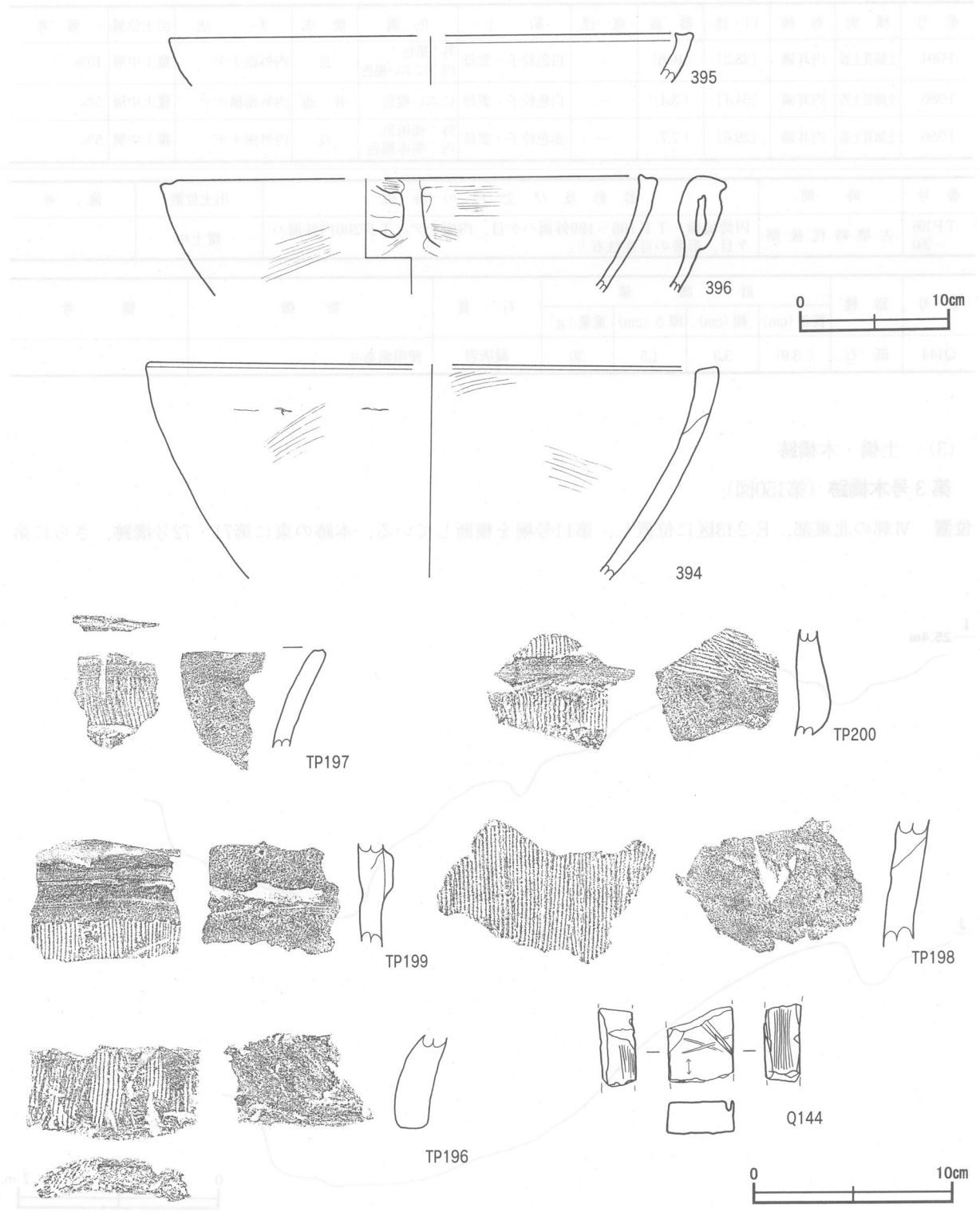
E 25.0m



第148図 第11号堀実測図

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 17 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量。 | 22 褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック微量。 |
| 18 暗褐色 | ロームブロック少量，粘土ブロック微量。 | 23 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量。 |
| 19 黒褐色 | ローム粒子少量。 | 24 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量。しまり強。 |
| 20 暗褐色 | ロームブロック少量。 | 25 褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量。 |
| 21 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック微量。 | 26 黒褐色 | ロームブロック微量。しまり弱。 |
| | | 27 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック中量。 |

遺物出土状況 土師器片17点（口縁部1，体部13，底部3），埴輪片35点，土師質土器片12点（口縁部7，体部4，底部1），陶磁器片18点（口縁部9，体部6，底部3）が出土している。細片が多く，本跡の埋没に伴



第149図 第11号堀出土遺物実測図

って流れ込んだものと考えられる。第149図P394～P396は中層，Q144は上層からそれぞれ出土している。所見 本跡は平成8年度の調査区域へ延び，後述する第37号溝跡と接続することが確認された。本跡が構築された地形は，北方から入り込む谷の奥に当たり，VI郭の北側斜面を守るために構築されたと考えられる。本跡の時期は，出土した遺物や第37号溝跡との関係などから15世紀頃と考えられる。

第11号堀出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P394	土師質土器	内耳鍋	[28.2]	(10.6)	—	白色粒子・雲母	外：黒色 内：にぶい褐色	良	内外面ナデ	覆土中層	10%
P395	土師質土器	内耳鍋	[34.4]	(3.4)	—	白色粒子・雲母	にぶい橙色	普通	内外面横ナデ	覆土中層	5%
P396	土師質土器	内耳鍋	[29.6]	(7.7)	—	赤色粒子・雲母	外：褐灰色 内：明赤褐色	良	内外面ナデ	覆土中層	5%

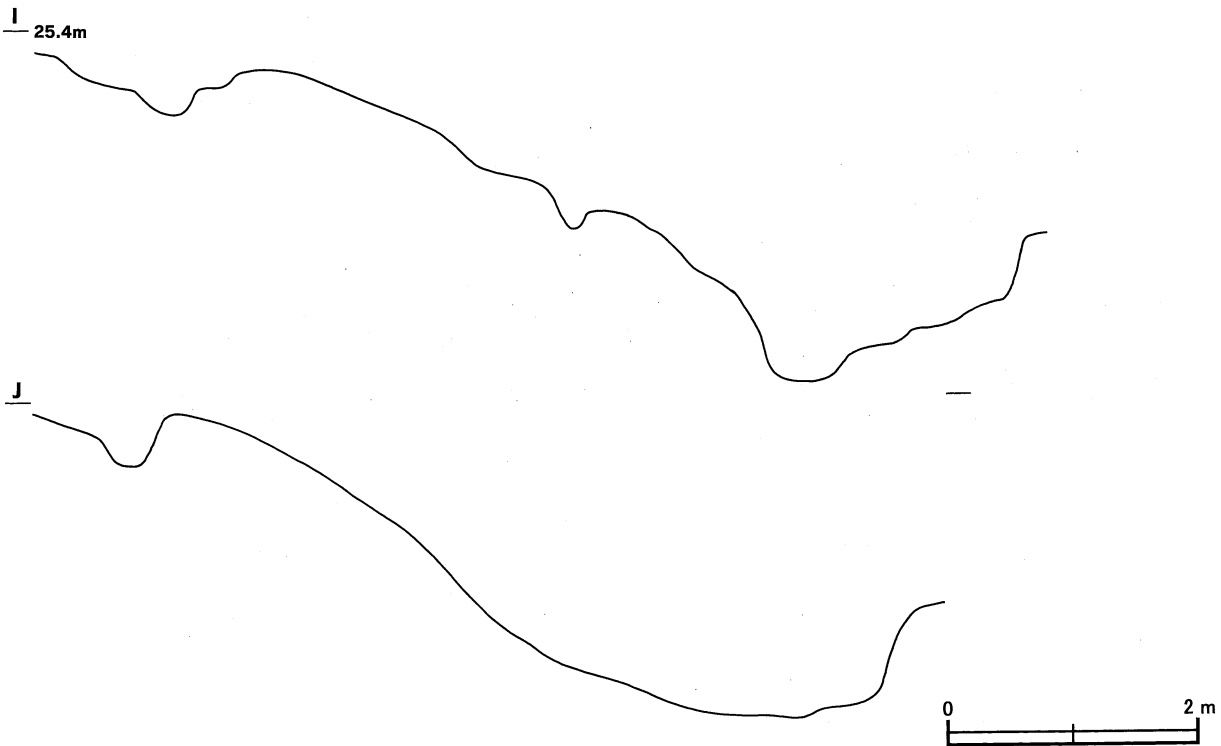
番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP196 ~200	古墳時代後期	円筒埴輪—TP196~199外面ハケ目，内面ナデ。TP200内外面ハケ目，形象の可能性有り。	覆土中	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q144	砥石	(3.9)	3.3	1.5	30	凝灰岩	使用痕あり	

(3) 土橋・木橋跡

第3号木橋跡（第150図）

位置 VI郭の北東部，E2f3区に位置し，第11号堀を横断している，本跡の東に第71・72号溝跡，さらに第



第150図 第3号木橋跡実測図

3号土橋跡が構築されている。

重複関係 第11号堀と重複している。

規模及び形状 本跡の柱穴は5か所で確認された。P1・2は一部削平されて形状は不明であるが、深さは0.5~0.8mである。また、P5に対応する柱穴も確認できなかった。P3・4は長径1.1~1.5m、短径0.9~1m、深さは0.4~0.5mで、径約40cmほどの柱痕が確認された。P5は径0.3m、深さは25cmである。P1・2、P3・4間の距離は5.9mと推定され、対になるピットの芯々間の距離は1.9mで、主軸はN-12°-Eを指す。

出土遺物 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡はVI郭と北側の谷を結ぶためにつけられた木橋跡と思われ、通行するには第42号墳の監視を受ける。本跡の年代は明らかではないが、第11号堀に土砂が若干堆積した後に構築されたものと思われる。

(4) 溝跡

第37号溝跡 (第151図)

位置 VI郭の西部、E1e4区付近に位置し、VI郭と西側の台地平坦面を分断している。本跡の東に隣接して第3号塚及び第38号溝跡が構築されている。

重複関係 第133号住居跡を掘り込み、第550号土坑が本跡の屈曲部に構築されている。

規模及び形状 本跡の北側及び南側は調査区域外に延びる。残存部分で長さ17.6m、上幅1.80~3.31m、下幅0.65~0.91m、深さ1.15~1.42mで、断面は逆台形である。主軸はN-10°-Wを指す。

覆土 20層からなる。16層はロームブロックを含む褐色土層で、15層はロームブロック塊であることから、15・16層より下層は人為堆積で、それより上層は含有物が均等に含まれることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

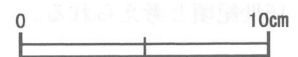
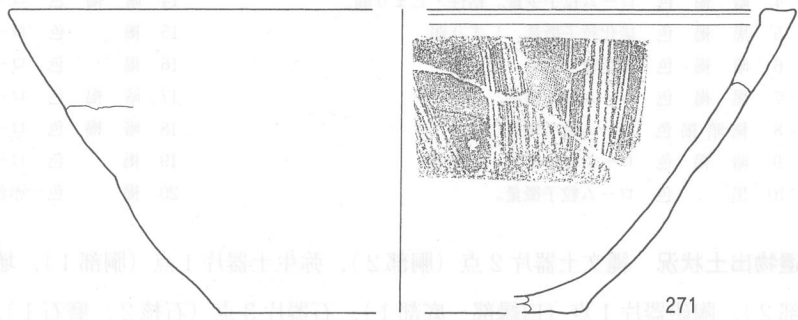
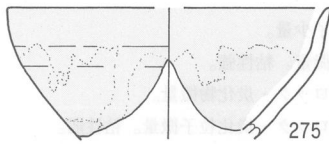
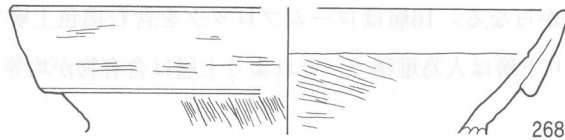
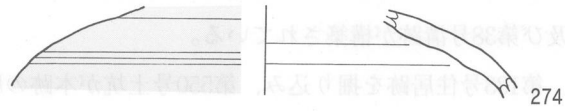
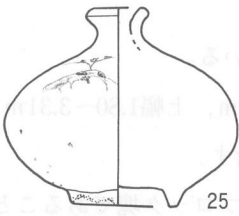
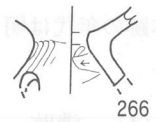
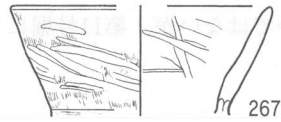
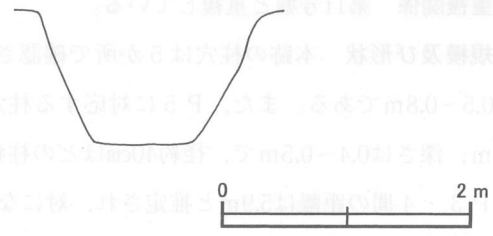
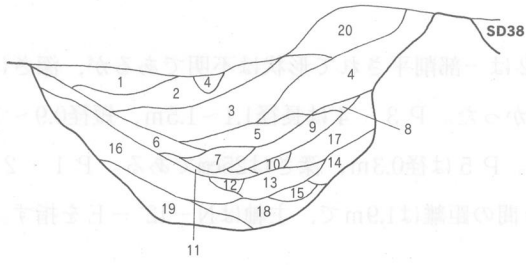
1 暗褐色 ロームブロック微量。	11 黒褐色 ローム粒子少量。
2 暗褐色 ローム粒子少量。	12 黒褐色 赤色粒子微量。粘性強。
3 暗褐色 ロームブロック少量。	13 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量。
4 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。	14 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。粘性弱。
5 黒褐色 炭化粒子微量。しまり弱。	15 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。
6 暗褐色 炭化粒子微量。	16 褐色 ロームブロック少量。
7 黒褐色 ローム粒子微量。	17 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量。粘性弱。
8 極暗褐色 ローム粒子微量。	18 暗褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。
9 暗褐色 ローム粒子微量。粘性弱。	19 褐色 ローム粒子多量。
10 黒色 ローム粒子微量。	20 褐色 赤色粒子微量。粘性・しまり弱。

遺物出土状況 縄文土器片2点(胴部2)、弥生土器片1点(胴部1)、埴輪片7点、土師質土器片2点(口縁部2)、陶磁器片1点(口縁部~底部1)、石器片3点(石核2、磨石1)、石製品片1点(石臼1)、鉄器片1点(不明1)、古銭1点(紹興元寶)が出土している。縄文土器片・弥生土器片・埴輪片・石器片は、本跡が埋没する過程で流れ込んだものである。第151・152・153図P269・271・274・275、Q112、M93は、15・16層の上面から覆土中層にかけて出土し、Q112は割れた状態で出土している。これらの遺物は、本跡が一部埋められた後に廃棄されたものと考えられる。P25は覆土上層から出土している。

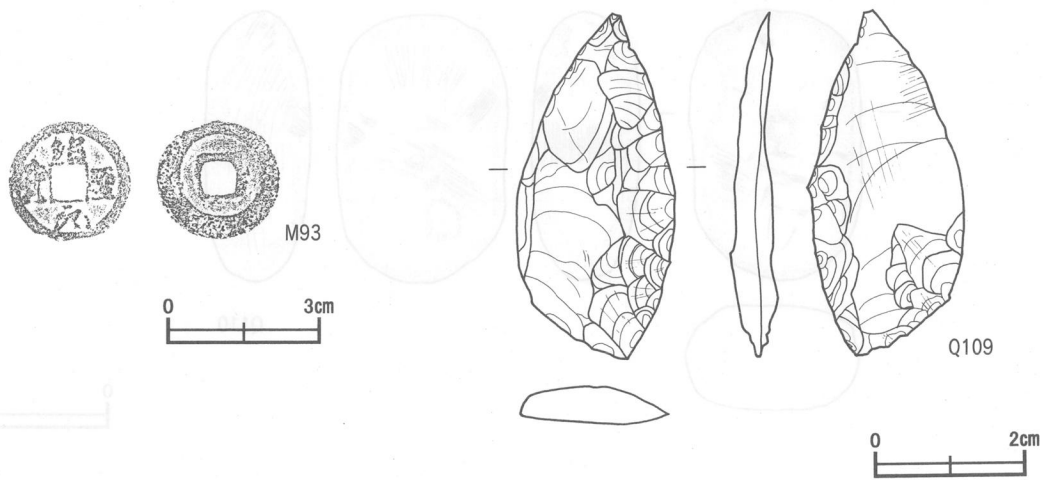
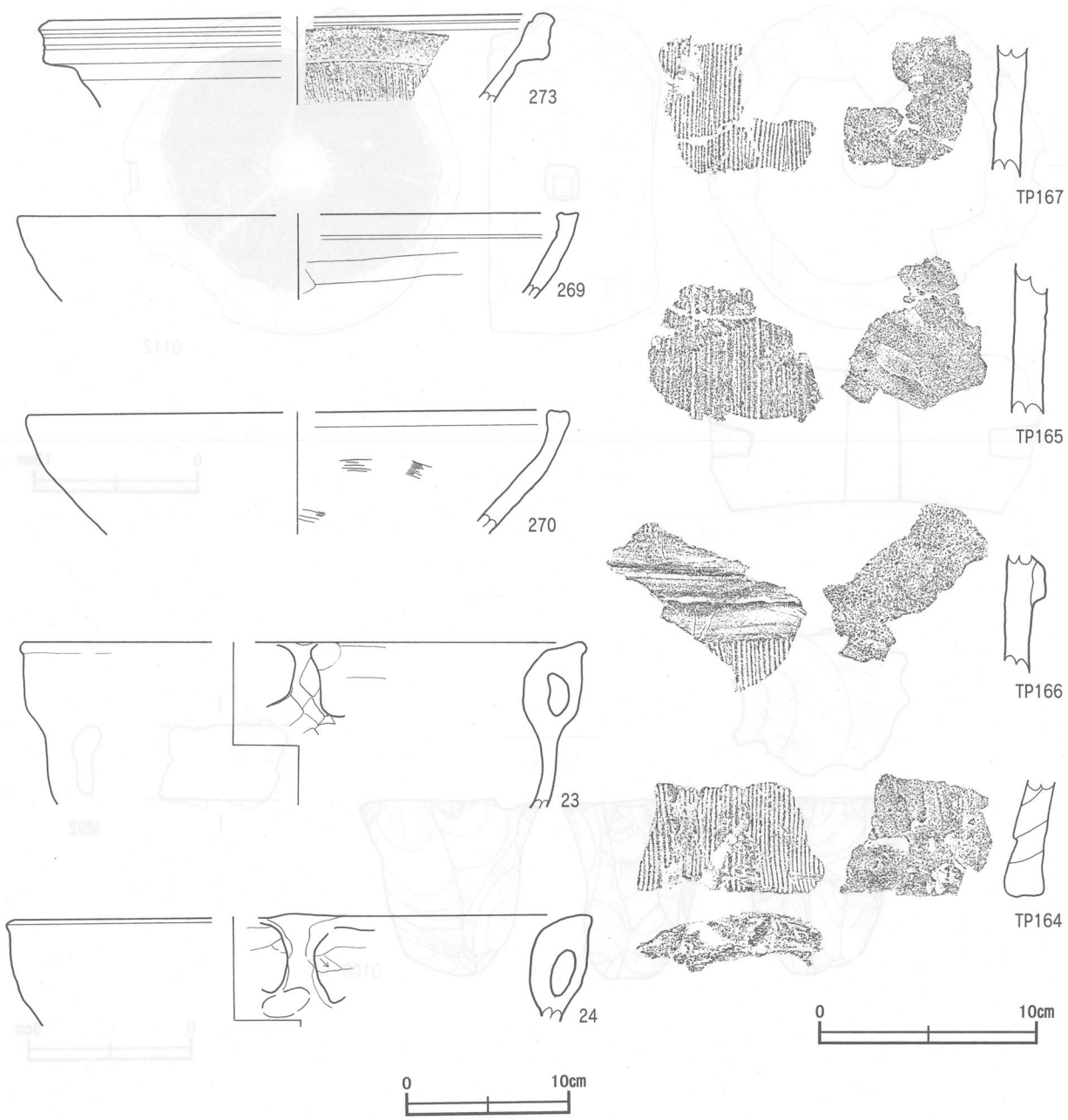
所見 本跡は平成8年度の調査区域から南に曲がり、第3号塚の北から西にかけて構築されていることが判明した。また溝の屈曲点に第550号土坑を構築して防御力を高めている。本跡の時期は、出土した遺物などから15世紀頃と考えられる。

A 27.2m

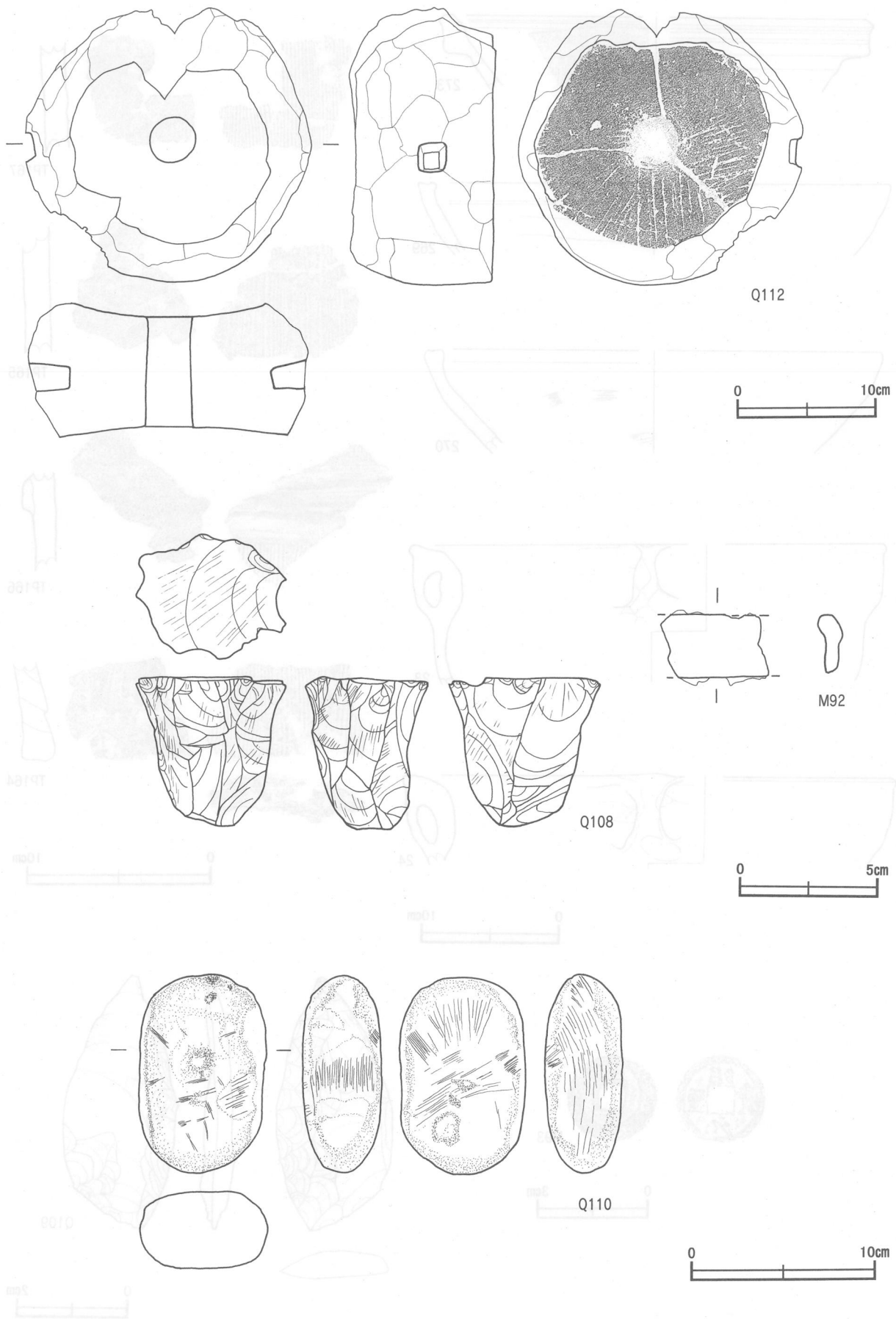
B 26.6m



第151図 第37号溝跡・出土遺物実測図



第152图 第37号沟迹实测图 (1)



第153图 第37号沟迹实测图(2)

第37号溝跡出土遺物観察表（第151・152・153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P266	土師器	器台	—	(3.2)	—	赤色粒子・雲母	橙色	良	外面ミガキ・赤彩、内面ナデ、脚内面ヘラ削り	覆土下層	20%
P267	土師器	埴	[10.4]	(4.3)	—	石英・赤色粒子	橙色	良	外面ハケ目後ミガキ、内面ミガキ	覆土中層	15%
P268	土師器	壺	[21.8]	(5.0)	—	石英・赤色粒子・雲母	明褐色	良	外面横ナデ・ヘラナデ、内面ヘラナデ	覆土下層	10%
P23	土師質土器	内耳鍋	[33.9]	(9.9)	—	雲母	外：黒色 内：橙色	普通	内外面ナデ	覆土中	5% 外面炭化物付着
P24	土師質土器	内耳鍋	[34.8]	(6.5)	—	雲母	外：黒色 内：ぶい橙色	普通	内外面ナデ、耳部付近一部指頭押捺	覆土中	5%
P269	土師質土器	内耳鍋	[33.8]	(5.2)	—	雲母	外：灰褐色 内：橙色	良	内外面ナデ	覆土中層	10% 外面一部炭化物付着
P270	土師質土器	内耳鍋	[32.6]	(7.3)	—	石英・長石・白色粒子・雲母	外：黒色 内：褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土下層	10%
P271	土師質土器	播鉢	[31.2]	12.0	[14.4]	石英・白色粒子・雲母	明黄褐色	普通	内面播り目、外面・底部ナデ	覆土中層	20%
P272	土師質土器	かわらけ	[6.2]	2.3	[3.0]	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土下層	25%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P25	陶器	髪油壺	2.1	7.8	4.3	—	—	有	灰白色	肥前系	近世	覆土中	100%
P273	陶器	播鉢	[29.8]	(5.4)	—	石英	赤褐色	—	赤褐色	—	近世カ	覆土中	5%
P274	陶器	瓶子カ	—	(3.5)	—	砂粒	黄褐色	—	暗オリブ色	古瀬戸	中世	覆土下層	10%
P275	陶器	天目茶碗	[12.8]	(5.2)	—	赤色粒子	灰白色	—	黒色	—	中世	覆土中層	10%

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP161	縄文時代早期	内外面に条痕文を施文。繊維含む。	覆土中層	
TP163~169	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目、内面ナデ。TP169内外面ハケ目。TP166突帯有り。	覆土上～中層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q108	石核	5.4	5.5	4.4	115	頁岩	大型で、剥ぎ取りの痕跡が明瞭に残る	PL77
Q109	石槍	4.5	2.0	0.5	4.14	チャート		PL77
Q110	磨石	10.5	6.8	4.2	496	安山岩	側面に使用痕	
Q112	石臼	(19.4)	(20.4)	(10.8)	4630	安山岩	軸径3.4cm, 上白カ	PL78

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M92	不明	(4.0)	(2.7)	(0.9)	15.2	内湾する	

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M93	紹興元寶	2.41	0.7×0.7	1.3	3.0	銅	紹興元年	1131	鑄上がりやや不良	PL80

第38号溝跡（第154図）

位置 VII郭西部, E1g4区, E1f7区付近に位置している。本跡は第3号塚の東西で確認され、第37号溝跡の

内側に構築されている。

重複関係 本跡の西側で第133号住居跡を掘り込み、第538・539号土坑に掘り込まれており、第37号溝跡と重複している。

規模及び形状 北側は調査区域外に延びる。東側は長さ16.1m、上幅0.31~0.46m、下幅0.18~0.22m、深さは0.12~0.22m、断面は逆台形で、主軸はN-60°-Eを指す。西側は第37号溝跡とほぼ並行して走り、長さ5.42m、上幅0.34~0.82m、下幅0.13~0.24m、深さ0.68~1.14m、断面はU字形で、主軸はN-18°-Wを指す。

覆土 A-A'、B-B'の2か所で土層を観察し、それぞれ4層及び3層からなる。含有物が均等に含まれていることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

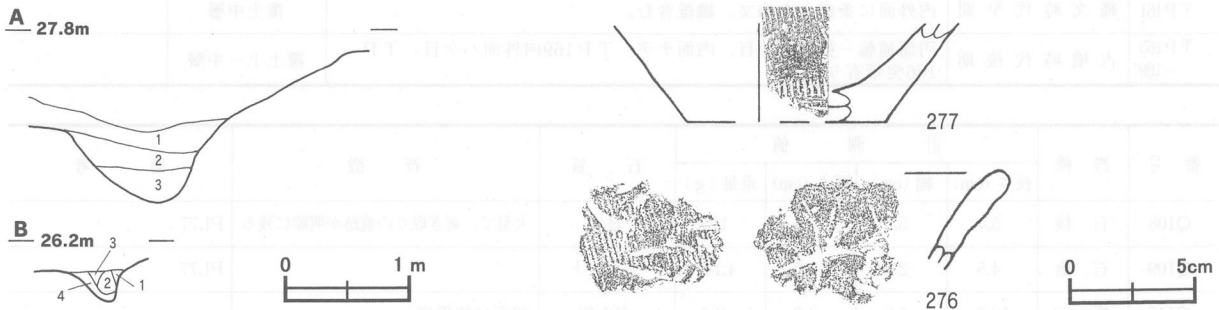
- 1 暗褐色 ローム粒子微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。

土層解説 (B-B')

- 1 褐色 ローム粒子少量。しまり弱。
- 2 暗褐色 炭化粒子微量。しまり弱。
- 3 褐色 ローム粒子微量。しまり弱。
- 4 褐色 ローム粒子微量。粘性強。

遺物出土状況 土師器片3点(体部3)、土師質土器片1点(口縁部1)、陶磁器片6点(口縁部5、底部1)、常滑片1点が出土しており、土師器片は本跡に混入したものである。第154図P276・277は、西側の覆土上層から出土している。

所見 本跡の北側は平成8年度に調査され、今回の調査の結果、第3号塚の裾部を巡っていることが明らかとなった。本第3号塚構築の際に、裾部を整形する過程で掘り込まれた可能性がある。本跡の時期は、出土した遺物などから中世と考えられる。



第154図 第38号溝跡・出土遺物実測図

第38号溝跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考		
P276	埴輪	円筒	—	(4.1)	—	石英	橙色	良	外面ハケ目, 内面ナデ	覆土上層	5%		
番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P277	陶器	播鉢	—	(3.8)	[7.8]	石英	赤褐色	—	—	在地系	近世	覆土上層	10%

第70号溝跡 (第155図)

位置 VI郭の南側縁辺部、E1h5・E2j2区付近に位置している。

重複関係 第510・566号土坑に掘り込まれ、第15号堀と重複している。

規模及び形状 長さ33.4m、上幅0.12~0.41m、下幅0.05~0.28m、深さ0.14~0.18mで、断面は逆台形である。

主軸は、中央部から東部ではN-75°~90°-Wを指すが、E 1 i6区付近で屈曲し、N-31°-Wを指す。

覆土 4層からなる。含有物を均等に含むことから、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------|------|----------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量。しまり強。 | 3 褐色 | ローム粒子少量。 |
| 2 褐色 | 焼土粒子微量。しまり強。 | 4 褐色 | ローム粒子微量。 |

遺物出土状況 埴輪片4点が出土しており、細片のため図化できなかった。本跡の埋没の過程で流れ込んだものである。

所見 本跡の時期は明らかではないが、VI郭の南側縁辺部に沿って構築され、排水溝的な施設と考えられる。

第71号溝跡 (第155図)

位置 VI郭の北東部、E 2 g5区付近に位置しており、本跡の東に第72号溝跡、第3号土橋跡が構築されている。

規模及び形状 長さ2.68m、上幅0.26~0.3m、下幅0.08~0.15m、深さ9cmで、断面はU字形である。主軸はN-49°-Wを指す。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 2 褐色 | ロームブロック中量。粘性・しまり弱。 |
|-------|--------------------|------|--------------------|

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は明らかではないが、隣接する第72号溝跡とともにVI郭と第3号土橋跡を区画するための溝と考えられる。

第72号溝跡 (第155図)

位置 VI郭の北東部、E 2 g5区に位置しており、本跡の東に第3号土橋跡、西側に第72号溝跡が構築されている。

規模及び形状 長さ2.34m、上幅0.18~0.28m、下幅0.08~0.14m、深さ7cmで、断面はU字形である。主軸はN-51°-Wを指す。

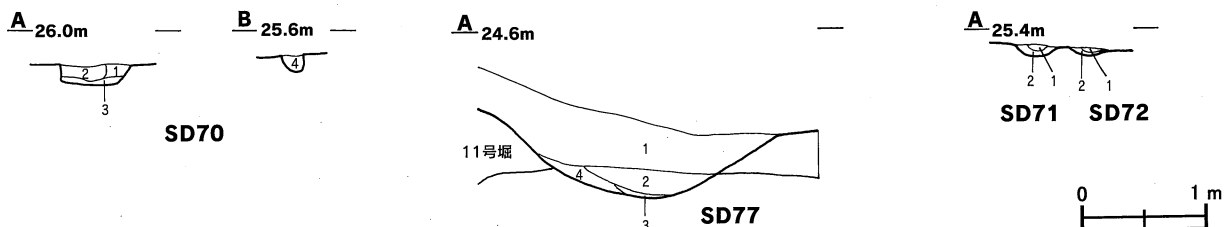
覆土 2層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 2 褐色 | ロームブロック中量。粘性・しまり弱。 |
|-------|--------------------|------|--------------------|

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は明らかではないが、隣接する第71号溝跡とともにVI郭と第3号土橋跡を区画するための溝と考えられる。



第155図 第70~72・77号溝跡実測図

第77号溝跡（第155図）

位置 VI郭の北側斜面，E 2 e4区付近に位置している。本跡の南に第11号堀，東側に第15号堀が構築されている。

重複関係 第11号堀を掘り込み，第545号土坑と重複している。

規模及び形状 本跡の北側は，調査区域外に延びる。規模は，長さ3.3m，上幅0.8～1.14m，下幅0.22～0.46m，深さ0.35～0.37mで，断面は逆台形である。主軸はN-38°-Wを指す。

覆土 4層からなる。含有物を均等に含み，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量。 | 3 暗褐色 ロームブロック少量。 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 4 褐色 ロームブロック中量。 |

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は，第11号堀の覆土を掘り込んでいることから中世以降に構築されたと考えられる。

(5) 塚

第3号塚（第146・156図）

位置 VI郭の西端，E 1 f5区付近に位置しており，本跡の北から西にかけて第37号溝跡，また墳丘の周囲に第38号溝跡が構築されている。

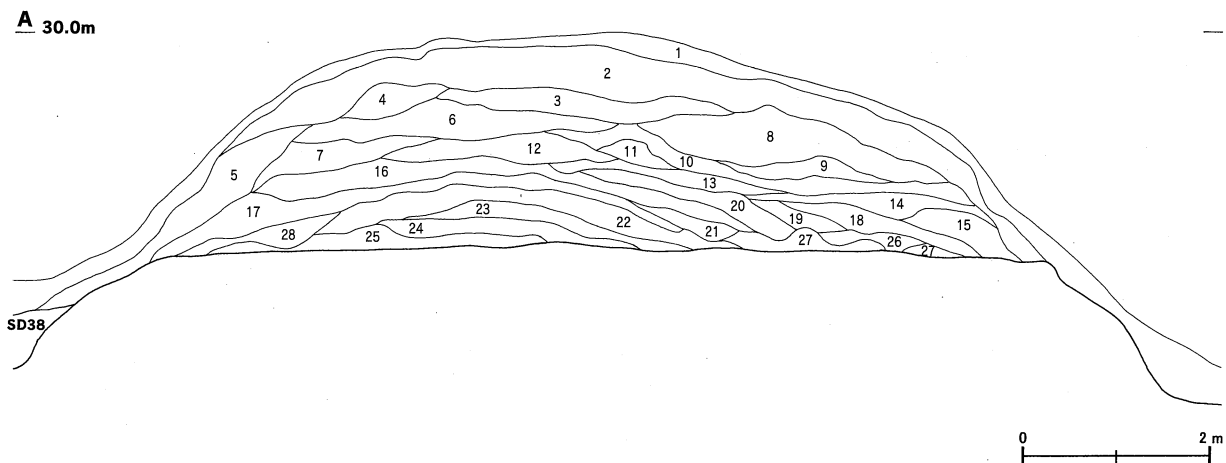
重複関係 本跡の裾部に第532～539・549号土坑が重複している。

規模及び形状 長径12.4m，短径11.6mの楕円形で，高さは4.1mである。主軸はN-57°-Eを指す。

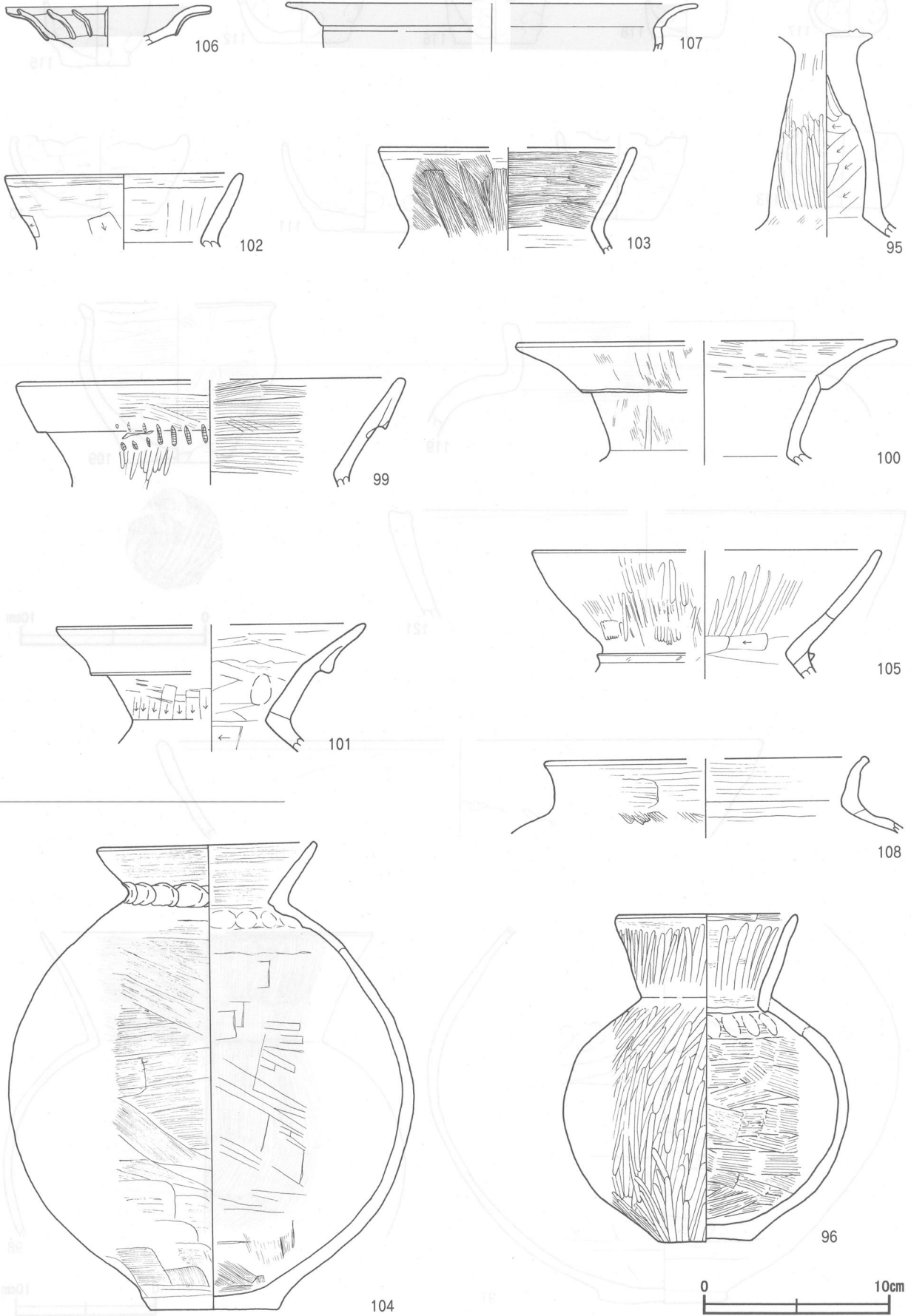
構築状況 28層からなる。本跡の周囲を旧表土より約1.5mほど地山を削り出し，その後中央からロームブロックを含む暗褐色土と褐色土を交互に積み上げて構築されている。

土層解説

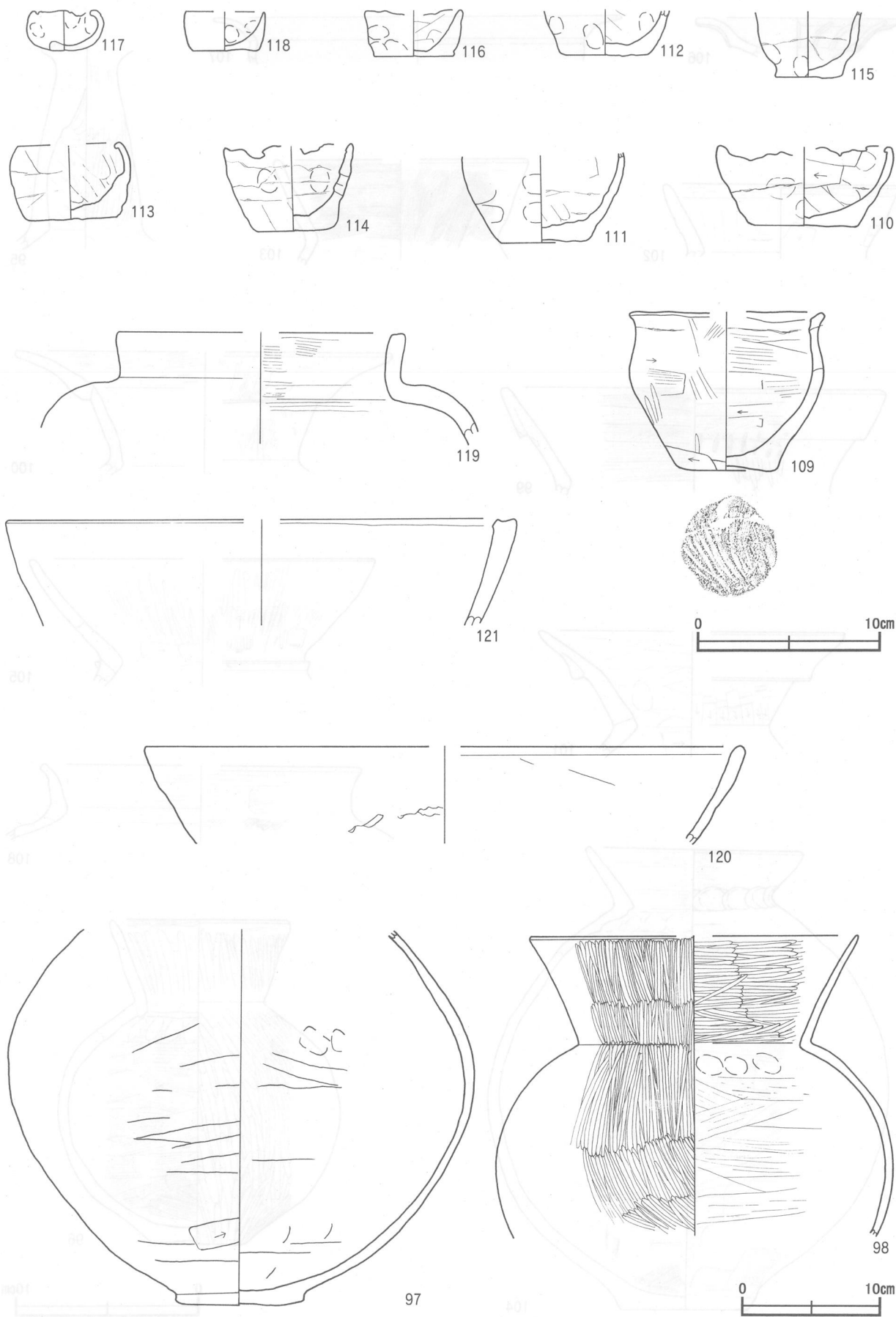
- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量。 | 9 褐色 ロームブロック少量。 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量。しまり弱。 | 10 黒褐色 ロームブロック少量。 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量。 | 11 黒褐色 ロームブロック少量。 |
| 4 褐色 ロームブロック微量。 | 12 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量。 |
| 5 暗褐色 ロームブロック微量。 | 13 暗褐色 ロームブロック少量。 |
| 6 褐色 ロームブロック少量。 | 14 暗褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 |
| 7 暗褐色 ロームブロック微量。 | 15 黒褐色 ロームブロック微量。 |
| 8 暗褐色 ロームブロック微量。 | |



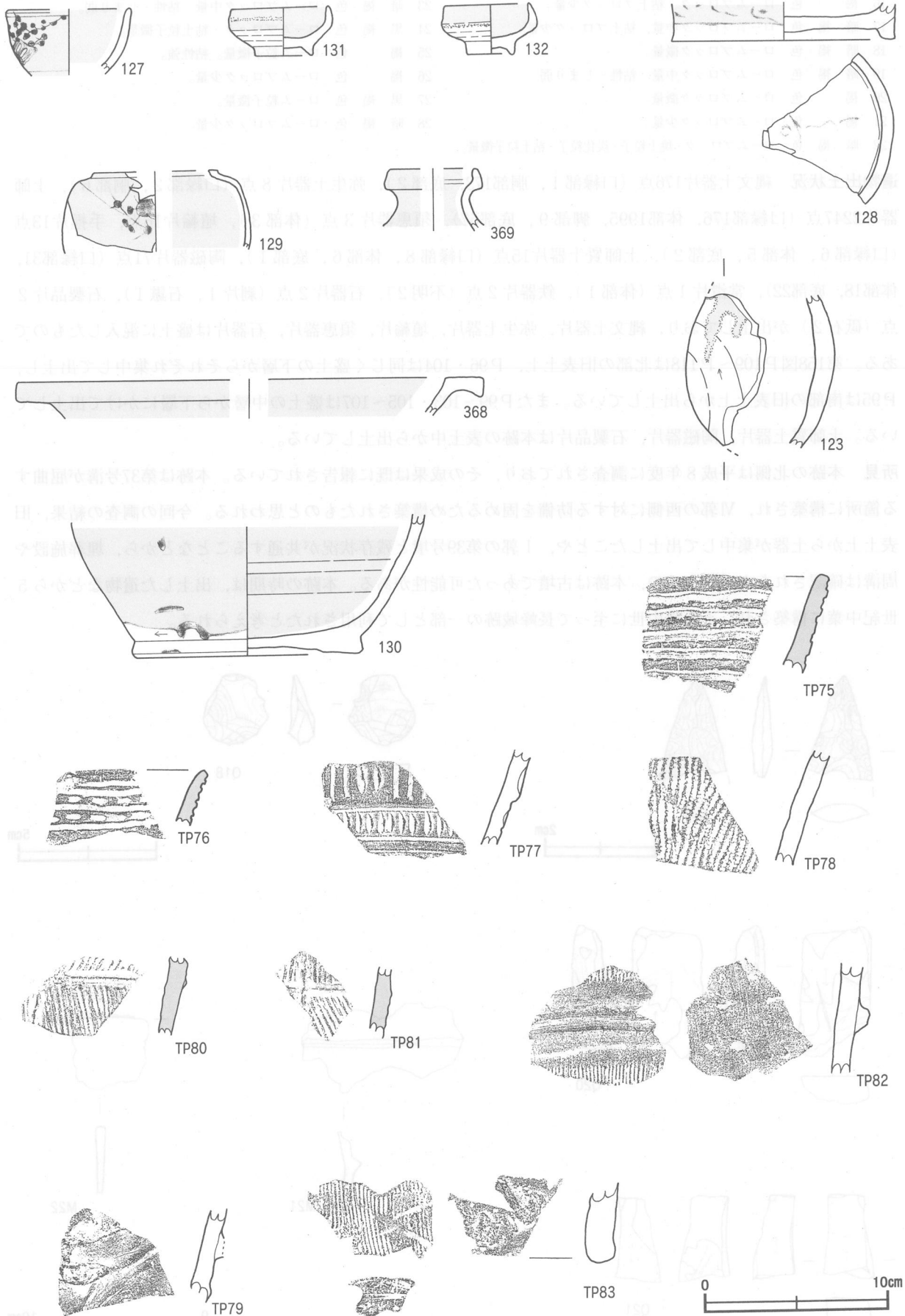
第156図 第3号塚実測図



第157图 第3号塚出土遺物実測图(1)



第158图 第3号塚出土遺物実測図(2)



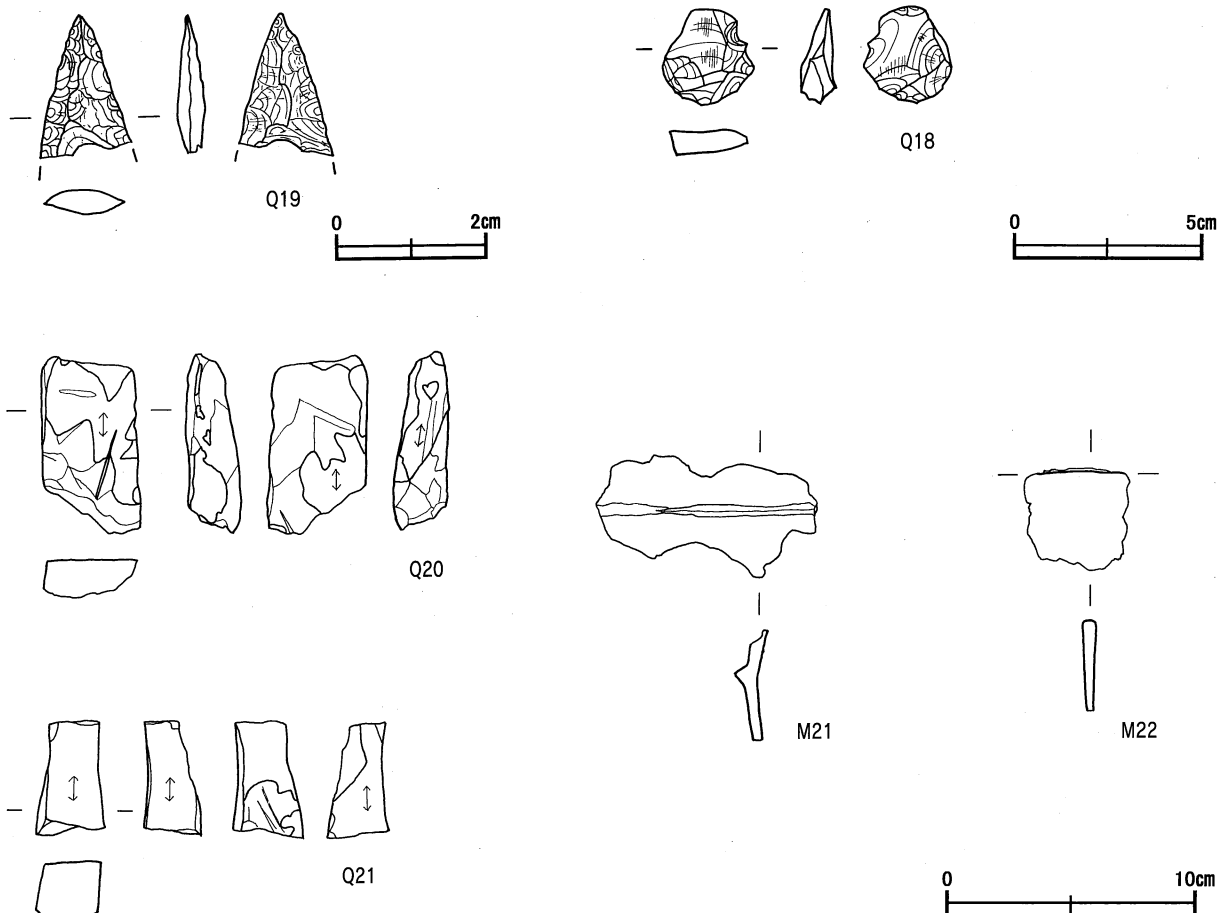
第159図 第3号塚出土遺物実測図(3)

- 16 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量。
- 17 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量。
- 18 暗褐色 ロームブロック微量。
- 19 暗褐色 ロームブロック中量。粘性・しまり弱。
- 20 褐色 ロームブロック微量。
- 21 褐色 ロームブロック少量。
- 22 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量。

- 23 暗褐色 ロームブロック中量。粘性・しまり弱。
- 24 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量。
- 25 褐色 ローム粒子微量。粘性強。
- 26 褐色 ロームブロック少量。
- 27 黒褐色 ローム粒子微量。
- 28 暗褐色 ロームブロック少量。

遺物出土状況 縄文土器片176点（口縁部1，胴部173，底部2），弥生土器片8点（口縁部2，胴部6），土師器片2247点（口縁部176，体部1995，脚部9，底部67），須恵器片3点（体部3），埴輪片16点，手捏片13点（口縁部6，体部5，底部2），土師質土器片15点（口縁部8，体部6，底部1），陶磁器片71点（口縁部31，体部18，底部22），常滑片1点（体部1），鉄器片2点（不明2），石器片2点（剥片1，石鏃1），石製品片2点（砥石2）が出土しており，縄文土器片，弥生土器片，埴輪片，須恵器片，石器片は盛土に混入したものである。第158図P109～P118は北部の旧表土上，P96・104は同じく盛土の下層からそれぞれ集中して出土し，P95は南部の旧表土上から出土している。またP99～103・105～107は盛土の中層から下層にかけて出土している。土師質土器片，陶磁器片，石製品片は本跡の表土中から出土している。

所見 本跡の北側は平成8年度に調査されており，その成果は既に報告されている。本跡は第37号溝が屈曲する箇所に構築され，Ⅵ郭の西側に対する防備を固めるため構築されたものと思われる。今回の調査の結果，旧表土上から土器が集中して出土したことや，Ⅰ郭の第39号墳と残存状況が共通することなどから，埋葬施設や周溝は確認されなかったものの，本跡は古墳であった可能性がある。本跡の時期は，出土した遺物などから5世紀中葉に構築され，その後中世に至って長峰城跡の一部として利用されたと考えられる。



第160図 第3号塚出土遺物実測図（4）

第3号塚出土遺物観察表 (第157・158・159・160図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P95	土師器	高坏	—	(10.2)	—	石英・赤色粒子・雲母	明赤褐色	良	外面ミガキ, 背面ヘラ削り・ナデ	旧表土上	35%
P96	土師器	小形壺	9.4	17.5	5.1	白色粒子・赤色粒子	にぶい褐色	良	外面ミガキ, 背面ヘラ削り・ナデ, 内面ミガキ・指頭押捺・ヘラナデ	盛土下層	75% PL75
P97	土師器	壺	—	(26.9)	9.1	赤色粒子・雲母	にぶい橙色	良	内外面ヘラ削り後ナデ, 内面一部指頭押捺	盛土中	40% PL75
P98	土師器	壺	[23.4]	(21.6)	—	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい橙色	良	口縁部・胴部外面ミガキ, 胴部内面ヘラナデ, 一部指頭押捺	盛土中	30% PL75
P99	土師器	壺	30.4	(5.6)	—	赤色粒子・雲母	にぶい赤褐色	良	外面横ナデ・ミガキ, 内面ハケ目	盛土中・下層	40%
P100	土師器	壺	[20.1]	(6.6)	—	石英・長石・雲母	橙色	良	外面ナデ・ミガキ, 内面横ナデ	盛土中・下層	20%
P101	土師器	壺	[16.5]	(6.7)	—	雲母	にぶい褐色	良	外面ナデ・ヘラ削り, 内面ナデ・ヘラ削り	盛土中・下層	10%
P102	土師器	小形壺	12.6	(4.0)	—	赤色粒子・雲母	橙色	普通	外面ナデ, 内面ヘラ削り後ナデ	盛土中・下層	25%
P103	土師器	小形壺	[13.4]	(5.6)	—	石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	内外面ハケ目	盛土中・下層	10%
P104	土師器	壺	11.6	25.0	7.0	石英・赤褐色	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ, 頸部指頭押捺, 内外面ヘラナデ, 底部内面ヘラ削り	盛土下層	80% PL76
P105	土師器	壺	[18.6]	(6.9)	—	赤色粒子・雲母	にぶい黄橙色	良	外面ハケ目後ミガキ, 内面ミガキ	盛土中・下層	10%
P106	土師器	壺	11.0	(2.1)	—	白色粒子・雲母	橙色	普通	内外面ナデ, 棒状浮文	盛土中・下層	20%
P107	土師器	高坏	[22.1]	(2.6)	—	石英・長石・雲母	赤褐色	良	内外面ナデ	盛土中・下層	10%
P108	土師器	甕	[17.0]	(4.2)	—	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい黄褐色	良	外面横ナデ・ハケ目, 内面横ナデ	旧表土上	10%
P109	土師器	小形甕	[10.4]	8.6	5.4	白色粒子・赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ナデ後ヘラ削り	旧表土上	45% PL76
P110	土師器	手捏	[9.2]	4.4	5.7	石英・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	外面指頭押捺・ナデ, 内面指頭押捺・ヘラ削り	旧表土上	65% PL75
P111	土師器	手捏	—	(4.8)	4.6	赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	外面指頭押捺後ナデ, 内面指頭押捺・ナデ・ヘラ削り	旧表土上	55% PL75
P112	土師器	手捏	—	(2.5)	4.8	石英・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	内外面ナデ後指頭押捺	旧表土上	60% PL75
P113	土師器	手捏	[5.6]	4.1	5.1	石英・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	外面ナデ, 内面指頭によるナデ	旧表土上	40% PL75
P114	土師器	手捏	[6.9]	4.6	4.3	石英・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	内外面ナデ, 一部指頭押捺	旧表土上	60% PL75
P115	土師器	手捏	—	(3.6)	3.6	石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面ナデ・一部指頭押捺, 内面指頭によるナデ	旧表土上	30% PL75
P116	土師器	手捏	[5.2]	2.5	[4.3]	石英・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	外面ナデ・指頭押捺, 内面指頭によるナデ	旧表土上	45% PL75
P117	土師器	手捏	3.4	2.2	—	白色粒子・赤色粒子・雲母	にぶい褐色	普通	内外面ナデ・指頭押捺	旧表土上	95%
P118	土師器	手捏	[4.3]	2.2	[3.6]	石英・長石・赤色粒子	明褐色	普通	内外面ナデ	旧表土上	55% PL75
P123	須恵器	長頸壺カ	—	(8.3)	—	石英・砂粒	灰褐色	良	内外面ロクロナデ, 自然釉	盛土中	5%
P119	土師質土器	壺	[15.6]	(6.0)	—	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ナデ	表土	5%
P120	土師質土器	内耳鍋	[43.0]	(7.1)	—		橙色	良	内外面ナデ	表土	5%
P121	土師質土器	内耳鍋	[27.5]	(5.7)	—	雲母	にぶい橙色	普通	内外面ナデ	表土	5%

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P127	陶器	小碗	[6.6]	(3.4)	—	砂粒	灰白色	有	青灰色	肥前系	近世	表土	25% PL75
P128	陶器	瓶子	—	(2.0)	[12.0]	白色粒子	浅黄色	—	灰釉	古瀬戸	中世	表土	10%
P129	陶器	小壺	[6.6]	(4.4)	—	—	灰白色	有	灰白色	京焼	近世	表土	5%
P130	陶器	甕	—	(7.4)	12.1	石英	褐色	—	暗赤褐色	笠間	—	表土	20%
P131	陶器	盃	5.2	2.7	3.1	砂粒	灰白色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	表土	100% 仏具カ PL76
P132	陶器	盃	4.6	2.7	2.6	砂粒	灰白色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	表土	100% 仏具カ
P368	陶器	鉢	[25.0]	(2.0)	—	砂粒	灰白色	—	浅黄色	—	近世カ	表土	10%
P369	陶器	壺	[4.6]	(3.3)	—	砂粒	灰白色	—	暗褐色	—	近世カ	表土	10%

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP75 .76	縄文時代早期	平行沈縄文, TP76には刺突文を施文。	盛土中層	
TP77	縄文時代前期	平行沈線・爪形文を施文。	盛土上層	
TP78	縄文時代中期	LRの単節斜縄文を施文。	盛土中層	
TP79	縄文時代中期	隆帯を施文。	盛土上層	
TP80 .81	縄文時代早期	隆起線, 沈線, 条痕文を施文。	盛土下層	
TP82 .83	古墳時代後期	円筒埴輪-外面ハケ目, 内面ナデ。TP82には突帯あり。	盛土下層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q18	剥片	2.5	2.4	0.7	4.08	チャート		PL77
Q19	石鏃	(1.8)	(1.2)	0.4	(0.53)	チャート	逆刺欠, 抉りあり	PL77
Q20	砥石	(7.0)	4.0	2.1	(62.8)	凝灰岩	表面剥落あり	
Q21	砥石	(4.6)	2.6	2.1	(34.4)	凝灰岩	縦方向の擦痕	

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		
M21	不明鉄製品	(5.8)	(3.2)	(0.6)	(15.3)	突起を持つ	
M22	不明鉄製品	(2.8)	(2.7)	2.8	(4.6)	鎌の刃部カ	

(6) ピット群

ピット群 (第146・161図)

位置及び確認状況 VI郭の南東部, E1i7区付近に位置している。本跡は土坑群を精査した際に確認され, 当初は掘立柱建物跡と想定したが, 配列に規則性を認められないためピット群として報告する。本跡の北には第491~496・524号土坑, 東に第511・512・591号土坑が構築されている。

重複関係 第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模及び形状 23か所。P1~3・5・6・9・10・13・14・19・22・23は径0.38~1.08m, 深さ0.18~0.62mの円形である。P4・7・8・11・12・15・16~18・20・21・24は長径0.48~1.24m, 短径0.24~1.10m, 深さ0.25~0.65mの楕円形である。

覆土 各ピットとも1~4層からなる。P2~5・9・11・16~19・22・24では柱痕が見られ, 人為堆積と思われる。その他は一部粘性・しまりの強い層を含むが, 含有物を均等に含むことから, 自然堆積と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量。
- 2 暗褐色 ローム粒子少量。
- 3 褐色 ローム粒子微量。

P 2 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量。
- 2 褐色 ローム粒子少量。しまり強。
- 3 褐色 ローム粒子中量。

P 3 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量。
- 2 褐色 ローム粒子多量。しまり強。
- 3 褐色 ロームブロック少量。

P 4 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量。
- 2 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。
- 3 褐色 ローム粒子中量。
- 4 褐色 ローム粒子中量。粘性・しまり強。

P 5 土層解説

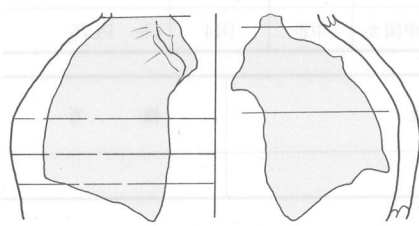
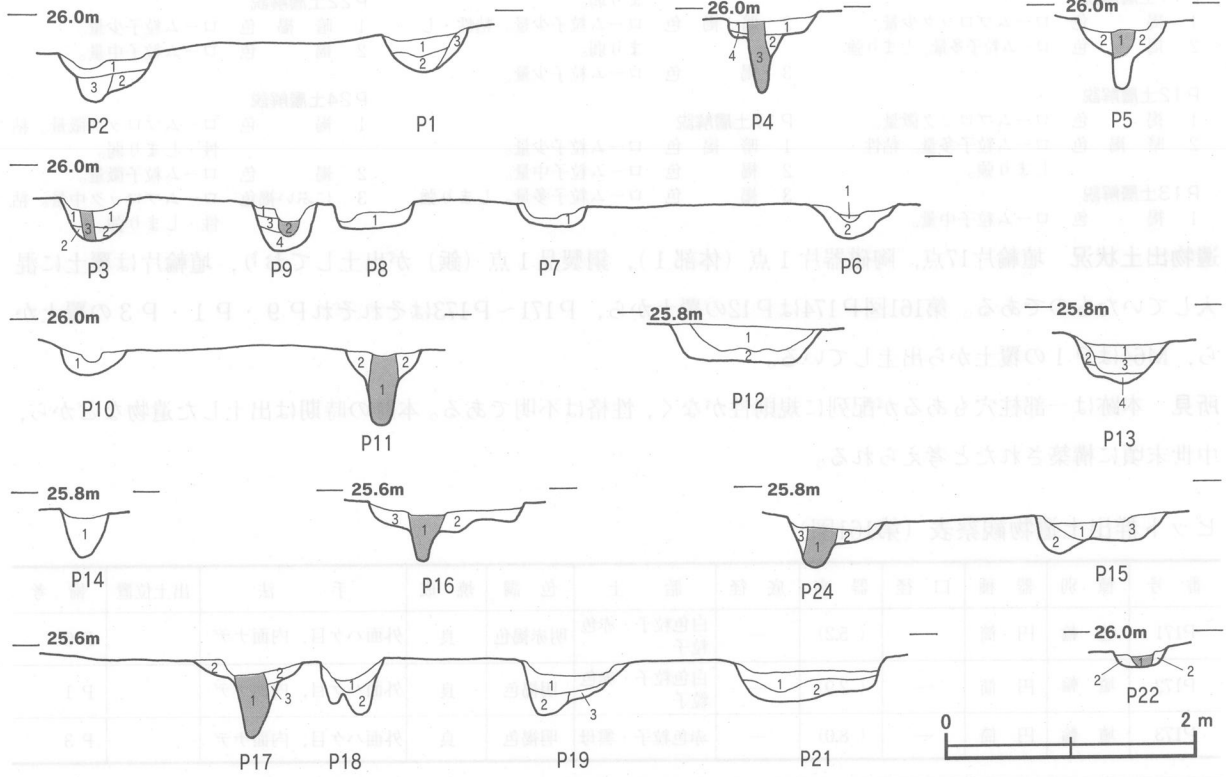
- 1 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり弱。
- 2 褐色 ローム粒子中量。

P 6 土層解説

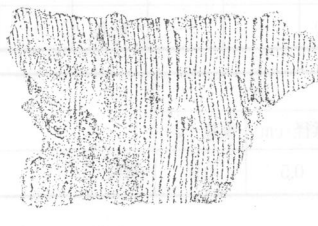
- 1 褐色 ローム粒子中量。
- 2 褐色 ローム粒子多量。

P 7 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量。



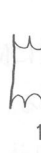
174



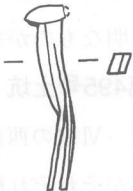
173



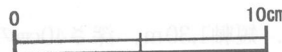
171



172



M64



第161図 ピット群・出土遺物実測図

P8土層解説
1 褐色 ローム粒子中量。

P9土層解説
1 暗褐色 ローム粒子微量。
2 褐色 ローム粒子微量。粘性弱。
3 暗褐色 ロームブロック微量。
4 灰褐色 赤色粒子微量。粘性・しまり弱。

P10土層解説
1 褐色 ローム粒子多量。しまり強。

P11土層解説
1 褐色 ロームブロック少量。
2 褐色 ローム粒子多量。しまり強。

P12土層解説
1 褐色 ロームブロック微量。
2 暗褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。

P13土層解説
1 褐色 ローム粒子中量。

2 褐色 ロームブロック微量。
3 褐色 ローム粒子中量。
4 褐色 ローム粒子多量。しまり強。

P14土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量。

P15土層解説
1 暗褐色 ローム粒子中量。しまり弱。
2 暗褐色 ローム粒子中量。
3 褐色 ローム粒子多量。

P16土層解説
1 暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。
2 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。
3 褐色 ローム粒子少量。

P17土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量。
2 褐色 ローム粒子中量。
3 褐色 ローム粒子多量。しまり強。

P18土層解説
1 褐色 ロームブロック微量。
2 暗褐色 ロームブロック微量。

P19土層解説
1 褐色 ローム粒子中量。
2 褐色 ローム粒子中量。しまり強。
3 褐色 ロームブロック少量。

P21土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量。
2 褐色 ローム粒子中量。

P22土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量。
2 褐色 ローム粒子中量。

P24土層解説
1 褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。
2 褐色 ローム粒子微量。
3 にぶい褐色 ロームブロック中量。粘性・しまり強。

遺物出土状況 埴輪片17点、陶磁器片1点（体部1）、銅製品1点（鋌）が出土しており、埴輪片は覆土に混入していたものである。第161図P174はP12の覆土から、P171～P173はそれぞれP9・P1・P3の覆土から、M64はP1の覆土から出土している。

所見 本跡は一部柱穴もあるが配列に規則性がなく、性格は不明である。本跡の時期は出土した遺物などから、中世末頃に構築されたと考えられる。

ピット群出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P171	埴輪	円筒	—	(5.2)	—	白色粒子・赤色粒子	明赤褐色	良	外面ハケ目、内面ナデ		P9
P172	埴輪	円筒	—	(2.9)	—	白色粒子・赤色粒子	明褐色	良	外面ハケ目、内面ナデ		P1
P173	埴輪	円筒	—	(8.0)	—	赤色粒子・雲母	明褐色	良	外面ハケ目、内面ナデ		P3

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P174	白磁	四耳壺	—	(8.2)	—	—	灰色	—	灰色	中国カ	中世	P14	5% PL76

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	鉄径(cm)	重量(g)		
M64	鋌	2.4	0.6	0.5	0.9	銅製	

(7) 土坑

VI郭では55基の土坑が確認され、それらの中には馬の埋葬土坑、粘土貼り土坑などが見られるものの、性格の不明なものが多い。その中の代表的なものを記述し、その他は実測図と一覧表に掲載する。

第495号土坑（第162図）

位置 VI郭の西部、E1g8区に位置している。本跡の東に第498号土坑、南に第494・512号土坑、西に第38号溝跡がそれぞれ構築されている。

重複関係 第496号土坑に掘り込まれている。

規模及び形状 長軸1.67m、短軸1.30m、深さ40cmの隅丸長方形で、壁面は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。主軸はN-14°-Eを指す。

覆土 13層からなる。精選された粘土が貼られ、覆土に粘土を含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説 (第496号土坑と通し番号)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量。粘性弱。 | 8 暗褐色 ロームブロック微量。 |
| 2 灰褐色 ロームブロック少量。 | 9 褐色 ロームブロック中量。 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化物微量。 | 10 褐色 ローム粒子多量。 |
| 4 灰黄褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 | 11 にぶい黄褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 |
| 5 黒褐色 ローム粒子微量。 | 12 黄褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 6 褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 | 13 灰黄褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 7 褐色 ローム粒子多量。 | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(口縁部1, 底部3)が出土している。第163図P247・248はいずれも覆土中からの出土である。

所見 本跡は粘土貼土坑と考えられる。時期は出土した遺物などから中世以降と考えられる。

第496号土坑 (第162図)

位置 VI郭の西部, E1g8区に位置している。本跡の東に第498号土坑, 南に第494・512号土坑, 西に第38号溝跡がそれぞれ構築されている。

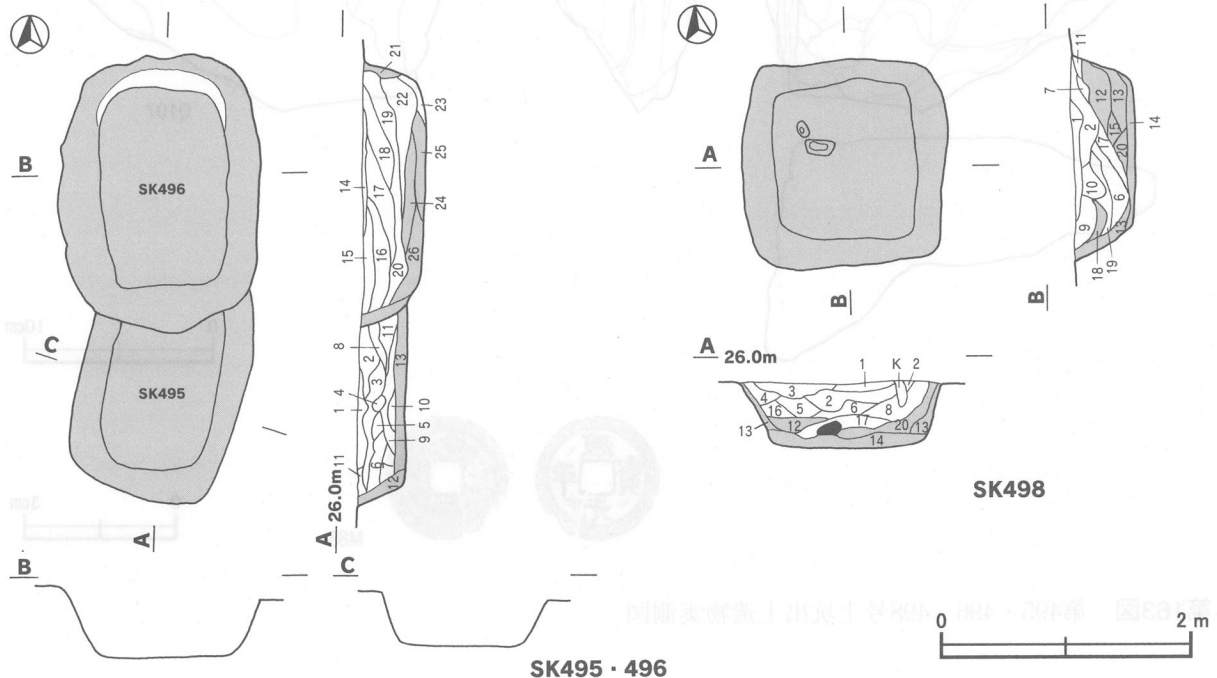
重複関係 第495号土坑を掘り込んでいる。

規模及び形状 長軸1.86m, 短軸1.55m, 深さ54cmの隅丸長方形で, 壁面は外傾して立ち上がり, 底面は平坦である。主軸はN-0°を指す。

覆土 13層からなる。精選された粘土が貼られ, 覆土に粘土を含むことから人為堆積と考えられる。

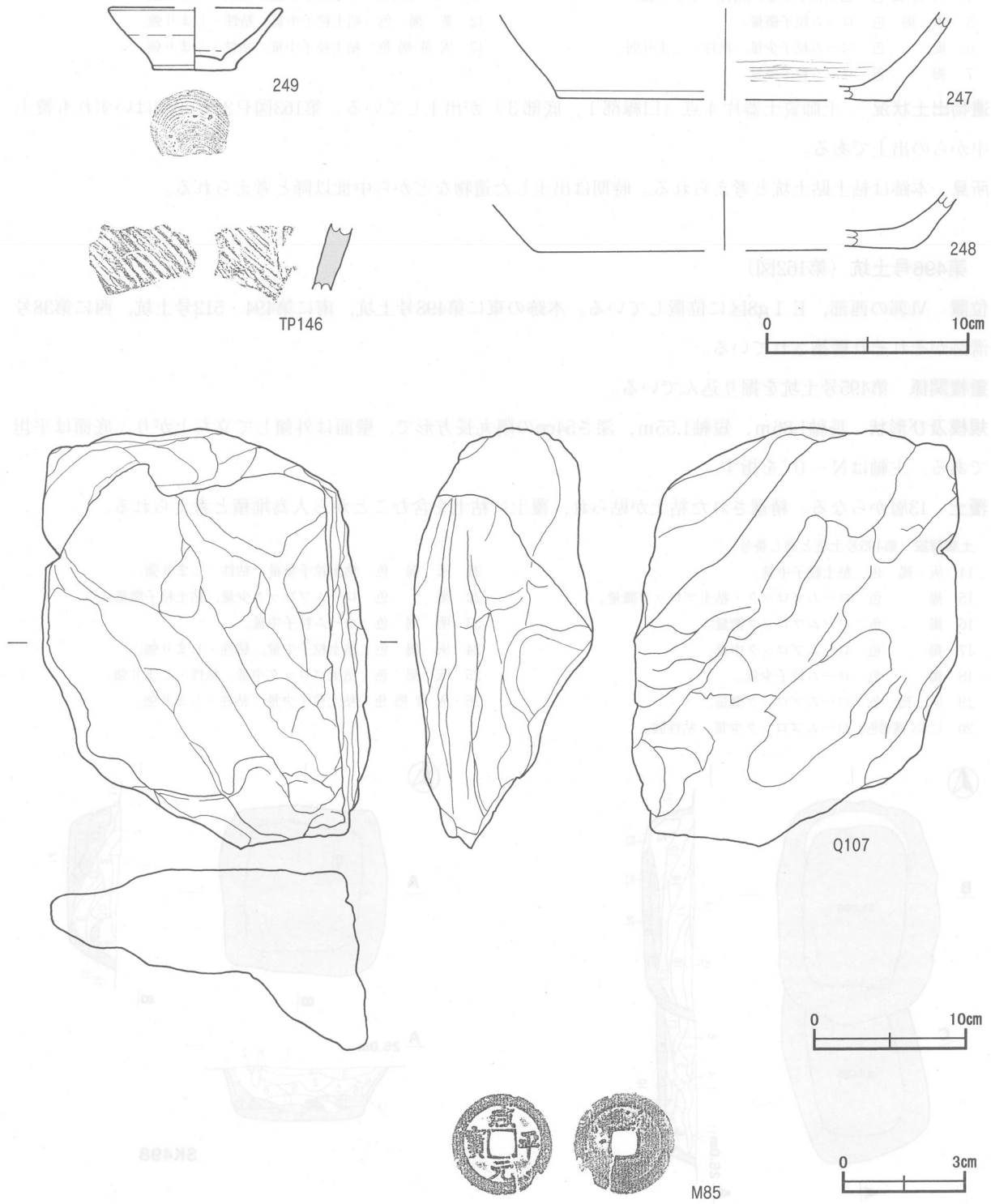
土層解説 (第495号土坑と通し番号)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 14 灰褐色 粘土粒子中量。 | 21 灰褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 |
| 15 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。 | 22 褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量。 |
| 16 褐色 ロームブロック微量。 | 23 明褐色 ローム粒子中量。 |
| 17 褐色 ロームブロック中量。 | 24 灰褐色 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 18 褐色 ローム粒子少量。 | 25 灰褐色 粘土ブロック中量。粘性・しまり強。 |
| 19 灰褐色 ロームブロック微量。 | 26 灰黄褐色 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 20 にぶい黄褐色 ロームブロック少量。粘性強。 | |



第162図 第495・496・498号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片1（胴部1），土師器片1点（体部1），土師質土器片4点（口縁部1，底部3）が出土しており，縄文土器片，土師器片は覆土に混入したものである。第163図P249は覆土中から出土している。所見 本跡は粘土貼土坑と考えられる。時期は出土した遺物などから中世以降と考えられる。



第163図 第495・496・498号土坑出土遺物実測図

第498号土坑 (第162図)

位置 VI郭の中央部, E1g9区に位置している。本跡の西に第495・496号土坑が構築されている。

規模及び形状 長軸1.66m, 短軸1.59m, 深さ50cmの隅丸方形で, 壁面は外傾して立ち上がり, 底面は平坦である。主軸はN-6°-Eを指す。

覆土 20層からなる。精選された粘土が貼られ, 覆土に粘土を含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------|-----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量。 | 11 灰褐色 | 粘土粒子多量。粘性・しまり強。 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量。粘性強。 | 12 灰褐色 | 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。 |
| 3 暗黄褐色 | 粘土粒子微量。 | 13 灰黄褐色 | 粘土粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子少量。 | 14 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量。しまり強。 | 15 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 6 褐灰色 | 粘土粒子少量。粘性強。 | 16 褐灰色 | 粘土粒子少量。粘性強。 |
| 7 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量。粘性強。 | 17 にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量。 | 18 にぶい褐色 | 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 9 褐色 | ロームブロック少量。 | 19 灰黄褐色 | 粘土粒子微量。 |
| 10 灰褐色 | 粘土粒子微量。 | 20 褐灰色 | 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 |

遺物出土状況 土師器片6点(口縁部1, 体部4, 底部1), 土師質土器片2点(口縁部2), 石塊1(雲母片岩), 古銭1点(咸平元寶)が出土している。第163図Q107は粘土層上面から出土した雲母片岩である。M85は覆土中層から出土している。

所見 本跡は粘土貼土坑と考えられる。時期は出土した遺物などから中世以降と考えられる。

第495号土坑出土遺物観察表 (第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P247	土師質土器	内耳鍋	—	(4.4)	[16.4]	赤色粒子・雲母	外: 黒褐色 内: にぶい赤褐色	良	内面横ナデ, 外面・底部ナデ	覆土中	10%
P248	土師質土器	内耳鍋	—	(2.8)	[18.4]	白色粒子・黒色粒子・雲母	橙色	良	内外面・底部ナデ	覆土中	5%

第496号土坑出土遺物観察表 (第163図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P249	土師質土器	かわらけ	[8.4]	3.1	4.0	雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	40% PL76

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP146	縄文時代早期	内外面に条痕文を施文, 織維含む。	覆土中	

第498号土坑出土遺物観察表 (第163図)

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M85	咸平元寶	2.49	0.6×0.6	1.3	2.4	銅	咸平元年	998	鑄上がり良	PL80

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q107	石片	27	20.8	11.5	6200	雲母片岩		

第524号土坑（第164図）

位置 VI郭の西部，E1h6区に位置している。

重複関係 第491号土坑に掘り込まれている。

規模及び形状 長軸1.78m，短軸1.22m，深さ56cmの隅丸長方形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は若干起伏がある。主軸はN-5°-Eを指す。

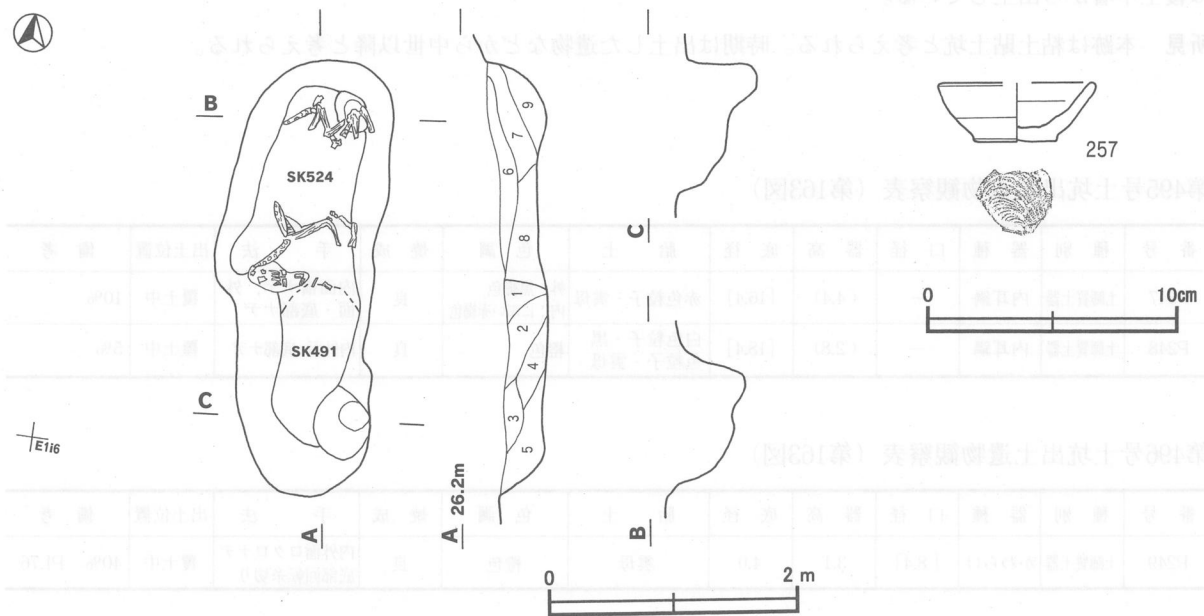
覆土 4層からなり，1～5層は第491号土坑の覆土である。ロームブロックを含む層が多いことから，人為堆積と思われる。

第491・524号土坑土層解説

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 暗褐色 炭化物微量。 | 6 暗褐色 ローム粒子微量。 |
| 2 褐色 ロームブロック中量。 | 7 暗褐色 ローム粒子少量。粘性弱。 |
| 3 褐色 ロームブロック微量。 | 8 褐色 ローム粒子少量。 |
| 4 褐色 ロームブロック中量。 | 9 褐色 ローム粒子微量。 |
| 5 褐色 ロームブロック少量。 | |

遺物出土状況 土師質土器片1点（口縁部1），馬骨が出土している。第164図P257は覆土中から出土している。馬骨はほぼ一体分出土しており，埋葬されたものと考えられる。

所見 本跡は馬骨が出土したことから，馬の埋葬土坑と思われる。出土した遺物などから時期は中世以降と考えられる。



第164図 第491・524号土坑実測図，出土遺物実測図

第524号土坑出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P257	土師質土器	かわらけ	[6.0]	2.3	[3.4]	雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	20%

第550号土坑（第165図）

位置 VI郭の西部，E1g4区に位置し，第37号溝跡の屈曲点に構築されている。

重複関係 第37号溝跡と重複している。

規模及び形状 長径2.89m，短径2.87m，深さ2.00mの円形で，壁面は外傾して立ち上がり，底面は平坦であ

る。主軸はN-0°である。

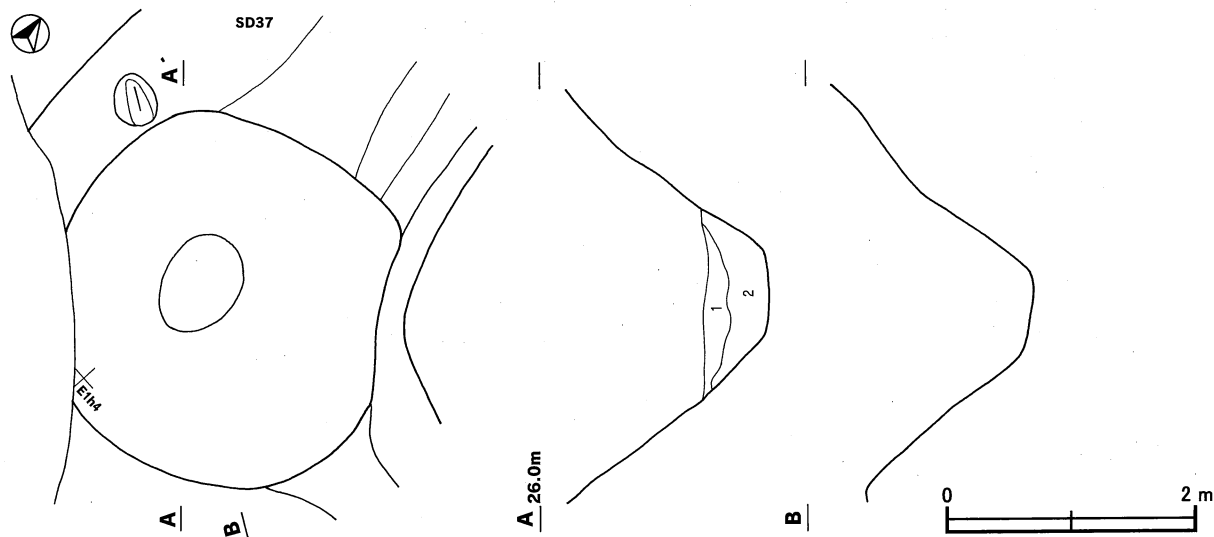
覆土 2層からなる。ロームブロックを含むことから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は第37号溝跡の屈曲部に位置することから、陥穴などの敵兵が溝底を移動することを制限するために構築された土坑と考えられる。時期は、第37号溝跡と同じ時期と考えられる。



第165図 第550号土坑実測図

以下に実測図を掲載した土坑の土層解説を記載する。

第492号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量。
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり強。
- 3 褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり強。
- 2 褐色 ロームブロック微量。
- 3 褐色 ローム粒子中量。

第494号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子多量。
- 3 灰褐色 粘土ブロック少量。粘性・しまり強。
- 4 褐色 ロームブロック微量。しまり強。
- 5 褐灰色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。
- 6 灰褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。
- 8 灰黄褐色 粘土粒子少量。粘性・しまり強。
- 9 にぶい黄褐色 粘土粒子少量。

第499号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量。
- 3 暗褐色 炭化粒子微量。

第500号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。

第502号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。
- 2 黒褐色 ローム粒子微量。
- 3 黒褐色 粘土粒子多量，焼土粒子微量。粘性・しまり強。
- 4 褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり強。
- 5 褐色 ローム粒子微量。粘性強。
- 6 灰褐色 焼土粒子微量。
- 7 にぶい黄褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり強。
- 8 灰褐色 粘土粒子少量，炭化粒子微量。粘性・しまり強。
- 9 灰褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。
- 10 褐灰色 炭化粒子中量。粘性・しまり強。
- 11 明褐灰色 炭化粒子中量。粘性・しまり強。

第504号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子少量。
- 3 褐色 ローム粒子微量。粘性強。

第508号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量。
- 2 褐色 ロームブロック微量。
- 3 黒褐色 ローム粒子少量。

第509号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子少量。
- 3 褐色 ロームブロック中量。

第510号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子微量。

第511号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 3 灰オリーブ色 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。
- 4 灰オリーブ色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。
- 5 灰色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。

第512号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量。
- 2 褐色 ロームブロック微量。しまり強。
- 3 灰褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。
- 4 褐色 白色粒子中量。
- 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量。粘性・しまり強。

第522号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量。粘性強。
- 2 褐色 ロームブロック少量。
- 3 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。

第530号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量。
- 2 暗褐色 ローム粒子微量。粘性強。

第532号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。

第533号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。

第534号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。粘性・しまり弱。
- 3 黒褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。

第535号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。

第536号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量。しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック微量。しまり弱。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。

第538号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量。
- 2 暗褐色 ロームブロック微量。しまり弱。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。粘性弱。

- 4 褐色 ロームブロック微量。しまり弱。
- 5 暗褐色 ローム粒子少量。しまり弱。

第539号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量。しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック微量。しまり弱。
- 3 褐色 ロームブロック微量。
- 4 暗褐色 ロームブロック微量。しまり弱。

第551号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子微量。
- 3 褐色 ロームブロック微量。粘性強。

第557号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子微量。粘性強。
- 3 褐色 ローム粒子少量。粘性強・しまり弱。
- 4 褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。

第558号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子微量。粘性強。

第559号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量。
- 2 黒褐色 ローム粒子微量。しまり強。
- 3 暗褐色 ローム粒子微量。
- 4 黒褐色 ローム粒子微量。
- 5 褐色 ローム粒子微量。

第560号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量。
- 2 褐色 ロームブロック微量。
- 3 褐色 ロームブロック微量。粘性強・しまり弱。

第563号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。しまり強。

第565号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。
- 2 褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。

第567号土坑土層解説

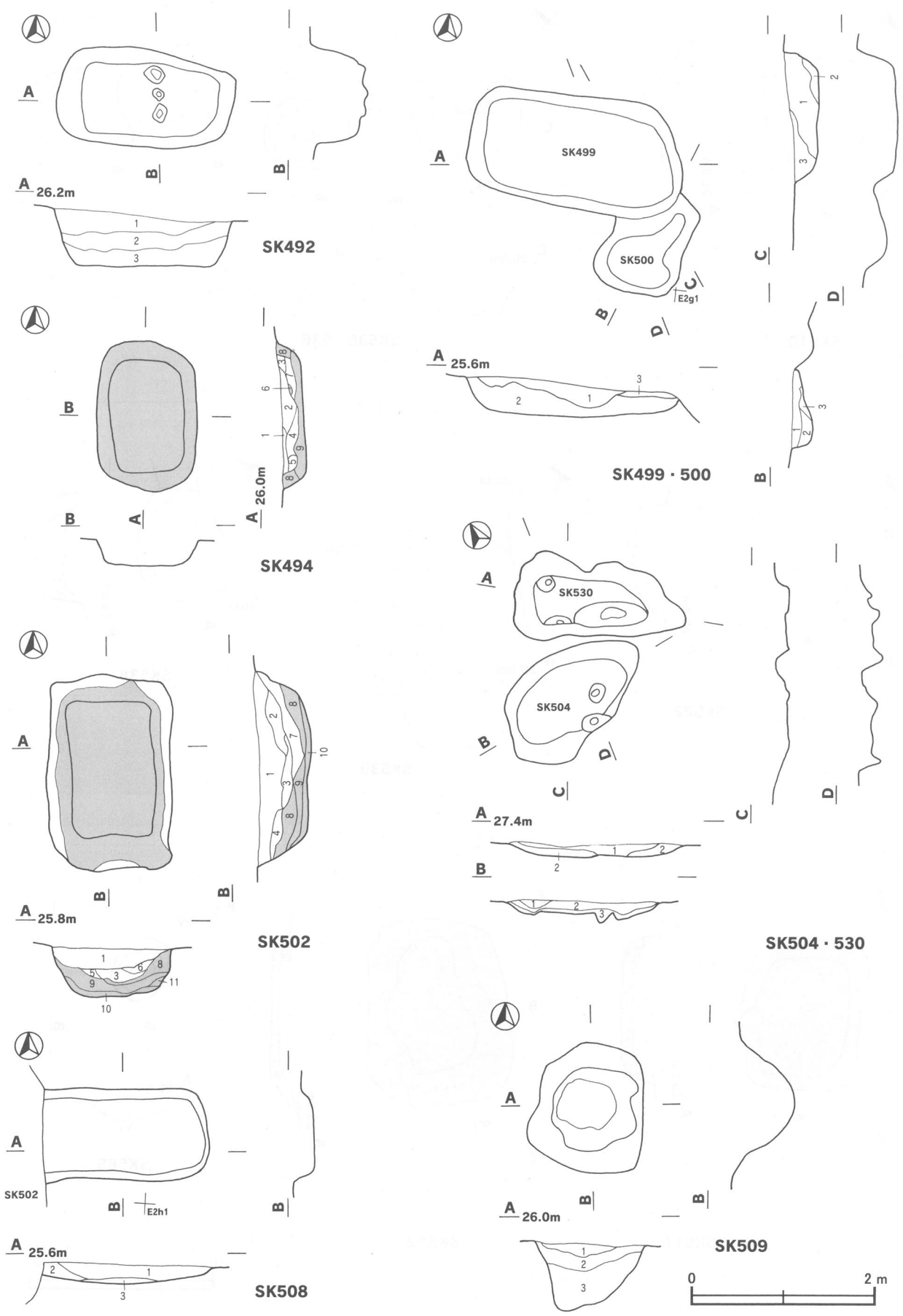
- 1 暗褐色 炭化粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子微量。しまり強。
- 3 暗褐色 ロームブロック微量。
- 4 褐色 ロームブロック微量。

第590号土坑土層解説

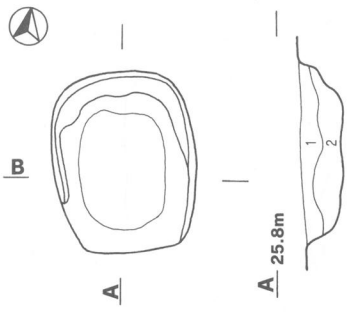
- 1 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量。しまり強。
- 2 褐色 ローム粒子微量。粘性強。
- 3 暗褐色 ロームブロック少量。粘性強。
- 4 褐色 ロームブロック微量。粘性強。

第591号土坑土層解説

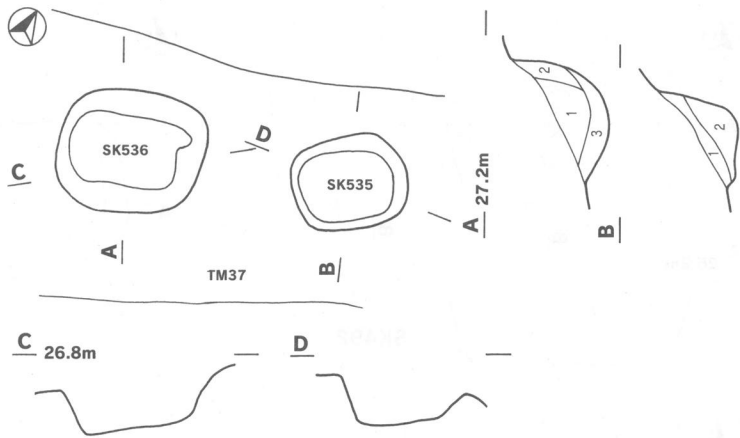
- 1 黒褐色 ロームブロック微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ローム粒子中量。
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量。



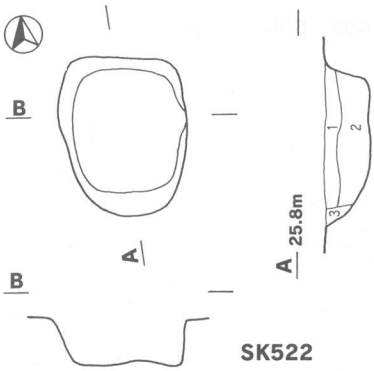
第166図 VI郭その他の土坑実測図(1)



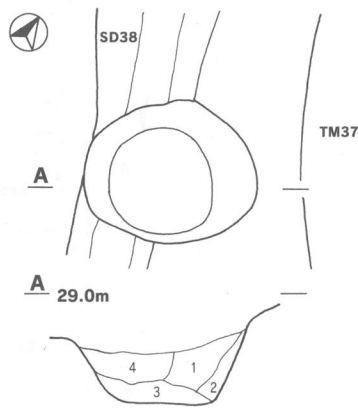
SK510



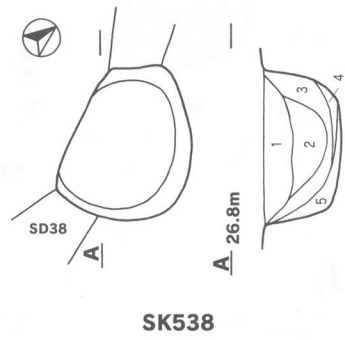
SK535・536



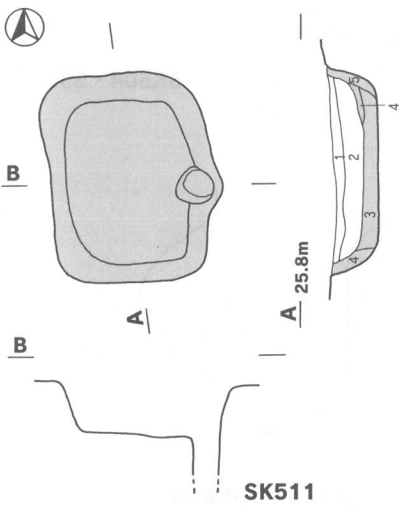
SK522



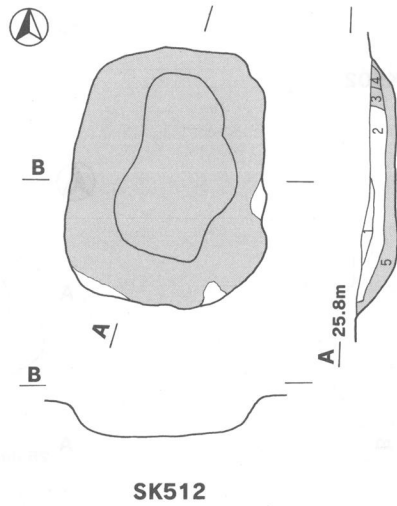
SK539



SK538



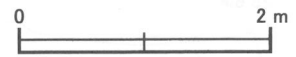
SK511



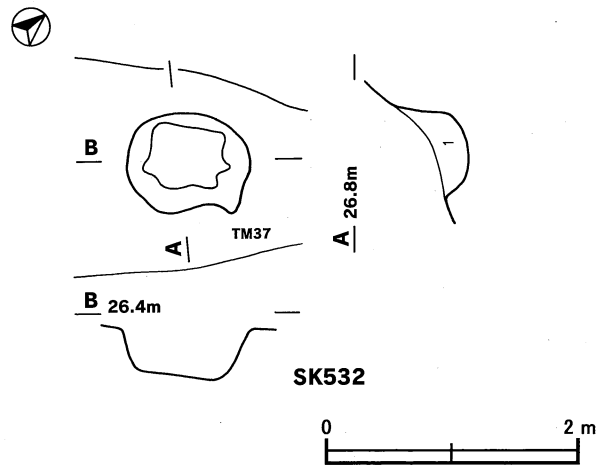
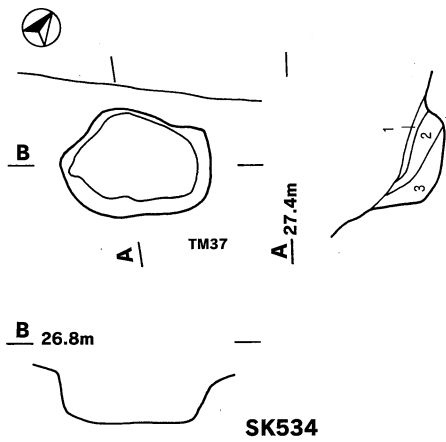
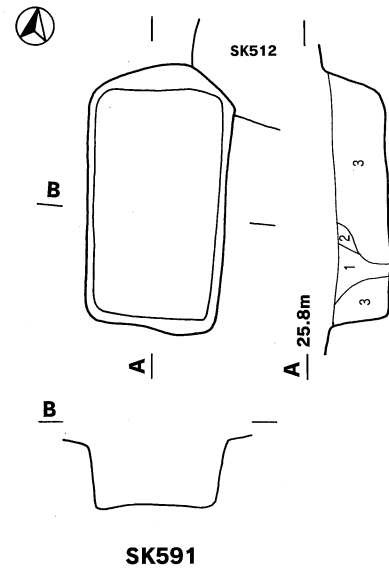
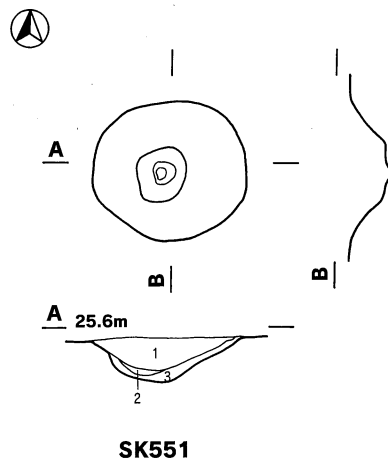
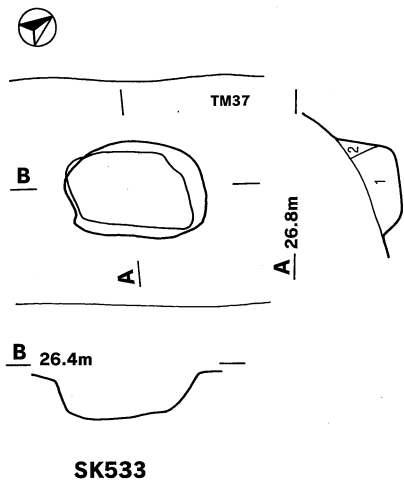
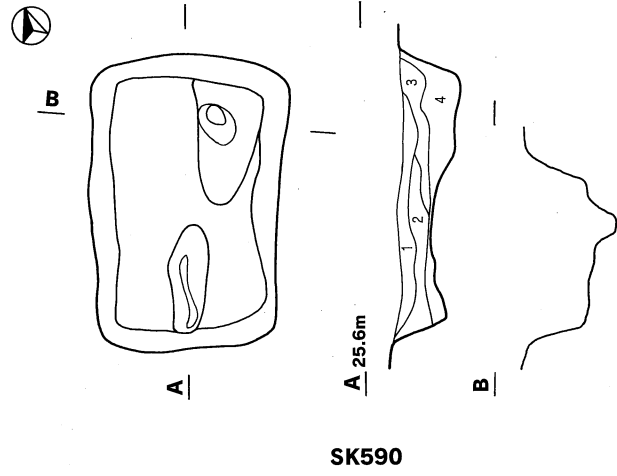
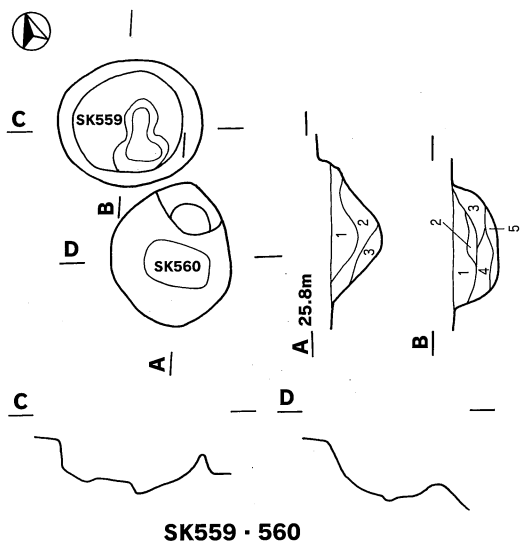
SK512



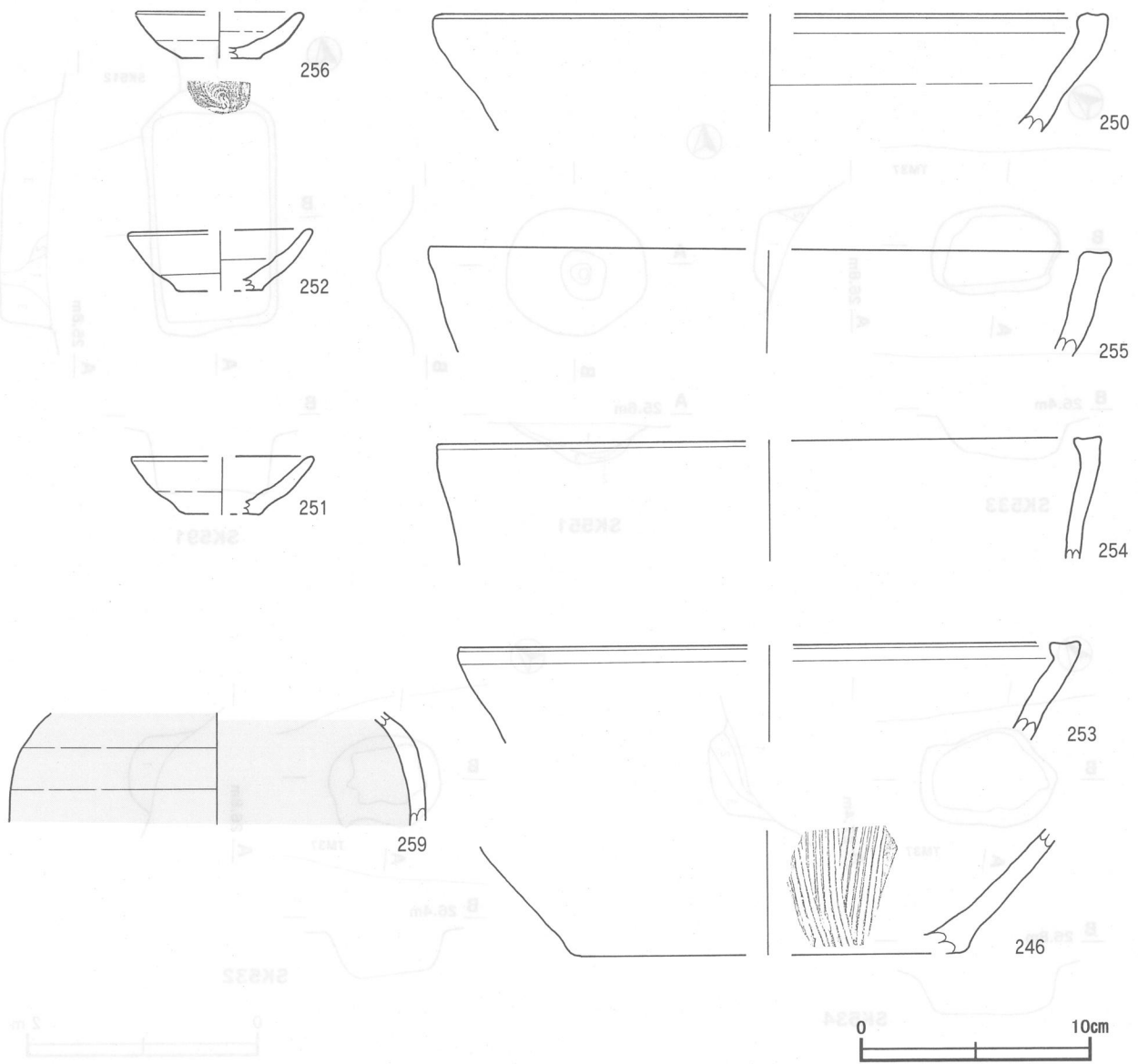
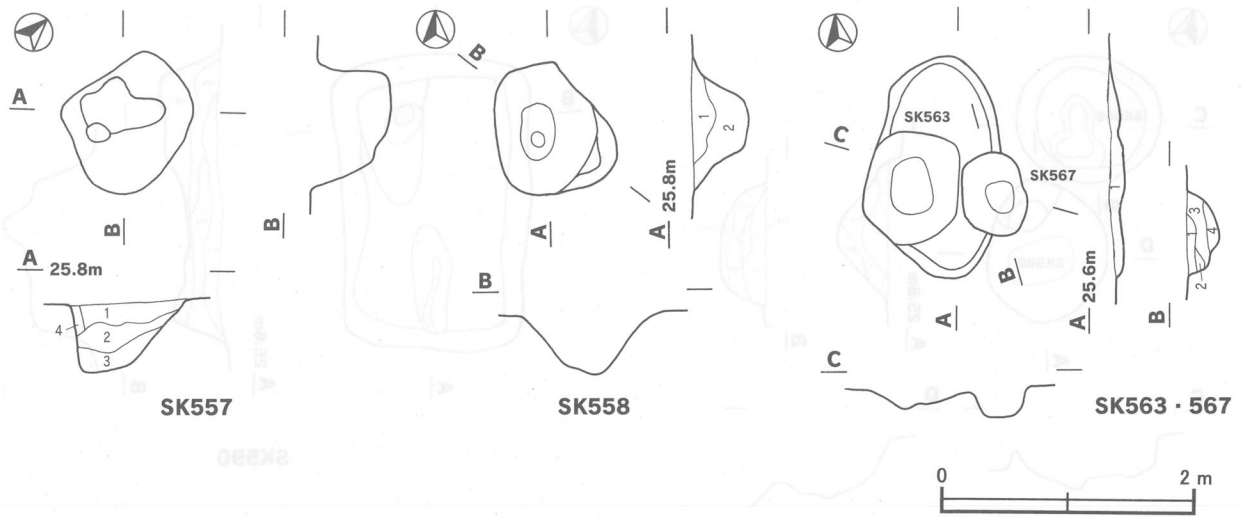
SK565



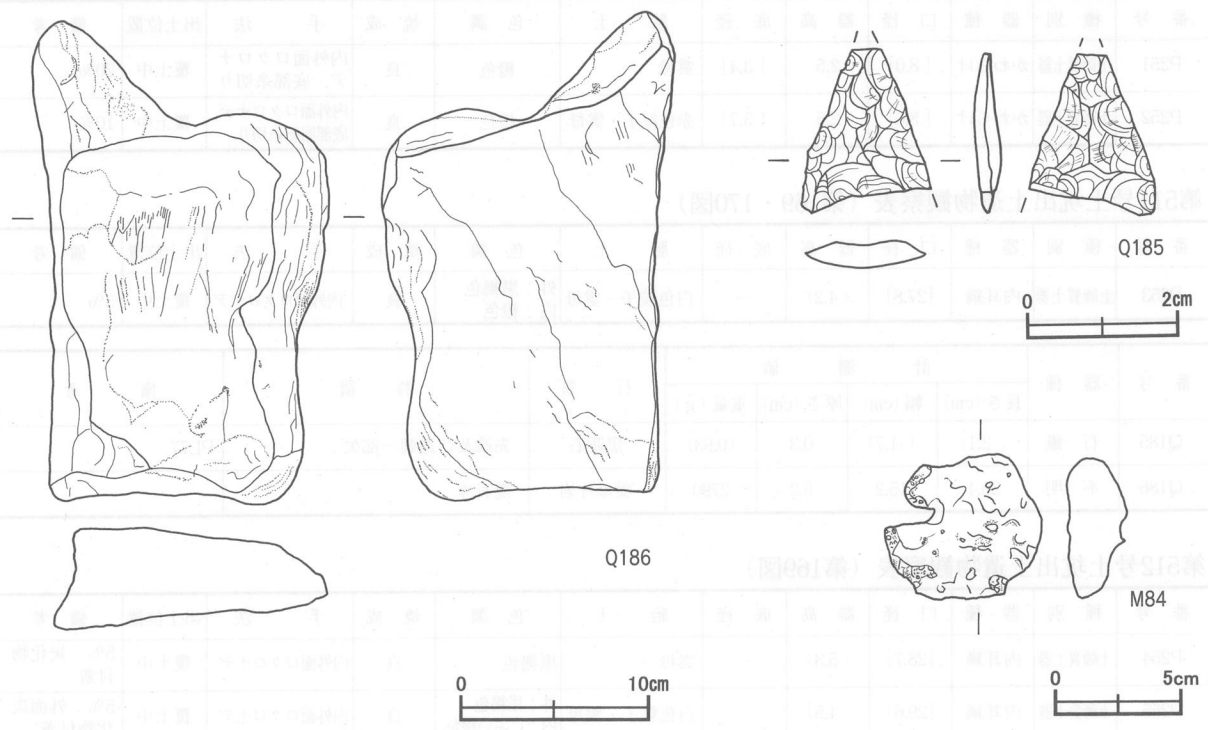
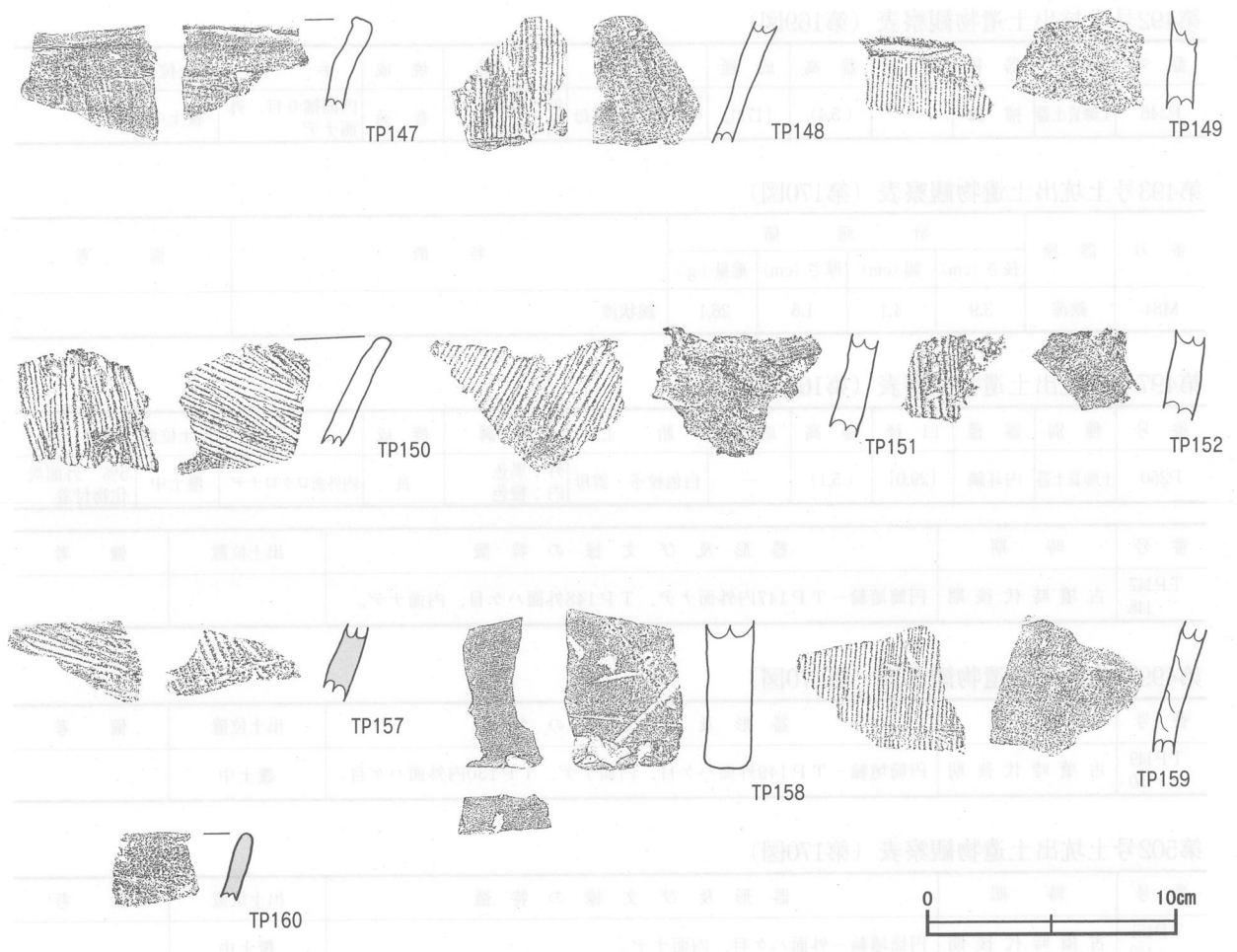
第167図 VI郭その他の土坑実測図(2)



第168図 VI郭その他の土坑実測図(3)



第169図 VI郭その他の土坑・出土遺物実測図



第170図 VI郭その他の土坑出土遺物実測図

第492号土坑出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P246	土師質土器	播鉢	—	(5.4)	[17.0]	赤色粒子・雲母	外：明褐色 内：灰色	普通	内面播り目，外面ナデ	覆土中	

第493号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M84	鉄滓	3.9	4.1	1.6	26.1	鏡状滓	

第497号土坑出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P250	土師質土器	内耳鍋	[29.0]	(5.1)	—	白色粒子・雲母	外：黒色 内：橙色	良	内外面ロクロナデ	覆土中	5% 外面炭化物付着

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP147 .148	古墳時代後期	円筒埴輪—TP147内外面ナデ，TP148外面ハケ目，内面ナデ。		

第499号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP149 .150	古墳時代後期	円筒埴輪—TP149外面ハケ目，内面ナデ，TP150内外面ハケ目。	覆土中	

第502号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	時期	器形及び文様の特徵	出土位置	備考
TP151 .152	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目，内面ナデ。	覆土中	

第510号土坑出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P251	土師質土器	かわらけ	[8.0]	2.5	[3.4]	雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ，底部糸切り	覆土中	20%
P252	土師質土器	かわらけ	[8.0]	2.6	[3.7]	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土中	10%

第511号土坑出土遺物観察表 (第169・170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P253	土師質土器	内耳鍋	[27.8]	(4.2)	—	白色粒子・雲母	外：黒褐色 内：橙色	良	内外面ロクロナデ	覆土中	5%

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q185	石鏃	(2.1)	(1.7)	0.3	(0.93)	黒曜石	先端及び逆刺一部欠	PL77
Q186	不明	25.4	15.2	5.2	2790	雲母片岩	礎石カ	

第512号土坑出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P254	土師質土器	内耳鍋	[28.7]	(5.3)	—	雲母	黒褐色	良	内外面ロクロナデ	覆土中	5% 炭化物付着
P255	土師質土器	内耳鍋	[29.6]	(4.5)	—	白色粒子・雲母	外：黒褐色 内：にぶい橙色	良	内外面ロクロナデ	覆土中	5% 外面炭化物付着
P256	土師質土器	かわらけ	[7.3]	2.0	[3.4]	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土中	20%

第530号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP157	縄文時代早期	内外面に条痕文を施文。繊維含む。	覆土中	

第532号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP158	近世カ	平瓦ヘラ削り及びナデ。	覆土中	

第538号土坑出土遺物観察表 (第169図)

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P259	磁器	壺	—	(4.9)	—	—	黄橙色	—	褐灰色	中国カ	中世	覆土中	10%

第540号土坑出土遺物観察表 (第170図)

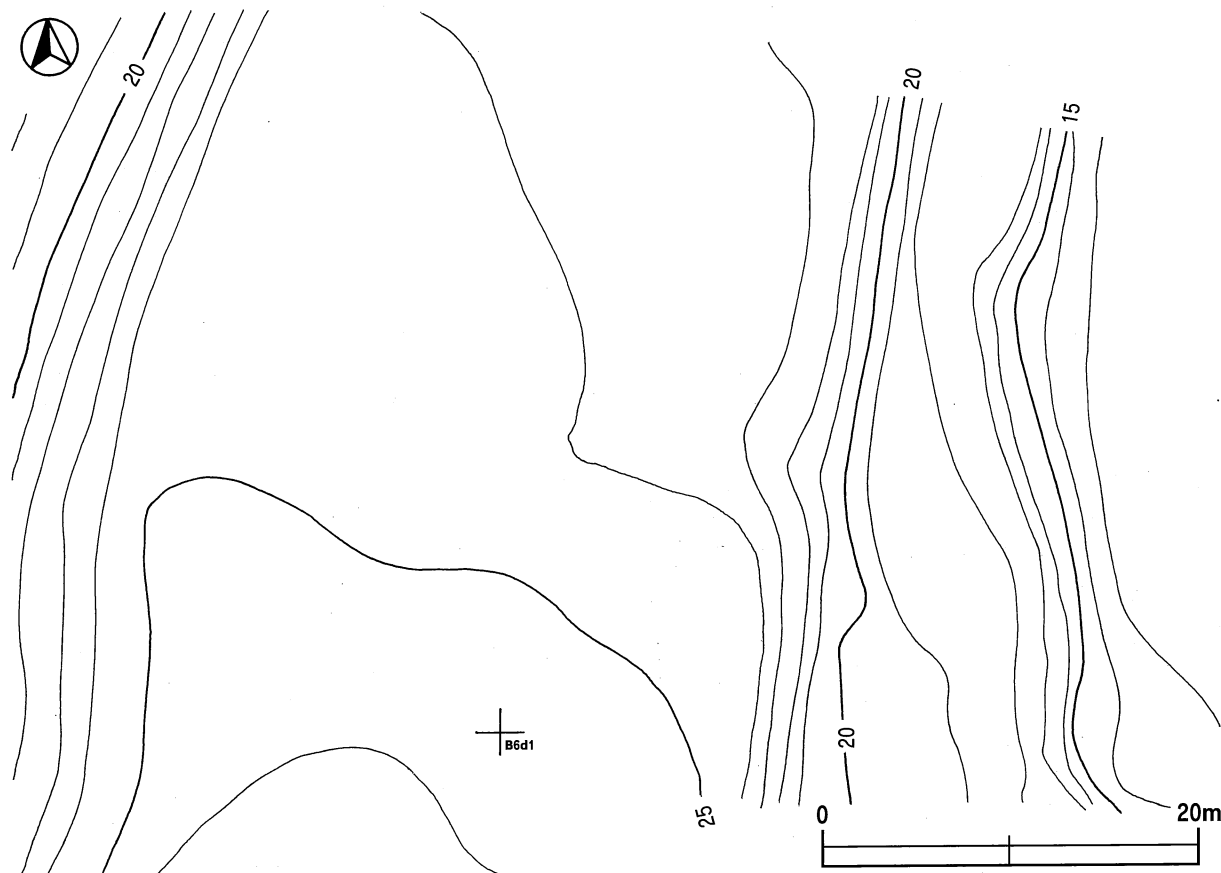
番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP159	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目, 内面ナデ。	覆土中	

第560号土坑出土遺物観察表 (第170図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP160	縄文時代早期	内外面ナデ, 繊維含む。	覆土中	

7 VII郭 (第171・172図)

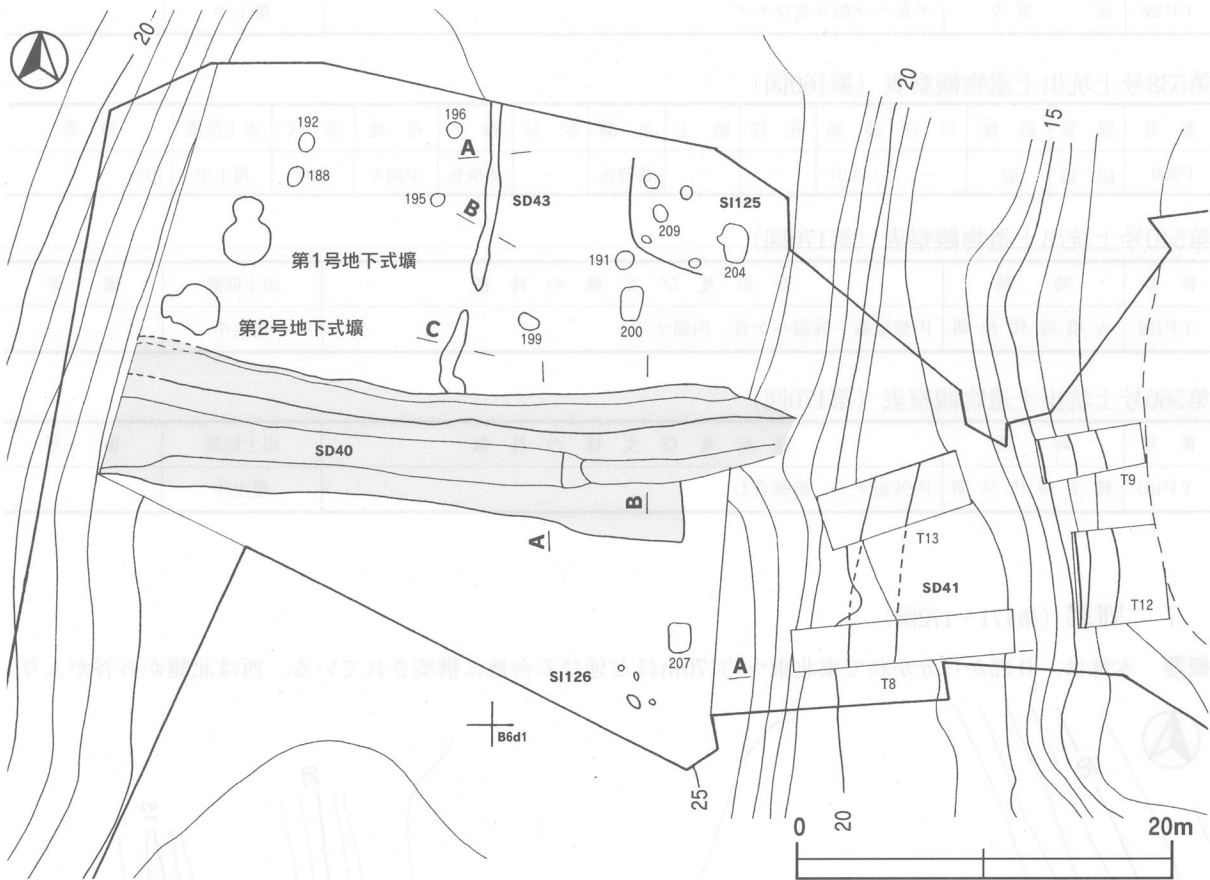
概要 本跡は、II郭から分かれて東北東へ約170mほど延びる台地に構築されている。西は北側から谷が入り、



第171図 VII郭測量図

北から東にかけては沖積地となっている。今回は台地の付け根付近の約780㎡が対象となり、東西の斜面はトレンチを設定して調査を行った。

本跡はⅢ郭の構築された谷を挟んでⅠ郭と向かい、南は1mの比高差でⅡ郭へと続いている。東西には約6m下がった位置に帯郭があり、本跡と沖積地との比高差は約20mである。Ⅶ郭へは南のⅡ郭からの通路が見られる。



第172図 Ⅶ郭遺構配置図

(1) 地下式壙

第1号地下式壙 (第173図)

位置 Ⅶ郭の西側縁辺部付近、A 5g7区に位置している。本跡の南西に第2号地下式壙、南に第40号溝跡、東に第43溝跡が構築されている。

竪坑 崩落しており、上面の形状は不明である。規模は、長軸1.32m、短軸1.21m、深さ1.11mの長軸が主軸と一致する長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、主室側に長軸に沿って長さ90cm、幅35~40cm、深さ46cmの溝を設けている。

主室 崩落しており、天井部の形態は不明である。規模は、長軸2.48m、短軸1.98m、深さ1.30mの長軸が主軸と直交する長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、主軸はN-3°-Eを指す。

覆土 11層からなる。3・6層はロームブロックを多量に含むことから、天井部の崩落土と思われる。

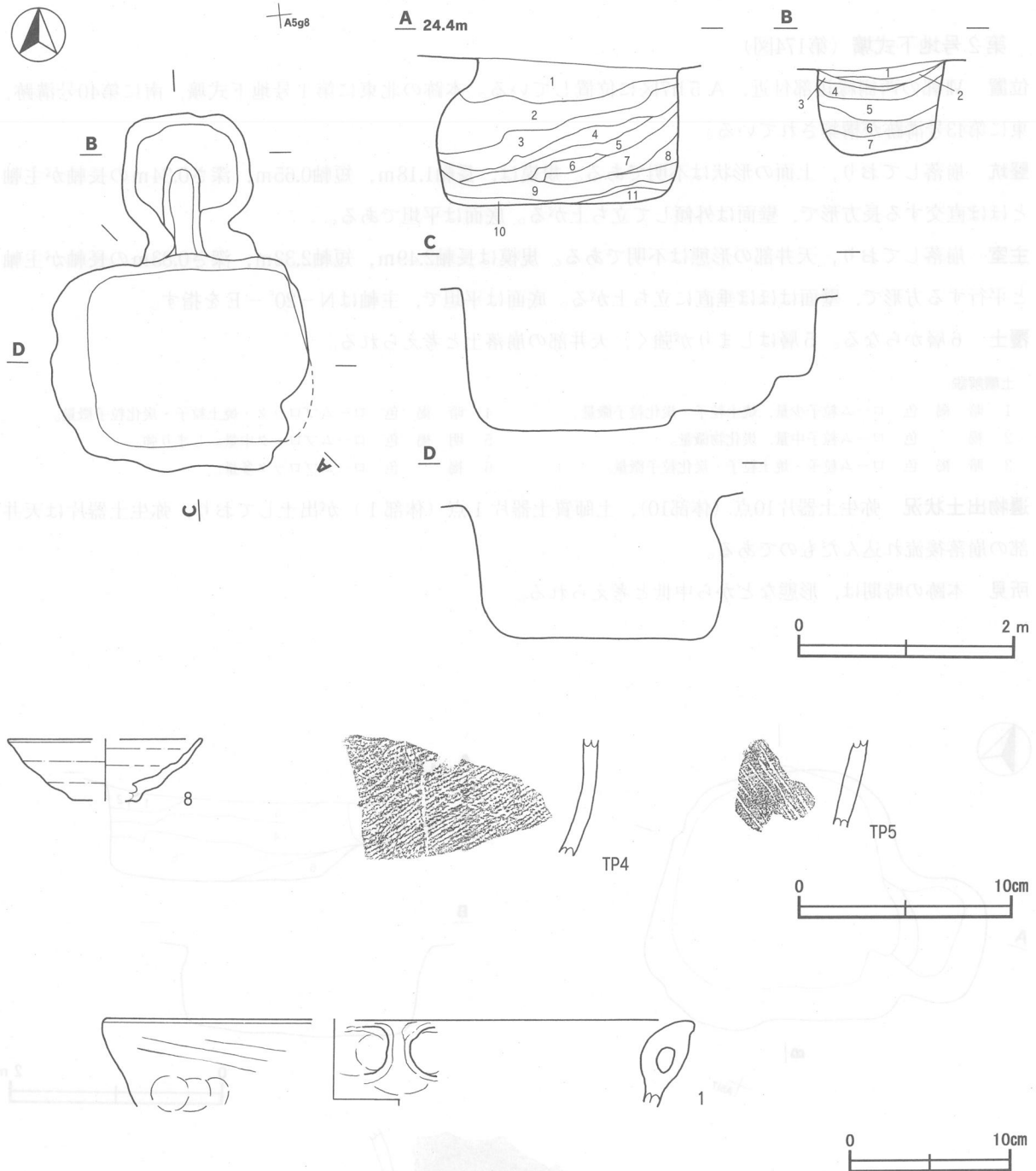
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量。 | 4 褐色 | ローム粒子中量。 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量。 | 5 褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり強。 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量。粘性・しまり強。 | 6 明褐色 | ロームブロック多量。粘性・しまり強。 |

- 7 暗褐色 ロームブロック微量，粘性・しまり強。
- 8 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量。粘性強。
- 9 暗褐色 ローム粒子中量。粘性・しまり強。
- 10 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量。粘性・しまり強。
- 11 褐色 ローム粒子多量。粘性・しまり強。

遺物出土状況 弥生土器片4点（胴部3，底部1），土師器片11点（口縁部1，体部6，底部4），土師質土器片5点（口縁部1，体部2，底部2）が出土しており，弥生土器片，土師器片は本跡の埋没する過程で流れ込んだものである。第173図P1は，西側の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，形態や出土した遺物などから中世と考えられる。



第173図 第1号地下式墳・出土遺物実測図

第1号地下式竈出土遺物観察表 (第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P1	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	(5.4)	—	雲母	外:黒色 内:にぶい橙色	普通	内外面ナデ, 外面一部指頭押捺	覆土中	5% 炭化物 付着
P8	土師質土器	かわらけ	[9.0]	(2.8)	[3.1]	白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子	橙色	普通	内外面ロクロナ デ, 底部不明	覆土中	30%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP4 .5	弥生時代後期	附加条一種附加2条。	覆土中	

第2号地下式竈 (第174図)

位置 VII郭の西側縁辺部付近, A5h7区に位置している。本跡の北東に第1号地下式竈, 南に第40号溝跡, 東に第43号溝跡が構築されている。

竪坑 崩落しており, 上面の形状は不明である。規模は, 長軸1.18m, 短軸0.65m, 深さ0.34mの長軸が主軸とほぼ直交する長方形で, 壁面は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

主室 崩落しており, 天井部の形態は不明である。規模は長軸2.49m, 短軸2.32m, 深さ0.83mの長軸が主軸と平行する方形で, 壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で, 主軸はN-20°-Eを指す。

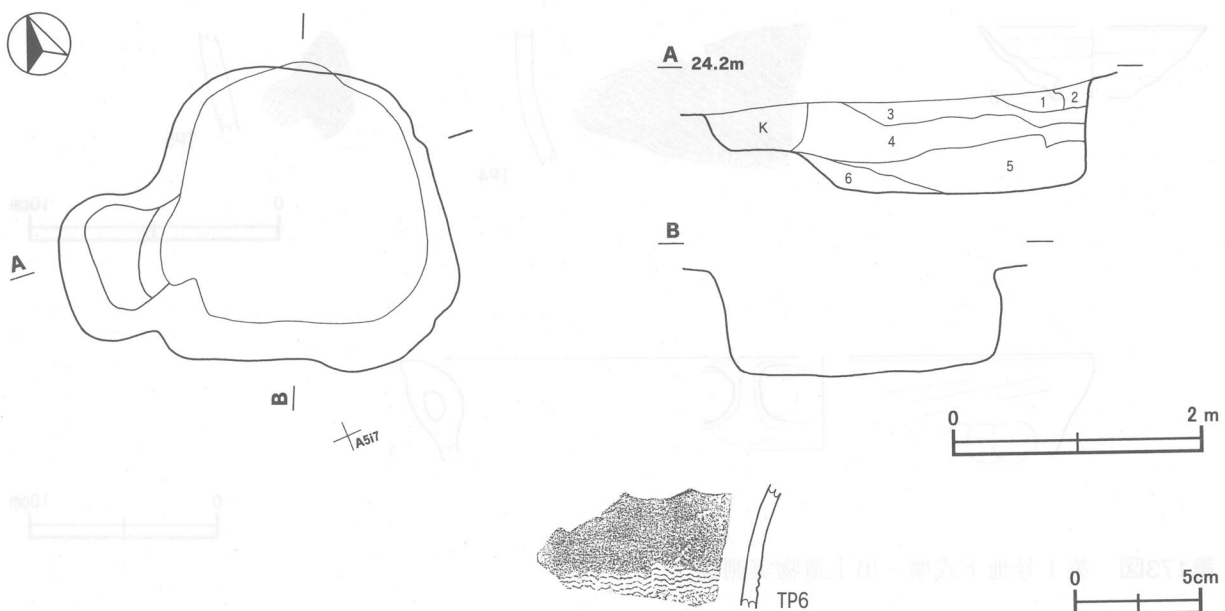
覆土 6層からなる。5層はしまりが強く, 天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量。 | 5 明褐色 | ロームブロック中量。しまり強。 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 6 褐色 | ロームブロック多量。 |

遺物出土状況 弥生土器片10点(体部10), 土師質土器片1点(体部1)が出土しており, 弥生土器片は天井部の崩落後流れ込んだものである。

所見 本跡の時期は, 形態などから中世と考えられる。



第174図 第2号地下式竈・出土遺物実測図

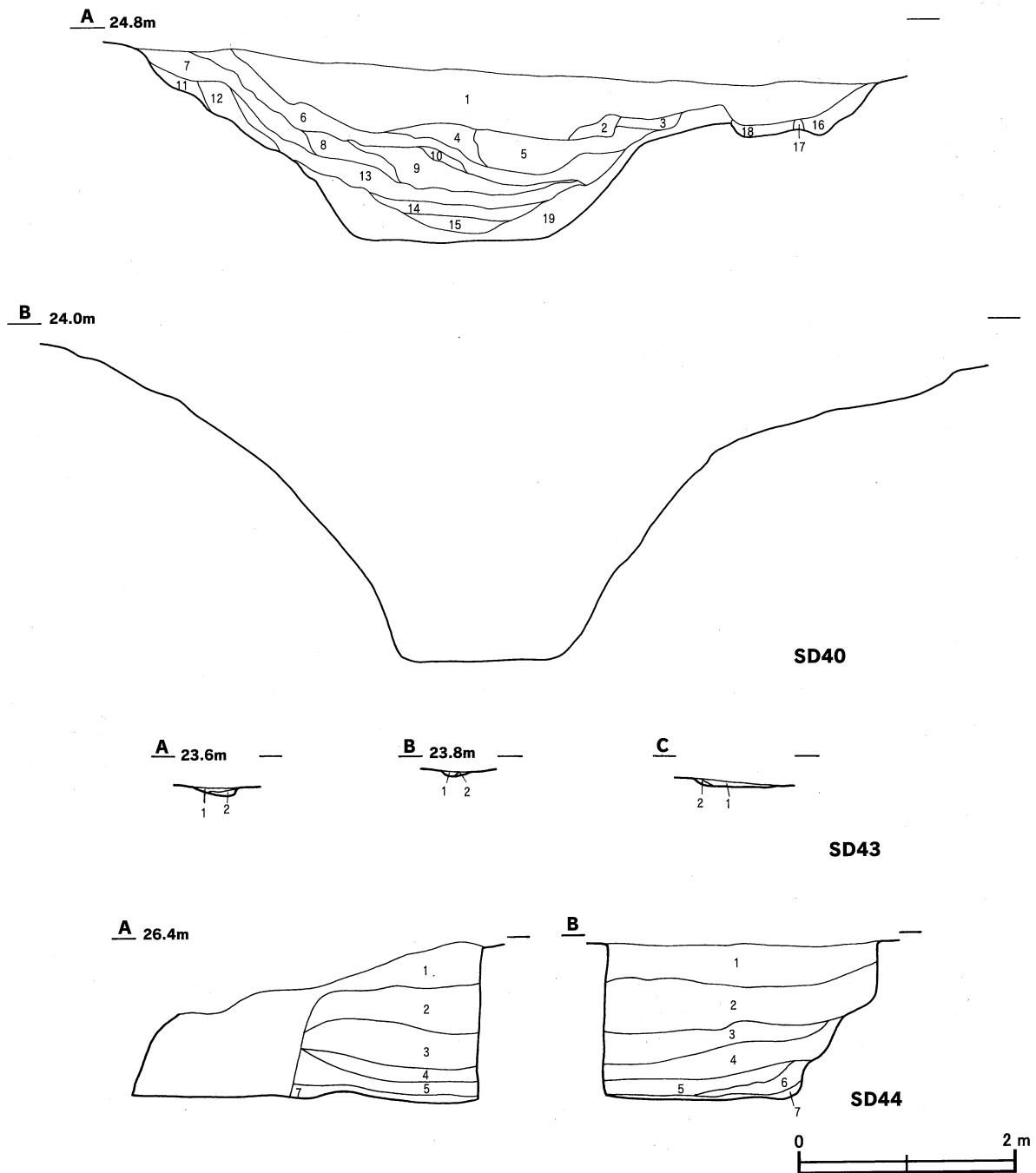
第2号地下式壙出土遺物観察表 (第174図)

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP6	弥生時代後期	附加条一種附加2条。無紋部との境界に櫛描波状文を施文。	覆土中	

(2) 溝跡

第40号溝跡 (第172・175図)

位置 VII郭の南部, A5i6区付近に位置しており, VII郭の形成された台地を東西に横切っている。本跡の中央部付近から北に第43号溝跡が延び, その西側には第1・2号地下式壙が構築されている。



第175図 第40・43・44号溝跡実測図

規模及び形状 長さ38m, 上幅6.4~8.1m, 下幅1.8~2.1m, 深さ1.4~2.76mで, 断面は逆台形である。主軸はN-90°-Eを指す。本跡の北壁には幅1~1.5m, 深さ0.5~0.6mの平坦面があり, 溝底も東側が約1.7mほど深くなっている。

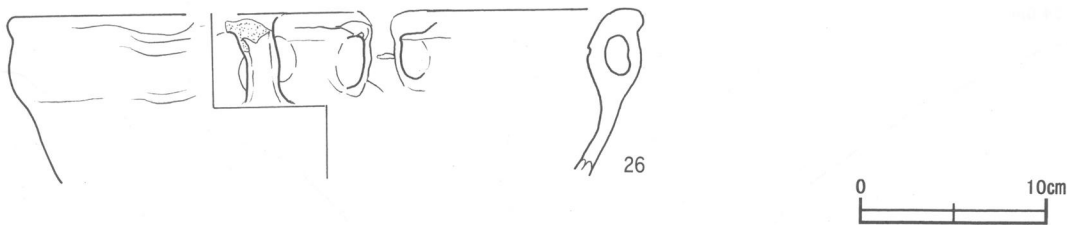
覆土 19層からなる。含有物を均等に含み, レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。粘性弱。 | 11 褐色 | ロームブロック少量。しまり強。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 12 褐色 | ロームブロック中量。粘性・しまり弱。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量。 | 14 褐色 | ロームブロック少量。 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。しまり強。 | 15 褐色 | ローム粒子中量。 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量。しまり弱。 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量。 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 | 17 褐色 | ロームブロック中量。 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量。 | 18 褐色 | ロームブロック少量。粘性・しまり弱。 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量。 | 19 褐色 | ロームブロック多量。 |

遺物出土状況 弥生土器3点(体部3), 土師器片13点(口縁部2, 体部10, 底部1), 土師質土器片6点(口縁部1, 体部4, 底部1), 陶磁器片4点(口縁部2, 体部2)が出土しており, 弥生土器片, 土師器片は埋没の過程で流れ込んだものである。第176図P26は, 覆土中から出土したものである。

所見 本跡は台地を分断して構築されていることから, VII郭をいくつかの郭に区画するために掘られた堀と思われる。本跡の時期は, 出土した遺物などから中世と考えられる。



第176図 第40号溝跡出土遺物実測図

第40号溝跡出土遺物観察表 (第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P26	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(8.8)	—	白色粒子・雲母	外: 黒褐色 内: にぶい橙色	良	内外面ナデ	覆土中	15%

第41号溝跡 (第172・177図)

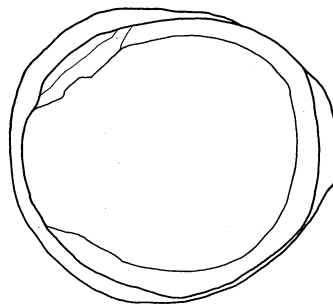
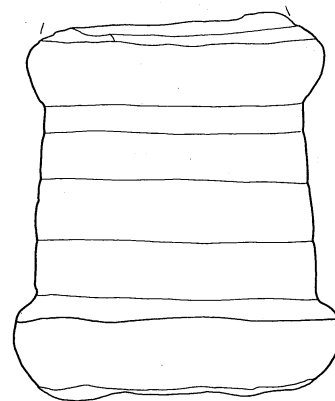
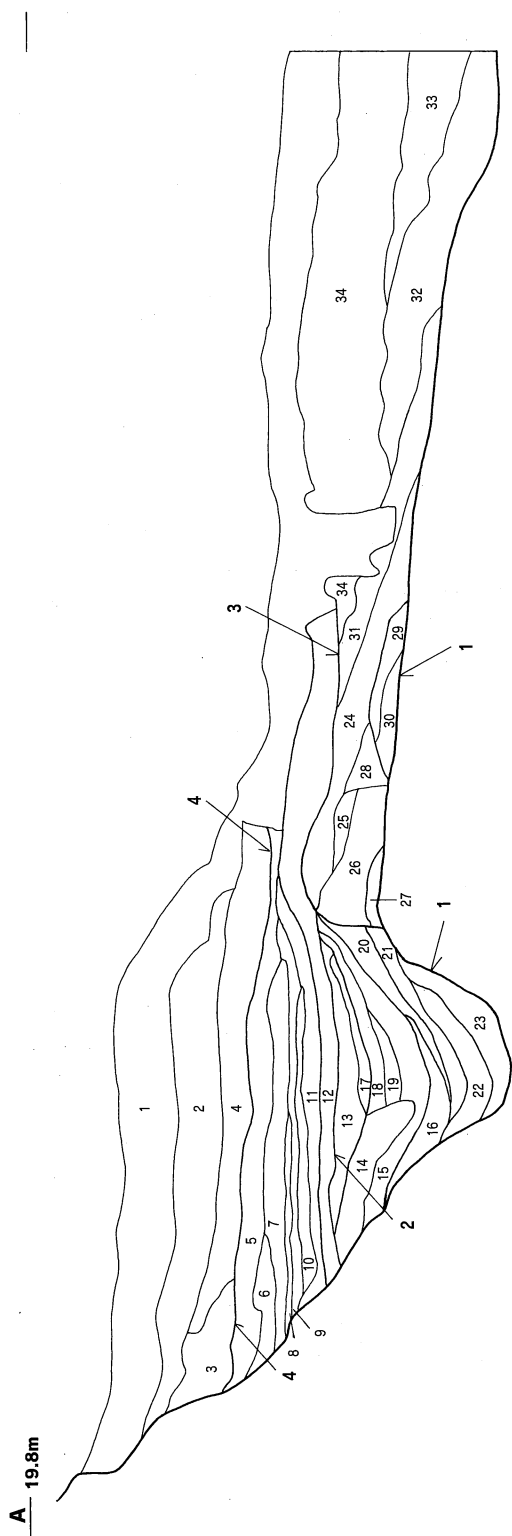
位置 VII郭東側の帯郭, A 6 j6区付近に位置している。本跡は帯郭の山側に構築され, VII郭平坦部からの比高差は約11mである。

規模及び形状 本跡は2本のトレンチで確認され, 斜面に沿ってさらに南北に延びる。規模は確認された範囲で長さ10m, 上幅2.2~2.6m, 下幅0.6~0.8m, 深さは約1.5mで, 断面は逆台形である。主軸はN-13°-Eを指す。

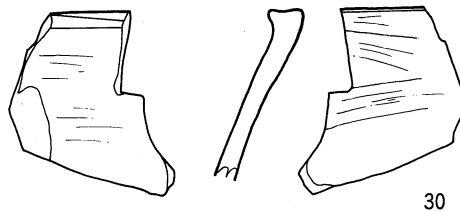
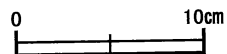
覆土及び構築状況 観察された土層は34層からなる。3のラインより下層は帯郭の構築土で, 4のラインより上層は表土層及び流れ込んだ土層と考えられる。本跡は1のラインまで掘り込んだ後, 2のラインまでロームブロック及び粘土ブロックを含む土層を版築状に積み上げて平坦面を構築し, さらに4のラインまで同様の作業を行って平坦部を広げている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|-----------------|----|-------|-------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量。 | 7 | 黒褐色 | ロームブロック多量。しまり強。 |
| 2 | 褐色 | 粘土粒子少量。 | 8 | にぶい黄色 | 粘土粒子少量。しまり強。 |
| 3 | にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック多量。 | 9 | 褐色 | 粘土粒子少量。しまり強。 |
| 4 | 暗褐色 | 粘土粒子少量。しまり強。 | 10 | 褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量。しまり強。 |
| 5 | 褐色 | 粘土粒子少量。粘性・しまり強。 | 11 | 黒褐色 | 粘土粒子少量。しまり強。 |
| 6 | 褐色 | 粘土ブロック中量。しまり強。 | 12 | 褐色 | 粘土ブロック少量。しまり強。 |



Q183



30



第177図 第41号構跡・出土遺物実測図

13 褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量。しまり強。	23 にぶい褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量。しまり強。
14 褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量。	24 褐色	粘土ブロック多量。粘性・しまり強。
15 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量。粘性・しまり強。	25 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量。粘性・しまり強。
16 褐色	粘土ブロック少量。しまり強。	26 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量。粘性・しまり強。
17 褐色	粘土粒子微量。しまり強。	27 褐色	粘土ブロック少量。粘性・しまり強。
18 褐色	炭化粒子微量。しまり強。	28 褐色	粘土ブロック多量。
19 褐色	粘土ブロック少量、炭化粒子微量。しまり強。	29 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量。
20 褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量。しまり強。	30 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量。
21 褐色	粘土ブロック多量、粘土ブロック少量。しまり強。	31 にぶい褐色	砂粒少量。しまり強。
22 褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量。粘性・しまり強。	32 暗褐色	砂粒少量。しまり強。
		33 黒色	砂粒微量。しまり強。
		34 暗褐色	粘土粒子微量。しまり強。

遺物出土状況 土師質土器片6点（口縁部3，体部3），石製品片1点（石塔片1）が出土している。第177図Q183は底面から出土しており，廃棄されたものと思われる。

所見 本跡は当初帯郭とⅦ郭の斜面部を区画する堀として構築され，その後縄張りの改変によって帯郭を広げるために埋められたものと思われる。本跡の機能した時期は，出土した遺物などから長峰城跡の期間と重なると考えられる。

第41号溝跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P30	土師質土器	内耳鍋	—	(7.2)	—	赤色粒子・雲母	外：黒褐色 内：明赤褐色	良	内外面ナデ	覆土中	5%

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q183	宝篋印塔	(20.3)	17.1	17.1	(7000)	花崗岩	相輪部	PL79

第43号溝跡（第172・175図）

位置 Ⅶ郭のはほぼ中央部，A5h0区付近に位置しており，Ⅶ郭の形成された台地にはほぼ平行している。本跡の西側に第1・2号地下式壙が，南には第40号溝跡が構築されている。

規模及び形状 本跡の北側は調査区域外に延びている。本跡の規模は長さ14.8m，上幅0.3～1.1m，下幅0.2～0.6m，深さ4～10cmで，断面は浅い皿状である。途中1.1mほど土橋状に掘り残した痕跡が認められる。主軸はN-20°-Eを指す。

覆土 2層からなる。含有物が均等に含まれていることから，自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量。 2 褐色 ロームブロック中量。

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は明らかでないが，地下式壙を区画するために構築された溝と考えられる。

第44号溝跡（付図1・第175図）

位置及び確認状況 Ⅶ郭の西側斜面，C5b1区付近に位置している。本跡は，Ⅶ郭とⅡ郭の境界の状況を観察するためにトレンチを設定したところ，落ち込みを確認した。

規模及び形状 本跡はトレンチによる調査のため，全容は明らかではない。調査できた範囲では，上幅約9m，

下幅約7.2m、深さ約1.4mで、断面は逆台形と想定され、主軸はN-62°-Wを指すと思われる。

覆土 7層からなる。含有物を均等に含み、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------|------|---------------------|
| 1 褐色 | 赤色粒子微量。 | 5 褐色 | ローム粒子少量。 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 6 褐色 | ローム粒子・砂粒少量。粘性・しまり弱。 |
| 3 褐色 | 赤色粒子少量。粘性・しまり弱。 | 7 褐色 | ロームブロック中量。 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 | | |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は明らかではないが、VII郭とII郭との境付近に位置しており、さらに東側に延びることが想定されるため、郭を分断する堀の可能性が考えられる。

(3) 土坑

VII郭では10基の土坑が確認されている。墓壙と思われるものもあるが、性格の不明なものが多い。その中の代表的なものを記述し、その他は一覧表に掲載する。

第200号土坑 (第178図)

位置 VII郭の東部、A 6 h2区に位置している。本跡の南に第40号溝跡が構築されている。

規模及び形状 長軸1.66m、短軸1.10m、深さ51cmの隅丸長方形で、壁面は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。主軸はN-8°-Wを指す。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む層が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量。 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量。 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量。 | 4 褐色 | ロームブロック中量。 |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は形態から墓壙と思われるが、性格は明らかではない。時期は、第1号地下式壙と主軸がほぼ一致することから、中世以降と想定される。

第207号土坑 (第178図)

位置 VII郭の東部、B 6 c3区に位置している。本跡の北に第40号溝跡が構築されている。

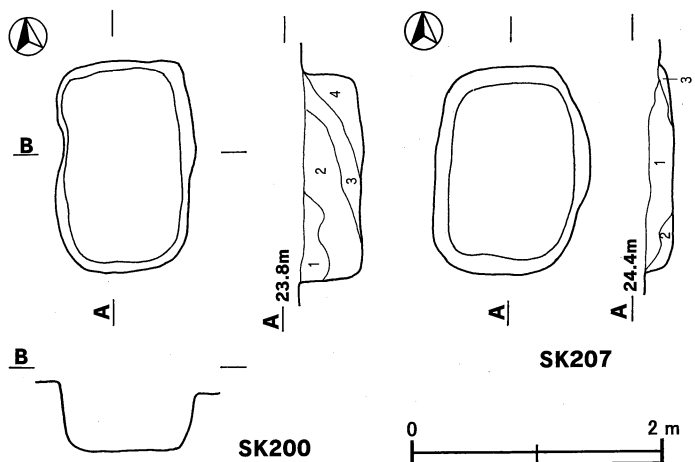
規模及び形状 長軸1.63m、短軸1.23m、深さ20cmの隅丸長方形で、壁面は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。主軸はN-0°を指す。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量。
粘性・しまり強。 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量。 |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。



第178図 第200・207号土坑実測図

所見 本跡は形態から墓壇の可能性のあるものの、性格は明らかでない。本跡の時期は第1号地下式壇と主軸がほぼ一致することから、中世以降と想定される。

8 1号腰曲輪 (第179・180・181図)

概要 長峰城が築かれた台地の東斜面に位置している。規模と形状は平坦部で南北約48m、東西約20mの半円形である。面積は約610㎡で、ほぼ全面調査の対象となった。

本跡は西側の約10m上方にはI郭が構築されており、東側は約7mほど下がって長峰集落が営まれた低地となっている。現況では、台地斜面の裾部の中央付近に長辺約10m、短辺約6.5m、高さ約1mのL字状の高まりが見られるが、その他には土塁や堀などの施設は確認できなかった。現在北東部には長峰集落から本跡へ登る通路があり、I郭方面へはL字状の高まりから第12号堀の東端へ登る通路がある。

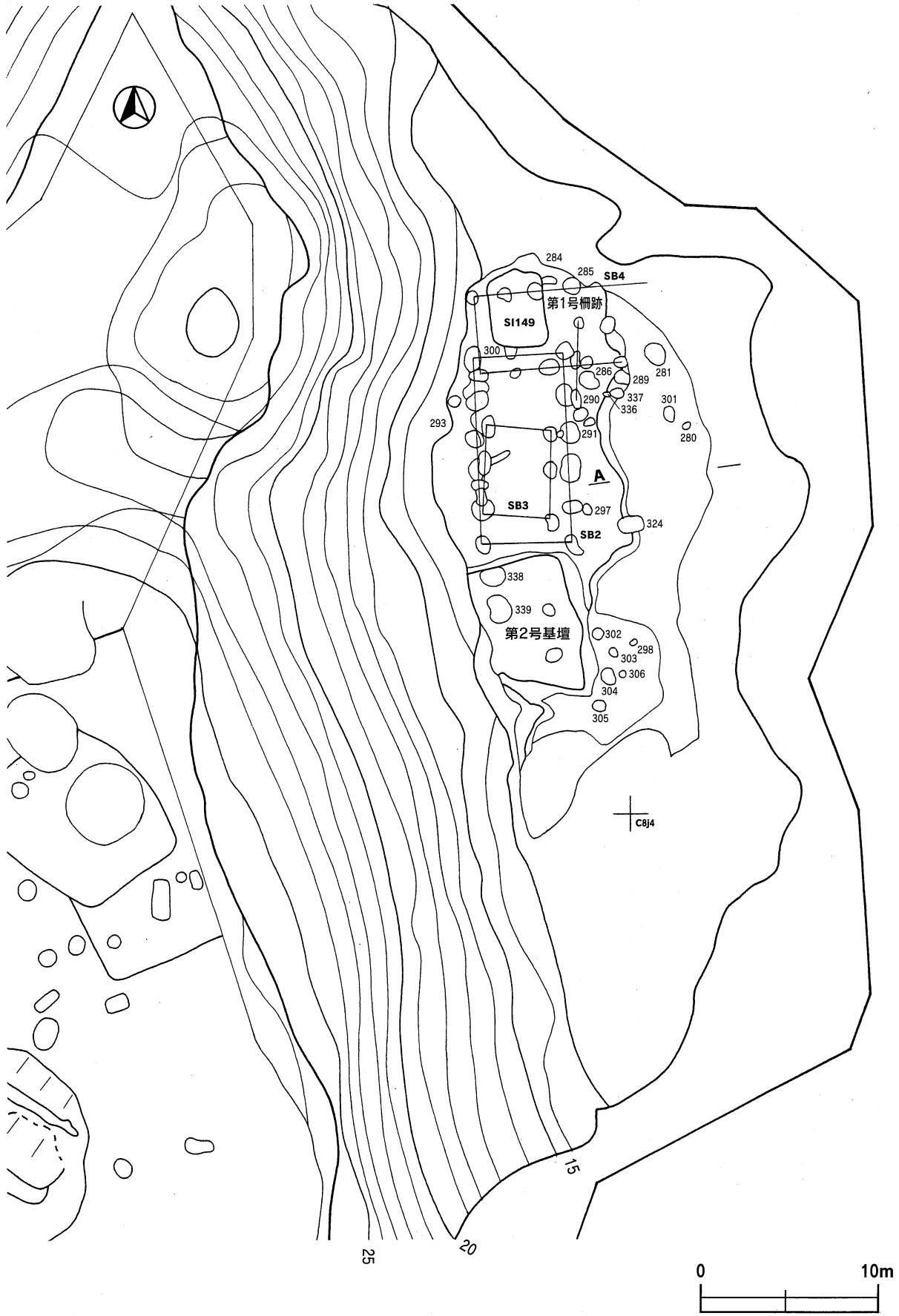
1号腰曲輪の構築状況 本跡の構築状況を観察するためにトレンチを設定した。基本的に、本跡の西側は地山を削平し、東側は地業を行って平坦部を造成している。1のラインは、本跡の基底部となる地山のラインであるが自然地形かどうかは明らかではなく、この面に山側から土砂を投入して地業を実施している。2・3のラインの間に堆積している28層は、黒褐色を呈した自然堆積と思われる、一時地業が停止ししていた可能性がある。その後再び地業が開始され、土砂が埋め立てられている。最終的には5のラインまで土砂が積み上げられているが、途中の4のラインを境に土砂の堆積状況が水平方向へと変化している。本跡は、4のラインの上層及び2のラインの下層にしまりの強い突き固められたと思われる土層がみられるが、その他には突き固めた形跡は見られない。

土層解説

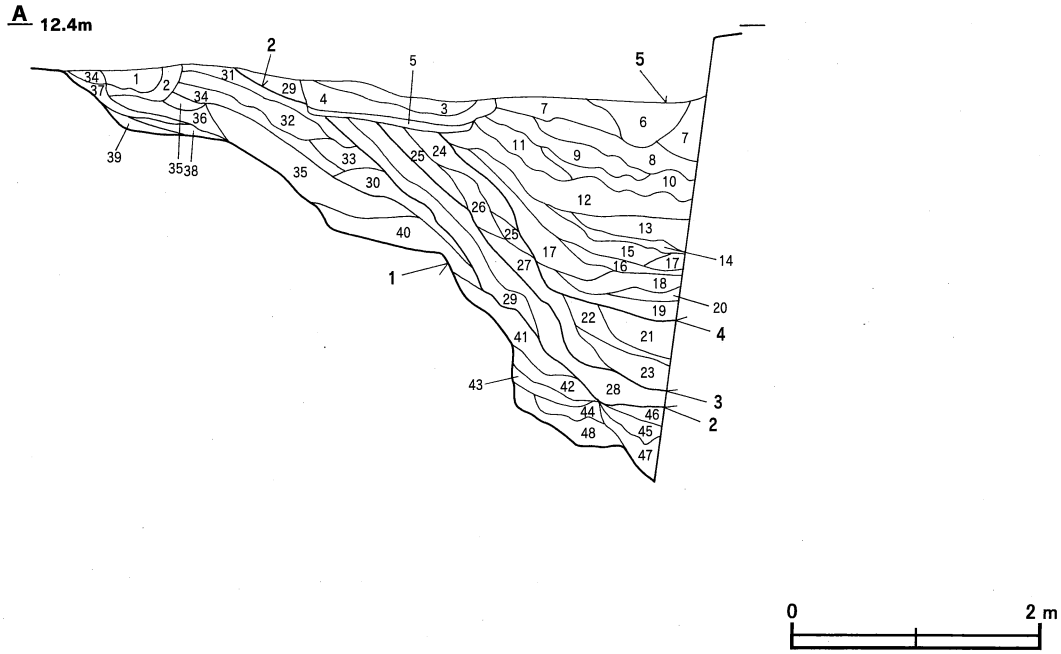
- | | |
|--|------------------------------------|
| 1 灰黄褐色 シルトブロック少量、ロームブロック微量。 | 22 にぶい黄褐色 シルト粒子中量、ロームブロック微量。 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック・シルトブロック微量。 | 23 にぶい黄褐色 シルトブロック少量、ロームブロック微量。 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物・シルトブロック微量。 | 24 にぶい黄褐色 シルトブロック・砂粒少量、ロームブロック微量。 |
| 4 灰黄褐色 シルトブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量。 | 25 にぶい黄褐色 粘土粒子多量。しまり強。 |
| 5 褐灰色 ロームブロック・シルトブロック微量。しまり強。 | 26 黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 6 灰黄褐色 ロームブロック・シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 | 27 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 7 灰褐色 シルトブロック少量、ロームブロック微量。 | 28 黒褐色 ロームブロック少量、シルトブロック微量。 |
| 8 灰黄褐色 ロームブロック・シルトブロック・炭化粒子微量。 | 29 にぶい黄褐色 ロームブロック多量。しまり強。 |
| 9 灰黄褐色 シルトブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性弱。 | 30 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、砂粒微量。しまり強。 |
| 10 灰黄褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・シルトブロック微量。 | 31 にぶい黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量。しまり強。 |
| 11 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック・シルトブロック微量。粘性弱。 | 32 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量。しまり強。 |
| 12 灰黄褐色 シルト粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性弱。 | 33 灰白色 砂粒多量、ロームブロック・シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 13 黒褐色 シルト粒子中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量。 | 34 にぶい黄褐色 砂粒多量、ローム粒子微量。しまり弱。 |
| 14 灰黄褐色 ロームブロック・シルトブロック微量。 | 35 暗褐色 ローム粒子微量。 |
| 15 黒褐色 シルトブロック少量、ロームブロック微量。 | 36 にぶい黄褐色 シルト粒子中量。 |
| 16 灰黄褐色 ロームブロック・炭化物・シルトブロック微量。 | 37 黒褐色 シルト粒子微量。粘性弱・しまり強。 |
| 17 灰黄褐色 シルトブロック少量、ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 | 38 にぶい黄褐色 シルトブロック微量。粘性弱・しまり強。 |
| 18 灰黄褐色 シルト粒子中量、ロームブロック微量。 | 39 黒褐色 焼土粒子・シルト粒子微量。しまり強。 |
| 19 褐灰色 ロームブロック・シルトブロック微量。 | 40 にぶい黄褐色 シルトブロック微量。しまり強。 |
| 20 褐灰色 シルト粒子中量、ロームブロック微量。 | 41 にぶい黄褐色 ロームブロック・シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 21 にぶい黄褐色 ロームブロック・シルトブロック微量。 | 42 黒褐色 シルトブロック微量。粘性弱・しまり強。 |
| | 43 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量。 |
| | 44 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量。しまり強。 |
| | 45 にぶい黄褐色 ローム粒子微量。粘性弱・しまり強。 |
| | 46 黒褐色 ローム粒子微量。しまり強。 |
| | 47 灰黄褐色 粘土粒子微量。 |
| | 48 褐灰色 粘土粒子微量。 |



第179図 1号腰曲輪測量図



第180図 1号腰曲輪遺構配置図



第181図 1号腰曲輪地業層実測図

(1) 竪穴住居跡

第149号住居跡 (第182図)

位置 1号腰曲輪の北部，C 8 c2区に位置している。本跡の上面に第4号掘立柱建物跡，南側に第2・3号掘立柱建物跡が構築されている。

重複関係 第4号掘立柱建物跡，第300号土坑に掘り込まれている。

規模及び平面形 長軸4.00m，短軸3.12mの長方形である。壁高は30~46cmでほぼ垂直に立ち上がり，主軸はN-4°-Wを指す。

床 平坦で，あまり踏み固められた形跡はない。

ピット 8か所。P1~P7は東西の壁際にあり，深さ17~33cmで，柱穴と考えられる。P8は深さ14cmで，性格は不明である。

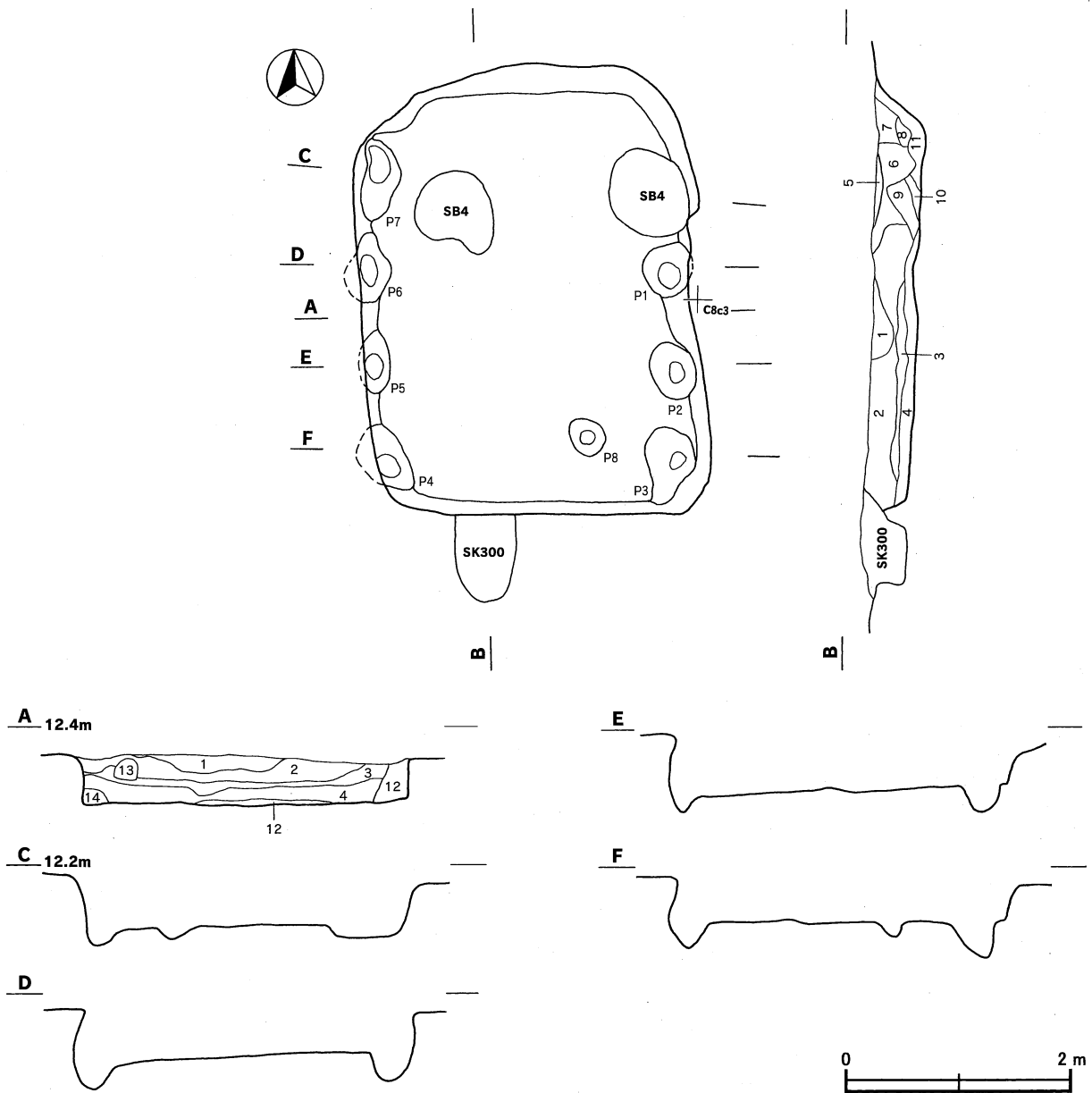
覆土 14層からなる。砂質粘土ブロック・炭化粒子を含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量。粘性弱。 | 8 暗褐色 砂粒多量，炭化粒子微量。 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量，炭化粒子微量。粘性弱。 | 9 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性弱。 |
| 3 黒褐色 砂質粘土ブロック少量，炭化粒子微量。粘性弱。 | 10 褐色 砂質粘土ブロック微量。 |
| 4 黄褐色 砂質粘土ブロック中量。粘性弱。 | 11 黄褐色 砂質粘土ブロック微量。粘性弱。 |
| 5 暗褐色 砂粒中量。 | 12 にぶい黄褐色 砂粒多量。しまり弱。 |
| 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂質粘土ブロック少量。粘性弱。 | 13 黄褐色 砂質粘土ブロック多量。しまり強。 |
| 7 褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量。 | 14 黄褐色 砂粒多量。 |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は炉・竈等は確認されていないため一般的な竪穴住居跡とは異なり，何らかの施設の下部構造であった可能性がある。本跡の年代は，重複関係などから中世と考えられる。



第182図 第149号住居跡実測図

(2) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 (第183図)

位置 1号腰曲輪の北西，C 8 d2区付近に位置している。本跡の北側に第149号住居跡，南側に第2号基壇が構築されている。

重複関係 第3号掘立柱建物跡に掘り込まれており，第4号掘立柱建物跡と重複している。

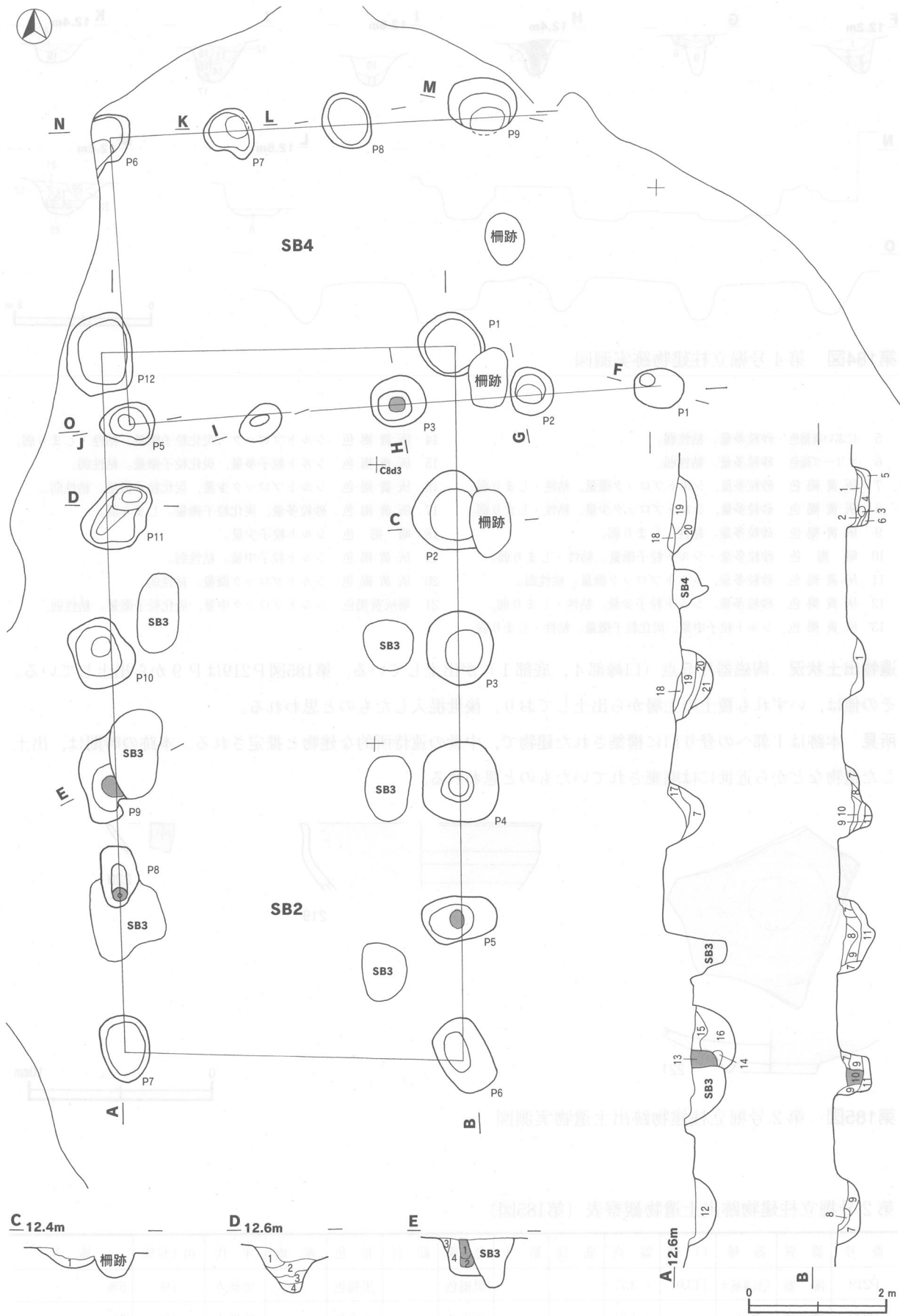
規模と構造 桁行5間，梁行1間の建物跡で，桁行方向はN-3°-Wの南北棟である。桁行は10.06m，梁行は4.98mで，柱間寸法は，桁行は北の2間で約2.1m，南の3間で約1.8m，梁行4.84~5.12mである。

柱穴 平面形は楕円形を呈し，深さは50~109cmである。粘性・しまりの弱い土層が多く，突き固められた痕跡は見られず柱抜き取り痕である。

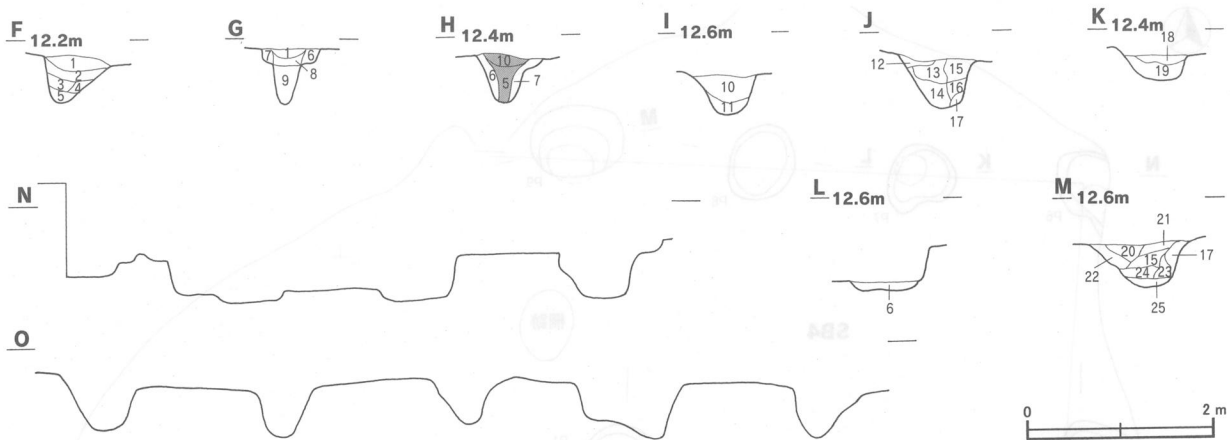
土層解説

- 1 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック微量。
- 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。

- 3 黄褐色 砂質粘土ブロック多量。粘性・しまり強。
- 4 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量。



第183図 第2・4号掘立柱建物跡実測図

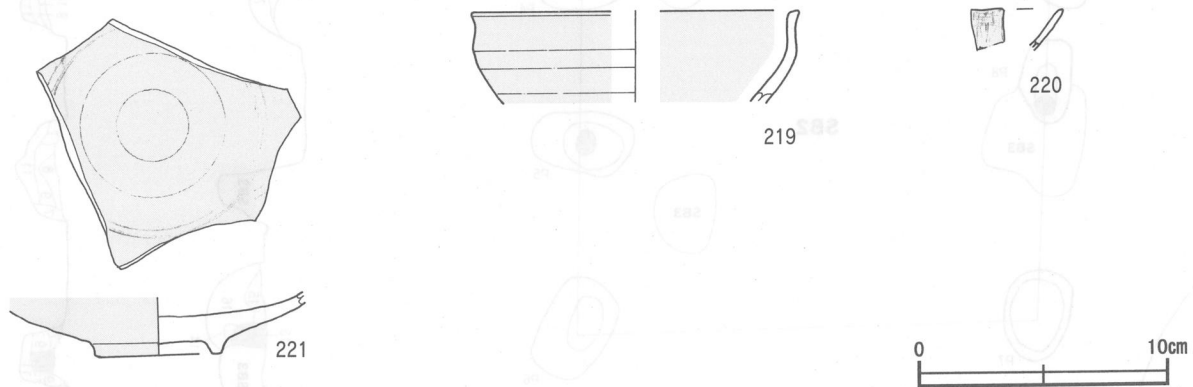


第184図 第4号堀立柱建物跡実測図

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 5 にぶい黄褐色 砂粒多量。粘性弱。 | 14 灰黄褐色 シルトブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 6 オリーブ褐色 砂粒多量。粘性弱。 | 15 灰黄褐色 シルト粒子多量，炭化粒子微量。粘性弱。 |
| 7 灰黄褐色 砂粒多量，シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 | 16 灰黄褐色 シルトブロック少量，炭化粒子微量。粘性弱。 |
| 8 灰黄褐色 砂粒多量，シルトブロック少量。粘性・しまり弱。 | 17 灰黄褐色 砂粒多量，炭化粒子微量。しまり弱。 |
| 9 灰黄褐色 砂粒多量。粘性・しまり弱。 | 18 暗褐色 シルト粒子少量。 |
| 10 暗褐色 砂粒多量・シルト粒子微量。粘性・しまり弱。 | 19 灰黄褐色 シルト粒子中量。粘性弱。 |
| 11 灰黄褐色 砂粒多量，シルトブロック微量。粘性弱。 | 20 灰黄褐色 シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 12 灰黄褐色 砂粒多量，シルト粒子少量。粘性・しまり弱。 | 21 暗灰黄褐色 シルトブロック中量，炭化粒子微量。粘性弱。 |
| 13 灰黄褐色 シルト粒子中量，炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | |

遺物出土状況 陶磁器片5点（口縁部4，底部1）が出土している。第185図P219はP9から出土している。その他は，いずれも覆土の上層から出土しており，後世混入したものと思われる。

所見 本跡はI郭への登り口に構築された建物で，中世の遠待所的な建物と推定される。本跡の時期は，出土した遺物などから近世には廃棄されていたものと思われる。



第185図 第2号堀立柱建物跡出土遺物実測図

第2号堀立柱建物跡出土遺物観察表（第185図）

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P219	陶器	天目茶碗カ	[13.0]	(3.7)	—	—	黒褐色	—	黒褐色	—	中世カ	P9	5%
P220	磁器	碗カ	—	(1.7)	—	—	灰白色	—	灰白色	—	近世カ	P8	5%
P221	磁器	中皿カ	—	(2.5)	4.8	—	灰白色	円弧	灰白色	—	近世カ	P12	40%

第3号掘立柱建物跡 (第186図)

位置 1号腰曲輪の北西, C 8 d2区付近に位置している。本跡の北側に第149号住居跡, 第4号掘立柱建物跡, 北東に第1号柵跡, 南に第2号基壇が構築されている。

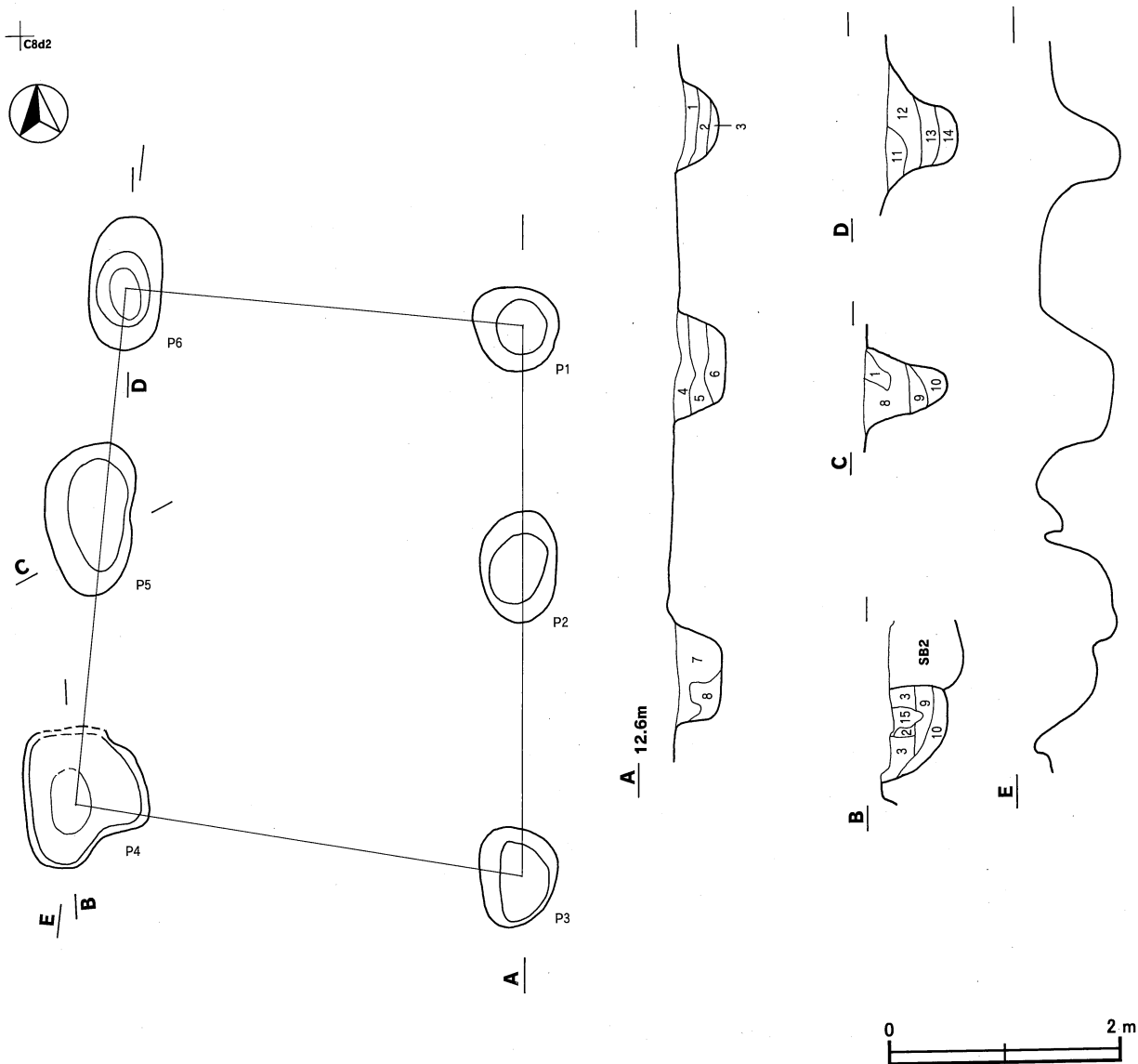
重複関係 第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間, 梁行1間の建物で, 桁行方向はN-5°-Eの南北棟である。桁行は4.68m, 梁行は3.42mで, 柱間寸法は桁行2.10~2.65m, 梁行3.02~3.82mである。

柱穴 平面形は楕円形を呈し, 深さは31~66cmである。粘性・しまりの弱い土層が多く, 突き固められた痕跡はなく, 柱抜き取り痕と思われる。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂粒多量, シルト粒子中量。粘性・しまり弱。 | 7 灰黄褐色 砂粒多量, シルト粒子少量。粘性弱。 |
| 2 灰黄褐色 砂粒多量, シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 | 8 灰黄褐色 砂粒・シルト粒子中量。 |
| 3 灰黄褐色 砂粒多量。粘性・しまり弱。 | 9 灰黄褐色 シルトブロック少量。粘性弱。 |
| 4 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量。粘性弱。 | 10 灰黄褐色 砂粒多量・シルト粒子微量。粘性弱。 |
| 5 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。 | 11 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 粘土ブロック微量。 |
| 6 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性強。 | 12 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量。 |



第186図 第3号掘立柱建物跡実測図

13 暗褐色 砂質粘土ブロック微量。

15 黒褐色 シルトブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。

14 におい黄褐色 砂質粘土ブロック微量。粘性弱。

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は第2号掘立柱建物跡と同じ性格を持つものと思われ、重複関係からそれに後出すると考えられる。

第4号掘立柱建物跡（第183・184図）

位置 1号腰曲輪の北部，C8c2区付近に位置している。本跡の南側に第2・3号掘立柱建物跡が構築されている。

重複関係 第149号住居跡を掘り込んでおり，第2号掘立柱建物跡，第1号柵跡と重複している。

規模と構造 本跡の北東隅は調査区域に延びると思われる。現存で，桁行4間，梁行1間の建物で，桁行方向をN-86°-Eとする東西棟である。桁行は7.54m，梁行は4.13mで，柱間寸法は桁行1.70~2.10m，梁行4.13mである。

柱穴 平面形は楕円形を呈し，深さは30~65cmである。粘性・しまりの弱い土層が多く，突き固められた痕跡は見られず，柱抜き取り痕である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 におい黄褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性弱。 | 14 灰黄褐色 砂粒多量，シルト粒子中量。粘性・しまり弱。 |
| 2 におい黄褐色 炭化粒子微量。粘性弱。 | 15 灰黄褐色 砂粒多量，シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 3 におい黄褐色 砂粒多量。粘性弱。 | 16 灰黄褐色 シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 4 におい黄褐色 炭化粒子微量。粘性弱。 | 17 灰黄褐色 シルト粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 5 黄褐色 砂粒多量。粘性弱。 | 18 暗褐色 砂粒中量。 |
| 6 におい黄褐色 砂質粘土ブロック・粘土ブロック微量。粘性弱。 | 19 におい黄褐色 粘土粒子中量，炭化粒子微量。粘性弱。 |
| 7 黄褐色 砂質粘土ブロック中量。粘性弱。 | 20 暗褐色 シルト粒子少量，炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 8 におい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性弱。 | 21 暗灰黄褐色 シルトブロック微量。粘性弱。 |
| 9 におい黄褐色 砂質粘土ブロック微量。粘性弱。 | 22 におい黄褐色 砂質粘土ブロック中量。粘性弱。 |
| 10 におい黄褐色 砂粒多量，砂質粘土ブロック微量。 | 23 灰黄褐色 砂粒多量。 |
| 11 におい黄褐色 シルトブロック少量。しまり弱。 | 24 におい黄褐色 砂質粘土ブロック・粘土ブロック微量。 |
| 12 暗褐色 砂粒多量，シルトブロック微量。粘性弱。 | 25 黄褐色 粘土ブロック微量。 |
| 13 灰黄褐色 砂粒中量，シルトブロック少量。粘性・しまり弱。 | |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は1号腰曲輪の北部に構築され，第2・3号掘立柱建物跡と桁行方向が直交する。性格や他の掘立柱建物跡との前後関係は明らかではないが，第149号住居跡の廃棄後に構築されたものと考えられる。

(3) 柵跡

第1号柵跡（第187図）

位置及び確認状況 1号腰曲輪の北部，C8c3区付近に位置している。本跡はピットが一直線に並び，他に対応するピットが見られないことから柵跡と判断した。本跡の南西に第3号掘立柱建物跡，西側に第2号掘立柱建物跡，第149号住居跡が構築されている。

重複関係 第4号掘立柱建物跡と重複している。

規模及び形状 P1~P3が確認され，柱穴と思われる。長さ4.86m，深さ42~60cmで，ピットの平面形は楕円形である。主軸はN-5°-Wを指す。

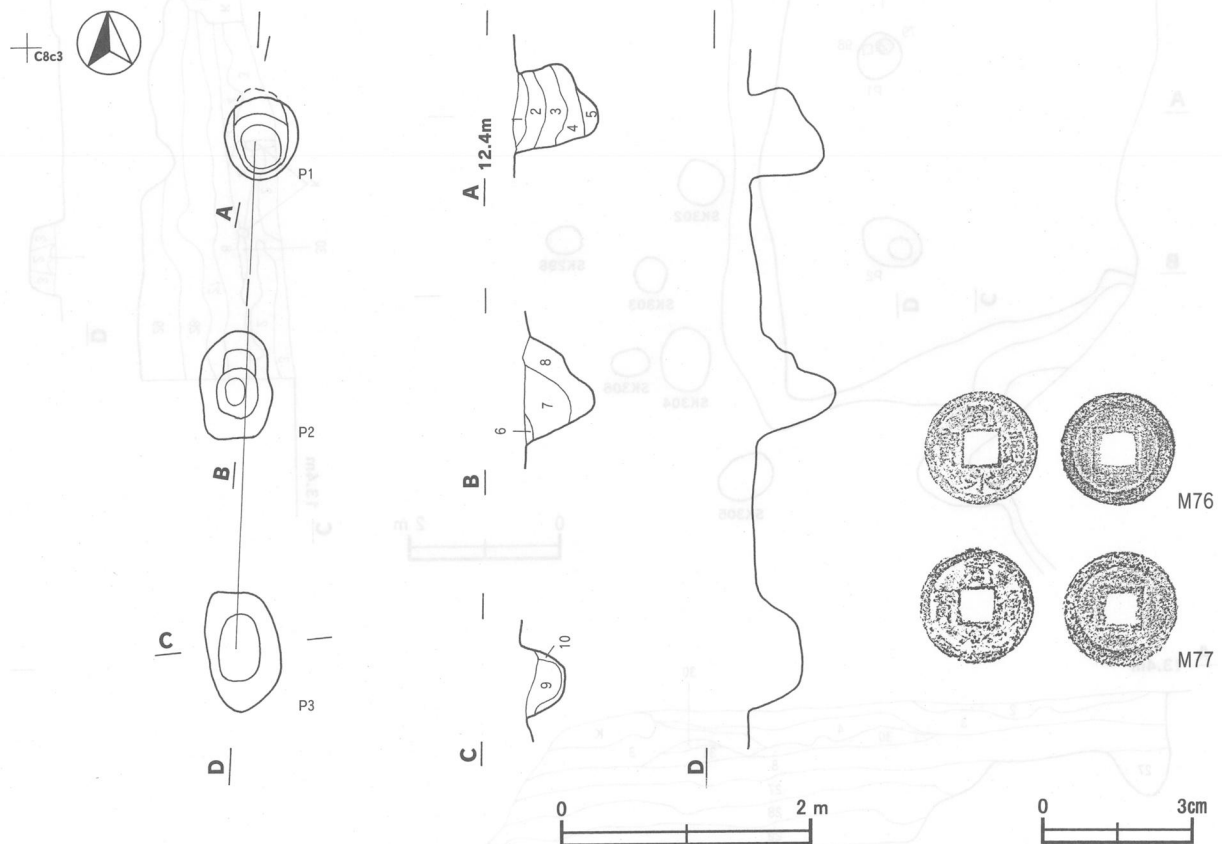
覆土 10層からなる。粘性・しまりの弱い土層が多く，突き固められた痕跡は見られず，柱抜き取り痕と思われる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック少量。 | 6 黄褐色 砂質粘土ブロック多量。粘性・しまり強。 |
| 2 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性弱。 | 7 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック中量。 |
| 3 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性弱。 | 8 にぶい黄褐色 砂粒多量。粘性弱。 |
| 4 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック微量。粘性弱。 | 9 オリーブ褐色 砂粒多量。 |
| 5 黄褐色 砂粒多量。粘性弱。 | 10 灰黄褐色 砂粒多量、シルト粒子微量。粘性・しまり弱。 |

遺物出土状況 古銭2点（寛永通寶2）がP1付近から出土している。

所見 本跡の時期は明らかではないが、第3号掘立柱建物跡の主軸と一致することから、これと同時期に構築されたものと考えられる。



第187図 第1号柵跡・出土遺物実測図

第1号柵跡出土遺物観察表（第187図）

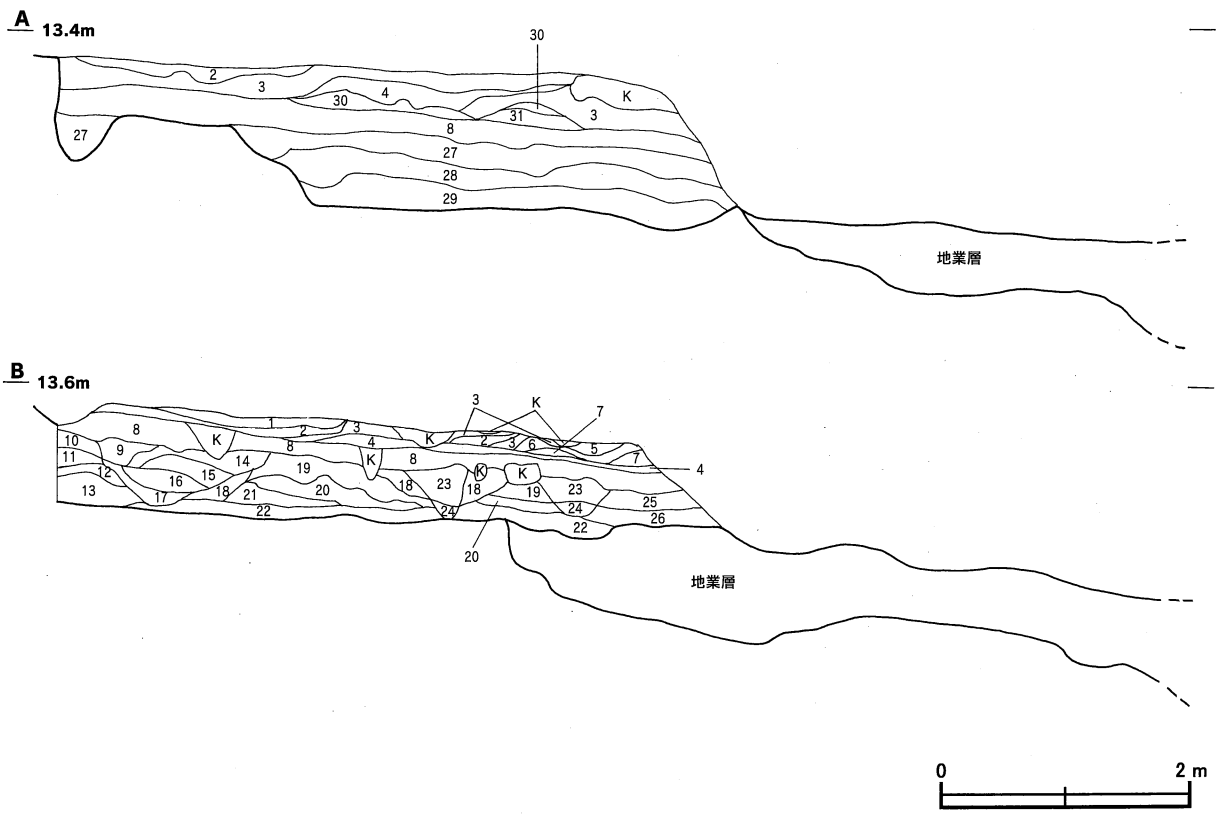
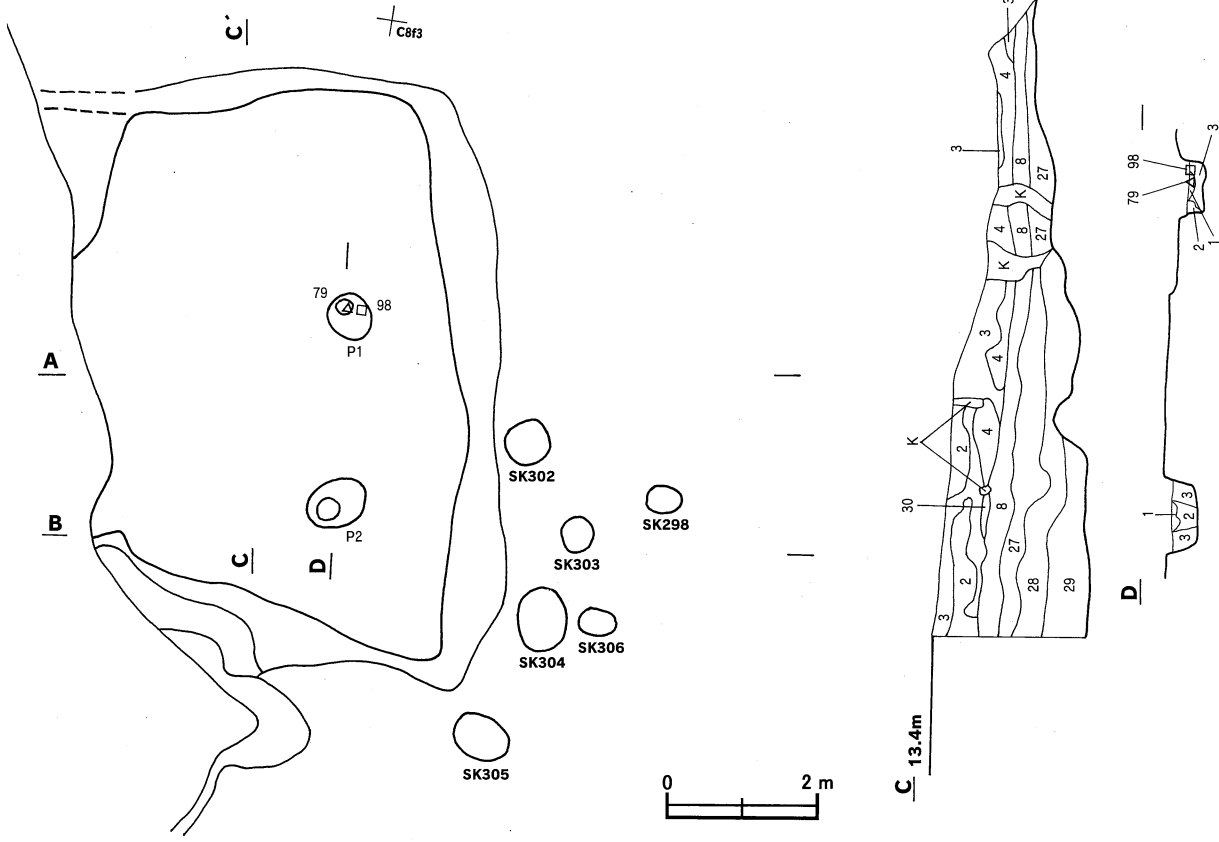
番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)		年号	西暦		
M76	寛永通寶	2.28	0.7×0.7	1.1	1.9	銅	寛永3年	1636	鑄上がり良	
M77	寛永通寶	2.29	0.6×0.6	1.4	2.4	銅	寛永3年	1636	鑄上がりやや不良	

(4) 基壇

第2号基壇（第188図）

位置 1号腰曲輪の中央部西側、C8f2区付近に位置している。本跡の北側に第2・第3号掘立柱建物跡が構築されている。

現況 長辺約10m、短辺約6.5m、高さ約1mで、L字状の高まりである。第12号堀の東端から1号腰曲輪へ

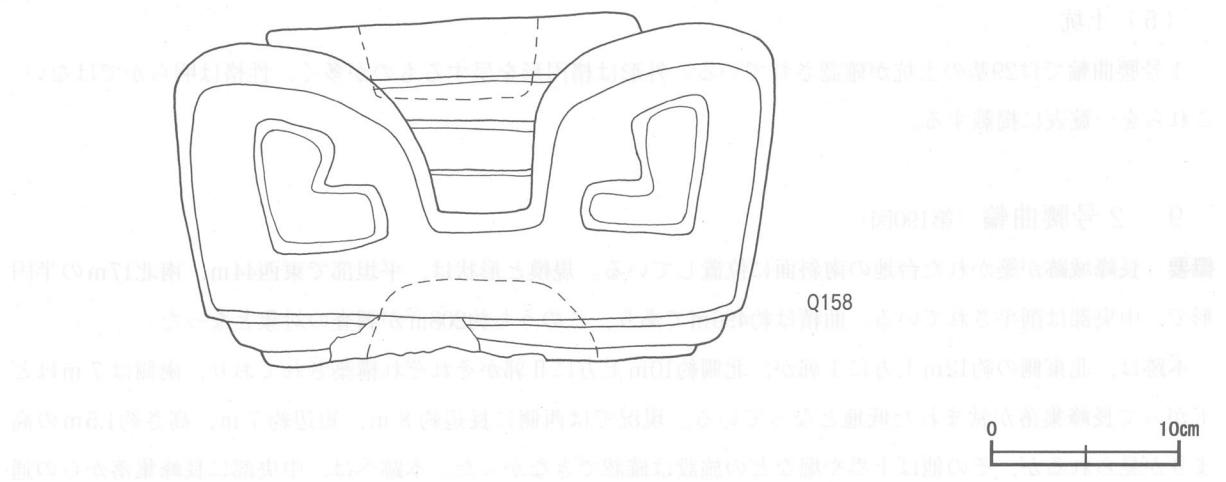
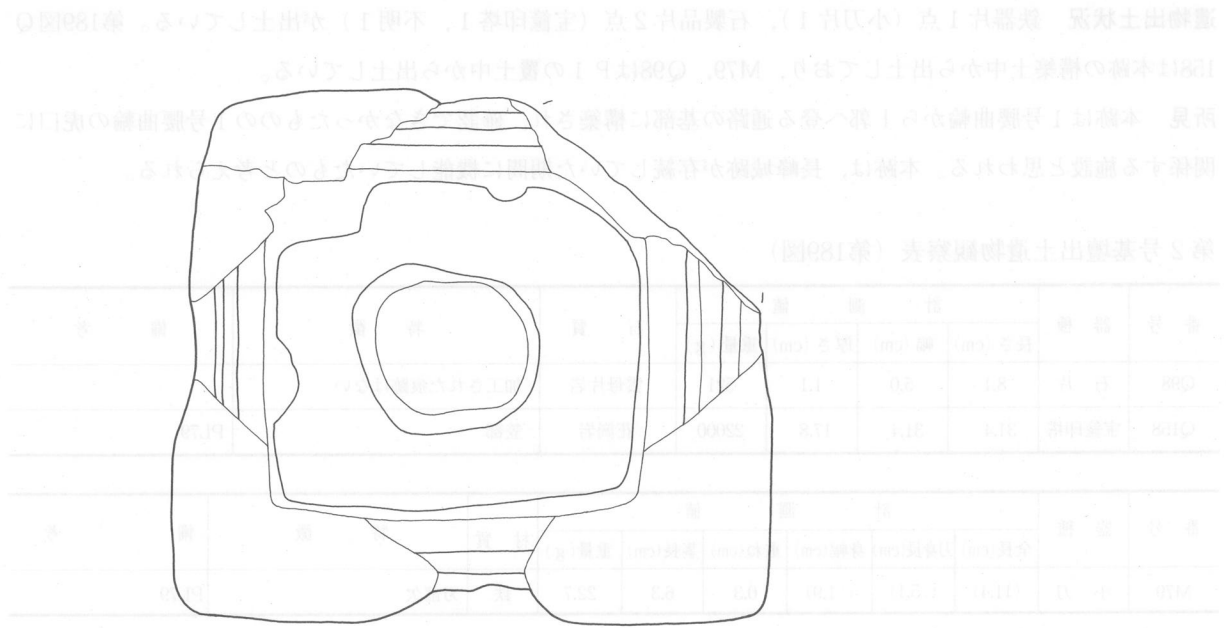
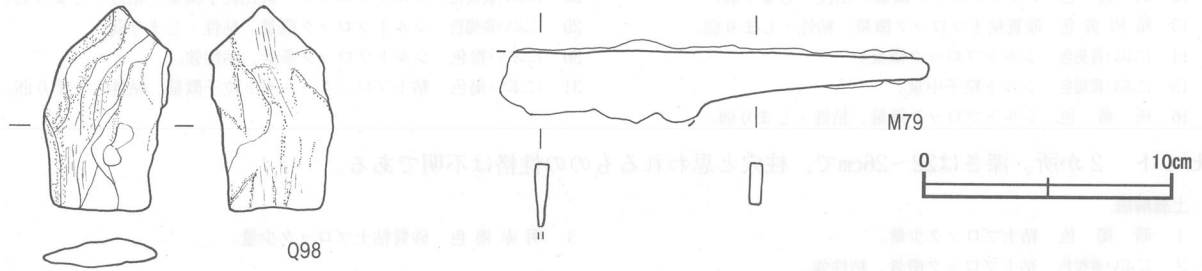


第188図 第2号基壇実測図

向かう通路が、本跡の上面に形成されている。

規模及び形状 長辺7.74m、短辺5.64m、高さ0.42～1.12mの長方形で、主軸はN-16°-Wを指す。

構築状況 3か所で土層を観察した。本跡の構築土は31層からなり、基本的には地山の上に粘性・しまりの強い層と弱い層を交互に積み上げている。また8層は暗褐色土層で、上下の粘土ブロック・シルトを主体とする層からなり、本跡は基本的に三つの工程を経て構築されたものと思われる。またC-C'では、本跡の東側は1号腰曲輪の地業層に土砂を積み上げて構築している状況が確認された。



第189図 第2号基壇出土遺物実測図

土層解説

- | | | | | | |
|----|--------|---------------------------|----|--------|----------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 17 | 暗灰黄色 | シルト粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 2 | 褐灰色 | 粘土ブロック多量。粘性・しまり強。 | 18 | にぶい黄褐色 | シルト粒子少量。粘性弱, しまり強。 |
| 3 | にぶい褐色 | 粘土ブロック多量。しまり強。 | 19 | にぶい黄色 | シルトブロック微量。粘性弱, しまり強。 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量。 | 20 | 灰黄色 | シルトブロック少量。粘性弱, しまり強。 |
| 5 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・シルトブロック微量。しまり強。 | 21 | 灰黄褐色 | シルトブロック微量, 炭化粒子微量。 |
| 6 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・シルト粒子微量。粘性弱。 | 22 | 浅黄色 | シルト粒子少量。粘性弱, しまり強。 |
| 7 | にぶい黄褐色 | シルト粒子微量。 | 23 | にぶい黄褐色 | シルトブロック・炭化粒子微量。粘性弱, しまり強。 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 | 24 | にぶい黄褐色 | シルト粒子少量, 炭化粒子微量。粘性弱, しまり強。 |
| 9 | 暗褐色 | ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 | 25 | 暗褐色 | シルトブロック・炭化粒子微量。 |
| 10 | にぶい黄褐色 | ロームブロック微量。粘性弱。 | 26 | 黄褐色 | シルト粒子中量, ロームブロック微量。 |
| 11 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量。 | 27 | 灰黄褐色 | 炭化粒子・シルト粒子微量。しまり弱。 |
| 12 | 灰黄色 | シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 | 28 | にぶい黄褐色 | シルトブロック・炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 13 | 暗灰黄色 | 砂質粘土ブロック微量。粘性・しまり弱。 | 29 | にぶい黄褐色 | シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 |
| 14 | にぶい黄褐色 | シルトブロック微量。 | 30 | にぶい橙色 | シルトブロック多量。粘性強。 |
| 15 | にぶい黄褐色 | シルト粒子中量。 | 31 | にぶい褐色 | 粘土ブロック・シルト粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 16 | 灰黄色 | シルトブロック微量。粘性・しまり弱。 | | | |

ピット 2か所。深さは22~26cmで、柱穴と思われるものの性格は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------|---|------|-------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量。 | 3 | 明赤褐色 | 砂質粘土ブロック少量。 |
| 2 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック微量。粘性強。 | | | |

遺物出土状況 鉄器片1点(小刀片1), 石製品片2点(宝篋印塔1, 不明1)が出土している。第189図Q158は本跡の構築土中から出土しており, M79, Q98はP1の覆土中から出土している。

所見 本跡は1号腰曲輪からI郭へ登る通路の基部に構築され, 確認できなかったものの1号腰曲輪の虎口に関係する施設と思われる。本跡は, 長峰城跡が存続していた期間に機能していたものと考えられる。

第2号基壇出土遺物観察表(第189図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q98	石片	8.1	5.0	1.1	521	雲母片岩	加工された痕跡はない	
Q158	宝篋印塔	31.4	31.4	17.8	22000	花崗岩	笠部	PL79

番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	莖長(cm)	重量(g)			
M79	小刀	(11.4)	(5.1)	(1.9)	0.3	6.3	22.7	鉄	刃部欠	PL79

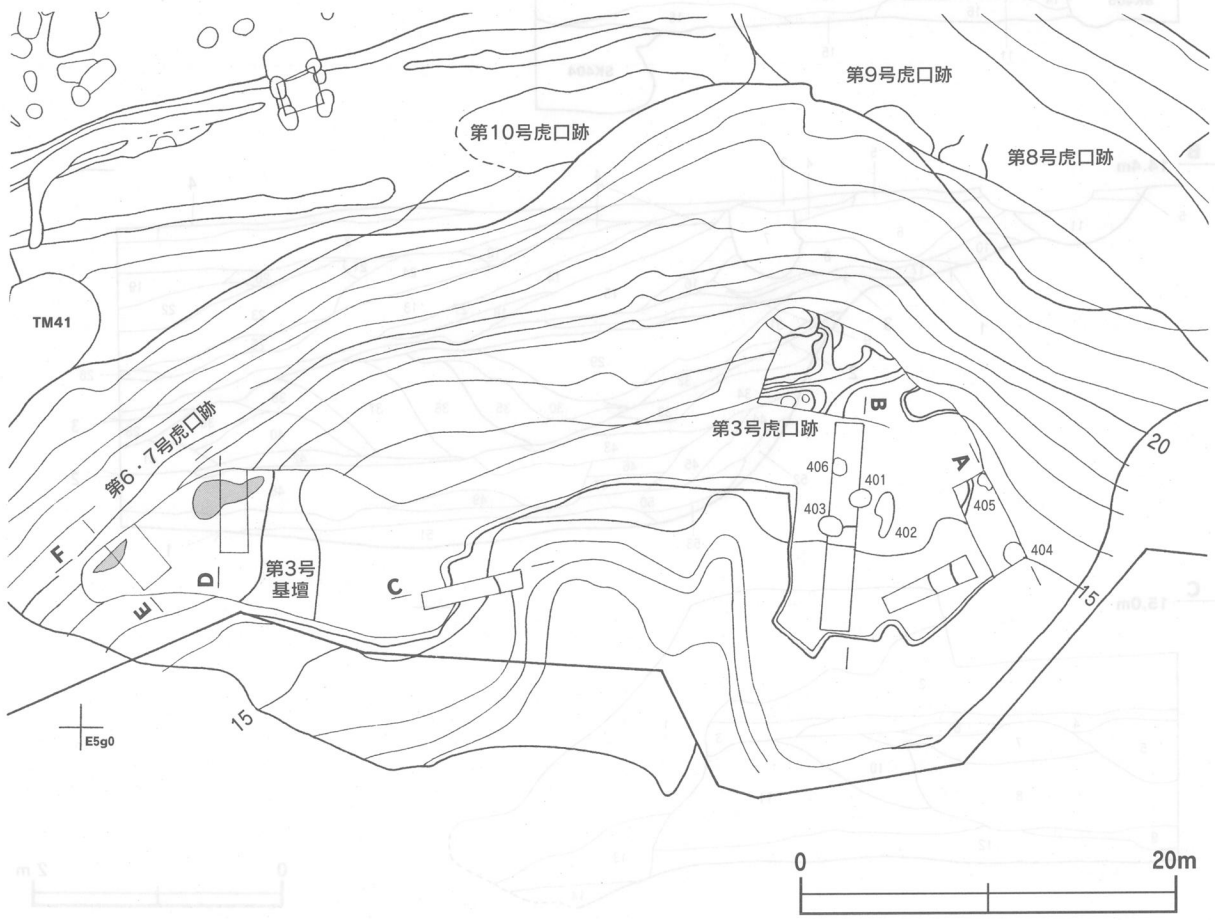
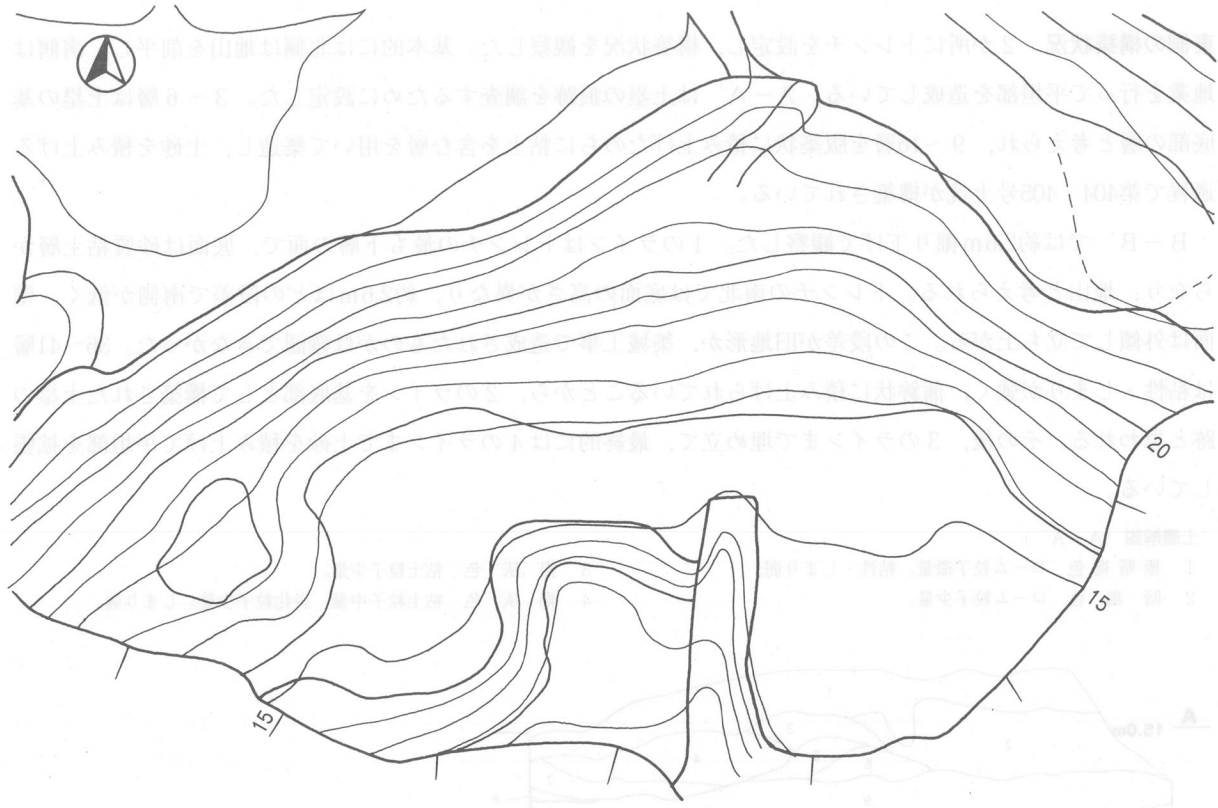
(5) 土坑

1号腰曲輪では29基の土坑が確認されている。外形は楕円形を呈するものが多く, 性格は明らかではない。これらを一覧表に掲載する。

9 2号腰曲輪(第190図)

概要 長峰城跡が築かれた台地の南斜面に位置している。規模と形状は, 平坦部で東西44m, 南北17mの半円形で, 中央部は削平されている。面積は約496㎡であり, このうち約208㎡が調査の対象となった。

本跡は, 北東側の約12m上方にI郭が, 北側約10m上方にII郭がそれぞれ構築されており, 南側は7mほど下がって長峰集落が営まれた低地となっている。現況では西側に長辺約8m, 短辺約7m, 高さ約1.5mの高まりが見られるが, その他は土塁や堀などの施設は確認できなかった。本跡へは, 中央部に長峰集落からの通路があり, 上の郭へは本跡の西側から第41号墳方向と12号堀方向へ登る通路が見られる。



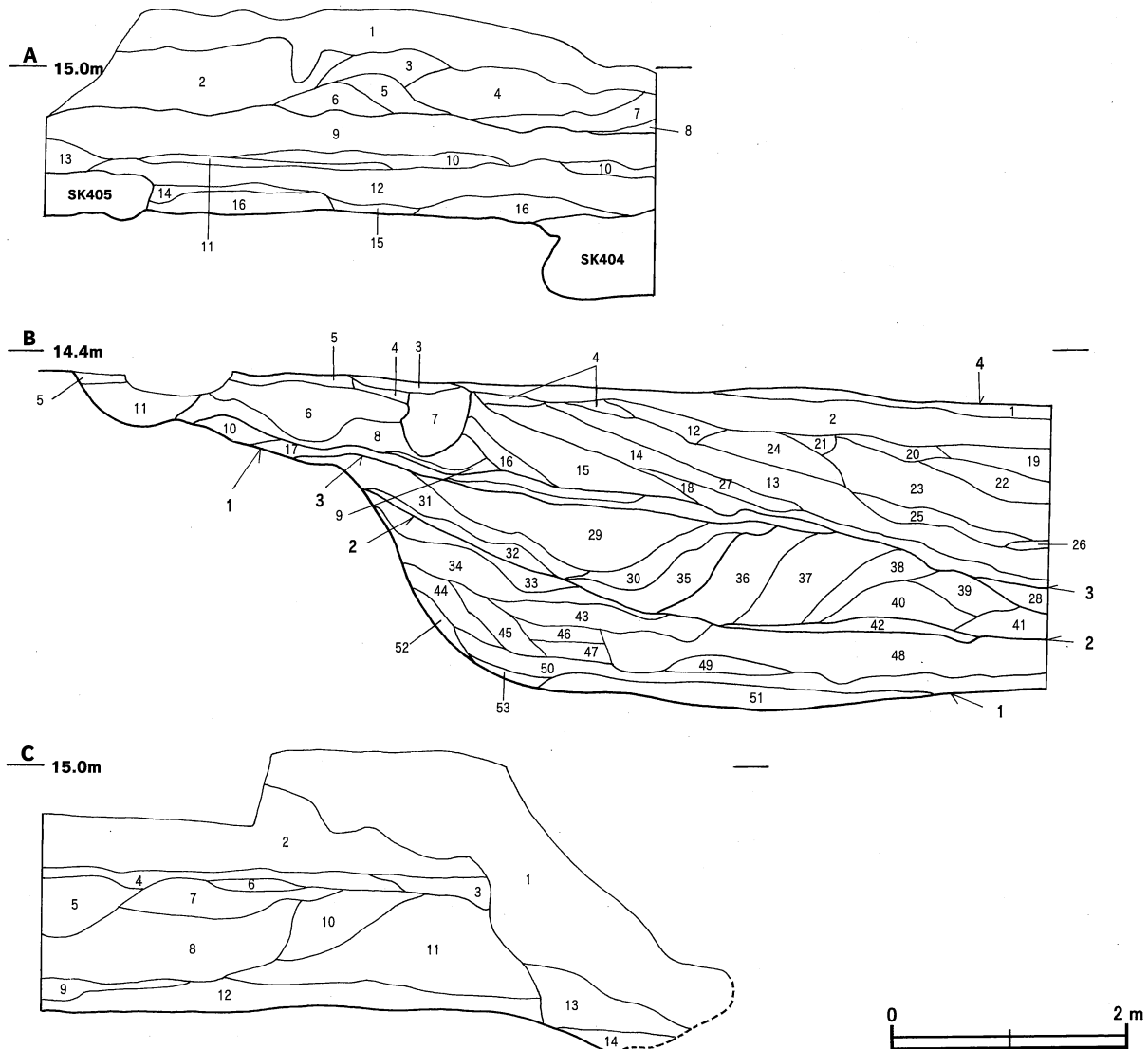
第190図 2号腰曲輪測量・遺構配置図

東側の構築状況 2か所にトレンチを設定し、構築状況を観察した。基本的には北側は地山を削平し、南側は地業を行って平坦部を造成している。A-A' は土塁の痕跡を調査するために設定した。3～6層は土塁の基底部の層と考えられ、9～16層を版築状に積み上げたのちに粘土を含む層を用いて築造し、土砂を積み上げる過程で第404・405号土坑が構築されている。

B-B' では約2.6m掘り下げて観察した。1のラインはトレンチの最も下層の面で、底面は砂質粘土層からなり、地山と考えられる。トレンチの南北では底面の高さが異なり、約2.6mほどの段差で南側が低く、壁面は外傾して立ち上がる。この段差が旧地形か、築城工事で造成されたものかは確認できなかった。36～41層は粘性・しまりが強く、蒲鉾状に積み上げられていることから、2のラインを基底部として構築された土塁の跡と思われる。その後、3のラインまで埋め立て、最終的には4のラインまで土砂を積み上げて平坦部を拡張している。

土層解説 (A-A')

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 3 褐灰色 粘土粒子少量。 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量。 | 4 褐灰色 粘土粒子中量、炭化粒子少量。しまり強。 |



第191図 2号腰曲輪地業層実測図

- 5 におい赤褐色 砂粒多量。
- 6 灰褐色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。
- 7 灰褐色 粘土粒子中量。しまり強。
- 8 褐色 炭化粒子微量。
- 9 暗褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量。
- 10 褐灰色 ロームブロック・粘土ブロック中量。

- 11 褐色 粘土粒子・炭化粒子少量。粘性・しまり強。
- 12 暗褐色 粘土粒子・炭化粒子中量。しまり強。
- 13 暗褐色 粘土粒子少量，炭化粒子微量。
- 14 黒色 炭化物中量，焼土ブロック少量。
- 15 黒褐色 炭化物微量。
- 16 暗褐色 炭化物微量。

土層解説 (B-B')

- 1 褐灰色 粘土ブロック少量，炭化粒子微量。粘性強。
- 2 暗褐色 粘土粒子微量。
- 3 灰褐色 砂質粘土粒子中量。粘性強。
- 4 灰褐色 砂質粘土粒子中量。粘性強。
- 5 におい褐色 砂質粘土粒子多量。粘性強。
- 6 極暗褐色 ローム粒子微量。
- 7 暗褐色 砂質粘土ブロック少量。粘性強。
- 8 褐色 粘土粒子少量。粘性強。
- 9 黒色 白色粒子微量。粘性強。
- 10 褐色 炭化粒子微量。
- 11 灰褐色 砂質粘土ブロック中量。粘性・しまり強。
- 12 暗褐色 粘土粒子微量。粘性強。
- 13 褐色 ロームブロック少量。
- 14 黒褐色 白色粒子少量。
- 15 黒色 炭化物多量，焼土粒子微量。粘性・しまり強。
- 16 黒褐色 焼土粒子微量。
- 17 暗褐色 ローム粒子少量。粘性強。
- 18 暗褐色 ローム粒子多量，粘土粒子微量。
- 19 暗褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量。
- 20 褐色 粘土ブロック微量。粘性強。
- 21 暗褐色 ロームブロック微量。
- 22 褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック微量。
- 23 褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量。粘性強。
- 24 灰黄褐色 ローム粒子微量。
- 25 褐灰色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量。
- 26 黒褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。

- 27 灰褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。
- 28 灰褐色 砂粒中量。
- 29 黒色 焼土粒子微量。
- 30 黒色 ローム粒子微量。
- 31 黒褐色 ローム粒子微量。
- 32 におい黄褐色 白色粒子中量。粘性強。
- 33 におい黄褐色 砂粒多量。
- 34 黒褐色 ローム粒子少量。粘性強。
- 35 暗オリーブ色 白色粒子少量。粘性強。
- 36 褐色 白色粒子少量。粘性・しまり強。
- 37 オリーブ褐色 砂粒少量。粘性・しまり強。
- 38 暗オリーブ褐色 砂粒中量。
- 39 オリーブ褐色 ローム粒子中量。粘性・しまり強。
- 40 オリーブ褐色 砂粒少量。
- 41 黄褐色 砂粒微量。粘性強。
- 42 におい黄褐色 砂粒少量。粘性・しまり強。
- 43 暗褐色 ローム粒子微量。
- 44 オリーブ褐色 砂粒少量。しまり弱。
- 45 褐色 砂粒少量。
- 46 灰褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。
- 47 褐色 砂粒少量。
- 48 黒褐色 赤色粒子微量。しまり強。
- 49 黒褐色 炭化粒子微量。
- 50 暗オリーブ色 砂粒少量。粘性・しまり強。
- 51 オリーブ褐色 砂粒少量。粘性強。
- 52 オリーブ褐色 粘土粒子・炭化粒子微量。
- 53 暗灰黄色 砂粒微量。

西側の構築状況 C-C' は、中央部に見られる削平の状況を観察するために設定した。14層は本跡の構築土と考えられるのに対し、13層は崩落土で、3・11・12層の東側の状況などから本跡に見られる削平は構築後に行われた可能性がある。

土層解説 (C-C')

- 1 褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 炭化粒子微量。
- 3 黒褐色 炭化物微量。
- 4 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量。粘性強。
- 5 暗褐色 炭化物少量，粘土ブロック微量。粘性強。
- 6 灰オリーブ色 砂質粘土粒子中量。粘性強。
- 7 灰オリーブ色 粘土粒子微量。粘性・しまり弱。

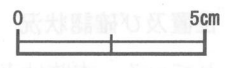
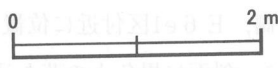
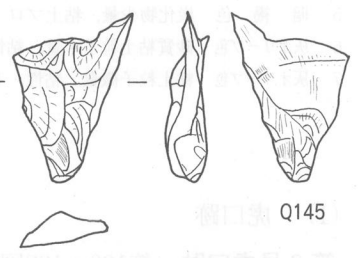
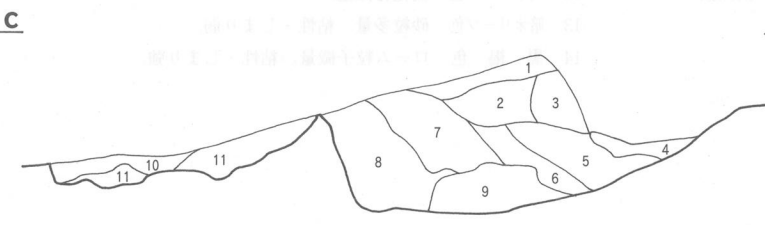
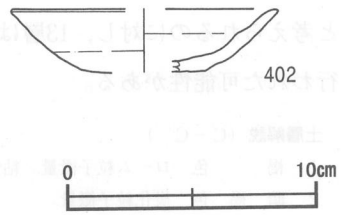
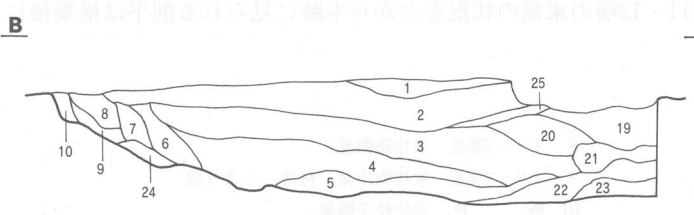
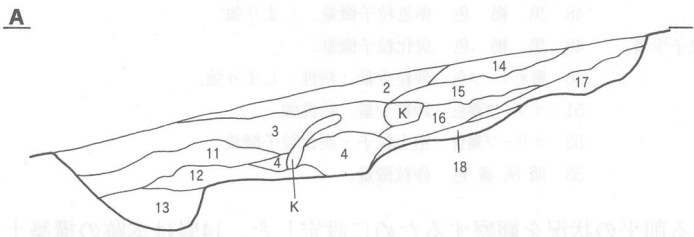
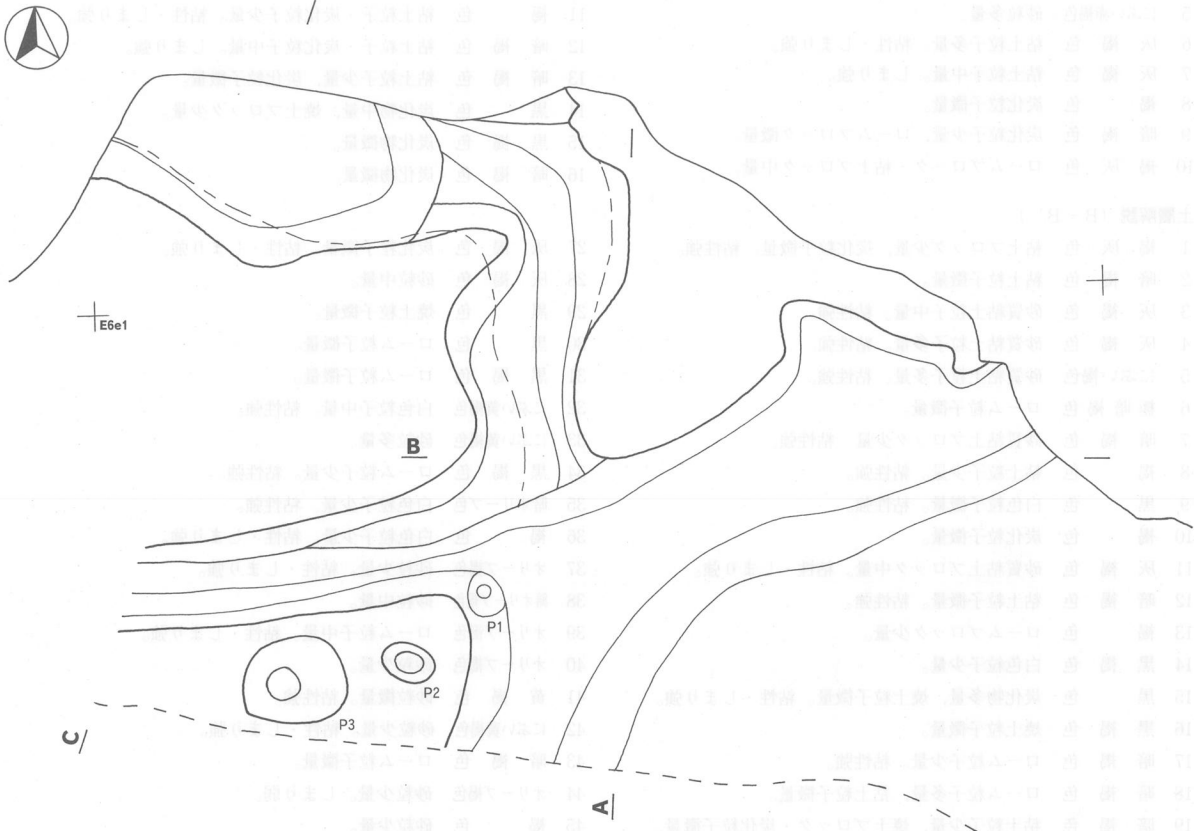
- 8 オリーブ黒色 炭化物微量。
- 9 オリーブ黒色 炭化物中量。粘性・しまり強。
- 10 灰色 炭化粒子微量。
- 11 暗オリーブ色 ローム粒子少量。粘性弱。
- 12 灰オリーブ色 炭化物微量。
- 13 暗オリーブ色 砂粒多量。粘性・しまり弱。
- 14 黒褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。

(1) 虎口跡

第3号虎口跡 (第190・192図)

位置及び確認状況 2号腰曲輪の東側，E 6 e1区付近に位置し，本跡の上方には第8～10号虎口跡が構築されている。本跡は表土を除去した際に，斜面に黒色土の落ち込みが見られたことから遺構の存在を確認した。

規模及び形状 本跡の上方にII郭からの進入路を設置したため，南側部分を調査した。本跡は溝状で，北側は



第192図 第3号虎口跡・出土遺物実測図

調査区域外に延びる。規模は長さ5.3m, 上幅0.82~1.02m, 下幅0.12~0.48m, 深さ0.65~0.99mで, 断面は逆台形である。溝底は踏み固められており, 南側の平坦部に向かって高さ20~29cmの段差がみられる。また溝の南西にはP1~P3があり, 深さは16~18cmであるが, これらのピットの性格は不明である。主軸はN-2°-Wを指し, 途中左折してN-76°-Wを指すと思われる。

覆土及び構築状況 A-A', B-B' で覆土の堆積状況を観察した。1・2層は斜面から流れ込んだ土層と思われるもので, それより下層はロームブロック・粘土ブロックを含む層が多く, 人為堆積と思われる。18層など底面付近の土層は, 本跡の使用時に堆積した可能性がある。本跡の東側は地山を掘り込んで構築されているが, B-B' の8~10層は緻密で堅く, 西側は人為的に突き固めて構築されたことが推測された。そのため, C-C' にバルトを設定し, 西壁の構築状況を観察した。C-C' の10・11層は斜面から流れ込んだ土層である。1~9層は含有物をあまり含まないものの, 粘性・しまりが強く突き固められ, 地山を掘り下げた上で地業が行われている。

土層解説 (A-A', B-B')

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黄褐色 砂粒多量。しまり弱。 | 13 暗褐色 炭化粒子微量。粘性強。 |
| 2 褐色 粘土粒子微量。 | 14 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量。 |
| 3 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子微量。 | 15 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量。粘性強。 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。 | 16 褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量。粘性強。 |
| 5 褐灰色 粘土粒子中量。粘性強。 | 17 灰褐色 粘土ブロック微量。粘性強。 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量。 | 18 黒褐色 砂粒少量。粘性強。 |
| 7 オリーブ褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 19 暗オリーブ褐色 白色粒子微量。 |
| 8 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 20 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量。粘性強。 |
| 9 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。粘性・しまり強。 | 21 オリーブ褐色 砂粒多量。しまり強。 |
| 10 オリーブ褐色 ロームブロック微量。粘性強。 | 22 オリーブ褐色 粘土粒子微量。粘性強。 |
| 11 暗褐色 炭化物微量。 | 23 オリーブ褐色 粘土粒子少量。 |
| 12 暗オリーブ褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 24 オリーブ褐色 ローム粒子微量。 |
| | 25 暗褐色 粘土粒子微量。 |

土層解説 (C-C')

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量。粘性・しまり強。 | 7 褐色 炭化粒子中量。粘性・しまり強。 |
| 2 褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 8 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。 |
| 3 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | 9 褐色 砂粒微量。粘性・しまり強。 |
| 4 暗赤褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり強。 | 10 黒褐色 ローム粒子微量。 |
| 5 にぶい橙褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 | 11 暗褐色 砂粒ブロック微量。 |
| 6 暗褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。 | |

遺物出土状況 土師器片7点(口縁部1, 体部6), 埴輪片1点, 須恵器片1点(体部1), 土師質土器片11点(口縁部3, 体部5, 底部3), 石器片1点(不明1)が出土しており, 土師器片, 須恵器片, 埴輪片, 石器片は本跡の覆土に混入したものである。第192図P401・402も覆土中からの出土であり, 本跡に流れ込んだものと思われる。

所見 本跡はL字状に曲がり, 底面に踏み固められた跡が見られることから, 第8~10号虎口跡に対応する虎口跡と思われる。また本跡の西側で見られた地業は, 虎口の内側を外部から見通せないように設けられた小規模な土塁の可能性があり, 本跡の時期は, 出土した遺物などから15~16世紀頃と思われる。

第3号虎口跡出土遺物観察表(第192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P401	土師質土器	かわらけ	[7.6]	2.0	4.0	白色粒子・雲母	黒色	良	内外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	覆土中	75% PL76
P402	土師質土器	かわらけ	[10.5]	2.5	[5.0]	白色粒子・赤色粒子・雲母	浅黄橙色	普通	内外面ロクロナデ, 底部摩滅のため不明	覆土中	25%

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
Q145	剥片	4.4	3.0	1.0	6.6	玉随		

第6号虎口跡 (第190・193図)

位置及び確認状況 2号腰曲輪の西側，E 5g2区付近に位置している。本跡は2号腰曲輪北側の斜面を精査した際，その断面部から確認された。本跡の西側に第7号虎口跡，第3号基壇が構築されている。

規模及び形状 崩落の危険があるため，断面の観察に留まった。規模は上幅1.80m，下幅0.92m，深さ0.32mで，断面は逆台形である。底面は踏み固められて硬化している。

覆土 1層は表土層で，2層は崩落土と思われる。本跡に伴う土層は3～5層で，粘土を含む土層が多いことから人為堆積と思われる。本跡は6層を掘り込み，第7号虎口跡の上面に6層が堆積しているために，本跡の方が新しいと考えられる。

第6・7号虎口跡土層解説 (F-F')

- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 白色粒子微量。粘性・しまり弱。 | 7 褐色 砂粒少量。 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量。粘性・しまり弱。 | 8 褐色 粘土粒子中量，ロームブロック微量。粘性・しまり弱。 |
| 3 灰褐色 粘土ブロック少量。 | 9 褐灰色 粘土粒子中量，ロームブロック微量。 |
| 4 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量。 | 10 暗褐色 ロームブロック中量。しまり弱。 |
| 5 褐色 炭化物・粘土粒子微量。 | 11 暗褐色 白色粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 6 褐色 ローム粒子微量。 | |

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は現況でII郭の第41号墳付近に見られる通路に対応し，底面が踏み固められていることから虎口跡と考えられる。本跡の時期は，第3号基壇との関係などから中世末頃と考えられ，土層堆積状況から第7号虎口跡より新しいと思われる。

第7号虎口跡 (第190・193図)

位置及び確認状況 2号腰曲輪の西側，E 5g1区付近に位置している。本跡は2号腰曲輪北側の斜面を精査した際，その断面部から確認された。本跡の東側に第6号虎口跡，南側に第3号基壇が構築されている。

規模及び形状 崩落の危険があるため，断面の観察に留まった。規模は上幅0.95m，下幅0.45m，深さ0.76mで，断面はU字形である。底面は踏み固められて硬化している。

覆土 本跡に伴う土層は9・10層で，ロームブロック・粘土ブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

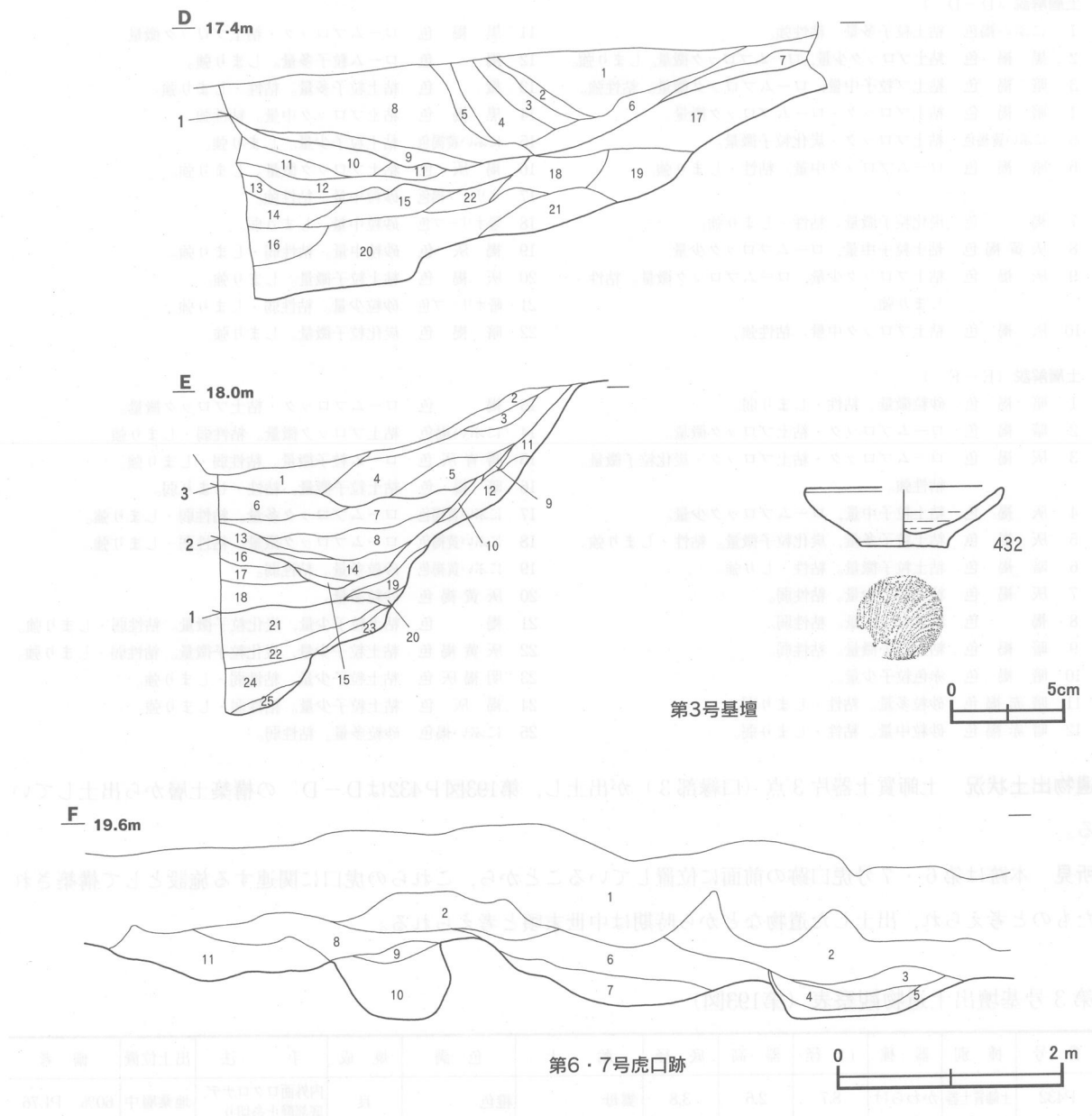
遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は現況でII郭の第41号墳付近に見られる通路に対応し，底面が踏み固められていることから虎口跡と考えられる。本跡の時期は，第3号基壇との関係などから中世末頃で，土層堆積状況から第6号虎口跡より古いと思われる。

(2) 基壇

第3号基壇 (第190・193図)

位置 2号腰曲輪の西部，E 5g2区付近に構築されている。本跡の北側斜面に第6・7号虎口跡が構築されている。



第193図 第6・7号虎口跡実測図，第3号基壇・出土遺物実測図

規模及び形状 現況で，長辺約8m，短辺約7m，高さ約1.5mの台形で，主軸はN-10°-Eを指すと思われる。

構築状況 D-D'，E-E'は，第6・7号虎口跡の前面に設定したトレンチの断面である。D-D'では1のラインまで砂粒を多く含む土層を版築状に積み上げ，その上に粘土ブロック・粘土粒子を含む土層を同じような工程で盛土を施している。1層は第6号虎口跡の正面に，台地斜面と平行して長さ約4.2m，幅約1.7mの範囲に広がり，精選した粘土が使われている。またE-E'では，3のラインまでローム・砂粒を含む土層を版築状に積み上げている。途中，1・2のラインと二つの土層堆積上の境界線が認められるが，これらは工程上の理由によるものと想定され，3のラインの上面に3～5層と粘土を含む土層を積み上げている。この粘土は，第7号虎口跡の前面に台地斜面と平行して長さ約2.5m，幅約1.6mの範囲に広がり，E-E'の1層より夾雑物を含んでいる。

土層解説 (D-D')

- 1 におい褐色 粘土粒子多量。粘性強。
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量。しまり強。
- 3 暗褐色 粘土粒子中量, ロームブロック微量。粘性強。
- 4 暗褐色 粘土ブロック・ロームブロック微量。
- 5 におい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量。
- 6 暗褐色 ロームブロック中量。粘性・しまり強。

- 7 褐色 炭化粒子微量。粘性・しまり強。
- 8 灰黄褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量。
- 9 灰褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量。粘性・しまり強。
- 10 灰褐色 粘土ブロック中量。粘性強。

- 11 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 12 褐色 ローム粒子多量。しまり強。
- 13 橙色 粘土粒子多量。粘性・しまり強。
- 14 黒褐色 粘土ブロック中量。粘性強。
- 15 におい黄褐色 粘土粒子少量。しまり強。
- 16 褐灰色 粘土ブロック微量。しまり強。
- 17 オリーブ褐色 砂粒中量。粘性強。
- 18 暗オリーブ色 砂粒中量。しまり弱。
- 19 褐灰色 砂粒中量。粘性弱・しまり強。
- 20 灰褐色 粘土粒子微量。しまり強。
- 21 暗オリーブ色 砂粒少量。粘性弱・しまり強。
- 22 暗褐色 炭化粒子微量。しまり強。

土層解説 (E-E')

- 1 暗褐色 砂粒微量。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 3 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量。粘性強。
- 4 灰褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量。
- 5 灰褐色 粘土粒子多量, 炭化粒子微量。粘性・しまり強。
- 6 暗褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり強。
- 7 灰褐色 粘土粒子少量。粘性弱。
- 8 褐色 粘土粒子中量。粘性弱。
- 9 暗褐色 粘土粒子微量。粘性弱。
- 10 暗褐色 赤色粒子少量。
- 11 暗赤褐色 砂粒多量。粘性・しまり弱。
- 12 暗赤褐色 砂粒中量。粘性・しまり弱。

- 13 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量。
- 14 におい褐色 粘土ブロック微量。粘性弱・しまり強。
- 15 暗青灰色 ローム粒子微量。粘性弱・しまり強。
- 16 暗褐色 粘土粒子微量。粘性・しまり弱。
- 17 におい黄褐色 ロームブロック多量。粘性弱・しまり強。
- 18 におい黄褐色 ロームブロック微量。粘性弱・しまり強。
- 19 におい黄褐色 砂粒多量。粘性弱。
- 20 灰黄褐色 砂粒多量。
- 21 褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子微量。粘性弱・しまり強。
- 22 灰黄褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子微量。粘性弱・しまり強。
- 23 明褐灰色 粘土粒子少量。粘性弱・しまり強。
- 24 褐灰色 粘土粒子少量。粘性弱・しまり強。
- 25 におい褐色 砂粒多量。粘性弱。

遺物出土状況 土師質土器片3点(口縁部3)が出土し, 第193図P432はD-D'の構築土層から出土している。

所見 本跡は第6・7号虎口跡の前面に位置していることから, これらの虎口に関連する施設として構築されたものと考えられ, 出土した遺物などから時期は中世末頃と考えられる。

第3号基壇出土遺物観察表(第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P432	土師質土器	かわらけ	8.7	2.6	3.8	雲母	橙色	良	内外面口クロナア, 底部静止糸切り	地業層中	60% PL76

(3) 土坑

2号腰曲輪では6基の土坑が確認されている。遺物を有するものは少なく, 性格が不明なものが多い。それらの中から代表的な土坑について記述し, その他は実測図と一覧表に掲載する。

第404号土坑(第194図)

位置 2号腰曲輪の東部, E6g3区に位置しており, 地業層から確認された。本跡の北西に第405号土坑が構築されている。

規模及び形状 本跡の北東部は調査区域外に延びる。規模は径1.16m, 深さ68cmの円形と思われ, 壁面は外傾して立ち上がり, 底面は皿状である。主軸はN-18°-Wを指すと思われる。

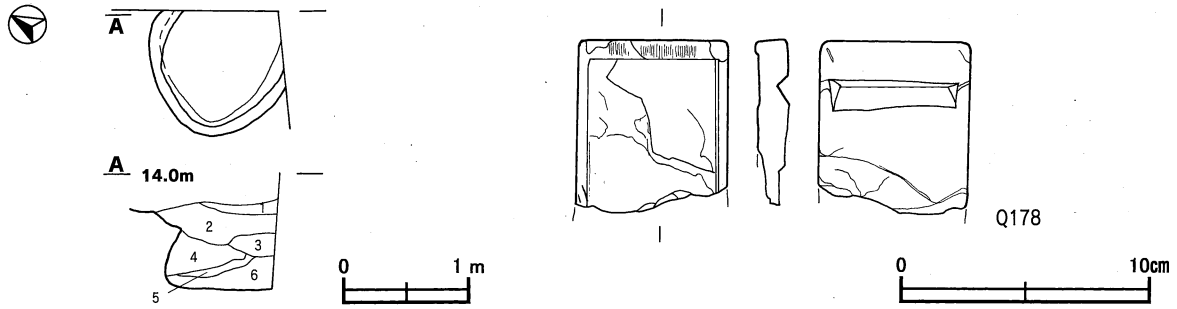
覆土 6層からなる。粘性・しまりが強く, 突き固められている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。 |
| 2 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量。粘性・しまり強。 | 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量。粘性・しまり強。 |
| 3 灰褐色 粘土粒子中量。粘性・しまり強。 | 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック微量。粘性・しまり強。 |

遺物出土状況 土師器片2点(体部2), 石製品片1点(硯片)が本跡の覆土中から出土しており, 埋める際に混入したものと思われる。

所見 本跡の性格は明らかではないが, 地業層中から確認されたことなどから長峰城跡の改変によって埋められたものと考えられる。



第194図 第404号土坑・出土遺物実測図

第404号土坑出土遺物観察表 (第194図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q178	硯片	(6.9)	6.0	1.3	73.8	粘板岩	海部欠	PL78

10 その他の時代の遺構と遺物

当遺跡からは, 縄文~中・近世の遺構のほか, 年代不明の竪穴住居跡1軒および近世以後の遺構として基壇1基, 炭窯跡3基が確認されている。以下, これらの遺構について記述する。

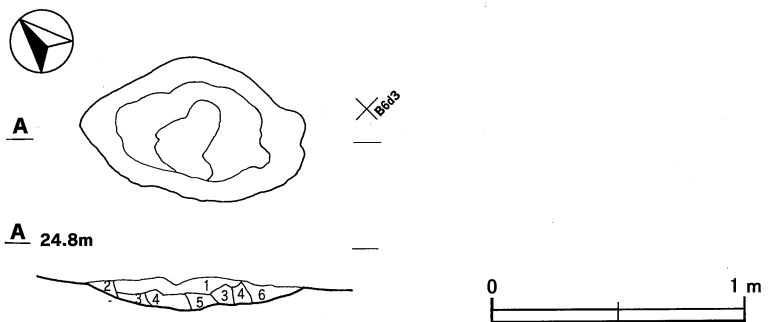
(1) 竪穴住居跡

第126号住居跡 (第195図)

位置及び確認状況 VII郭が形成された台地の東側縁辺部, B 6 c2区に位置している。本跡は表土を除去した際に炉を検出した。若干の硬化面は見られたものの周辺は削平を受けており, 柱穴と思われるピットも確認できなかった。

規模と平面形 炉の周辺のごく一部に硬化面が見られただけで, 規模と形状は不明である。

炉 長径90cm, 短径55cmの楕円形で, 深さ6cmの地床炉である。底面は火熱を受け, 硬化している。



第195図 第126号住居跡実測図

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量。 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量。 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量。 | 6 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。 |

遺物出土状況 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、竪穴住居跡の炉の部分のみが検出されたが、その時期は不明である。

(2) 基壇

第1号基壇 (第196図)

位置及び確認状況 I 郭が形成された台地の南側, D 7 f5区に位置している。本跡の北には第39号墳が構築されている。

重複関係 本跡の上に稲荷神社が鎮座していた。

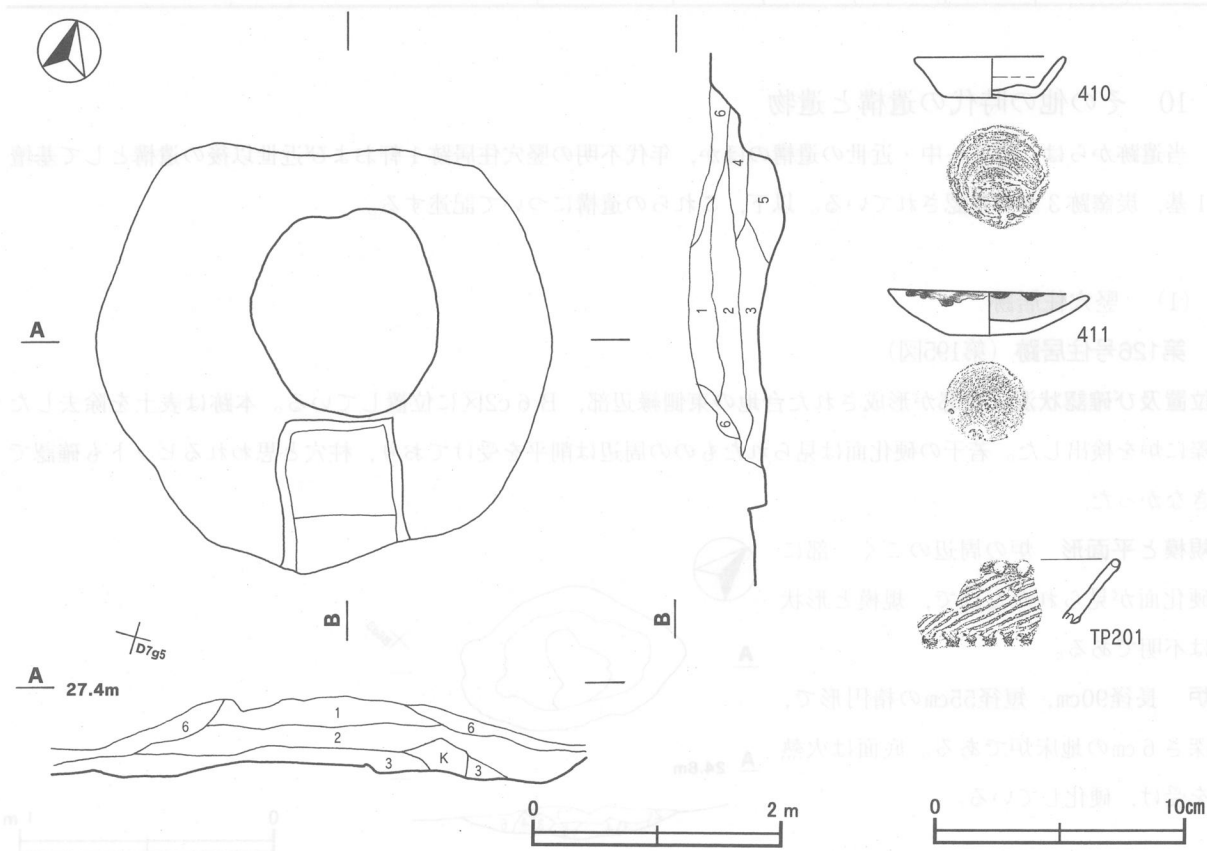
規模及び形状 長軸3.64m, 短軸3.28m, 高さ40cmの隅丸長方形で、主軸はN-16°-Wを指す。

構築状況 6層からなり、突き固められた痕跡は見られない。

土層解説

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子多量。粘性強。 | 4 褐色 ローム粒子少量。 |
| 2 褐色 ロームブロック中量。 | 5 褐色 ローム粒子中量。しまり弱。 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量。 | 6 暗褐色 ローム粒子微量。粘性・しまり弱。 |

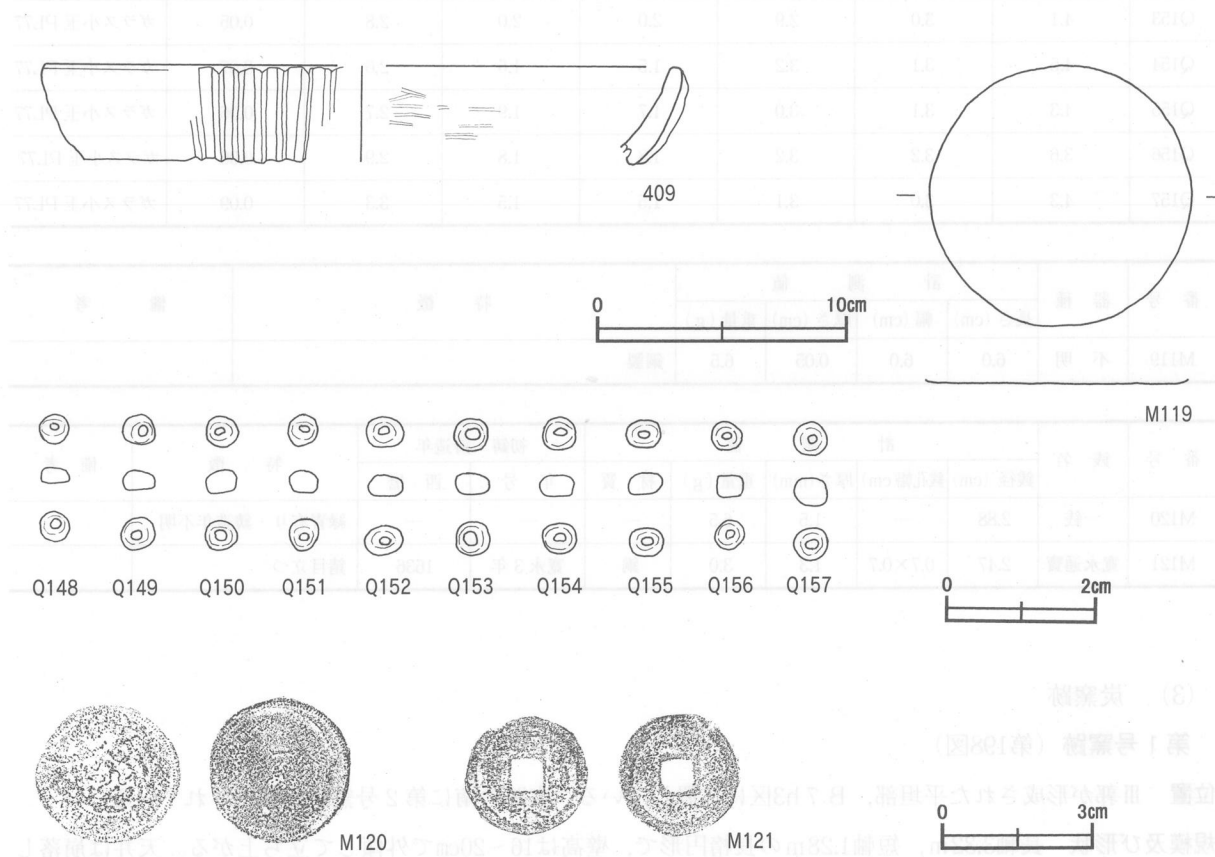
遺物出土状況 縄文土器片1点(口縁部1), 弥生土器片83点(口縁部2, 胴部78, 底部3), 土師器片535点(口縁部16, 体部517, 底部2), 土師質土器片6点(口縁部4, 体部1, 底部1), 陶磁器片8点(口縁部3,



第196図 第1号基壇実測図, 出土遺物実測図(1)

体部3, 底部2), 金属製品1点(不明), 古銭2点(寛永通寶, 一銭), ガラス小玉10点が出土しており, 大半が表土及び構築土中からの出土である。第197図P409は構築土中から, P410・411は表土中からそれぞれ出土している。また, Q148~157は構築土に混入していたガラス小玉で, 背後に位置する第39号墳の主体部に副葬されていたものと思われる。

所見 本跡は稲荷神社の基壇で, ガラス小玉が出土したことで, 第39号墳を破壊していることが明らかとなった。神社には明治22年の棟札があり, 本跡はこの年までに構築されたと考えられる。



第197図 第1号基壇出土遺物実測図(2)

第1号基壇出土遺物観察表(第196・197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P409	土師器	壺	[25.2]	(3.9)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙色	良	内面ミガキ, 棒状浮文を付す	構築土中	10%
P410	土師質土器	かわらけ	6.0	1.6	3.7	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	表土中	80% PL76

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P411	陶器	灯明皿	7.9	1.8	3.3	砂粒	灰色	—	灰色	—	近世カ	表土中	95%

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP201	弥生時代後期	附加条一種附加2条, 口縁部下端・口唇部に刻み目。	構築土中	

番号	計測値							備考
	最大径(mm)	上面径(mm)	下面径(mm)	孔径上(mm)	孔径下(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	
Q148	4.1	3.0	3.0	1.3	1.3	2.5	0.06	ガラス小玉 PL77
Q149	4.0	3.2	3.2	1.1	1.0	2.0	0.05	ガラス小玉 PL77
Q150	4.3	3.2	3.4	1.5	1.6	2.8	0.07	ガラス小玉 PL77
Q151	3.8	2.5	2.5	1.5	1.5	2.7	0.06	ガラス小玉 PL77
Q152	4.6	2.8	2.8	1.9	1.9	2.9	0.07	ガラス小玉 PL77
Q153	4.1	3.0	2.9	2.0	2.0	2.8	0.05	ガラス小玉 PL77
Q154	4.5	3.1	3.2	1.5	1.6	2.6	0.07	ガラス小玉 PL77
Q155	4.3	3.1	3.0	1.7	1.9	2.7	0.06	ガラス小玉 PL77
Q156	3.6	3.2	3.2	1.8	1.8	2.9	0.06	ガラス小玉 PL77
Q157	4.3	3.0	3.1	1.5	1.5	3.3	0.09	ガラス小玉 PL77

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M119	不明	6.0	6.0	0.05	6.5	銅製	

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M120	一銭	2.88	—	1.5	6.5	—	—	—	緑青有り・鑄造年不明	
M121	寛永通寶	2.47	0.7×0.7	1.3	3.0	銅	寛永3年	1636	錆目立つ	

(3) 炭窯跡

第1号窯跡 (第198図)

位置 Ⅲ郭が形成された平坦部，B 7 h3区に位置している。本跡の南に第2号窯跡が構築されている。

規模及び形状 長軸3.32m，短軸1.28mの長楕円形で，壁高は16～20cmで外傾して立ち上がる。天井は崩落しており，焚き口及び煙道も残存していない。主軸はN-40°-Eを指す。

覆土 8層からなる。5層は底面，6～7層は窯壁及び天井部の土層と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量。粘性弱，しまり強。 | 6 におい黄褐色 粘土粒子多量，炭化粒子少量。粘性・しまり強。 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量。粘性強。 | 7 におい黄褐色 粘土ブロック中量，炭化物少量。粘性・しまり強。 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック中量，炭化物少量。粘性・しまり強。 | 8 におい黄褐色 粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，炭化材微量。 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子少量。 | 粘性弱，しまり強。 |
| 5 暗赤褐色 炭化材・焼土ブロック中量，粘土ブロック少量。 | |
| 粘性・しまり強。 | |

遺物出土状況 本跡に伴うと思われる遺物は出土していない。

所見 本跡は炭窯で，時期は第2号窯跡の主軸とほぼ一致することから，近世以降と考えられる。

第2号窯跡 (第198図)

位置 Ⅲ郭が形成された平坦部，B 7 i4区に位置している。本跡の北に第1号窯跡が構築されている。

規模及び形状 長軸4.92m，短軸1.62mの長楕円形で，壁高は12～28cmで外傾して立ち上がる。天井は崩落しており，焚き口及び煙道も残存していない。主軸はN-39°-Eを指す。

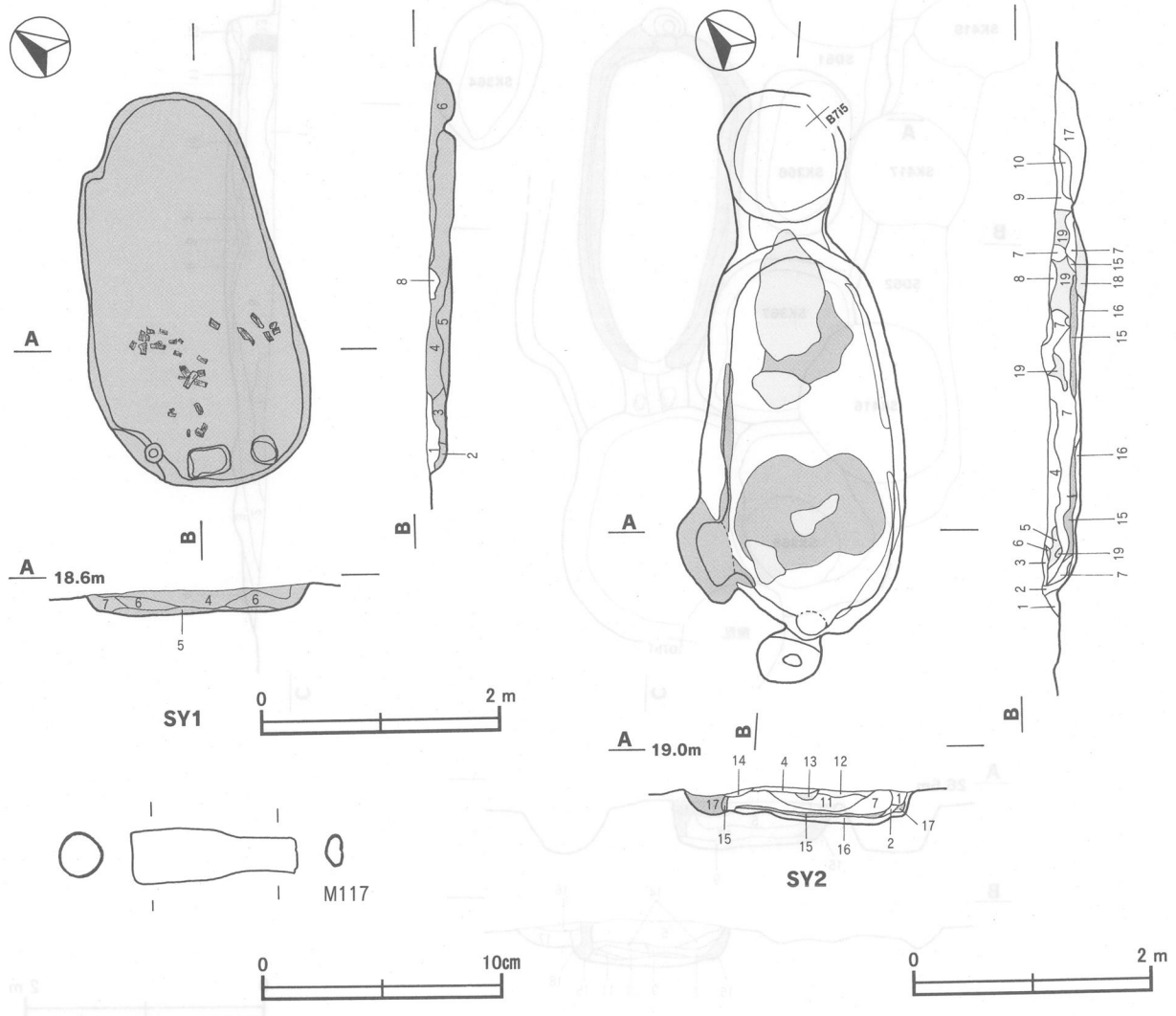
覆土 19層からなる。7・19層は焼土ブロック塊を含むことから崩落した窯体部で、15層は窯跡の底面、16・17層は掘方の土層と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量。しまり強。 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・灰粒子少量。粘性弱。 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子・粘土粒子微量。粘性弱。 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック中量, 灰粒子少量, 炭化材微量。粘性弱。 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量。 | 11 暗赤褐色 | 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック・灰粒子少量。粘性弱。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量。しまり強。 | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 粘土ブロック少量。しまり強。 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化材・粘土ブロック少量。粘性強。 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 灰粒子中量。 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化材・粘土ブロック少量。 | 14 暗赤褐色 | 炭化物多量, 焼土ブロック・灰粒子中量。 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, 灰粒子少量。 | 15 黒色 | 炭化物多量, 焼土粒子中量。しまり強。 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物・灰粒子中量。粘性弱, しまり強。 | 16 暗赤褐色 | 粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量。粘性強。 |
| | | 17 暗褐色 | 炭化物・粘土ブロック中量, 焼土粒子少量。粘性強。 |
| | | 18 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量。 |
| | | 19 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量。 |

遺物出土状況 第198図M117(煙管)は、覆土中から出土している。

所見 本跡は炭窯跡で、時期は出土した遺物などから近世以降と考えられる。



第198図 第1・2号窯跡実測図

第2号窯跡出土遺物観察表 (第198図)

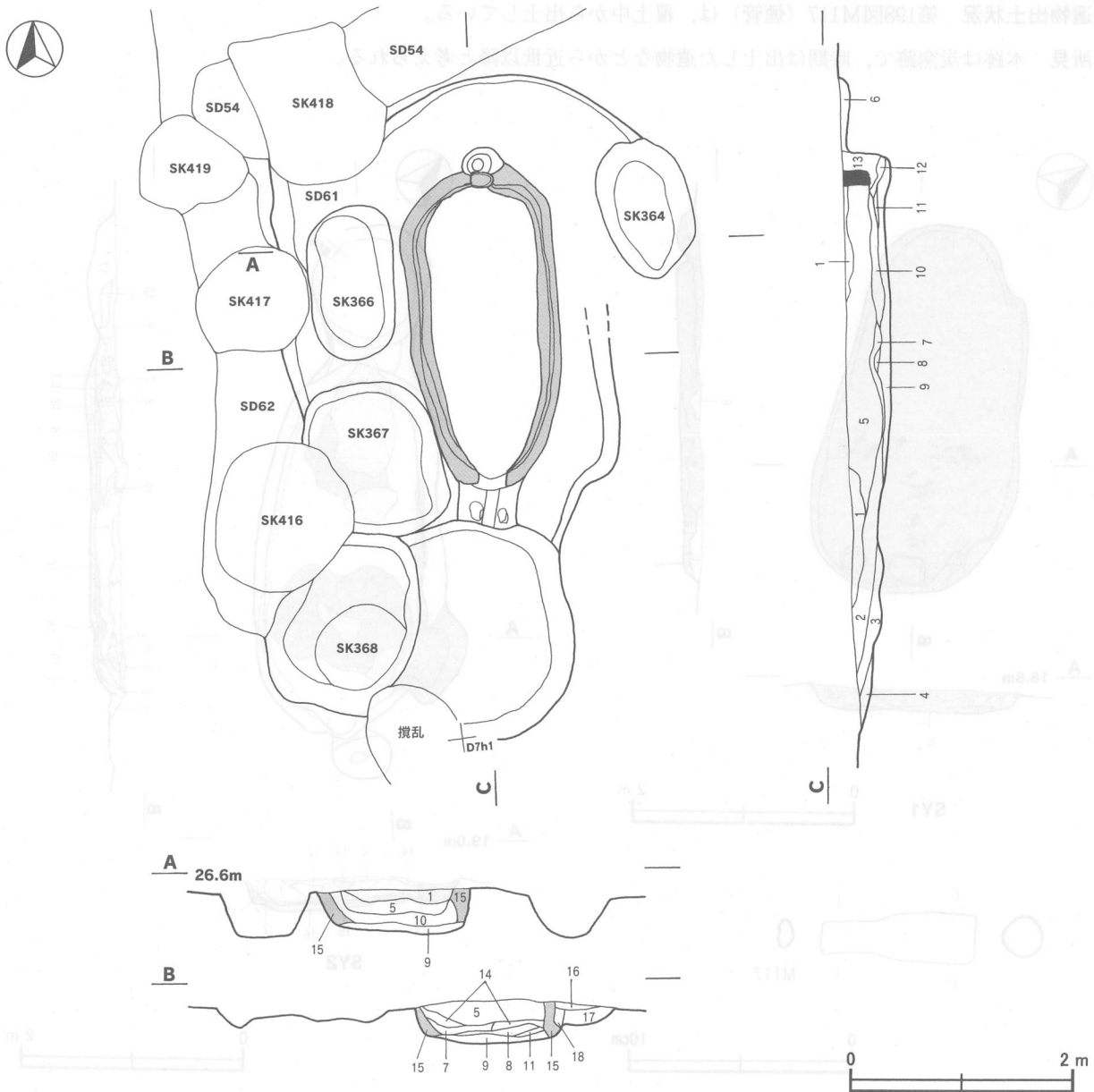
番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
M117	煙管	4.6	1.4	1.4	8.9	吸い口, 銀製カ	PL79

第3号窯跡 (第199図)

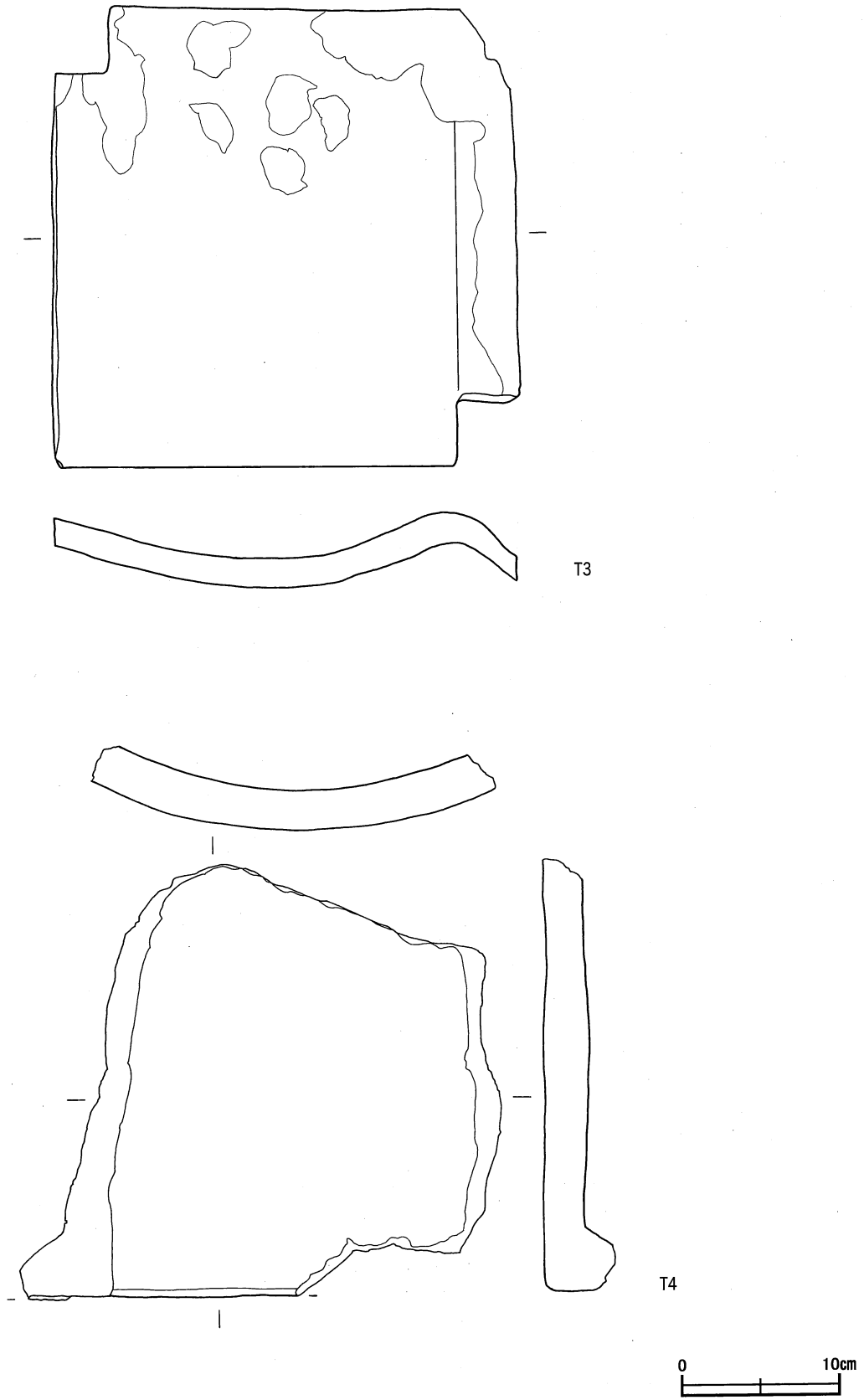
位置 I 郭が形成された台地の中央部, D 7g1区付近に位置している。

重複関係 第61号溝跡, 第364・366~368号土坑と重複している。

規模及び形状 長軸2.86m, 短軸1.24mの楕円形で, 壁高は36~38cmでほぼ垂直に立ち上がる。天井部は削平され, 南側には焚き口が現存し, 長辺1.98m, 短辺1.38mの長方形で, 深さ12~22cmである。また, 北側には径28cm, 深さ43cmの煙道を設けている。主軸はN-5°-Eを指す。



第199図 第3号窯跡実測図



第200図 第3号窯跡出土遺物実測図

覆土 18層からなる。15層は粘土を使用した窯壁で、10層は掘方の土層と考えられる。天井部と思われる土層は確認されない。

土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量。 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量。炭化物微量。 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土ブロック・炭化材微量。粘性弱。 | 10 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化材微量。粘性・しまり弱。 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量。 | 11 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量。粘性・しまり弱。 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量。 | 12 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量。しまり弱。 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化材多量、粘土ブロック中量。粘性・しまり弱。 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量。 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量。 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量。しまり弱。 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化材微量。 | 15 灰白色 | 粘土粒子多量。粘性強。 |
| 8 赤褐色 | 焼土ブロック多量。 | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量。 |
| | | 17 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量。 |
| | | 18 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量。 |

遺物出土状況 土師器片2点(体部2), 土師質土器片1点(底部1), 陶磁器片3点(口縁部1, 体部2), 瓦片2点が出土しており, 土師器片, 土師質土器片, 陶磁器片は, 本跡の覆土に混入したものである。第200図T3・4は覆土中から出土し, 被熱している。

所見 本跡は炭窯跡で, 時期は出土した遺物などから, 近世以降と考えられる。

第3号窯跡出土遺物観察表(第200図)

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
T3	軒瓦	28.5	29.0	1.8	2390		60%
T4	棧瓦	27.1	29.8	3.9	2510		100%

12 遺構外出土遺物

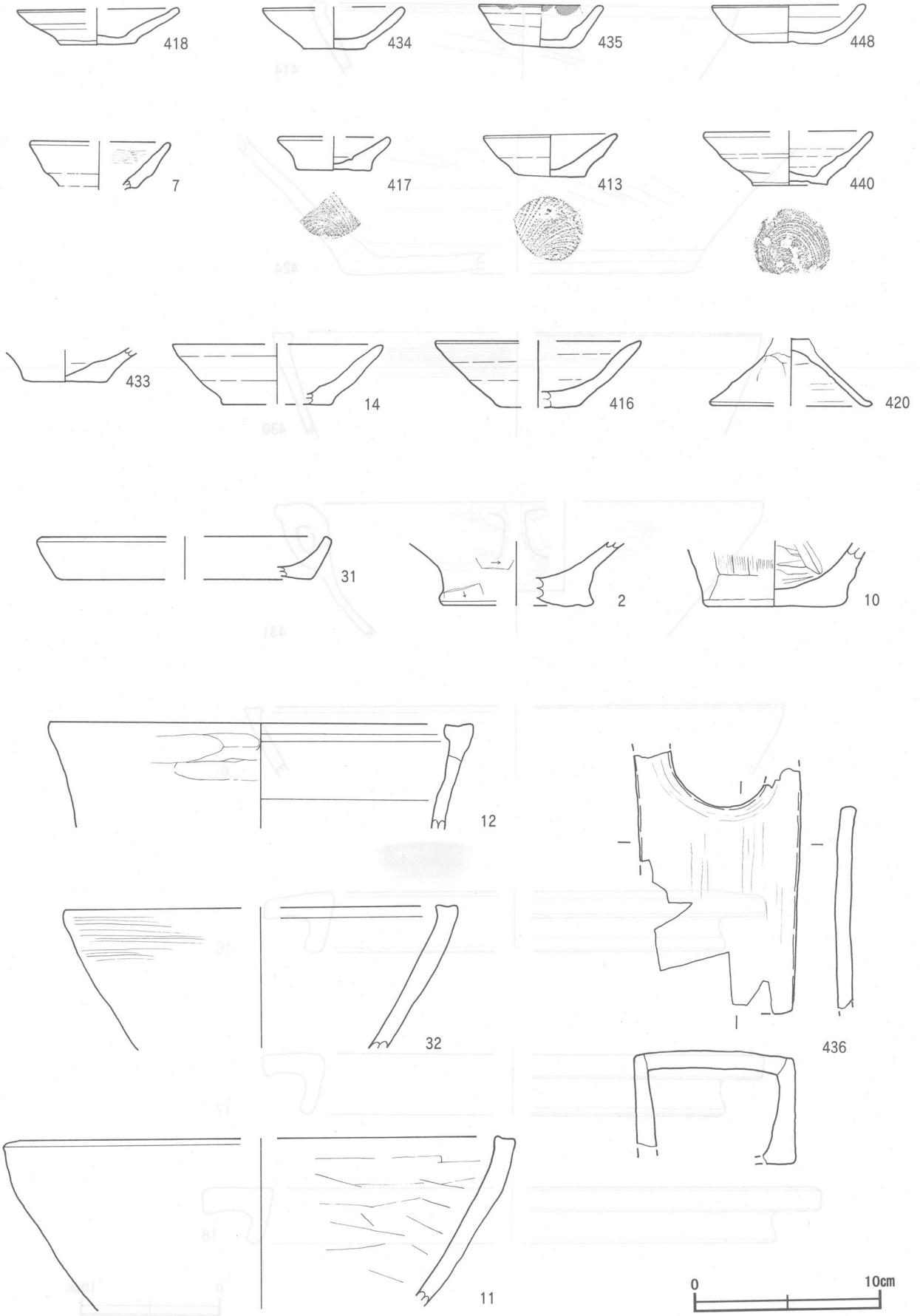
今回の調査で, 遺構に伴わない土器・陶磁器・埴輪・土製品・石器・石製品・鉄製品・古銭などが出土している。ここでは, これらの中から土師質土器・陶磁器・土製品・石製品・古銭について解説し, その他については実測図及び観察表で一括して報告する。

第201図P435のかわらけは口縁部に油煙が付着し, 灯明皿に転用されている。第202図P16~P18, 第203図P19~P21・P425は土師質の鏝で, P16には棒状工具によるヘラ書きが施されている。第201図P436は風口と考えられる破片で, 焼成前に復元径約6cmの孔があげられている。

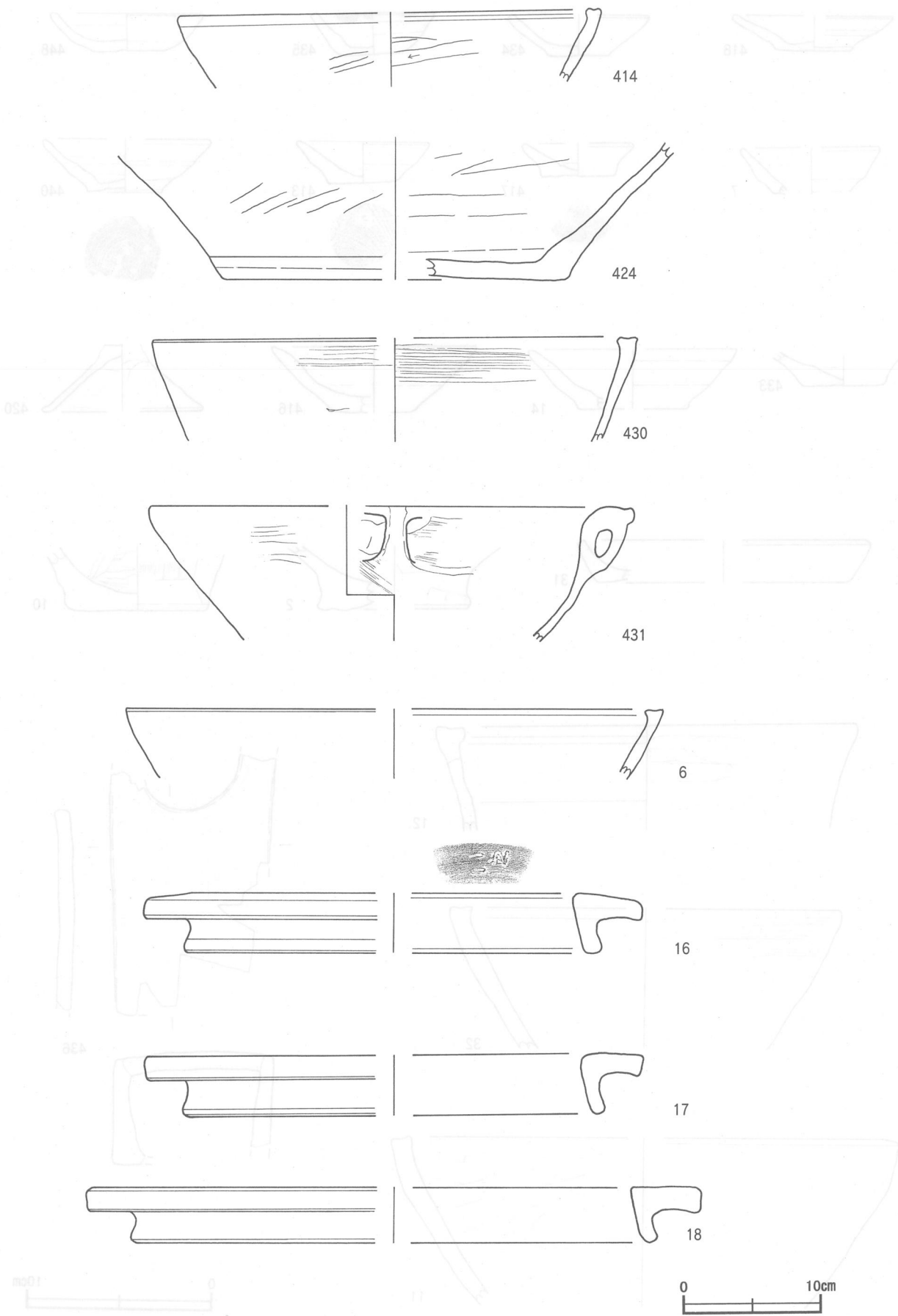
第204図P426~P428の小杯は1号腰曲輪から出土し, 仏具の可能性はある。P33は古瀬戸の仏花瓶で, 城内での信仰に関係する遺物である。T P208の土製品は八角形を呈し, 表面に粘土を貼り付けて人物と草花を浮き彫りで表現し, 彩色した跡が認められる。人物の下に当たる面には粘土を貼り付けた痕跡があり, 本来は浮き彫りの面を立てて使用したと想定されるが, その性格は不明である。

第206図Q173は節理に沿って剥離した粘板岩製の硯の破片である。第207図Q177は安山岩製の石臼で, 表面には方向を変えて溝を設け, 裏面に鑿の加工痕が認められる。

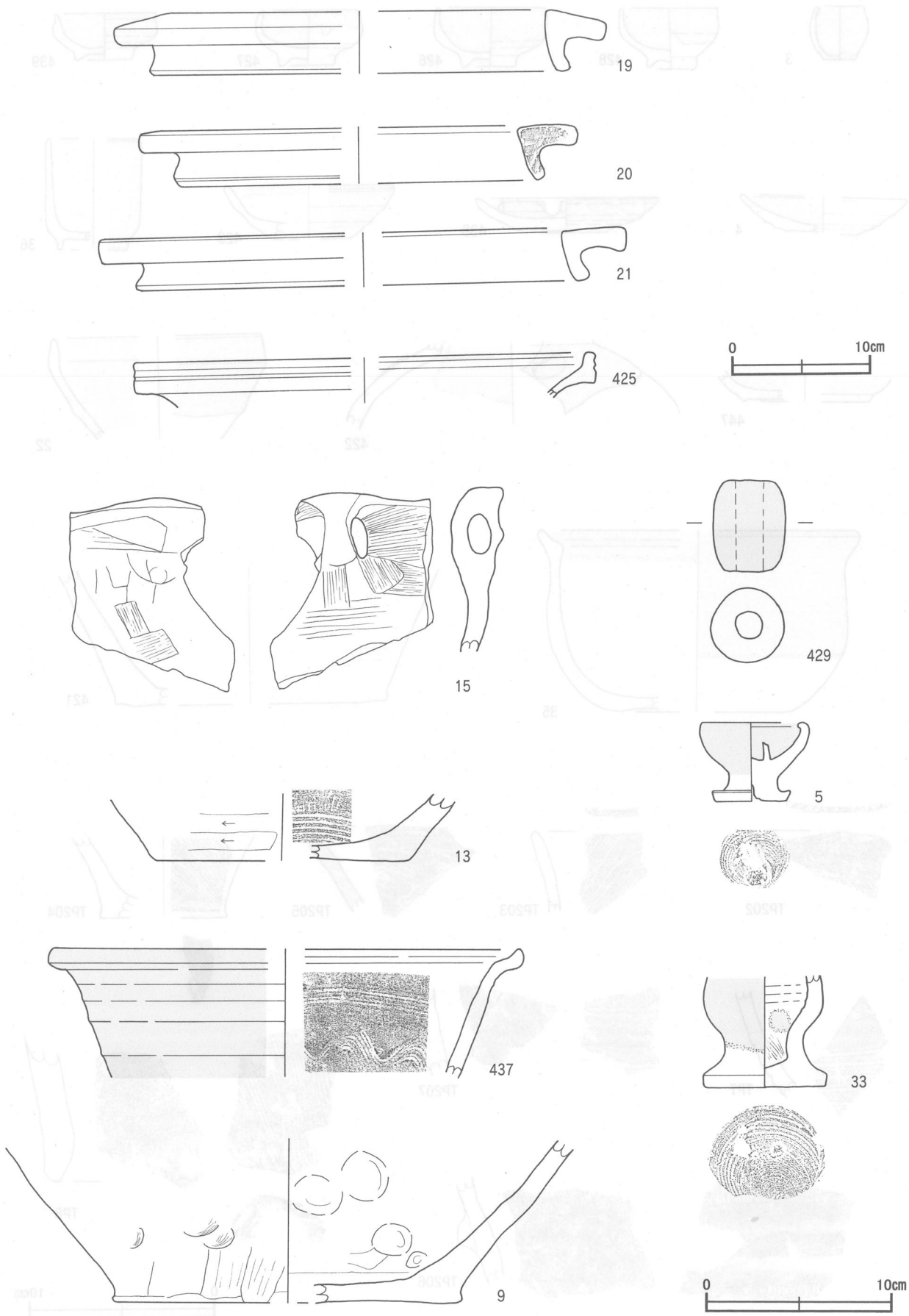
第208図M124の開元通寶はV郭から出土しており, 土坑群に関係する遺物と考えられる。



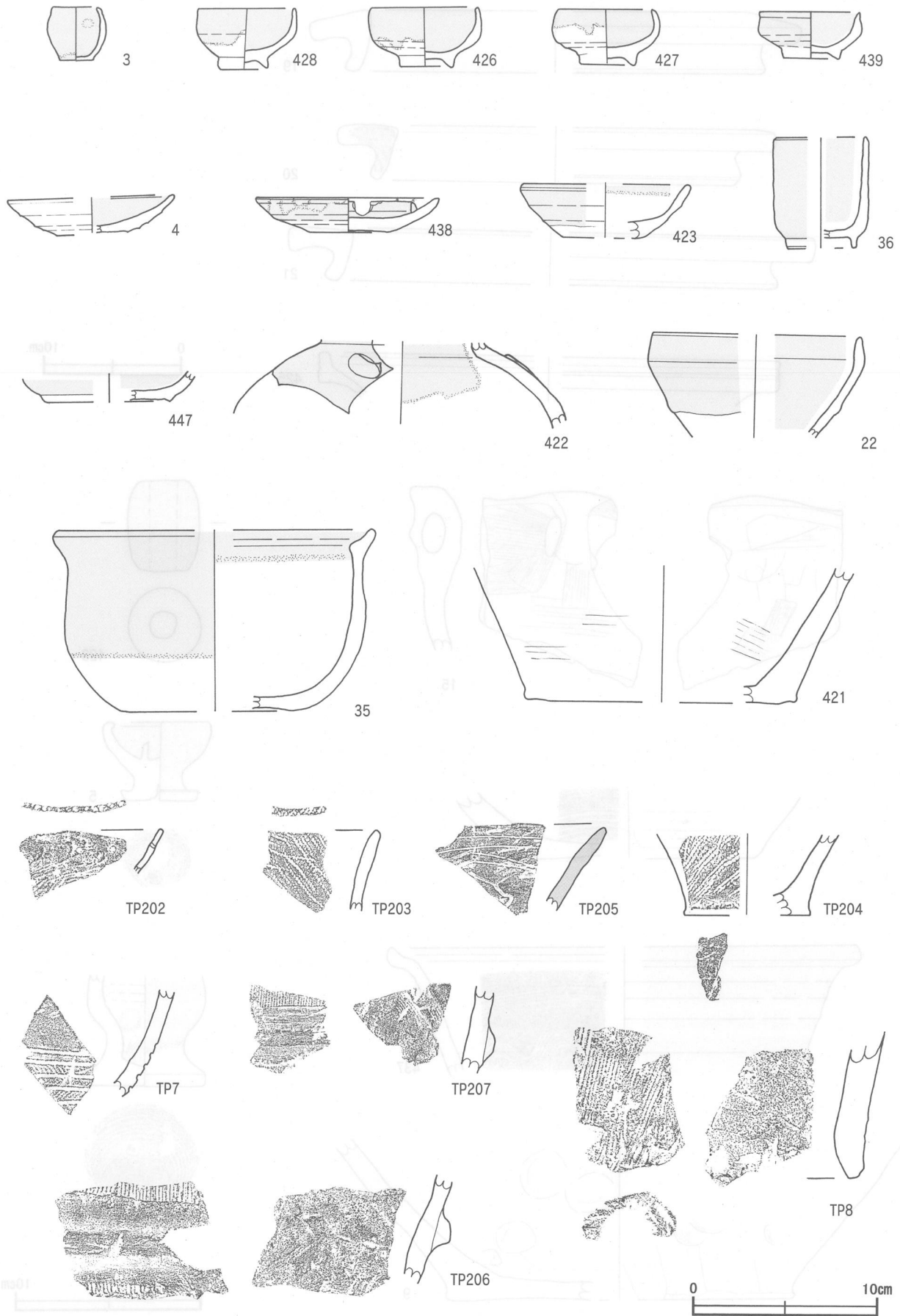
第201图 遺構外出土遺物実測図(1)



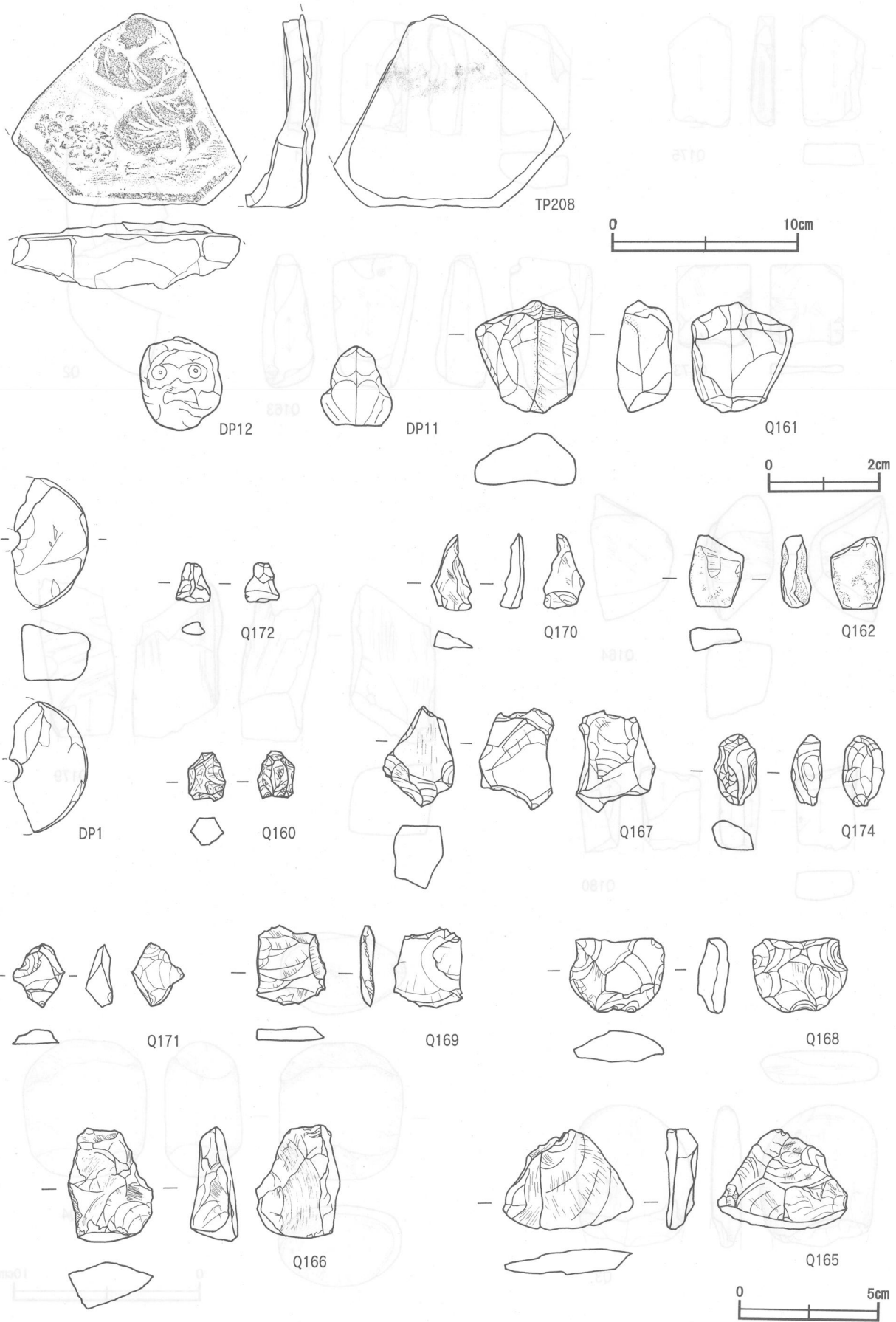
第202図 遺構外出土遺物実測図(2)



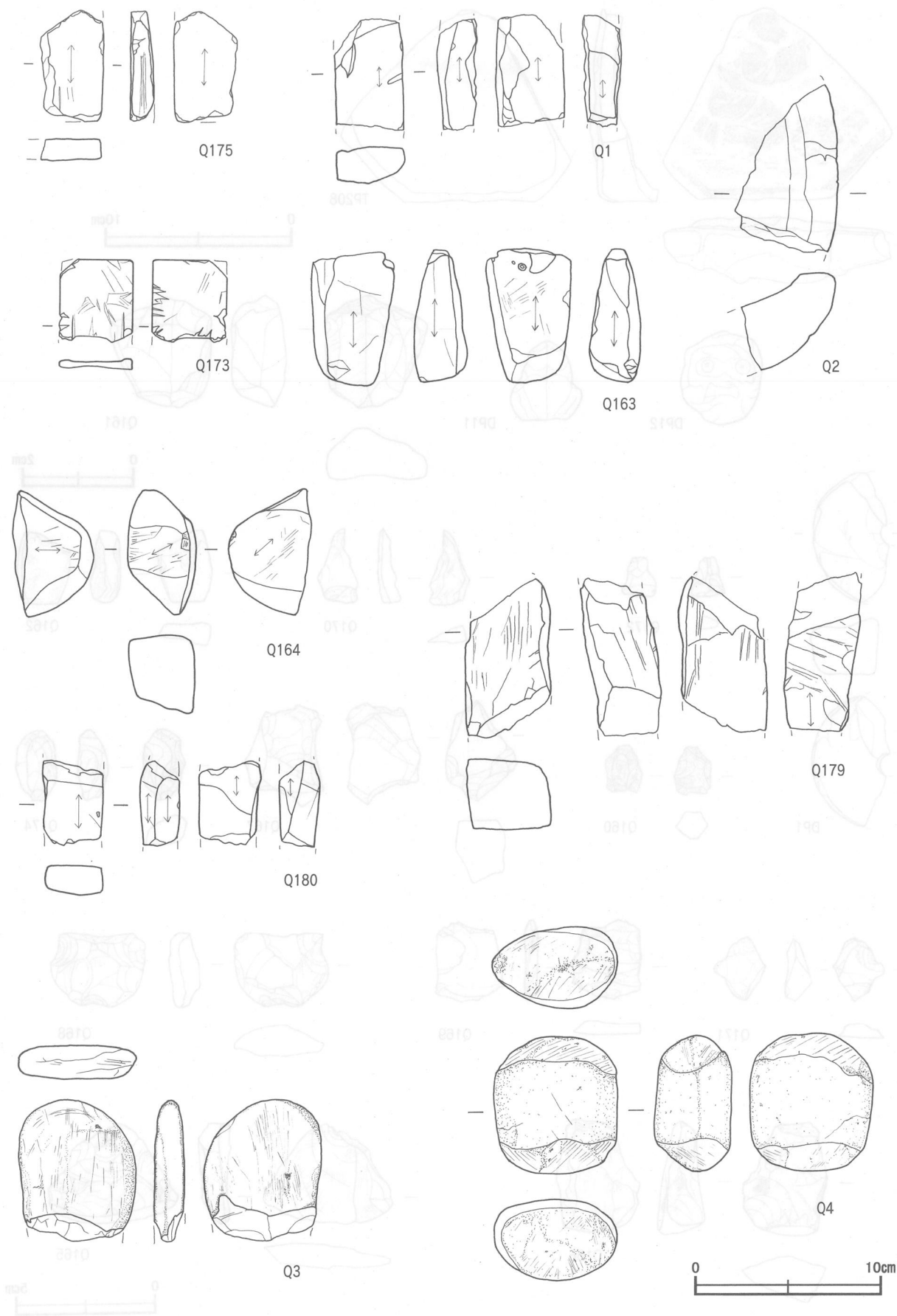
第203图 遺構外出土遺物実測図(3)



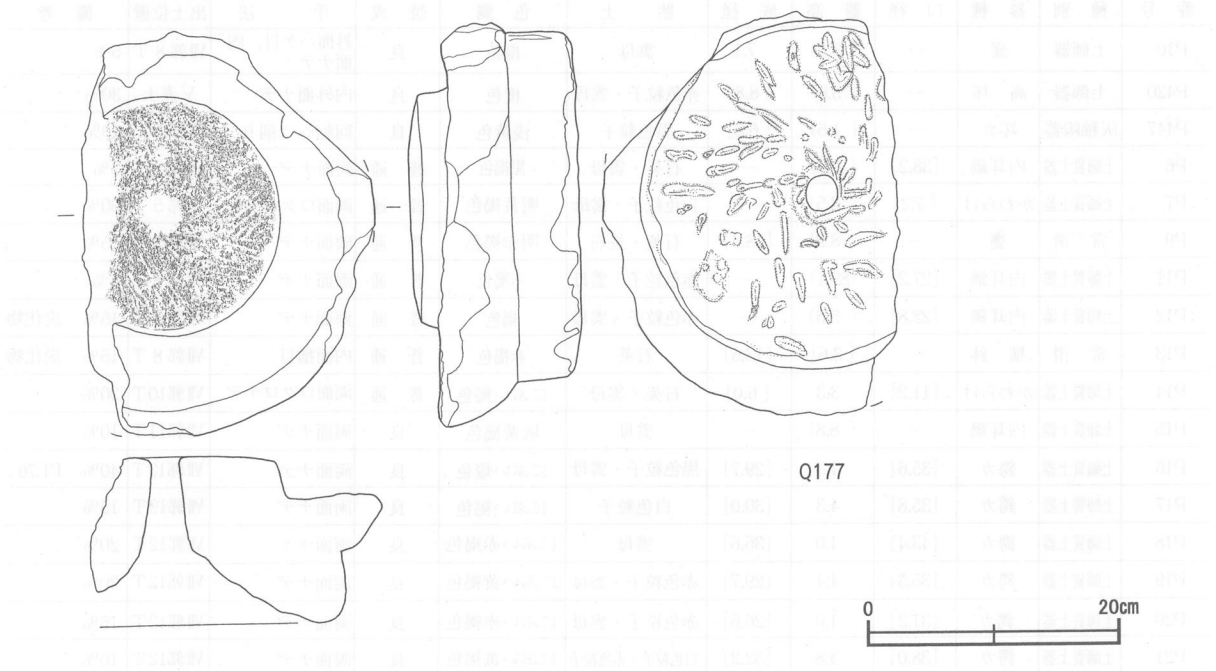
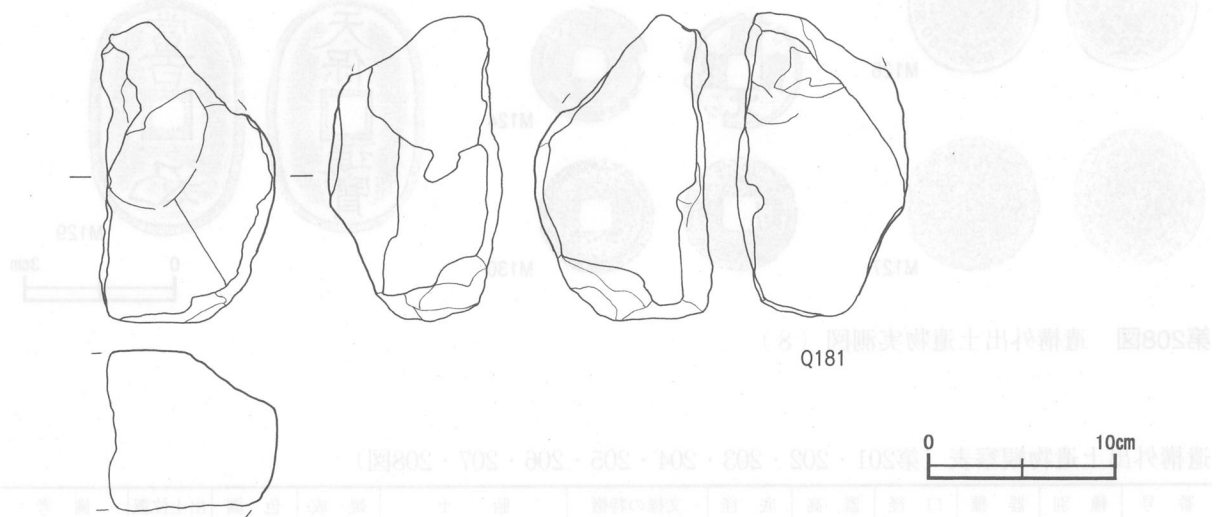
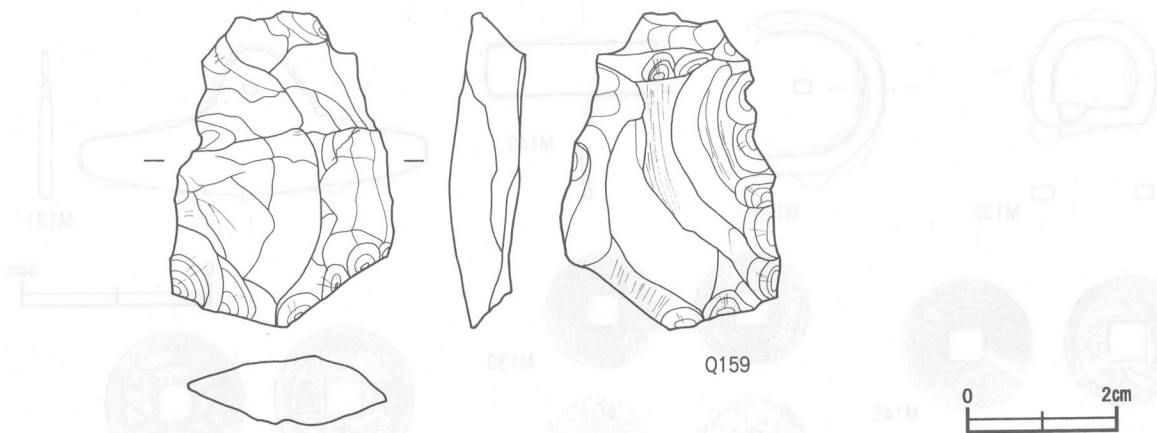
第204図 遺構外出土遺物実測図(4)



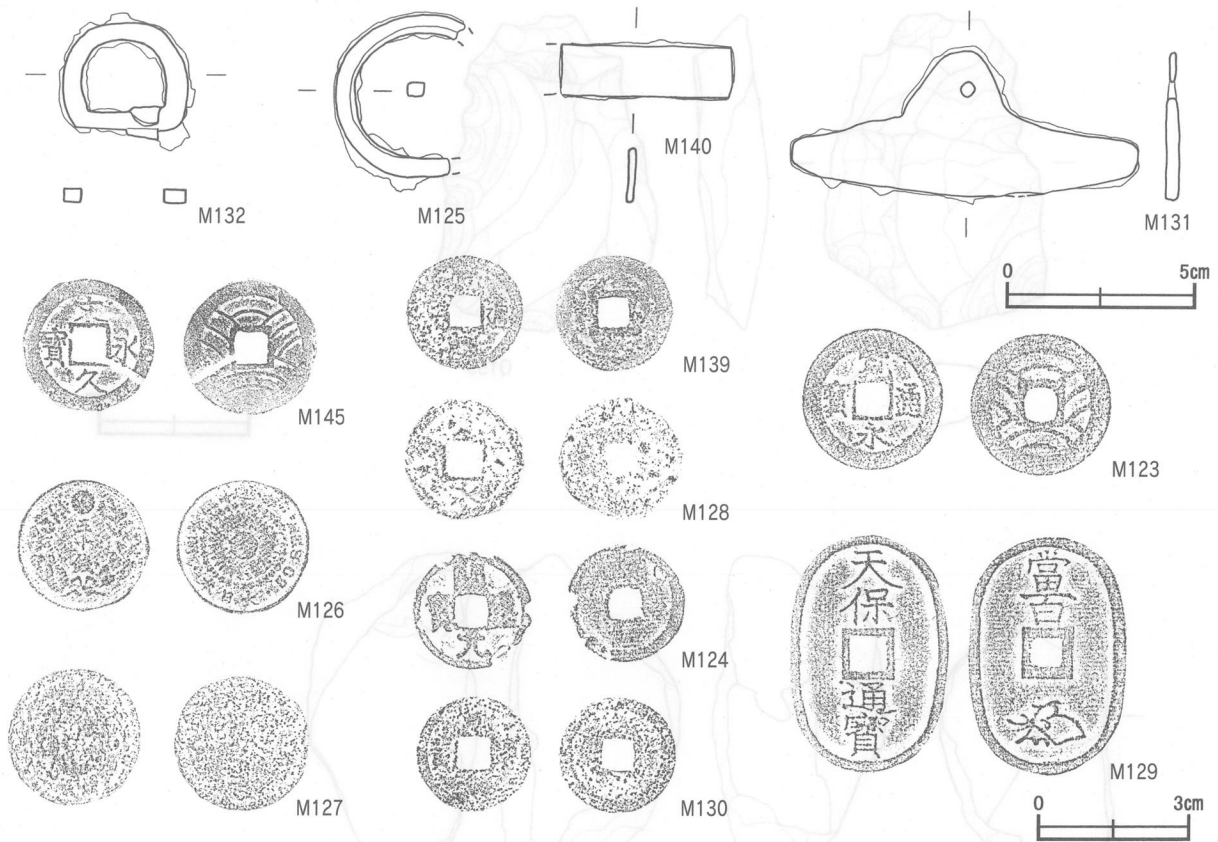
第205図 遺構外出土遺物実測図 (5)



第206図 遺構外出土遺物実測図(6)



第207図 遺構外出土遺物実測図（7）



第208図 遺構外出土遺物実測図 (8)

遺構外出土遺物観察表 (第201・202・203・204・205・206・207・208図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
P2	弥生	広口壺	—	(3.5)	[7.9]	附加条一種	白色粒子・雲母	普通	橙色	VII郭T 1	5%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P10	土師器	甕	—	(3.5)	7.1	雲母	橙色	良	外面ハケ目, 内面ナデ	VII郭8 T	5%
P420	土師器	高坏	—	(3.6)	[8.8]	赤色粒子・雲母	橙色	良	内外面ナデ	V表土	30%
P447	灰釉陶器	坏カ	—	(1.6)	[6.8]	黒色粒子	浅黄色	良	回転ヘラ削り	VII郭10 T	10%
P6	土師質土器	内耳鍋	[38.2]	(5.0)	—	石英・雲母	黒褐色	普通	両面ナデ	VII郭3 T	5%
P7	土師質土器	かわらけ	[7.2]	(2.5)	—	白色粒子・雲母	明黄褐色	普通	両面ロクロナデ	VII郭5 T	30%
P9	常滑	甕	—	(8.9)	[18.6]	石英・長石	明赤褐色	普通	両面ナデ	VII郭5 T	15%
P11	土師質土器	内耳鍋	[27.2]	(89.1)	—	赤色粒子・雲母	赤褐色	普通	両面ナデ	VII郭8 T	5%
P12	土師質土器	内耳鍋	[22.8]	(5.6)	—	赤色粒子・雲母	褐色	普通	両面ナデ	VII郭8 T	15% 炭化物
P13	常滑	播鉢	—	[3.6]	[13.6]	石英	赤褐色	普通	内面播目	VII郭8 T	15% 炭化物
P14	土師質土器	かわらけ	[11.2]	3.3	[6.0]	石英・雲母	にぶい褐色	普通	両面ロクロナデ	VII郭10 T	20%
P15	土師質土器	内耳鍋	—	(8.8)	—	雲母	灰黄褐色	良	両面ナデ	VII郭11 T	10%
P16	土師質土器	鍔カ	[35.6]	4.3	[29.7]	黒色粒子・雲母	にぶい燈色	良	両面ナデ	VII郭12 T	40% PL76
P17	土師質土器	鍔カ	[35.8]	4.3	[30.0]	白色粒子	にぶい褐色	良	両面ナデ	VII郭12 T	15%
P18	土師質土器	鍔カ	[43.4]	4.0	[36.6]	雲母	にぶい赤褐色	良	両面ナデ	VII郭12 T	20%
P19	土師質土器	鍔カ	[35.3]	4.4	[29.7]	赤色粒子・雲母	にぶい黄褐色	良	両面ナデ	VII郭12 T	20%
P20	土師質土器	鍔カ	[31.2]	4.0	[26.6]	赤色粒子・雲母	にぶい赤褐色	良	両面ナデ	VII郭12 T	15%
P21	土師質土器	鍔カ	[38.0]	3.8	[32.2]	白色粒子・赤色粒子	にぶい黄褐色	良	両面ナデ	VII郭12 T	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
P31	土師質土器	焙烙カ	[15.4]	2.3	[13.6]	石英・雲母	にぶい褐色	普通	両面ナデ	VI郭	15%
P32	土師質土器	内耳鍋	[21.1]	(7.6)	—	白色粒子・雲母	黒褐色	普通	両面ナデ	VI郭	5%
P413	土師質土器	かわらけ	7.0	2.5	3.8	白色粒子・雲母	橙色	普通	両面ロクロナデ	I郭	95% PL76
P414	土師質土器	内耳鍋	[30.4]	(5.3)	—	白色粒子・雲母	褐灰色	良	両面ナデ	II郭	5%
P416	土師質土器	かわらけ	[11.0]	3.5	[4.6]	石英・雲母	橙色	普通	両面ロクロナデ	II郭	20%
P417	土師質土器	かわらけ	[6.0]	1.8	[4.0]	赤色粒子・雲母	橙色	良好	両面ロクロナデ	II郭	25%
P418	土師質土器	かわらけ	[8.6]	1.9	[4.0]	赤色粒子・雲母	にぶい橙色	良	両面ロクロナデ	III郭表土	20%
P421	常滑	甕	—	(7.4)	[14.8]	石英・雲母	赤褐色	普通	両面ナデ	V郭表土	15%
P424	土師質土器	内耳鍋	—	(9.8)	[24.8]	石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	両面ナデ	1腰曲輪	20%
P425	常滑	甕	[33.0]	(3.2)	—	石英・雲母	にぶい赤褐色	良	両面ナデ	1腰曲輪	5%
P430	土師質土器	内耳鍋	[34.6]	(7.5)	—	雲母	橙色	良	両面ナデ	2腰曲輪	5% 地業層中
P431	土師質土器	内耳鍋	[34.6]	(9.6)	—	赤色粒子・雲母	赤褐色	良	両面ナデ	2腰曲輪	10% 地業層中
P433	土師質土器	かわらけ	—	(1.9)	4.5	赤色粒子	灰白色	良	両面ロクロナデ	2腰曲輪	60%
P434	土師質土器	かわらけ	[7.6]	2.3	[3.2]	赤色粒子・雲母	浅黄橙色	良	両面ロクロナデ	2腰曲輪	40% 地業層中
P435	土師質土器	灯明皿	6.7	2.4	3.2	赤色粒子・雲母	浅黄橙色	良	両面ロクロナデ	2腰曲輪	100% PL76
P436	土師質土器	風口	(14.0)	9.1	9.1	石英・白色粒子	にぶい赤褐色	普通	ナデ	2腰曲輪	45% PL76
P440	土師質土器	かわらけ	9.0	2.9	4.0	黒色粒子・雲母	にぶい橙色	良	両面ロクロナデ	1腰曲輪	70% PL76
P448	土師質土器	かわらけ	8.3	2.1	3.9	白色粒子・雲母	にぶい赤褐色	良	両面ロクロナデ	VII郭11T	100% PL76
TP208	土師質土器	不明	12.7	10.4	3.0	白色粒子	にぶい赤褐色	普通	浮き彫り	2腰曲輪	100% PL76

番号	器質	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
P3	陶器	小壺	2.6	2.9	1.8	白色粒子	灰白色	—	暗赤褐色	—	—	2 T覆土中	100%
P4	陶器	小皿	[9.0]	1.9	[3.8]	白色粒子	灰白色	—	黄橙色	—	—	2 T覆土中	50%
P5	陶器	乗燭	5.2	4.3	3.8	赤色粒子	にぶい黄褐色	—	黒褐色	瀬戸・美濃カ	近世	2 T覆土中	90%
P22	陶器	天目茶碗	[11.2]	(5.6)	—	—	黄灰色	—	黒色	—	—	13T	15%
P33	陶器	仏花瓶	—	(6.0)	[6.4]	—	灰黄色	—	オリーブ黄色	古瀬戸	中世	覆土中	70% PL76
P35	陶器	鉢	[17.4]	9.8	[10.2]	白色粒子	赤褐色	—	褐色	在地系	—	VII郭	25%
P36	磁器	碗	5.0	6.0	3.8	—	灰白色	—	藍色	—	近世カ	VII郭	45%
P422	磁器	四耳壺カ	—	(4.5)	—	—	灰オリーブ色	—	灰黄色	—	—	V郭表土	5% PL76
P423	陶器	小碗	[9.0]	2.8	[4.4]	—	黄橙色	—	灰黄褐色	—	近世カ	VI郭表土	20%
P426	陶器	小盃	5.8	3.2	2.9	石英	灰黄褐色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	1腰曲輪	95% PL76
P427	陶器	小盃	5.3	3.0	3.1	石英	灰黄褐色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	1腰曲輪	100% PL76
P428	陶器	小盃	5.3	3.3	2.8	石英	灰黄褐色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	1腰曲輪	95% PL76
P429	陶器	鍾	3.9	4.9	—	—	灰黄褐色	—	暗赤褐色	—	—	1腰曲輪	100% PL76
P437	陶器	鉢	[25.4]	(6.4)	—	石英	—	—	浅黄色	瀬戸・美濃カ	近世	2腰曲輪	20%
P438	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.2	—	赤褐色	—	赤褐色	—	近世	2腰曲輪	100% PL76
P439	陶器	小盃	5.4	2.6	3.0	石英	灰黄褐色	—	灰釉	瀬戸・美濃	近世	2腰曲輪	100% PL76

番号	時期	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP7	縄文時代後期	LRの単節斜縄文を沈線で区画。	VII郭T1	
TP8	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目, 内面横ナデ。縄文原体押圧。	VII郭T6	
TP202	弥生時代後期	外面ハケ目, 内面ナデ。口唇部に刻み目。焼成前穿孔。	I郭	
TP203	弥生時代後期	附加条一種附加2条。	I郭	
TP204	弥生時代後期	附加条一種附加2条, 同時附加。底部木葉痕。	I郭	
TP205	縄文時代前期	外面棒状工具による沈線, 内面擦文を施文。織維含む。	VI郭	
TP206	古墳時代後期	円筒埴輪—外面ハケ目, 内面ナデ。	VI郭	

番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
DP1	紡錘車	(4.6)	(4.6)	1.9	—	(25.2)	土製	上・下面径同じ	45%

番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
DP11	泥面子	2.9	1.9	0.4	1.76	蛙カ	100% 1腰曲輪
DP12	泥面子	2.5	2.2	0.4	2.52	奴カ	100% 1腰曲輪 PL77

番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q1	砥石	(6.0)	3.6	3.1	(66.6)	凝灰岩	縦方向擦痕	Ⅶ郭4 T PL78
Q2	石臼	(9.0)	(5.1)	(5.1)	(207)	安山岩		Ⅶ郭5 T
Q3	磨石	(7.5)	6.4	1.7	(124.3)	不明	縦方向の擦痕	Ⅶ郭5 T
Q4	磨石	(7.3)	6.7	4.2	(299)	砂岩	両小口剥落	Ⅶ郭10 T
Q181	石臼	(15.9)	(9.8)	9.0	(1520)	安山岩		Ⅶ郭5 T
Q159	搔器	4.1	2.9	1.0	11.3	流紋岩		I郭 PL77
Q160	火打ち石	1.6	1.3	1.2	2.86	瑪瑙		I郭 PL77
Q161	石核	2.0	1.8	1.0	3.6	チャート	マイクロコアカ	I郭
Q162	不明石製品	2.5	1.9	1	5.6	瑪瑙	原石カ	I郭 PL78
Q163	砥石	(7.1)	4.5	2.8	(102.5)	凝灰岩		Ⅱ郭 PL78
Q164	砥石	6.8	4.4	4.0	109.4	凝灰岩	未使用面あり	Ⅱ郭 PL78
Q165	剥片	3.6	4.7	1.2	17	安山岩		Ⅱ郭 PL77
Q166	剥片	3.6	4.7	1.2	17	安山岩		Ⅱ郭 PL77
Q167	石核	3.6	2.7	2.2	19.8	玉随		Ⅱ郭 PL77
Q168	剥片	2.7	3.3	1.0	10.7	チャート		Ⅱ郭 PL77
Q169	剥片	2.8	2.4	0.5	3.6	安山岩		Ⅱ郭 PL77
Q170	剥片	2.6	1.4	0.7	1.62	瑪瑙		Ⅱ郭
Q171	剥片	2.8	2.4	0.5	3.6	安山岩		Ⅱ郭
Q172	剥片	2.6	1.4	0.7	1.62	瑪瑙		Ⅱ郭
Q173	硯片カ	(4.4)	4.0	0.5	(13.2)	粘板岩	節理に沿って剥離している	V郭
Q174	剥片	2.5	1.5	1.1	4.7	瑪瑙		V郭
Q175	砥石	5.9	3.9	1.2	34.4	凝灰岩		1腰曲輪
Q177	石臼	31.6	23.0	13.3	9600	安山岩	下白カ	1腰曲輪 PL78
Q179	砥石	8.5	4.6	4.2	201	凝灰岩		I郭 PL78
Q180	砥石	(4.6)	3.0	1.6	(35.0)	凝灰岩		I郭

番号	銭名	計測値				材質	初鑄・鑄造年		特徴	備考
		銭径(cm)	銭孔幅(cm)	厚さ(mm)	重量(g)		年号	西暦		
M123	寛永通寶	2.85	0.7×0.7	1.2	6.4	銅	寛永3年	1636	鑄上がり良	V郭
M124	開元通寶	2.39	0.7×0.7	0.9	1.7	銅	武徳4年	624	欠け	V郭 PL80
M126	五十銭	2.75	—	2.0	9.9	銀	明治43年	1910		1腰曲輪
M127	不明	2.78	—	1.7	7.0	—	—	—	錆あり・銭名不明	1腰曲輪
M128	不明	2.48	0.6×0.6	1.5	3.3	鉄	—	—	銭名不明	1腰曲輪
M129	天保通寶	4.8	0.8×0.8	2.2	19.7	銅	天保6年	1835	鑄上がり良	1腰曲輪 PL80
M130	寛永通寶	2.33	0.7×0.7	0.9	2.6	銅	寛永3年	1636	鑄上がり良	2腰曲輪
M139	寛永通寶	2.33	0.7×0.7	1.0	2.6	銅	寛永3年	1636	錆あり	Ⅶ郭4 T PL80
M145	文久永寶	2.63	0.7×0.7	1.1	7.55	銅	文久3年	1863	鑄上がり良	Ⅶ郭4 T PL80

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
M125	鉄環	4.3	(3.4)	0.4	12.3	断面方形	1 腰曲輪
M131	火打金	9.1	3.8	0.4	30.8		表土 PL79
M132	鉸具	3.3	2.8	0.4	7.0	断面方形	表土 PL79
M140	不明	4.5	1.4	0.2	7.55	薄い鉄板	1 腰曲輪

表1 住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
								柱状	竈	貯蔵	ピット	炉				
125	A 6 g3	N-6°-E	[隅丸方形]	(4.32)×(4.00)	15	平坦		2		1	1	—	弥生 土師器 埴輪 土師質 陶器	弥生	SK209	
126	B 6 c2	—	—	—	—	—					1	—		—		
127	C 7 i6	N-34°-W	隅丸長方形	9.38 × 8.10	18~40	平坦		3		7	1	自然	弥生 土師器 陶器 石器	弥生	SE1.2 SI128	
128	D 7 a7	N-27°-W	[方形]	(6.73)×(5.02)	12~20	平坦				13		自然	弥生 土師器 土師質	中世	SK214~217	
129	D 6 h8	N-60°-W	[楕円形]	5.50 × (4.00)	14~27	平坦		3				自然	弥生 土師器 土師質 陶器	中世	SK279,344,345,365,423	
130	E 1 f6	N-3°-W	[方形]	4.51 × (2.90)	10~12	平坦	[全周]	2		5	2	人為	縄文 土師器	古墳	SI131 第3号塚	
131	E 1 f5	—	[円形]	(5.00)×(5.00)	10~14	起伏		4				自然	縄文 埴輪 石器	縄文	SI130 第3号塚	
133	E 1 f4	N-8°-W	[隅丸方形]	2.00 × (0.85)	31~33	平坦						自然	土師器 土師質	古墳	3号塚 SD37.38	
134	E 1 j8	N-4°-W	[方形]	5.04 × (1.80)	40~50	平坦	[全周]					人為		古墳	SI135 SK547	
135	E 1 j7	N-12°-W	[隅丸方形]	(1.52)×(0.95)	31~42	平坦						自然		古墳	SI134	
136	D 7 d5	N-68°-W	[隅丸長方形]	7.15 × (4.82)	53~75	平坦	[全周]	3		2	1	自然	弥生 土師器 石器	弥生	TM39 SI139	
138	D 7 f4	N-42°-W	—	(2.80)×(0.99)	20~22	平坦	[全周]					自然	弥生 土師器 土師質 陶器	弥生	TM39 SI140	
139	D 7 d5	N-55°-W	[隅丸長方形]	4.71 × (3.03)	55~74	平坦		4		3	1	自然	縄文 弥生 土師器 陶器 石器	弥生	TM39 SI138	
140	D 7 d3	N-25°-W	[隅丸方形]	(5.62)×(3.58)	70~80	平坦	一部	1		1	1	自然	弥生 土師器 鉄器 石器	弥生	TM39 SI136	
142	D 7 i3	N-60°-W	[隅丸方形]	(3.06)×(1.48)	10~11	平坦						人為	縄文 弥生 土師質	弥生	SI143.144.148	
143	D 7 j3	N-48°-W	[方形]	(2.67)×(2.35)	38~40	平坦				2		自然	弥生 土師器	古墳	SI144.147.148	
144	D 7 j2	N-51°-W	[隅丸方形]	(3.37)×(1.57)	32~34	平坦						自然	弥生 土師器 陶器 鉄滓	古墳	SI143.147.148	
145	D 7 a3	N-15°-W	[方形]	1.90 × (1.80)	18~24	平坦						人為	縄文 弥生 土師器	中世		
146	D 7 a3	N-10°-W	[方形]	2.40 × (1.35)	50~72	平坦						人為	縄文 弥生 土師器 土師質	中世		
147	E 7 a2	N-49°-W	[隅丸方形]	4.81 × (3.39)	32~45	平坦		2		5		自然	弥生 土師器 土師質 石片 鉄器	古墳	SI143.144	
148	D 7 i2	N-42°-W	[方形]	4.98 × (3.91)	8~15	平坦						自然	弥生 土師器	古墳	SI142.143.144	
149	C 8 c2	N-4°-W	長方形	4.00 × 3.12	30~46	平坦				8		人為	土師器 土師質	中世	SB4 SK300	
150	D 6 g5	N-75°-W	不定形	4.06 × 3.35	14~34	傾斜				5		自然	弥生 土師器 土師質	中世	SK390.393	
151	D 6 h3	N-59°-W	[方形]	(4.32)×(1.62)	20~30	傾斜						自然	縄文 弥生 土師器 土製品	弥生	KG4 第12号堀	
152	E 3 d8	N-25°-W	長方形	3.19 × 2.18	34~38	平坦				4		人為	土師器 土師質	中世		
153	D 5 h1	N-19°-W	[隅丸方形]	2.73 × 2.72	20~28	平坦						自然	弥生 土師器 土師質	中世	SK413.439	
154	D 4 i8	N-1°-E	[方形]	(4.30)×(4.25)	10~25	起伏		1	2			人為	土師器 須恵器 土師質	中世	SD50	
155	D 4 j0	N-3°-W	[長方形]	(2.90)×(2.40)	2~3	平坦		2	1	1	1	人為	弥生 土師器 須恵 石製品 古銭	古墳	SK464	

表2 掘立柱建物跡一覧表

掘立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	規模(m)					柱穴(cm)					覆土	主な遺物	備考 重複関係				
			桁行	桁行柱間	梁行	梁行柱間	面積(m²)	構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)				深さ	柱寸法		
1	E 2 h1	N-88°-W	2	3.81	1.72~2.02	1	2.18	2.16~2.20	8.31	側柱	6	楕円	68~120	46~106	38~60	—	人為	土師質	SK563.567~570
2	C 8 d2	N-3°-W	5	10.06	1.56~2.54	1	4.98	4.84~5.12	48.89	側柱	12	楕円	86~128	50~109	50~109	—	人為	陶磁器	中世 SB3.4
3	C 8 d2	N-5°-E	2	4.68	2.10~2.65	1	3.42	3.02~3.82	16.00	側柱	6	楕円	74~115	58~68	31~66	—	人為		SB2
4	C 8 c2	N-86°-E	(4)	7.54	1.70~2.01	1	4.13	4.13	(21.14)	側柱	(9)	楕円	65~100	49~79	30~65	—	人為		SI149.SB2
5	E 5 a3	N-73°-E	1	2.32	2.32	1	1.18	1.18	2.74	側柱	4	長方形	130~148	80~94	78~88	20~40	人為	弥生土器, 土師器, 須恵器, 土師質土器	

表3 古墳一覧表

番号	位置	墳形	墳丘規模(m)			埋葬施設			周溝		その他の遺物	備考
			長径(辺)×短径(辺)	高さ	主軸方向	埋葬施設	主軸方向	遺物	平面形	断面形		
第39号墳	D 7 d5	—	14.1×13.7	2.9	N-3°-W	木棺直葬	N-42°-E	鏡・鉄剣・短剣・鉄器 ・ガラス小玉	—	—	土師器・古銭など	

表4 堀・溝一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模(m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長さ	上幅	下幅	深さ						
11	E 1 E 2	N-68°-W	逆台形	(15.32)	1.2~3.84	0.46~2.2	2.42~2.54	緩斜	皿状	自然	土師器 埴輪 土師質 陶磁器	15世紀	第3号木橋, S D 77
12	E 6 D 6	N-52°-W N-60°-E	逆三角形 逆台形	(140.00)	12.10~20.30	0.80~3.20	4.70~6.80	外傾	凸凹	人為 自然	弥生 土師器 土師質 陶磁器 常滑 古銭 石製品 埴輪	15世紀後半	
13	D 4 E 4	N-50°-W N-5°-E	逆台形	(44.00)	8.50~18.50	2.60~4.12	4.12~5.10	外傾	凹凸	人為 自然	弥生 土師器 須恵 埴輪 土師質 常滑 石製品 古銭	15世紀後半	
14	E 3	N-20°-W	逆台形	(14.00)	(20.00)	(2.60)	(5.90)	外傾	平坦	人為	土師質 陶器 古銭 石製品	中世	第2号木橋
15	E 2	N-20°-W N-18°-E	逆台形	(24.00)	3.50~9.50	0.80~2.50	2.60~4.50	外傾	平坦	人為 自然	土師器 埴輪 土師質 常滑 陶磁器 古銭 石製品	15世紀後半	
37	E 1 e 4	N-10°-W	逆台形	(17.64)	1.80~3.31	0.65~0.91	1.15~1.42	緩斜	平坦	自然	埴輪 土師質 陶磁器 石製品	15世紀	S I 133 S K 550
38	E 1 g 4 E 1 f 7	N-60°-E N-18°-W	逆台形	(43.45)	0.31~0.82	0.13~0.24	0.12~1.14	緩斜	平坦	自然	土師器 土師質 陶磁器 常滑	中世	S K 539 S K 538
40	A 5 i 6	N-90°-E	逆台形	(38.00)	6.40~8.10	1.80~2.10	1.40~2.76	緩斜	平坦	自然	弥生 土師器 土師質 陶磁器	中世	
41	A 6 j 6	N-13°-E	逆台形	(10.00)	2.20~2.60	0.60~0.80	1.50	外傾	平坦	人為	土師質 石製品	中世	
43	A 5 h 0	N-20°-E	皿状	14.80	0.30~1.10	0.20~0.60	0.04~0.10	緩斜	皿状	自然		中世カ	
44	C 5 b 1	N-62°-W	逆台形	(9.20)	(9.00)	(7.20)	1.40	緩斜	平坦	自然		中世カ	
45	D 5 i 5	N-80°-W N-10°-E	逆台形	25.50	1.60~1.80	0.30~0.40	0.52~0.80	外傾	皿状	自然	土師質 陶器 古銭 石製品	近世カ	
50	D 4 i 9	N-70°-W	U字形	32.00	1.60~2.00	0.30~0.50	0.80~1.10	緩斜	皿状	自然	土師器 埴輪	近世カ	
52	E 5 a 7	N-74°-E	U字形	14.00	0.60~0.88	0.20~0.40	0.35~0.40	緩斜	皿状	人為	土師器 埴輪 土師質 石器	中世カ	10号虎口
53	E 5 b 1	N-77°-E	U字形	18.60	0.30~1.00	0.20~0.50	0.22~0.50	外傾	皿状	人為	土師器 埴輪 土師質 石器	15~16世紀	10号虎口
54	D 7 d 3	N-15°-W	逆台形	18.75	0.84~0.50	0.39~0.10	0.30~0.50	外傾	平坦	人為	土師器 埴輪 師質 陶磁器	中世カ	T M 39, S K 342.418
55	D 7 f 4	N-25°-W	皿状	6.22	0.44~0.52	0.10~0.32	0.18~0.40	外傾	皿状	自然		中世以降	S K 243.245.274
56	D 7 g 2	N-72°-W	逆台形	10.22	0.36~0.82	0.14~0.64	0.17~0.34	外傾	平坦	自然	土師器 土師質 瓦	中世以降	S K 254
57	D 7 i 4	N-33°-E	U字形	8.20	0.90~1.60	0.10~0.25	0.50~0.80	緩斜	皿状	人為	土師器	中世カ	S Y 2 S D 58
58	C 7 i 4	N-28°-E	U字形	7.50	2.80~3.50	0.40~0.80	1.40~1.60	緩斜	皿状	人為	弥生 土師器	中世	S Y 2 S D 57
59	D 7 c 5	N-53°-W	U字形	6.86	0.32~0.71	0.09~0.18	0.12~0.27	外傾	皿状	自然	弥生 土師器	弥生	T M 39 S I 136.139
60	D 6 g 9	N-30°-E	U字形	(4.30)	0.52~0.88	0.30~0.60	0.25~0.40	外傾	凸凹	自然	磁器	中世以降	S K 278.392.422
61	D 6 g 0	N-2°-W	U字形	(18.00)	1.10~0.90	0.52~0.70	0.24~0.28	外傾	皿状	自然	弥生 土師器 土師質 陶磁器	中世以降	S D 54.62 S K 360.361.他
62	D 6 f 0	N-1°-W	U字形	(16.30)	0.58~0.77	0.22~0.43	0.20~0.40	外傾	皿状	自然	弥生 土師質 古銭	中世末	S D 54.62 S K 248.360.他
63	D 4 i 7 D 4 i 8	N-62°-W	U字形	13.01	0.36~1.12	0.14~0.46	0.08~0.17	緩斜	平坦	自然		中世以降	S K 459.461
67	E 3 b 0	N-73°-E	U字形	(11.60)	(1.50)	(1.22)	(0.40)	緩斜	皿状	自然	縄文 土師器 埴輪	6世紀後半	
70	E 1 h 5 E 2 j 2	N-75-90°-W	逆台形	33.40	0.12~0.41	0.05~0.28	0.14~0.18	外傾	平坦	自然	埴輪	中世カ	S K 510.566.第15号堀
71	E 2 g 5	N-49°-W	U字形	(2.68)	0.26~0.30	0.08~0.15	0.09	緩斜	皿状	人為		中世カ	
72	E 2 g 5	N-51°-W	U字形	(2.34)	0.18~0.28	0.08~0.14	0.07	緩斜	皿状	人為		中世カ	
75	E 2 f 7	N-69°-W	逆台形	(5.00)	0.90~1.10	0.44~0.68	0.45~0.47	外傾	平坦	自然		中世以降	T M 42
76	E 2 g 7	N-73°-E	U字形	(5.00)	0.86~0.98	0.32~0.46	0.28~0.32	緩斜	平坦	自然		中世以降	T M 42
77	E 2 e 4 E 2 f 4	N-38°-W	逆台形	(3.30)	0.80~1.14	0.22~0.46	0.35~0.37	外傾	平坦	自然		中世以降	第11号堀 S K 545

表5 柵跡一覧表

番号	位置	方位	規模(m)						遺物	時代	備考	
			長さ	間	柱間	柱穴	長径	短径				深さ
1	C 8 c 3	N-5°-W	4.86	2	1.94~1.96	3	0.61~0.94	0.56~0.94	0.42~0.60	古銭	中世	S K 2.4

表6 塚一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)			出土遺物	備考
			長径(辺)×短径(辺)(m)	高さ(m)	主軸		
第3号塚	E 1 f 5	楕円形	12.4 × 11.6	4.1	N-57°-E	土師器, 土師質土器, 陶磁器	古墳の可能性あり
第40号墳	E 6 b 9	三角形	12.7 × 5.3	0.6	N-84°-E	弥生土器, 土師器, 須恵器, 土師質土器	
第41号墳	E 4 e 0	楕円形	12.0 × 4.0	0.5	N-36°-E	弥生土器, 土師器, 常滑, 石製品	
第42号墳	E 2 g 7	長方形	14.0 × 11.0	1.5	N-22°-W	縄文土器, 土師器, 土師質土器, 常滑	古墳の可能性あり

表7 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	形態	規模(m)			壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)	平面形						
1	C 7 h6	N-33°-W	円筒形	4.72 × 3.69	—	楕円形	外傾	—	人為	土師質 陶磁器 銅製品 古銭 石器	15世紀後半	SI127
2	C 7 i6	N-15°-E	円筒形	4.87 × 4.27	—	楕円形	垂直	—	人為	土師質 鉄器 石器	15世紀後半	SI127

表8 地下式墳一覧表

番号	位置	方向	規模(m)						覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
			竪坑			主室						
			長径(軸)×短径(軸)	深さ	平面形	長径(軸)×短径(軸)	深さ	平面形				
1	A 5 g7	N-3°-E	1.32 × 1.21	1.11	長方形	2.48 × 1.98	1.3	長方形	自然	弥生土器, 土師器, 土師質土器	中世	
2	A 5 h7	N-20°-E	1.10 × 0.65	0.34	長方形	2.49 × 2.32	0.83	方形	自然	弥生土器, 土師質土器	中世	

表9 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
188	A 5 f8	N-0°	楕円形	1.00 × 0.59	72	外傾	皿状	自然		—	
191	A 6 h2	N-17°-E	楕円形	1.02 × 0.90	32	緩斜	平坦	人為		—	
192	A 5 f8	N-30°-E	楕円形	1.06 × 0.60	50	外傾	皿状	自然		—	
195	A 5 g0	N-90°-E	円形	0.66 × 0.66	18	緩斜	皿状	自然		—	
196	A 5 f0	N-20°-W	円形	0.70 × 0.68	22	緩斜	皿状	自然		—	
199	A 6 h1	N-7°-W	円形	0.98 × 0.95	32	外傾	平坦	人為		—	
200	A 6 h2	N-8°-W	隅丸長方形	1.66 × 1.10	51	外傾	平坦	人為		中世以降	
204	A 6 g4	N-90°-E	不整楕円形	1.90 × 1.53	32	緩斜	凸凹	人為		—	
207	B 6 c3	N-0°	隅丸長方形	1.63 × 1.23	20	緩斜	平坦	人為		中世力	
209	A 6 g3	N-90°-E	楕円形	1.02 × 0.67	44	緩斜	皿状	自然		—	
212	C 7 i5	N-24°-W	不整楕円形	0.91 × 0.73	28	緩斜	皿状	人為	弥生, 土師器	—	SI127
213	C 7 i5	N-24°-W	不定形	0.73 × 0.46	13	外傾	皿状	人為	弥生, 土師器	—	
214	C 7 a8	N-4°-W	不整楕円形	0.61 × 0.54	17	緩斜	皿状	人為		—	
215	C 7 a7	N-2°-E	隅丸長方形	1.84 × 0.97	7	外傾	平坦	不明	土師器, 土師質土器	中世	
216	C 7 j8	N-12°-E	隅丸長方形	0.70 × 0.50	31	外傾	平坦	自然	陶磁器	中世	SI128
217	D 7 a7	—	円形	0.67 × 0.65	16	外傾	平坦	自然	土師器	—	SI128
218	C 7 i5	N-15°-W	[楕円形]	0.86 × (0.57)	13	緩斜	平坦	自然	土師器	—	
219	C 7 i5	N-36°-W	[楕円形]	1.26 × (0.67)	41	外傾	平坦	自然	土師器	—	SI127
220	C 7 j5	—	円形	0.97 × 0.96	33	緩斜	皿状	人為		—	
221	C 7 j5	N-2°-E	楕円形	1.05 × 0.93	23	外傾	平坦	自然		—	
222	D 7 a5	N-8°-E	円形	1.26 × 1.24	29	外傾	平坦	自然	弥生, 土師質土器	中世	SK223
223	D 7 a5	N-16°-W	隅丸長方形	1.48 × 0.74	34	外傾	段差	自然	土師器	中世	SK222
224	D 7 a6	—	円形	1.02 × 0.95	44	外傾	皿状	自然		—	
225	D 7 a6	—	円形	1.08 × 1.01	44	外傾	段差	人為	磨石	—	
226	D 7 b6	N-54°-E	長方形	1.31 × 0.49	24	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	—	
227	D 7 b8	N-11°-W	隅丸長方形	1.24 × 0.70	35	外傾	平坦	人為		—	
228	D 7 b6	N-5°-E	楕円形	1.65 × 0.31	82	外傾	凸凹	人為	弥生, 土師器, 土師質土器	—	
229	D 7 d7	N-7°-W	楕円形	1.01 × 0.87	10	外傾	平坦	自然		—	
230	D 7 d8	N-90°-E	楕円形	0.92 × 0.71	9	外傾	平坦	自然		—	
231	D 7 f7	N-18°-E	不定形	0.70 × 0.60	39	外傾	平坦	人為	弥生	—	
232	D 7 f7	N-58°-E	円形	0.67 × 0.62	54	外傾	皿状	自然		—	
233	D 7 g6	N-78°-W	不整楕円形	1.42 × 0.64	20	緩斜	皿状	自然		—	
234	D 7 g2	N-4°-E	円形	0.90 × 0.86	10	外傾	皿状	自然		—	
235	D 7 f3	N-29°-E	不整楕円形	1.32 × 0.68	13	外傾	皿状	人為	弥生, 土師器, 土師質, 常滑	中世力	
236	D 7 f3	N-32°-E	不整楕円形	1.10 × 0.84	52	外傾	皿状	人為	土師質	—	
237	D 7 f3	N-52°-E	不整楕円形	1.40 × 0.70	54	直立	凸凹	人為		—	
238	D 7 d2	N-0°	円形	0.50 × 0.46	10	外傾	凸凹	自然		—	
239	D 7 g3	N-42°-E	不整楕円形	1.20 × 0.74	25	外傾	凸凹	人為	土師器, 土師質	—	
240	D 7 h2	N-19°-E	円形	0.96 × 0.90	34	外傾	平坦	自然		—	
241	D 6 h7	N-7°-W	楕円形	1.82 × 0.74	21	直立	平坦	自然		—	SK388

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
242	D 7 f4	N-72°-W	楕円形	1.58 × 0.80	60	外傾	平坦	人為	弥生, 土師器, 土師質, 鉄斧	—	
243	D 7 g4	N-25°-E	円形	1.12 × 1.10	84	外傾	凸凹	自然	弥生	—	SK244
244	D 7 f4	N-41°-E	[不整楕円形]	0.92 × (0.58)	30	外傾	凸凹	人為		—	SD55 SK243
245	D 7 f4	N-38°-E	不整楕円形	0.68 × 0.60	56	外傾	平坦	人為		—	
246	D 6 h5	N-82°-W	楕円形	1.08 × 1.00	25	外傾	皿状	人為		—	SK389
247	D 7 d3	N-3°-E	方形	0.60 × 0.56	53	外傾	凸凹	自然		—	
248	D 6 e0	N-14°-W	円形	0.72 × 0.70	16	緩斜	皿状	人為	弥生, 土師質, 陶磁器	—	
249	D 7 f2	N-61°-E	楕円形	1.08 × 0.70	19	外傾	皿状	自然	土師質	—	
250	D 7 d2	N-14°-E	不整楕円形	1.53 × 0.60	5	緩斜	平坦	自然		—	
251	D 6 f7	N-68°-E	不整楕円形	1.67 × 0.39	30	外傾	平坦	自然	土師質	—	
252	D 6 e7	N-68°-E	不定形	2.53 × 1.78	27	緩斜	平坦	人為	土師質	—	粘土貼土坑
253	D 6 e7	N-47°-E	不定形	2.67 × 1.72	45	緩斜	凸凹	自然	土師質	—	
254	D 7 g1	N-43°-E	不整楕円形	1.44 × 1.23	44	外傾	平坦	自然		—	SD56
255	D 6 e8	N-34°-W	不整楕円形	1.94 × 1.03	50	外傾	段差	自然	土師質, 鉄環	—	
256	D 6 d8	N-83°-W	不定形	1.34 × 0.77	64	外傾	段差	自然	土師器	—	
257	D 6 e9	N-3°-E	不整楕円形	1.48 × 0.96	55	緩斜	皿状	自然		—	
258	D 6 d9	N-32°-W	不定形	1.42 × 1.25	42	外傾	皿状	自然		—	
259	D 6 c9	N-58°-E	不定形	3.33 × (1.19)	18	外傾	凸凹	自然	弥生, 土師器, 土師質	—	
260	D 6 d9	N-15°-W	円形	1.17 × 1.14	28	外傾	凸凹	自然	土師質, 不明土器品	—	
261	D 6 c0	N-61°-E	不定形	3.12 × 1.65	40	外傾	凸凹	自然	弥生, 土師質, 陶磁器	—	
262	D 6 c0	N-58°-E	不定形	2.66 × 1.28	15	緩斜	凸凹	自然	弥生, 土師器	—	
263	D 7 b1	N-54°-E	不定形	3.20 × 1.04	34	緩斜	凸凹	自然	土師器	—	
264	D 7 b1	N-59°-E	隅丸長方形	2.25 × 0.98	3	外傾	凸凹	自然	弥生, 土師器	—	
266	D 7 b3	N-65°-E	不定形	0.90 × 0.64	30	外傾	凸凹	自然	弥生	—	
267	D 7 a4	N-55°-W	不定形	1.86 × 1.62	78	外傾	凸凹	自然		—	
268	D 7 f4	N-19°-E	楕円形	1.10 × 0.76	50	直立	平坦	自然	土師器	—	
269	D 7 e1	N-0°	不定形	3.50 × 3.29	53	外傾	凸凹	人為	土師器, 土師質, 陶磁器, 古銭	中世以降	
270	D 7 f3	N-30°-W	楕円形	1.00 × 0.78	13	緩斜	平坦	自然	土師器, 土師質, 陶磁器	—	
271	D 7 h5	N-90°-E	楕円形	1.07 × 0.80	55	外傾	凸凹	人為	土師質, 古銭	中世	
272	D 7 f2	N-0°	不定形	1.14 × 0.54	30	外傾	皿状	自然	常滑	—	
273	D 7 f2	N-26°-W	円形	0.78 × 0.74	23	外傾	皿状	自然		—	
274	D 7 f4	N-0°	楕円形	1.00 × 0.60	43	外傾	皿状	自然		—	SD55
277	D 6 g9	N-30°-W	楕円形	1.05 × 0.54	56	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質	—	
278	D 6 h9	N-22°-E	不整楕円形	0.66 × 0.56	45	緩斜	平坦	人為		—	SD60
279	D 6 h8	N-70°-W	楕円形	0.54 × 0.38	42	外傾	平坦	自然		—	SI129
280	C 8 d4	N-0°	円形	0.41 × 0.41	40	外傾	皿状	人為	土師器, 土師質	—	
281	C 8 e4	N-59°-W	楕円形	1.18 × 0.95	48	緩斜	皿状	自然	石製品	—	
284	C 8 b3	N-86°-E	不定形	0.80 × 0.43	52	外傾	平坦	自然		—	
286	C 8 d3	N-45°-W	不定形	1.29 × 0.99	54	緩斜	平坦	人為		—	
289	C 8 e4	N-67°-W	隅丸長方形	0.92 × 0.65	58	直立	凸凹	人為		—	
290	C 8 d3	N-72°-E	楕円形	0.83 × 0.59	32	外傾	平坦	自然		—	
291	C 8 d3	N-61°-E	長楕円形	0.66 × 0.30	31	外傾	皿状	人為		—	
293	C 8 d1	N-71°-E	不定形	(0.69) × 0.52	10	緩斜	凸凹	自然		—	
294	C 8 e1	N-15°-W	楕円形	0.43 × 0.33	16	緩斜	皿状	人為		—	
297	C 8 e3	N-25°-W	不整楕円形	0.60 × 0.41	28	外傾	凸凹	人為	鉄鎌	—	
298	C 8 g4	N-82°-E	楕円形	0.46 × 0.36	14	緩斜	皿状	人為		—	
300	C 8 e2	N-2°-W	[楕円形]	(0.78) × 0.54	40	緩斜	平坦	自然		中世	SI149
301	C 8 d4	N-20°-W	楕円形	0.85 × 0.64	100	外傾	皿状	自然		—	
302	C 8 g3	N-0°	円形	0.60 × 0.59	25	外傾	平坦	人為		—	
303	C 8 g3	N-0°	楕円形	0.49 × 0.87	27	緩斜	平坦	人為		—	
304	C 8 h3	N-0°	楕円形	0.82 × 0.67	24	緩斜	平坦	人為		—	
305	C 8 h3	N-65°-W	楕円形	0.79 × 0.61	18	外傾	平坦	人為		—	
306	C 8 h3	N-83°-W	楕円形	0.48 × 0.36	31	外傾	皿状	人為		—	
307	C 8 g3	N-54°-E	楕円形	0.81 × 0.62	33	外傾	平坦	人為		—	
308	C 8 g2	N-36°-W	楕円形	0.61 × 0.55	16	緩斜	凸凹	人為		—	
318	C 8 e2	N-86°-W	楕円形	0.95 × 0.34	20	緩斜	平坦	自然		—	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
324	C 8 e4	N-84°-E	隅丸長方形	1.27 × 0.72	41	外傾	皿状	人為		—	
326	C 8 c2	—	不定形	0.90 × (0.60)	11	外傾	平坦	人為		—	SB2 SB4
332	C 8 d2	N-63°-E	[長楕円形]	(1.27) × 0.37	10	緩斜	平坦	人為		—	SB3
335	C 8 c3	N-22°-E	不定形	1.04 × 0.74	45	緩斜	平坦	人為	土師器	—	
336	C 8 d3	N-90°-E	[楕円形]	0.40 × (0.40)	37	外傾	皿状	人為		—	SK337
337	C 8 d3	N-88°-E	楕円形	0.74 × 0.58	22	緩斜	平坦	人為		—	SK336
338	C 8 f2	N-29°-E	不整楕円形	1.32 × 1.11	34	緩斜	平坦	自然		—	
339	C 8 f2	N-4°-W	隅丸長方形	1.48 × 1.02	59	緩斜	平坦	自然		—	
340	D 7 e3	N-5°-W	楕円形	0.62 × 0.50	25	外傾	皿状	自然		—	
341	D 7 d3	N-2°-E	不整楕円形	0.92 × 0.80	25	外傾	平坦	自然	弥生, 陶磁器	—	SK346
342	D 7 d3	N-7°-W	不定形	1.14 × 0.92	8	緩斜	平坦	自然		—	
343	D 7 e3	N-31°-E	楕円形	0.62 × 0.34	7	外傾	平坦	自然		—	
344	D 6 h8	N-78°-W	円形	1.20 × 1.10	62	緩斜	皿状	人為	土師器	—	SI129
345	D 6 h8	N-54°-E	不定形	1.20 × 1.06	45	外傾	皿状	人為		—	SI129
346	D 7 d3	N-86°-E	楕円形	0.70 × 0.54	6	緩斜	平坦	人為		—	
347	D 6 g0	N-46°-E	[楕円形]	0.72 × (0.52)	36	外傾	平坦	人為		—	SK352
348	D 6 f0	N-53°-W	不整楕円形	1.10 × 0.56	20	緩斜	皿状	自然		—	
349	D 6 f9	N-17°-W	円形	0.80 × 0.78	20	緩斜	凸凹	自然		—	
350	D 6 f9	N-0°	不整楕円形	1.20 × 0.90	33	外傾	皿状	人為	土師器, 陶磁器	—	
351	D 6 g9	N-90°-W	楕円形	1.00 × 0.58	18	外傾	皿状	—		—	
352	D 6 g0	N-37°-W	楕円形	0.90 × 0.82	30	外傾	平坦	人為	弥生, 土師器, 土師質, 石	—	SK347
353	D 6 f8	N-36°-E	不整楕円形	1.48 × 0.94	32	外傾	皿状	人為		—	
354	D 6 f8	N-0°	[楕円形]	(1.14) × 0.84	34	外傾	平坦	人為		—	
355	D 6 f7	N-3°-W	[楕円形]	0.90 × [0.78]	33	外傾	皿状	自然	土師質	—	
356	D 6 f7	N-10°-W	円形	0.86 × 0.78	29	外傾	皿状	自然		—	
357	D 6 f7	N-20°-W	楕円形	1.10 × 0.88	43	外傾	皿状	人為		—	
358	D 6 f7	N-50°-W	楕円形	0.88 × 0.62	35	外傾	皿状	人為		—	
359	D 6 f9	N-81°-	円形	0.80 × 0.76	45	外傾	皿状	自然		—	
360	D 6 f0	N-73°-W	楕円形	1.50 × 1.26	58	緩斜	平坦	自然	弥生, 土師器, 土師質, 古銭	中世	
361	D 6 e0	N-17°-W	不整楕円形	1.78 × 1.50	62	緩斜	平坦	人為	土師質, 陶磁器	—	
362	D 6 e9	N-51°-	不整楕円形	1.30 × 1.00	9	外傾	平坦	自然		—	SK363
363	D 6 e9	N-61°-E	楕円形	0.78 × 0.52	45	外傾	皿状	人為		—	SK362
364	D 7 f1	N-8°-W	楕円形	1.24 × 0.80	39	外傾	皿状	人為	陶磁器	—	
365	D 6 h9	N-4°-W	楕円形	1.18 × 0.90	36	緩斜	平坦	人為		—	SI129
366	D 6 f0	N-0°	楕円形	1.34 × 0.75	20	外傾	皿状	自然		—	
367	D 6 f0	N-7°-W	楕円形	1.40 × 1.07	15	緩斜	凸凹	自然	土師質, 陶磁器	中世以降	SI3 SD61・62 SK368・416
368	D 6 g0	N-25°-E	不整楕円形	1.59 × 0.74	43	外傾	皿状	自然	弥生, 土師質, 陶磁器	—	SK370
369	D 6 i6	N-61°-W	楕円形	0.60 × 0.40	40	外傾	皿状	自然	土師器	—	SK369
370	D 6 i6	N-74°-W	楕円形	1.34 × 0.70	22	外傾	皿状	自然		—	
371	D 6 h6	N-18°-W	楕円形	1.00 × 0.70	26	外傾	皿状	自然		—	
372	D 6 i6	N-55°-E	円形	0.70 × 0.64	34	外傾	皿状	自然	弥生, 土師器, 土師質	—	
373	D 6 i5	N-39°-W	楕円形	0.82 × 0.70	7	緩斜	皿状	自然		—	
374	D 6 i4	N-53°-W	楕円形	0.84 × 0.70	18	緩斜	皿状	自然		—	
375	D 6 j5	N-55°-W	楕円形	1.00 × 0.80	17	緩斜	皿状	人為		—	
376	D 6 j5	N-18°-W	楕円形	1.20 × 0.90	77	外傾	平坦	人為		—	
377	D 6 i5	N-47°-W	楕円形	1.32 × 0.90	62	外傾	皿状	人為	弥生, 土師質	—	
378	D 6 i6	N-0°	不整楕円形	1.90 × 0.68	70	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器, 土師質	—	
379	D 6 g5	N-0°	円形	0.48 × 0.44	10	外傾	皿状	自然	土師器	—	
380	D 6 h5	N-25°-E	楕円形	0.72 × 0.40	25	緩斜	皿状	自然	土師器	—	
382	D 6 h4	N-10°-W	円形	0.52 × 0.52	25	緩斜	皿状	自然		—	
383	D 6 h3	N-10°-E	楕円形	0.94 × 0.64	32	外傾	皿状	自然		—	SI151
384	D 6 g3	N-10°-E	楕円形	0.84 × 0.54	46	外傾	皿状	自然		—	
385	D 6 g4	N-4°-W	円形	0.54 × 0.52	23	外傾	凸凹	自然		—	
386	D 6 h5	N-90°-W	楕円形	1.00 × 0.80	42	外傾	皿状	自然	土師器, 陶磁器	—	
387	D 6 g4	N-52°-W	円形	0.70 × 0.70	24	外傾	皿状	自然	弥生, 土師器	—	
388	D 8 h7	N-79°-W	楕円形	1.30 × 0.96	74	外傾	平坦	自然		—	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
388	D 8 h7	N-79°-W	楕 円 形	1.30 × 0.96	74	外傾	平坦	自然		—	
389	D 6 h4	N-76°-E	不整楕円形	1.74 × 1.24	60	外傾	皿状	自然		—	SK246
390	D 6 g5	N-70°-W	楕 円 形	0.90 × 0.80	30	外傾	平坦	自然	土師器	—	
391	D 6 e9	N-30°-W	[楕 円 形]	0.46 × (0.42)	22	外傾	平坦	自然		—	SK363
392	D 6 g9	N-87°-W	不整楕円形	1.60 × 1.20	50	外傾	皿状	自然	弥生, 土師器, 土師質	中世	SD60
393	D 6 h5	N-4°-W	楕 円 形	1.12 × 0.64	51	緩斜	皿状	自然	弥生	—	
394	D 6 i9	N-14°-W	楕 円 形	0.62 × 0.54	20	外傾	平坦	自然		—	
395	D 7 g2	N-75°-W	不 定 形	2.15 × 1.65	10	緩斜	皿状	人為	土師質	—	
396	D 6 i9	N-38°-E	楕 円 形	0.90 × 0.80	50	外傾	皿状	人為		—	SK400
397	D 6 h7	N-10°-E	楕 円 形	1.60 × 1.04	129	直立	皿状	人為		—	
398	D 6 h9	N-64°-W	楕 円 形	1.08 × 0.94	74	外傾	平坦	人為		—	SK400
399	D 6 i9	N-0°	楕 円 形	1.96 × 1.34	5	緩斜	平坦	自然	土師質	—	
400	D 6 h9	N-50°-W	[楕 円 形]	0.78 × (0.44)	25	外傾	凸凹	人為		—	SK39 SK398
401	E 6 f1	N-87°-E	不整楕円形	1.31 × 0.85	27	緩斜	平坦	人為	土師質	中世	
402	E 6 g1	N-11°-E	不 定 形	(2.38) × 1.09	21	緩斜	凸凹	人為		—	
403	E 6 g0	N-68°-W	不整楕円形	1.20 × 0.72	18	緩斜	凸凹	人為	土師器, 土師質, 雲母片岩	中世	
404	E 6 g3	N-18°-W	[凹 形]	1.16 × (1.16)	68	外傾	皿状	人為	土師器, 石製品	中世	
405	E 6 f2	N-39°-W	不 定 形	(0.72) × (0.62)	38	緩斜	凸凹	人為	縄文, 土師器, 土師質	中世	
406	E 6 f1	N-0°	[楕 円 形]	0.74 × (0.68)	55	外傾	皿状	人為		中世	
407	D 4 j0	N-52°-W	[長 方 形]	0.73 × (0.72)	43	緩斜	平坦	—	土師器, 土師質, 剥	—	SK415
408	D 4 j9	N-4°-W	楕 円 形	0.58 × 0.49	35	外傾	平坦	自然	古銭	中世	SK454
409	D 4 j0	N-15°-E	楕 円 形	1.75 × 1.57	29	緩斜	平坦	人為	剥	—	SK453
410	E 4 a9	N-28°-W	楕 円 形	1.08 × 0.62	36	外傾	凸凹	—		—	SD63
411	E 4 a9	N-47°-E	不整楕円形	1.04 × 0.58	66	外傾	凸凹	—		—	SK459 SD63
412	D 6 h1	N-18°-W	楕 円 形	0.88 × 0.76	40	緩斜	皿状	人為		—	SK440
413	D 6 h1	N-20°-W	楕 円 形	1.23 × 0.84	48	外傾	平坦	人為		—	SI153
414	D 4 j0	N-69°-W	楕 円 形	1.40 × 0.95	44	緩斜	皿状	人為	弥生, 土師器	—	
415	D 4 j0	N-12°-E	不整楕円形	1.50 × 1.04	43	外傾	平坦	人為	弥生	—	SK407
416	D 6 g0	N-24°-E	楕 円 形	1.32 × 1.17	78	外傾	皿状	—	土師質	—	SD62 SK367・368
417	D 6 f0	N-0°	楕 円 形	1.05 × 0.92	35	外傾	皿状	—	弥生, 土師器, 土師質, 陶磁器	中世力	SD61・62 SK366
418	D 6 f0	N-76°-W	[凹 形]	1.39 × (1.00)	46	緩斜	平坦	—		—	SD54・61 SK360
419	D 6 f0	N-90°-E	不整楕円形	0.98 × 0.86	60	外傾	平坦	—		—	SD54・62
420	E 6 b6	N-39°-E	楕 円 形	0.63 × 0.52	25	外傾	平坦	人為		—	SI141
421	D 6 g8	N-67°-W	楕 円 形	1.00 × 0.60	56	緩斜	皿状	—		—	SI129
422	D 6 g9	N-19°-W	楕 円 形	1.28 × 1.08	80	外傾	皿状	自然	土師質, 陶磁器	中世以降	SD60
423	D 6 h8	N-72°-W	楕 円 形	1.04 × 0.80	40	外傾	平坦	人為	弥生, 土師質	—	SI129
424	D 6 h8	N-76°-W	不整楕円形	1.56 × 1.20	44	緩斜	平坦	人為	土師器, 土師質, 陶磁器	中世以降	SI129 SK396
425	E 7 h1	N-70°-E	長 方 形	2.45 × 1.60	11	緩斜	平坦	人為	埴輪, 土師器, 石	—	
426	D 5 i5	N-4°-W	長楕円形	2.66 × 1.14	10	緩斜	平坦	自然	埴輪, 土師器	—	SD45
427	D 5 i6	N-4°-E	楕 円 形	1.74 × 1.09	18	緩斜	凸凹	自然	弥生, 土師器	—	SD45
428	D 5 h6	N-68°-W	不 定 形	1.92 × (1.10)	15	外傾	平坦	自然	土師器	—	
429	D 5 i4	N-9°-E	[長 方 形]	(2.15) × (2.00)	24	外傾	平坦	人為	弥生, 埴輪, 土師器, 陶磁器	中世以降	SD45
430	D 5 j4	N-88°-E	楕 円 形	0.72 × 0.64	30	緩斜	皿状	自然	土師器	—	
431	D 5 j3	N-77°-E	楕 円 形	0.96 × 0.76	32	外傾	皿状	人為		—	
432	D 5 j2	N-8°-E	円 形	1.10 × 1.07	37	緩斜	皿状	人為		—	
433	D 5 j2	N-75°-W	不整楕円形	1.13 × 0.96	46	緩斜	皿状	人為	陶磁器	—	
434	E 5 b3	N-83°-E	不 定 形	1.25 × (0.68)	50	緩斜	平坦	人為	土師質, 剥	—	SD69
435	D 4 j0	N-9°-E	円 形	0.52 × 0.51	16	緩斜	凸凹	自然	土師質	—	
436	E 4 a2	N-81°-W	楕 円 形	1.20 × 0.86	24	緩斜	平坦	自然		—	
437	D 5 h2	N-7°-E	隅丸長方形	1.56 × 1.02	40	外傾	平坦	人為	土師質, 陶磁器	—	SK448
438	D 6 g2	N-84°-W	楕 円 形	1.54 × 1.04	17	外傾	平坦	—	土師質	—	
439	D 6 g1	N-31°-W	[楕 円 形]	1.19 × (0.85)	31	緩斜	平坦	—		—	SK153
440	D 6 h2	N-30°-E	楕 円 形	1.13 × 0.99	19	外傾	平坦	人為		—	SK412 188
441	D 5 i2	N-18°-E	楕 円 形	0.82 × 0.63	36	外傾	平坦	自然		—	
442	D 4 h0	N-76°-W	楕 円 形	1.06 × 0.60	34	外傾	平坦	—	埴輪, 土師器	—	SK443
443	D 4 h0	N-8°-E	不整楕円形	1.70 × 1.00	76	外傾	皿状	—	弥生, 土師器, 石製品, 石核, 石	—	SK442 SK446

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
444	D 4 h0	N-16°-E	不定形	1.95 × 1.34	20	緩斜	平坦	人為	土師器	—	SK445
445	D 4 i0	N-86°-E	長方形	2.24 × 1.16	50	外傾	平坦	人為	土師質	—	SK444 SK446
446	D 4 i0	N-3°-W	[楕円形]	[1.08] × 0.94	78	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質	—	SK443 SK445
447	D 4 i9	N-69°-E	不整楕円形	1.39 × 0.94	55	外傾	皿状	人為	土師器	—	SK452
448	D 5 h2	N-26°-W	不定形	1.07 × 0.66	48	外傾	皿状	自然		—	SK437
449	E 4 b2	N-15°-E	不定形	0.50 × (0.25)	38	直立	皿状	自然		—	SK467
450	D 5 i1	N-3°-W	楕円形	1.10 × 1.00	45	外傾	皿状	自然	埴輪, 土師器	—	SK451
451	D 5 i1	N-64°-E	楕円形	1.05 × 0.79	40	外傾	平坦	自然		—	SK450
452	D 4 h9	N-61°-E	不定形	1.15 × (0.23)	14	緩斜	平坦	—		—	SK447
453	D 4 j0	N-2°-W	楕円形	0.65 × 0.52	23	外傾	皿状	人為		—	SK409
454	D 4 j0	N-52°-W	不整楕円形	1.62 × 1.19	24	外傾	平坦	人為		—	SK408
455	E 5 a1	N-53°-E	長楕円形	2.49 × 0.59	60	外傾	平坦	人為	縄文, 土師器	—	SK457 SK456
456	E 4 a0	N-79°-E	隅丸長方形	2.10 × 0.64	12	外傾	平坦	人為		中世力	SK455 粘土貼土坑
457	E 4 a0	N-8°-W	[楕円形]	(0.78) × 0.55	50	外傾	平坦	—		—	SK455
458	E 4 a0	N-74°-E	不整楕円形	1.16 × 0.54	14	緩斜	凸凹	自然		—	
459	E 4 a9	N-36°-W	[楕円形]	1.68 × (1.06)	57	外傾	平坦	人為	須恵器, 土師質	中世	SK411・461 SD63
460	E 4 a0	N-51°-W	不整楕円形	0.97 × 0.61	23	外傾	平坦	—		—	SD63
461	E 4 a9	N-46°-W	楕円形	1.19 × 0.91	51	外傾	皿状	人為	土師器, 土師質, 陶磁器	中世力	SD63 SK459
462	D 5 h5	N-48°-E	楕円形	1.80 × 1.54	13	緩斜	平坦	自然		—	
463	D 5 h5	N-70°-E	楕円形	0.89 × 0.72	34	緩斜	皿状	人為		—	
464	D 5 j1	N-19°-E	楕円形	0.73 × 0.54	14	緩斜	皿状	—	土師質	—	
467	E 4 a2	N-86°-E	楕円形	0.99 × 0.85	40	外傾	皿状	自然	埴輪, 土師器	—	SK459
468	E 4 b1	N-41°-W	楕円形	1.16 × 0.86	52	外傾	皿状	人為		—	SK469
469	E 4 b1	N-37°-W	楕円形	0.89 × 0.54	30	緩斜	皿状	人為	土師器	—	SK468
470	E 4 b1	N-12°-W	不整楕円形	1.32 × 1.10	51	外傾	皿状	人為		—	
471	E 4 b2	N-6°-E	不定形	2.39 × 1.87	46	緩斜	皿状	自然	土師器, 土師質	—	SK474
472	E 4 c1	N-59°-E	不定形	1.78 × 1.17	56	緩斜	凸凹	人為	土師質	—	
473	E 4 c2	N-40°-W	不整楕円形	0.80 × 0.70	10	緩斜	平坦	人為		—	
474	E 4 b2	N-11°-W	楕円形	0.54 × 0.34	61	外傾	凸凹	人為	埴輪	—	SK471
475	E 4 d3	N-17°-W	円形	0.76 × 0.71	21	緩斜	凸凹	人為		—	
476	E 3 c0	N-2°-E	楕円形	1.29 × 1.12	28	緩斜	平坦	人為		—	
477	E 3 d8	N-12°-W	円形	0.63 × 0.60	16	緩斜	凸凹	人為		—	
478	E 3 c0	N-11°-E	楕円形	1.45 × 1.08	38	緩斜	皿状	自然	縄文	—	
479	E 3 c0	N-16°-E	円形	0.94 × 0.90	32	緩斜	凸凹	自然	埴輪, 土師器	—	
480	E 3 c9	N-69°-W	不整楕円形	0.87 × 0.70	53	外傾	皿状	自然		—	SK486
481	E 3 c0	N-18°-W	隅丸長方形	1.21 × 0.99	17	緩斜	平坦	人為		—	
482	E 3 c9	N-14°-W	不定形	1.29 × 1.05	63	緩斜	凸凹	人為	埴輪	—	SK486
483	E 3 c9	N-81°-E	長方形	2.07 × 1.21	88	外傾	平坦	人為	埴輪, 古銭, 石, 人骨	中世以降	SK486
484	E 3 c8	N-9°-W	不整楕円形	1.09 × 0.89	20	緩斜	凸凹	自然		—	
485	E 3 d9	N-45°-W	方形	1.96 × 1.94	25	外傾	凸凹	人為	土師質土器	中世以降	
486	E 3 c9	N-24°-W	長方形	2.43 × 1.87	22	緩斜	平坦	自然	埴輪, 土師器	—	SK480 SK482 SK483
487	E 1 g0	N-20°-E	楕円形	1.70 × 0.96	11	緩斜	平坦	人為		—	
488	E 4 b3	N-20°-W	楕円形	1.42 × 1.06	36	緩斜	凸凹	人為	埴輪, 土師器	中世	粘土貼土坑
489	E 4 b4	N-1°-E	楕円形	0.97 × 0.70	27	外傾	皿状	人為		—	
490	E 4 c2	N-17°-W	不整楕円形	1.35 × 1.00	60	外傾	平坦	人為	埴輪, 土師質	—	
491	E 1 h6	N-6°-W	[楕円形]	(1.56) × 1.06	59	緩斜	凸凹	人為	土師質	—	SK524
492	E 1 h7	N-89°-E	隅丸長方形	1.91 × 1.02	56	外傾	平坦	自然	土師質	—	
493	E 1 h7	N-72°-E	不整楕円形	1.40 × 1.06	20	緩斜	平坦	人為	鉄滓	中世	SK494
494	E 1 h7	N-7°-W	隅丸長方形	1.65 × 1.11	27	外傾	平坦	人為		中世	粘土貼土坑
495	E 1 g8	N-14°-E	[隅丸長方形]	(1.67) × 1.30	40	外傾	平坦	人為	土師質土器	中世以降	SK496 粘土貼土坑
496	E 1 g8	N-0°	隅丸長方形	1.86 × 1.55	54	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器, 土師質土器	中世以降	SK495 粘土貼土坑
497	E 1 g0	N-22°-W	不定形	2.49 × 1.37	40	緩斜	皿状	人為	埴輪, 土師器, 土師質土器	—	
498	E 1 g9	N-6°-E	隅丸方形	1.66 × 1.59	50	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器, 古銭, 石	中世以降	粘土貼土坑
499	E 1 f0	N-89°-W	隅丸長方形	2.34 × 1.24	44	外傾	平坦	人為	埴輪, 土師器, 土師質, 陶磁器	中世	SK500
500	E 1 f0	N-48°-E	不定形	1.27 × 0.76	20	緩斜	皿状	人為		—	SK499
501	E 2 g1	N-87°-E	楕円形	1.10 × 0.78	46	緩斜	皿状	人為	埴輪, 土師器	—	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
502	E 1 g0	N-2°-W	長方形	2.10 × 0.34	56	外傾	平坦	人為	埴輪	中世	粘土貼土坑 SK508
503	E 1 f5	N-3°-E	不定形	0.60 × 0.54	10	外傾	凸凹	自然		縄文	SI131
504	E 1 f6	N-81°-E	不整楕円形	1.74 × 1.00	14	緩斜	平坦	人為		縄文	SI131
508	E 1 g0	N-87°-E	[隅丸長方形]	(1.79) × 0.97	20	外傾	平坦	人為		中世	SK502
509	E 1 g9	N-2°-W	不整楕円形	1.41 × 1.25	64	緩斜	皿状	自然		—	
510	E 1 i8	N-15°-W	隅丸長方形	1.43 × 1.15	35	緩斜	平坦	自然	埴輪, 土師質	—	SD70
511	E 1 h9	N-6°-W	隅丸長方形	1.67 × 1.25	39	外傾	平坦	自然	埴輪, 土師器, 土師質, 石織, 雲母片岩	中世	粘土貼土坑
512	E 1 h8	N-8°-E	隅丸長方形	2.04 × 1.48	27	緩斜	平坦	自然	縄文, 土師質	中世	粘土貼土坑 SK591
513	E 1 E5	N-61°-W	不定形	0.68 × 0.60	10	緩斜	平坦	人為		縄文	SI131
514	E 1 f5	N-27°-W	不定形	0.82 × 0.60	8	緩斜	平坦	人為	弥生土器	—	SI131
515	E 1 E5	N-56°-E	不定形	3.13 × 1.34	13	緩斜	皿状	自然		縄文	SI131
516	E 1 f6	N-15°-E	不定形	2.46 × (1.91)	14	緩斜	凸凹	自然	縄文, 土師器	縄文	SI130・131
517	E 1 f6	N-38°-W	[楕円形]	0.66 × (0.64)	12	外傾	平坦	自然		縄文	SI132
518	E 1 f6	N-32°-W	[不整楕円形]	(1.14) × 0.77	12	緩斜	平坦	人為		縄文	SI132 SK261
519	E 1 g6	N-62°-E	楕円形	1.34 × 0.80	18	緩斜	平坦	人為		縄文	
520	E 1 h6	N-42°-E	不定形	0.68 × 0.51	8	緩斜	凸凹	人為		—	
521	E 1 i0	N-52°-W	楕円形	0.90 × 0.74	30	緩斜	皿状	人為		—	
522	E 1 h0	N-9°-W	不整楕円形	1.27 × 0.96	36	外傾	平坦	人為	土師質土器	—	
524	E 1 h6	N-5°-E	[隅丸長方形]	[1.78] × 1.22	56	外傾	凸凹	人為	土師質, 馬骨	中世以降	SK491
525	E 2 g1	N-9°-W	楕円形	0.58 × 0.34	12	緩斜	皿状	人為		—	
526	E 1 f5	N-0°	不定形	1.24 × 0.94	14	緩斜	凸凹	自然	縄文	縄文	SI131
529	E 1 f5	N-65°-E	不定形	0.85 × 0.62	12	緩斜	皿状	人為		—	SI131
530	E 1 f6	N-48°-W	不定形	1.90 × 0.98	12	緩斜	凸凹	自然	縄文	縄文	SI131
531	E 1 g0	N-77°-E	不定形	1.08 × 0.82	30	緩斜	凸凹	人為	埴輪	—	
532	E 1 E7	N-44°-E	不整楕円形	0.94 × 0.76	39	外傾	平坦	自然	瓦	—	第3号塚
533	E 1 f7	N-40°-E	隅丸長方形	1.13 × 0.72	32	外傾	平坦	人為		—	第3号塚
534	E 1 f7	N-53°-E	隅丸長方形	1.24 × 0.86	38	外傾	平坦	自然	縄文	—	第3号塚
535	E 1 g6	N-50°-E	隅丸長方形	0.93 × 0.72	35	外傾	平坦	自然		—	第3号塚
536	E 1 g5	N-64°-E	隅丸長方形	1.16 × 0.94	38	外傾	皿状	人為		—	第3号塚
537	E 1 g5	N-55°-E	楕円形	0.82 × 0.42	30	外傾	皿状	—		—	
538	E 1 g5	N-44°-W	楕円形	1.19 × (1.00)	63	外傾	平坦	自然	磁器	—	SD38
539	E 1 g4	N-33°-W	[円形]	(1.17) × 1.13	55	緩斜	平坦	人為		—	SD38
540	E 1 h0	N-65°-E	楕円形	0.70 × 0.42	86	外傾	皿状	人為	埴輪	—	
541	E 2 h6	N-76°-W	楕円形	1.44 × 0.92	25	外傾	平坦	—		—	TM42 SK281
542	E 2 h7	N-23°-W	楕円形	1.18 × 1.07	41	外傾	皿状	—		—	TM42
543	E 2 h7	N-4°-W	円形	1.07 × 1.06	37	外傾	平坦	—		—	TM42
544	E 2 E7	N-6°-E	楕円形	1.11 × 1.00	47	緩斜	皿状	人為	土師器	—	TM42 SD77
545	E 2 f4	N-30°-W	楕円形	1.06 × 0.82	36	外傾	平坦	人為		—	
546	E 1 g6	N-71°-E	隅丸長方形	0.86 × 0.35	18	外傾	皿状	人為		—	
547	E 2 h1	N-32°-E	楕円形	1.16 × 0.88	52	外傾	皿状	人為		—	
549	E 1 f9	N-16°-E	楕円形	0.60 × 0.52	38	外傾	平坦	自然		—	
550	E 1 g4	N-0°	円形	2.89 × 2.87	200	外傾	平坦	人為		15世紀	SD37
551	E 2 i2	N-3°-W	円形	1.20 × 1.10	34	緩斜	凸凹	自然	土師器	—	
552	E 2 i1	N-85°-E	不整楕円形	0.66 × 0.30	26	直立	凸凹	自然	土師器	—	
553	E 2 i1	N-81°-E	不整楕円形	0.72 × 0.44	28	直立	皿状	自然		—	
554	E 2 i1	N-70°-E	不整楕円形	0.96 × 0.70	50	外傾	皿状	人為		—	
555	E 2 h1	N-75°-W	楕円形	0.90 × 0.70	38	外傾	皿状	人為		—	
556	E 2 j1	N-65°-W	楕円形	0.73 × 0.72	30	外傾	皿状	自然		—	
557	E 2 j2	N-25°-W	不整楕円形	1.10 × 0.92	60	外傾	平坦	自然		—	
558	E 2 i3	N-4°-E	不整楕円形	1.06 × 0.80	26	緩斜	皿状	自然		—	
559	E 2 i3	N-78°-E	楕円形	1.13 × 0.88	38	外傾	皿状	人為	土師質土器	—	第15号堀
560	E 2 i3	N-13°-E	楕円形	1.10 × 0.97	48	緩斜	凸凹	人為	縄文土器	—	第15号堀
561	E 1 i0	N-29°-W	不整楕円形	0.62 × 0.57	18	緩斜	凸凹	自然		—	
563	E 2 h1	N-8°-E	不整楕円形	1.74 × 0.98	12	緩斜	凸凹	自然		—	SK567・569
565	E 2 g1	N-34°-W	楕円形	0.66 × 0.56	10	緩斜	皿状	人為		—	
566	E 1 i0	N-1°-W	不定形	1.61 × (1.52)	32	緩斜	凸凹	人為	埴輪	—	SD70

番号	位置	長径方向	形態	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)						
567	E 2 h1	N-18°-W	楕円形	0.62 × 0.46	22	外傾	皿状	自然		—	SK563
571	E 2 f8	N-15°-W	不整楕円形	0.83 × 0.73	21	外傾	皿状	人為		—	
572	E 2 f8	N-0°	方形	0.89 × 0.87	34	緩斜	皿状	人為		—	
573	E 2 f8	N-7°-E	不整楕円形	1.28 × 0.74	76	外傾	凸凹	人為		—	SK574
574	E 2 f8	N-20°-E	楕円形	0.84 × 0.57	23	外傾	皿状	人為		—	SK573
575	E 2 g8	N-5°-W	楕円形	0.59 × 0.51	29	外傾	平坦	自然		—	
576	E 2 g8	N-10°-E	楕円形	0.49 × 0.44	58	外傾	平坦	人為		—	
577	E 2 g9	N-14°-W	楕円形	1.14 × 1.01	62	外傾	平坦	人為		中世カ	粘土貼土坑
578	E 2 g9	N-9°-W	楕円形	1.46 × 1.11	53	外傾	平坦	人為		—	
579	E 2 f9	N-21°-W	楕円形	1.06 × 0.78	60	外傾	皿状	人為		—	
580	E 2 f9	N-20°-E	不定形	1.75 × 0.84	58	緩斜	凸凹	人為		—	
581	E 2 e9	N-31°-E	楕円形	0.67 × 0.52	23	緩斜	皿状	人為		—	
582	E 2 e8	N-30°-E	楕円形	1.01 × 0.77	39	緩斜	平坦	—		—	SK583
583	E 2 e8	N-44°-E	[不整楕円形]	(1.21) × 0.87	33	緩斜	平坦	自然		—	SK582
584	E 2 e8	N-35°-E	円形	0.69 × 0.65	46	外傾	皿状	人為		—	SK585
585	E 2 e8	N-81°-E	楕円形	0.78 × 0.46	25	緩斜	皿状	人為		—	SK584
586	E 3 f1	N-44°-E	楕円形	0.75 × 0.67	21	緩斜	皿状	自然		—	
587	E 3 e1	N-83°-E	楕円形	1.16 × 0.95	43	外傾	平坦	自然		—	
590	E 2 h3	N-23°-E	長方形	2.34 × 1.51	68	外傾	凸凹	人為		—	
591	E 1 h8	N-11°-W	長方形	2.02 × 1.10	50	直立	平坦	人為		—	SK512
592	E 2 j9	N-81°-E	楕円形	0.78 × 0.67	52	外傾	皿状	自然		—	
593	E 2 j0	N-72°-E	楕円形	0.59 × 0.53	17	緩斜	平坦	人為		—	
594	E 2 j1	N-10°-E	楕円形	0.77 × 0.58	14	外傾	平坦	人為	埴輪	—	
595	E 2 h0	N-57°-E	長楕円形	2.35 × 1.30	63	外傾	凸凹	人為		—	
596	E 2 i9	N-55°-W	不整楕円形	1.78 × 1.44	30	緩斜	平坦	自然	土師質	—	
597	E 3 i1	N-12°-W	長楕円形	0.62 × 0.32	15	緩斜	平坦	自然		—	
598	E 3 h1	N-7°-W	長楕円形	3.49 × 0.83	11	緩斜	平坦	自然		—	
599	E 2 i0	N-11°-W	楕円形	0.48 × 0.41	12	外傾	平坦	自然		—	
600A	E 2 i8	N-78°-E	楕円形	1.41 × 1.04	59	外傾	平坦	人為		—	SK600B
600B	E 2 i8	N-15°-W	[楕円形]	[1.03] × 0.87	31	外傾	平坦	人為		—	SK600A・C
600C	E 2 i8	N-19°-W	[楕円形]	[0.87] × 0.71	6	外傾	平坦	人為		—	SK600B
601	E 2 i7	N-17°-E	楕円形	0.95 × 0.79	9	緩斜	平坦	人為		—	
602	E 2 i7	N-8°-W	楕円形	1.03 × 0.74	19	緩斜	平坦	自然		—	
603	E 2 j7	N-44°-W	楕円形	0.83 × 0.56	26	外傾	平坦	人為	陶磁器	—	SK614 SK620
604	E 2 i8	N-0°	楕円形	0.62 × 0.48	18	緩斜	皿状	自然		—	
605	E 2 i8	N-20°-E	楕円形	1.18 × 1.01	70	緩斜	平坦	人為		—	SK616 SK618
606A	E 2 i9	N-12°-E	不整楕円形	0.81 × 0.43	12	緩斜	平坦	自然	土師質土器	—	SK606B
606B	E 2 i9	N-75°-E	楕円形	0.63 × 0.55	46	外傾	皿状	人為	土師質土器	—	SK606C
607	E 2 j8	N-15°-E	円形	1.03 × 0.99	52	外傾	皿状	人為	古銭, 刀子	中世以降	SK608
608	E 2 j8	N-7°-E	[楕円形]	0.87 × (0.71)	16	緩斜	平坦	自然	土師質土器	中世	SK607
609	E 2 j8	N-8°-E	隅丸方形	0.95 × 0.93	21	外傾	皿状	人為	陶磁器, 古銭	中世期末	SK616
610	E 2 j8	N-10°-E	不定形	1.55 × 0.84	31	外傾	平坦	人為	陶磁器, 古銭	中世以降	火葬施設カ
611	E 2 i8	N-74°-W	隅丸長方形	0.88 × 0.68	36	外傾	皿状	人為		—	SK619
612	E 2 i8	N-90°-E	[隅丸長方形]	(1.00) × 0.76	9	外傾	平坦	人為	陶磁器, 古銭, 小仏像	中世期末	SK613
613	E 2 i7	N-32°-E	楕円形	1.60 × 0.99	99	外傾	皿状	人為	陶磁器	中世	SK612
614	E 2 i7	N-15°-W	不定形	2.16 × 1.09	70	緩斜	皿状	人為	土師質	—	SK603
615	E 2 j7	N-25°-W	不整楕円形	0.96 × 0.56	37	外傾	皿状	自然		—	
616	E 2 j8	N-17°-W	不定形	1.65 × (1.10)	68	外傾	皿状	人為		—	SK605・609
617	E 2 i8	N-59°-W	不定形	1.29 × 1.27	19	外傾	皿状	人為	土師質土器, 瓦, 古銭	中世	SK619
618	E 2 j9	N-64°-E	不定形	1.56 × 1.33	40	緩斜	皿状	人為	陶磁器, 古銭	中世	SK605
619	E 2 i8	N-56°-W	[不整楕円形]	0.80 × (0.50)	29	緩斜	皿状	人為		—	SK611・617
620	E 2 j7	N-10°-W	楕円形	1.47 × 1.14	71	緩斜	皿状	—		—	SK603 第15号堀
621	E 2 h9	N-88°-E	楕円形	0.90 × 0.72	29	緩斜	平坦	人為		—	
622	D 2 c0	N-75°-E	長方形	1.23 × 0.60	56	外傾	皿状	人為		—	

12 まとめ

長峰城跡は龍ヶ崎市による城郭悉皆調査で、郭7か所、腰曲輪2か所からなる城郭として知られていた⁽¹⁾。昭和61・62年度と2年にわたり西側の外郭に相当する区域を中心に調査が実施され⁽²⁾、平成8年度にもⅥ郭とⅦ郭の一部がそれぞれ調査されている⁽³⁾。

今回は城の主要部分が調査され、城郭に関する遺構は堀・土橋・木橋跡・礎石建物跡・掘立柱建物跡・井戸跡・虎口跡などが確認され、大規模な土木工事が行われていることが再確認され、得られた成果は大きい。ここではこれまでの調査成果に、新しく得られた調査結果を加えて長峰城跡の概要を述べ、まとめとする。

(1) 長峰城跡の立地と構造

長峰城跡は細長く延びる台地上に位置しており、主要な郭は台地を堀で切断することによって形成されている。周辺には平坦部に位置して方形館跡を起源にもつ屋代城跡⁽⁴⁾、また独立した台地を利用した龍ヶ崎城跡など一部の例外は見られるが、細長い台地を利用した城郭は、市内を含めて常総地方に広く分布している。長峰城跡は、7つの郭と3か所の腰曲輪、3か所の外郭及び付属する帯郭から構成され、それらは大きく二つの地区に分けられる。長峰城跡付近の字名をみると、「宿」と「竜ヶ井」の二つが見られる。

西側に位置する「宿」は、平成61・62年度に調査された地区に当たり、比較的平坦な地形を占める。この地区には堀を設けているものの、幅約2～8m、深さ約1～3mと平成13年度調査区域の堀と比較すると規模の点で見劣りがする。「宿」一帯は、近世城郭で言う総構え的性格をもつと考えられ、昭和61・62年度の調査では、堀によって外郭Ⅰから外郭Ⅲまでの区画が設けられている。中でも外郭Ⅰは台地平坦部を占め、また面積も広く、この区域の中心的な区画であり掘立柱建物跡が確認されている。この「宿」という字名は、中世に町場の集落が置かれていた土地に多く見られる地名で、当時ここには集落が営まれ、一般階層の人々が生活を送っていた区域と考えられる。城跡の南に広がる長峰地区は、中世の根小屋集落を起源とする集落と想定されるが、地元では特定できないものの「宿」から移ったという伝承があり、城郭の廃絶に伴って集落を移動したと考えられる。

一方、台地の先端付近には城郭の主要な郭が構築され、地表面からの観察でも深い堀を見ることができ、この付近は「竜ヶ井」という字名である。これは城跡の存在を示す要害が転化した地名と考えられ、砦跡とされる高萩市リュウガイ古屋敷跡も同様の名称が見られる。また銚田町徳宿城跡、水府村武生城跡はそれぞれ竜替城、龍ヶ井城の別称をもち⁽⁵⁾、これも長峰城跡の字「竜ヶ井」と同じく要害からの転化であろう。

この一帯は城郭の中心部分にあたり、御城あるは本城地区といえる区域である。さらに、外郭Ⅰの東西に入り込む谷は東から「宿一之谷」、 「宿二之谷」の字名を持ち、一・二は字「竜ヶ井」から西方をみた谷の順番と考えられ、中世にさかのぼる地名の可能性もある。

長峰城跡の中心部は、Ⅰ郭の位置する台地の先端付近に置かれ、西側の台地の付け根に当たる方向が近世城郭でいう大手に相当する。長峰城跡は西側に対する防備に中心が置かれ、この方面に向かって台地を分断する形で堀が構築されている。第37号溝跡以東は大規模に築城工事が行われ、Ⅱ郭・Ⅴ郭の縁辺部で地業の痕跡が残り、1・2号腰曲輪でもその造成に当たって2m以上の土盛り工事を行ったことが確認されている。また郭の南側は自然地形を利用しているが、腰曲輪付近では台地の基部を整形して崖面を造成した可能性がある。さらに城の北側は調査の対象区域は狭いが、南側ほどではないものの地業を行った形跡があり、Ⅶ郭の斜面部にも帯郭が認められ、外郭Ⅰの斜面部にも同様の平坦面の痕跡が地形図に残されている。

城内には特徴的な遺構・遺物がいくつか存在する。I郭は主郭と想定されるが、城郭に伴う構築物はあまり確認されなかった。潮来市堀之内大台城跡では主郭から主殿的な建物跡と庭園跡が検出され⁽⁶⁾、つくば市小田城跡でも本丸跡に池の存在が推定されている⁽⁷⁾。主郭部にはやはり庭園的な施設を設けた可能性があり、城内での生活を窺わせる施設が認められる。ところが、長峰城跡のI郭では虎口跡と2基の井戸跡を除くと生活の跡を示す遺構は確認されなかった。これは後にふれる城主の階層にも関係すると思われる。

II郭には郭の南側縁辺部に沿って道路跡が構築され、北辺部には第5号掘立柱建物跡が建てられている。第5号掘立柱建物跡は門と考えられ、この北側の未調査区域にその他の建物跡が存在する可能性がある。また、1号腰曲輪には重複関係から2期にわたる掘立柱建物跡が建てられ、I郭への登り口にあたることから遠侍所的な家屋があって、城内への通行を監視した⁽⁸⁾ものと想定される。

城内での信仰生活を窺わせる遺物も出土している。第12号堀では、投棄されたと思われる宝篋印塔・五輪塔などが出土し、第2号基壇跡の構築土中からも宝篋印塔が出土している。このことから、城内には供養塔を建立した一画があったと想定され、それらは改修または破脚時に破壊されたと考えられる。なお、V郭南側縁辺部の土坑群は墓域であり、第612号土坑からは小仏像が出土した。この小仏像の背面には鋳留めの痕跡があり、持仏の可能性が高い遺物である。また、付近の土坑から小柄や中国銭が出土し、副葬品と考えられる。

続いて防備関連の施設についての特色を概観する。

堀・溝跡 断面台形で、薬研堀状を呈するものが多い。第12・13号堀は、地山を掘り残して障子堀状の構造を持つため、堀底の部分は一見すると2条の堀が平行して走るような状況を示す。後に堀の外側を埋め立て、堀の改修を行っている。また、「宿一之谷」が台地に入り込む位置にも第1・2号堀が平行に走り、外郭Iと外郭IIを分断している。その堀の屈曲をみるとほぼ同じ位置で方向を変えていることから、同じ時期に構築されたと考えられる。このような構造は外八代城跡・貝原塚城跡など、龍ヶ崎地域の中世城郭でも確認されている。

外八代城跡では、堀が凸状に屈曲して走る⁽⁹⁾、長峰城跡でも一部の堀・溝に同様の手法が取り入れられており、第1・2号堀、VI郭と外郭Iを区画する第37号溝跡は鍵の手状に走る。どちらも尾根筋が狭くなった箇所位置し、それぞれ台地を掘り切って「宿一之谷」・「宿二之谷」に達している。さらに第12号堀は、I郭の西側で「く」の字状、第13号堀は「L」字状に屈曲してそれぞれ掘られ、各郭の死角を少なくする構造となっている。この構造は、屈曲する堀を構築することで横矢をかけやすくなり、防御側は効率的に守備することができる。従って、このように攻城側の進入が予想される台地の尾根を分断する堀に多くみられ、VII郭を南北に分ける第40号溝跡のように攻撃の脅威が低い場所では直線的に処理しており、意識的に使い分けられた可能性がある。

また、第550号土坑は第37号溝跡の屈曲部に位置し、攻城側の移動を妨げる目的で掘られた土坑で、やはり屋代城跡・外八代城跡でも類似の施設が確認されている⁽¹⁰⁾。

虎口跡 長峰城跡では6か所の虎口が調査された。第1・4号虎口跡はI郭の虎口であり、主軸はほぼ同じであるが、構造と虎口前面の堀の状況からみると、第4号虎口跡が年代的にさかのぼる可能性がある。第1号虎口跡では、内部から礎石建物跡が確認され、四脚門の可能性が想定されている。また、礎石建物跡のI郭側に4つのピットがあり、塀などを設けて直接虎口の外から郭内部を見通せない工夫が施され、^{しよみ}部土居と同じ機能をもっていたものと考えられる。虎口もII郭側からみると視認しにくく、攻城側がI郭へ進入するには第12号堀外側の狭い通路を通る必要があり、土橋をわたる際には横方向から攻撃にさらされるなど防御側に配慮した構造である。

II郭では、郭内の道路跡や後述する木橋跡などから虎口的位置を推定できるが、東側では第10号虎口跡を確

認したが西側では特別な施設は見られなかった。土塁が残っていないため明らかではないが、第1号虎口跡を除くと長峰城跡の虎口は簡素な構造であったものと想像され、土塁を食い違いにする程度の構造であったと想定される。また、腰曲輪に構築された虎口でも特別な構造は見られず、第3号虎口跡では平坦部側に版築状に突き固めた痕跡があることから、身を隠すための土塁の存在が想定される程度である。屋代城跡・龍ヶ崎城跡では馬出の存在が知られ、虎口の防備を固めているのとは対照的である。

土橋・木橋跡 今回の調査で3か所、昭和61・62年度の調査でも1か所確認されている。土橋は堀を埋め立てたものと地山を削りだしたのがあり、後者は城の改修によって構築されたものである。第1号土橋跡は、土層断面の観察から見て、第1号虎口跡と同時期に築かれたことが明らかになった。第1号木橋跡は、その下に第2号土橋跡が構築され、さらに第2号木橋跡も断面での観察から土橋の存在が想定されている。第2号土橋跡では硬化面が残り、木橋を構築する以前には、その面が通路であった可能性がある。基本的にこれらの土橋・木橋跡は、堀の屈曲部近くに構築され、通行を監視しやすい場所に位置している。

塚・古墳 長峰城跡では郭のコーナーを中心に、古墳などを組み入れて防御施設として利用している状況が確認できる。これらは3つに分類され、まず第39号墳は城内で最も標高が高く、物見櫓の役割を果たしたと考えられる。次は郭のコーナーに位置する一群で、第40・41・44号墳が該当する。これらは槽台的な性格をもち、第40・41号墳には隣接して虎口や木橋などが構築され、これらの施設を防備する役割をも果たしている。最後は堀の屈曲部や土橋付近に構築されたものである。第1号塚は第2号堀、第3号塚は第37号溝跡の屈曲部付近にそれぞれ構築され、鍵の手に曲がった堀と共に、西側の郭に対して防御効果を高める位置にある。第42号墳は、Ⅵ郭から見て第3号土橋跡の正面にあって狭い土橋を通っても通路を遮る形となり、多人数の通行ができないように工夫されている。また、第17号墳も台地の中央に位置し、その西側および古墳を挟む形で堀が構築され、西側の堀に土橋は確認されていないが、基本的には第42号墳と同じ性格のものと考えられる。また、今回は調査区域外となるが、第43号墳はⅡ郭と土橋で繋がり、第1号木橋跡・第2号土橋跡に横矢をかけるには絶好の位置を占めている。

(2) 築城と廃城時期について

長峰城跡の築城時期については、不明な点が多い。残された文献からは追跡できず、今日まで残された遺構は最終状態を示したもので、築城当時の遺構は後世の改変によって破壊された可能性が高いからである。

江戸崎町江戸崎城跡・千葉県横芝町坂田城跡⁽¹¹⁾・同下総町小帝城跡⁽¹²⁾など台地を利用した城郭は、先端部に主郭を築き、その後台地の基部に向かって郭を拡張する傾向が見られる。また、類似の地形に立地する長峰城跡もまず最初にⅠ郭周辺を築き、その後に西側に郭を広げたと考えられ、外郭Ⅰ～Ⅲは最終段階で構築された区域である。また、第14号堀を境に、堀の規模が異なり、Ⅰ～Ⅳ・Ⅶ郭とⅤ・Ⅵ郭・外郭とでは郭の性格が異なるか、または構築時期が異なるものと見られる。

城の活動期を示す遺物は、渡来銭を除くとあまり出土していない。第1号井戸跡から出土した鎬蓮弁を持つ磁器(第79図198)が今のところ14世紀以降の遺物と判断され、年代的にはさかのぼるものである。これ以外にはやはり第1号井戸跡から出土した古瀬戸の四耳壺片(第79図197)などが年代の基準となり得る遺物で、常滑では第1号井戸跡の191(第80図)、第1号道路跡の391(第108図)などほとんどが16世紀に比定される⁽¹³⁾。出土した遺物では室町前期にさかのぼるものはなく、室町時代後期から戦国時代にかけてのものが主流である。従って、長峰城跡の存続した時期はこの前後と考えられる。

一方、廃城の時期についても不明な点が多い。この地域に勢力をもった土岐原氏は、最終的に後北条氏の勢

力下に入るが、城の構造からはその影響は認められない。龍ヶ崎城跡では半月状の馬出の存在が指摘され、屋代城跡では城の南に枳形を構築した後に方形の馬出に改変するなど、近隣の城郭には新しい築城技術が取り入れられている⁽¹⁴⁾。ところが、長峰城跡は前述したように一部の堀・溝に屈曲部を設けているものの、虎口の構造は比較的簡素であり、馬出などの施設も見られない古い様相を留めている。従って、改修は龍ヶ崎城跡・屋代城跡よりも早い段階で終了したと考えられ、城郭としての機能は関ヶ原以前にほぼ終えていたと推測される。

城の破却にあたっては、土塁を破壊した形跡は見られるが、郭のコーナーなどに位置する塚・古墳は残存しているため、部分的な破壊であったことがわかる。また、堀には城内に立てられていたと見られる石塔片が遺棄されており、城主の信仰を否定する行為も見られる。これらの行為から、破却は従来の支配勢力とは異なる権力によって行われたものと考えられる。龍ヶ崎周辺での地域支配を否定する出来事は、土岐原氏の龍ヶ崎進出と⁽¹⁵⁾、後北条氏滅亡後に豊臣政権と結んだ佐竹氏の県南進出、そして関ヶ原の戦い後の佐竹氏の出羽移封のがあげられる。最初の土岐原氏の進出による廃城の可能性は、遺物の年代と次に述べるように長峰城の城主が土岐原氏の配下にあったと考えられることから薄い。また、城の遺構の観点からも関ヶ原以降の廃城の可能性も低く、土岐原氏の滅亡と佐竹氏の進出が破却の直接の契機となったものと考えられる。佐竹氏は、江戸に拠点を移した徳川氏と直接境を接したことから緊張関係が生まれ、一族の芦名氏を江戸崎城に入れ、潮来市堀之内大台城を築くなどの防備を固めている。また徳川側も、下総北部に有力武将を配置するなど対抗措置をとっている。破脚が不完全であったのはこのような状況が背景にあり、佐竹氏は旧来の権威を否定して支配にあたったものの、徳川氏との有事の際には従来の城郭を再度利用することを想定して軽度の破壊に留めたものと想定される。

(3) 城主について

長峰城跡の城主については、その存在を伝える文献はきわめて少ない。「土岐・岡見氏一族・旗下・家臣等覚書」(諸岡武男家文書)⁽¹⁶⁾、「東国闘戦見聞私記卷三一 岡見・月岡・土岐一族并家臣の事」⁽¹⁷⁾に長峯民部の名が見える。前者では「長峯村住ス」とあって長峯を姓としていることから、本跡との関係が深い人物である。またこの資料からは、これ以上の詳しい内容はなく、新たな資料の出現が待たれる。

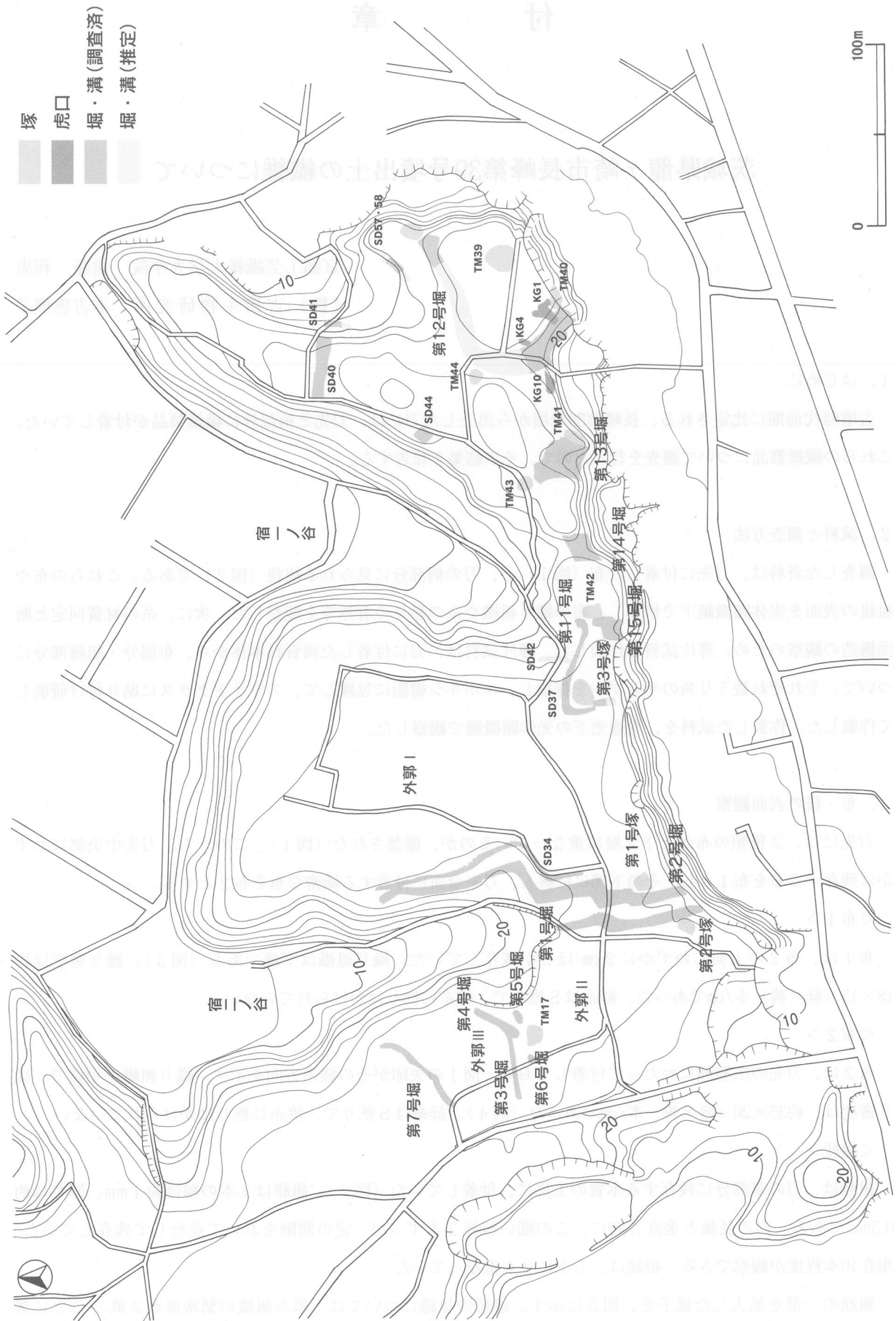
長峯民部はどのような人物であろうか。諸岡武男家文書には「土岐家一族」・「家来」・「家中之諸士」など階層を示す言葉が見え、長峯民部はその中の「家来之諸士」と呼ばれるグループである。彼らは各村々に在住し、その地名を姓とするとともに官位名を名乗っている。しかし城主と記載されるものは少なく、「土岐家一族」の全員が城主で、しかも有力な支城に居を構えているのとは対照的である。大半が村程度を支配する領主と考えられ、長峰城跡をそのような階層の居城とするには、調査の結果明らかになった築城の際の工事量から推定して、中世の長峰村単独の事業とするには無理がある。

千葉県光町篠本城跡では複数築かれた郭の規模がほぼ拮抗していることから⁽¹⁸⁾、小領主の連合体が築城に当たったと推定され、長峰城跡でもⅠ郭とⅡ郭との規模がほぼ拮抗しており、城主との階層差があまりない人物が関わった可能性が考えられる。私見ではあるが、その際有力な候補となるのは対岸の登城山城跡の城主である。前掲の「諸岡武男家文書」に半田九郎左衛門の名が見え、長峯民部と同じ階層に属する武士と考えられ、彼は地名を姓とするが官位名を持たず、この点長峯民部とは異なる。居城と想定される登城山城跡は、居館的な性格が強く、防備の点で不安が残る構造である。従って自身の居城を持つものの、有事の際には防衛の拠点を長峰城に求め、その城主とともに城に入ったことは充分予想される。

長峰城跡から出土した遺物を見ると、中国銭は出土しているが、輸入陶磁器など城主の地位を示すような遺物はほとんど見つかっておらず、多数の人員を動員して大規模な築城工事を行っている割には意外と貧弱である。こうしたことから、当時の武士層の中ではそれほど高い階層に属する人物ではなく、在地領主ではあるが、上層農民の中の有力者であったと考えられる。

註

- (1) 龍ヶ崎市史編さん委員会 「龍ヶ崎の中世城郭」『龍ヶ崎市史 別編Ⅱ』 龍ヶ崎市教育委員会 1987年
- (2) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第58集 1990年
- (3) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書21 長峰古墳群・屋代B遺跡Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第158集 2000年
- (4) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書17 屋代B遺跡Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第45集 1988年
- (5) 阿久津久 「茨城県」『日本城郭大系 第四巻 茨城・栃木・群馬』 新人物往来社 1979年
- (6) 堀之内大台城跡発掘調査団・日本城郭史学会編 「堀之内大台城発掘調査報告」牛堀町教育委員会 1985年
- (7) つくば市教育委員会 「国指定史跡小田城跡一現地説明会資料一」 2000年
- (8) 藤本正行氏の御教示による。門など出入り口付近に侍が詰める施設を持つ例は、「日蓮聖人註画讃」などに見られる。
- (9) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 2 外八代遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第2集 1980年
- (10) 藤本正行氏の御教示による。
- (11) 千葉県教育委員会 「千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ－旧上総国・安房国地域－」 1996年
- (12) 千葉県教育委員会 「千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅰ－旧下総国地域－」 1995年
- (13) 茨城県教育財団 「茨城の常滑Ⅴ」『研究ノート』9号 2000年
- (14) 前掲註(1)
- (15) 伊藤 勲 「土岐原史記」 伊藤勲遺稿刊行会 1978年
- (16) 前掲註(1)
- (17) 前掲註(1)
- (18) 千葉県企業庁・東総文化財センター 「篠本城跡・城山遺跡－ひかり工業団地内埋蔵文化財調査報告2－」『東総文化財センター発掘調査報告書』第21集 2000年



第209図 堀・虎口跡配置図

付 章

茨城県龍ヶ崎市長峰第39号墳出土の繊維について

京都工芸繊維大学大学院 遠藤 利恵
(株) 吉田生物研究所 本吉恵理子

1. はじめに

古墳時代前期に比定される、長峰第39号墳から出土した刀には、刀先と柄部分に繊維製品が付着していた。これらの繊維製品について調査を行ったので、その結果を報告する。

2. 試料と調査方法

調査した資料は、刀先に付着した布(図1)と、刀の柄部分に見られる組紐(図2)である。これらの布や組紐の表面を実体顕微鏡下で精査し、布の織り組織や糸の撚りの有無等を観察した。次に、糸の材質同定と断面構造の観察のため、薄片試料を作製した。薄片試料は、刀に付着した両資料本体から、布部分・組紐部分について、それぞれ数ミリ角のサンプルを採取し、エポキシ樹脂に包埋して、スライドガラスに貼り付け研磨して作製した。作製した試料を、透過光下の光学顕微鏡で観察した。

3. 布・紐の表面観察

刀先には、2種類の布が上下2層に重なっているのが、確認された(図1)。このうち、刀先中央部にわずかに残存する布を布1とし、その下部に位置し、刀先全面に付着する細密な布を布2とする。

<布1>

布1は、布2の上面にわずかに2cm²ほどが残存していた。織り組織は平織である(図3)。織り密度は約18×15(経×緯)本/cmであった。経糸はS撚りで、緯糸に撚りはかけられていない。

<布2>

布2は、刀先の広範囲にわたって付着しており、図1の矢印がその経糸方向を示す。織り組織は平織で、織り密度は、約35×20(経×緯)本/cmであった(図4)。経糸はS撚りで、緯糸に撚りはかけられていない。

<組紐>

組紐は、刀の茎部分に残存する木質の上部に、付着していた(図2)。組紐は1本の幅は約1mm、厚さは約0.5mmである。刀の長軸と垂直方向に、この細かい組紐2本ずつが一定の間隔をおいて並行して残存していた。現在10本程度が観察できる。組紐は、上下に2本重なっていた。

組紐の一部を拡大した様子を、図5に示す。組紐の組織については、組み組織の緊密度が2畝¹⁾ごとに異なっていたので、この組紐を2畝平組紐²⁾であると推測した。組紐の構造を調査するためには、要素数³⁾を

決定しなければならないが、今回のように錆化した試料では、色柄を利用した要素数の計測はできなかった。そのため、組紐の詳しい構造については不明である。

4. 糸の断面観察

<布1>

布1については、試料が2 cm²と極小であったため、経糸と緯糸を個別に採取して検鏡試料を作製したが、断面の形状はいずれも不明瞭で、同定にはいたらなかった。

<布2>

布2の経糸方向及び緯糸方向の断面を図7、8に示した。図7では、3つの円形の経糸断面と、湾曲した緯糸の側面が現れている。経糸断面の輪郭は、正円に近い。これは経糸が固く撚られた結果であろう。緯糸は、上下に大きく屈曲している。緯糸には撚りがかけられておらず、柔らかいことによる。図8には、4つの扁平な緯糸断面と、屈曲が小さくほとんど直線状の経糸側面が現れている。撚りがかけられていないため、緯糸の断面は平たい楕円形をしており、撚りがかけられているため、経糸の屈曲は小さい。

経糸と緯糸の繊維断面を拡大したものを図9、10に示す。経糸、緯糸とも、繊維断面は扁平な三角形で、その形状から絹繊維⁴⁾であると判断した。繊維断面に見られる絹繊維数は、経糸、緯糸ともに約200本であった。

繊維断面には、三角形の絹繊維が一辺をはさんで密着する様子を多数観察できた。これは、フィラメントが2本膠着した繭糸の状態であることを示している。

<組紐>

組紐は、上下に2本重なっている部分を選んでサンプリングして、試料断面の観察を行った(図11)。繊維断面は、布2の繊維と同様に扁平な三角形をしていることから、繊維の材質は絹であると判断した。

図の中央、横方向に広がる空隙部分をはさんで、絹繊維が密集した大きな塊が、上下2つに大きく分かれて見える。これがそれぞれ1本の組紐の断面であろう。しかし、表面観察で組紐の要素数を特定できなかったため、構造は不明で、組紐断面に見られる要素の構成を解釈することはできなかった。絹繊維数の計測は行わなかった。

表1. 茨城県龍ヶ崎市長峰第39号墳出土布計測表

試料名	織り組織	経緯の別	織密度 (本/cm)	撚り方向	材質	繊維の繊維数	繊維断面の幅 (μm)	繊維断面の高さ (μm)
布1	平織	経糸	18	S撚り	不明	—	—	—
		緯糸	15	無	不明	—	—	—
布2	平織	経糸	35	S撚り	絹	200	290	190
		緯糸	20	無	絹	200	310	130

表2. 茨城県龍ヶ崎市長峰第39号墳出土組紐計測表

試料名	組み組織	組紐の幅 (mm)	組紐の厚さ (mm)	糸の幅 (mm)
組紐	2 畝平組紐カ	1	0.5	0.5

5. まとめ

布1については材質を特定することはできなかったが、織密度の低い布で、経糸のみに撚りがかけられていた。

布2の経糸・緯糸の材質はともに絹で、布1に比べ、織密度の高い布である。経糸方向がそろっていることから、一枚の布が刀先の片面全面にはりついた状態で錆化したと考えられる。経糸のみに撚りがかけられていた。経糸、緯糸とも、約200本の絹繊維が1本の織糸を構成していた。織糸断面には、絹繊維2本が1対になった繭糸の状態が多数見られることから、布の精練⁵⁾の度合いは弱かったと思われる。

布1、2ともに、機にかける経糸には撚りがかけられ、緯糸には撚りがかけられていない。製織時に、経糸がほつれるのを防ぐための工夫であろう。

組紐は、刀の茎部分に付着した木質の上部に、刀の長軸と垂直方向に二重に重ねて巻かれていたと復元できる。繊維の材質は絹で、組織は2畝平組紐であると推測する。しかし、この組紐を組成するための要素数は特定できず、構造について明らかにすることはできなかった。これらについては、今後の検討課題とする。

注

- 1) 畝とは、紐の丈方向に生じる組目の配列。平組紐の組織は、畝数によって識別される。
- 2) 蛇腹組ともいう。
- 3) 組紐を組成するため用いられる要素（組糸）の数を、要素数と呼ぶ。2畝平組紐の要素数は3のほか、5や7など、複数の可能性がある。
- 4) 蚕は、2本のフィラメントを、セリシンというタンパク質で接着して、1本の繭糸として吐糸する。ここで絹繊維というのは、フィラメント1本を指す。
- 5) 繭糸を覆うセリシンなどの不純物を、熱湯やアルカリ類などを使って除去する工程。

参考文献

- 木下雅子『日本組紐古技法の研究』1994年 京都書院
- 布目順郎『布目順郎著作集—繊維文化史の研究—』1999年 桂書房
- 遠藤利恵・岡田文男「古墳時代の遺跡から出土した絹糸の構成単位と繭粒付け数について」
『日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集』2000年



図1 刀先



図2 柄部分

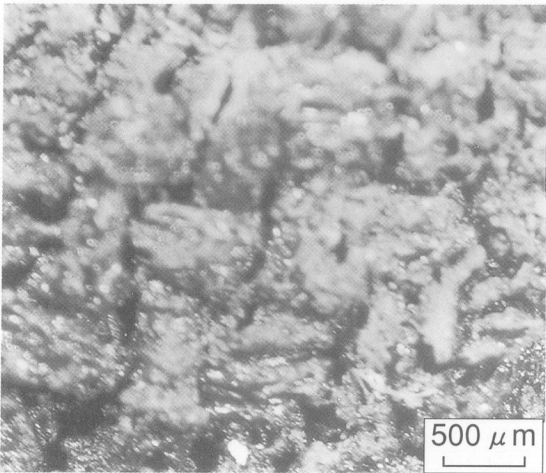


図3 布1

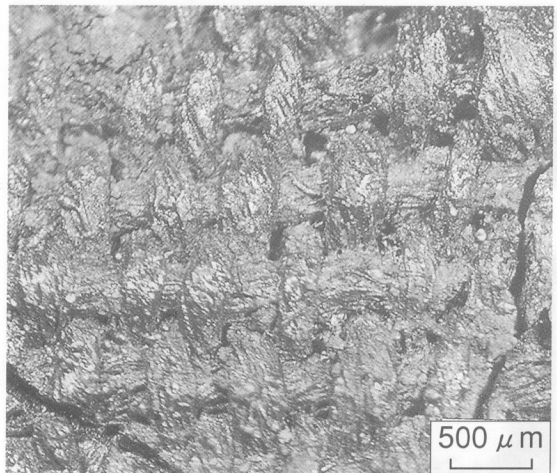


図4 布2

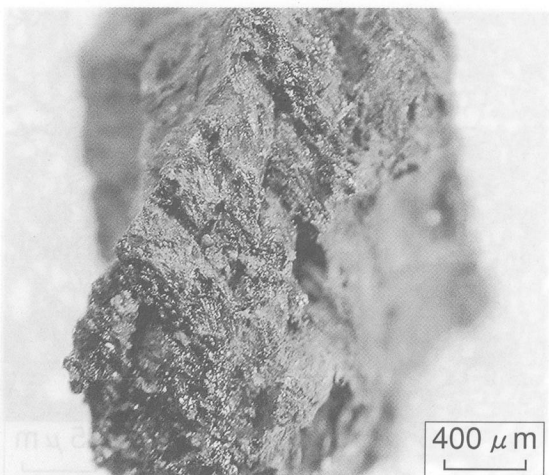


図5 組紐

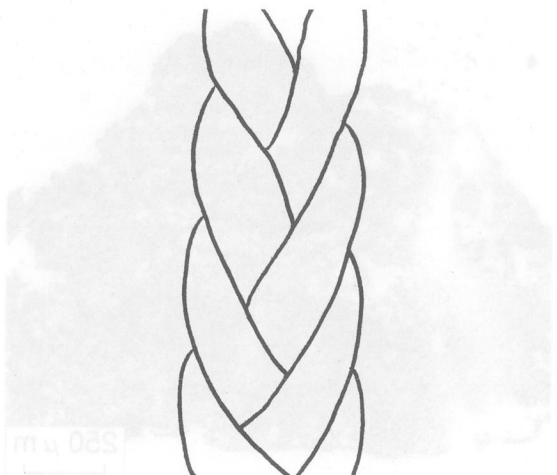


図6 2股平組紐 組織図

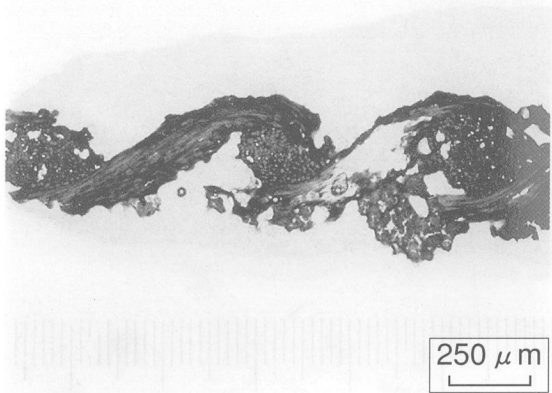


図7 布2の経糸断面

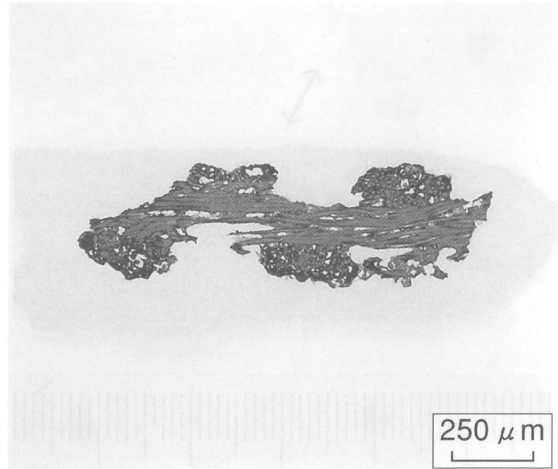


図8 布2の緯糸断面

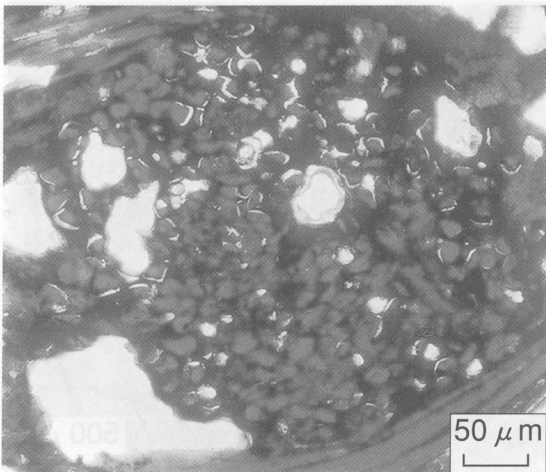


図9 図7の拡大

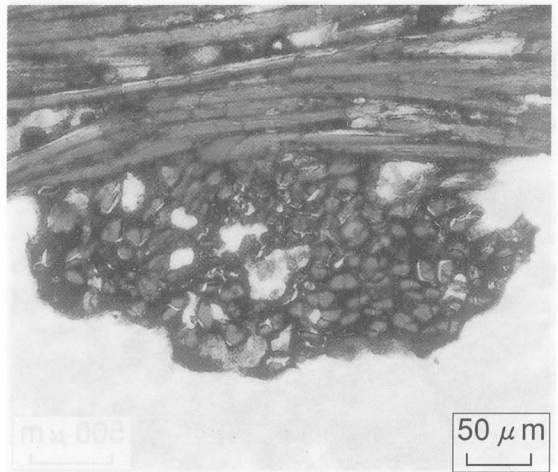


図10 図8の拡大

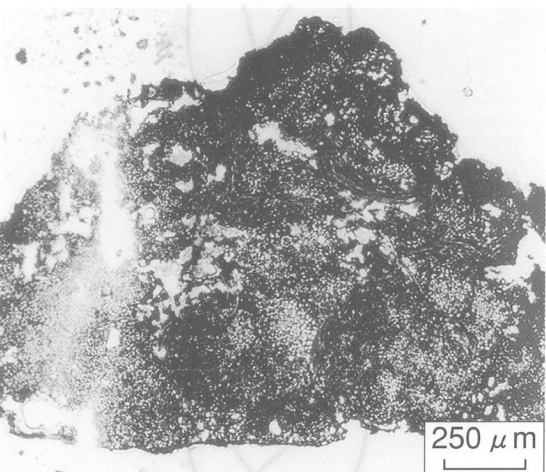


図11 組紐断面

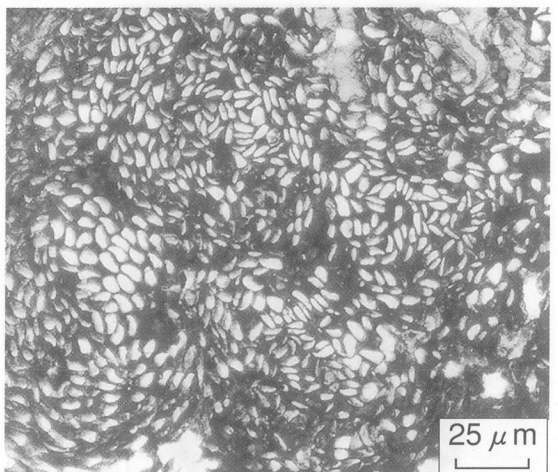


図12 図11の拡大

写真図版



長峰城跡（1947年撮影）

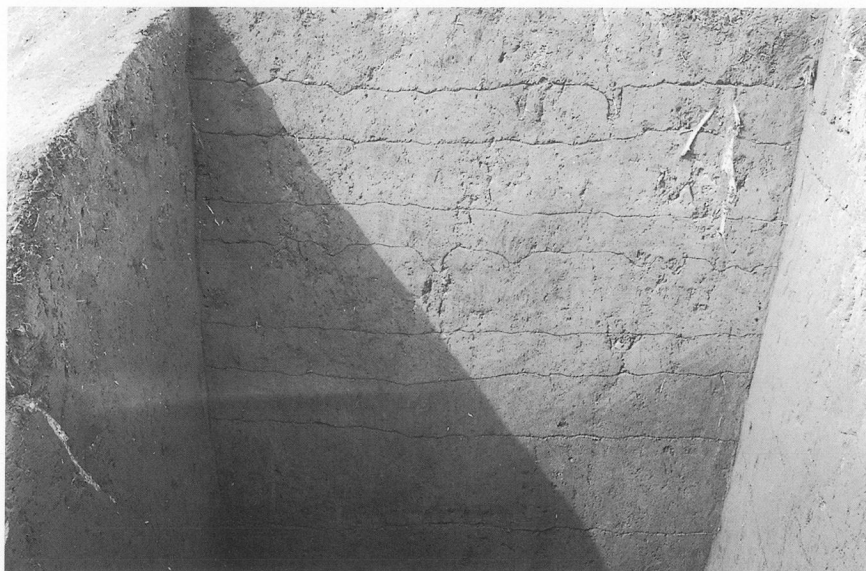


長峰城跡（北側上空より）



長峰城跡（東側から望む）

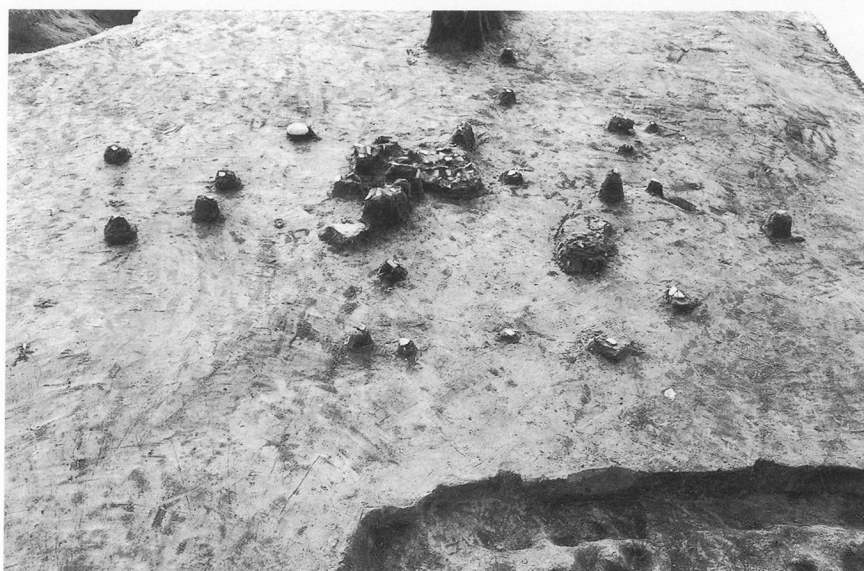
PL 2



基本土層



第131号住居跡完掘状況



第131号住居跡
遺物出土状況



第125号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第127号住居跡完掘状況



第127号住居跡
遺物出土状況

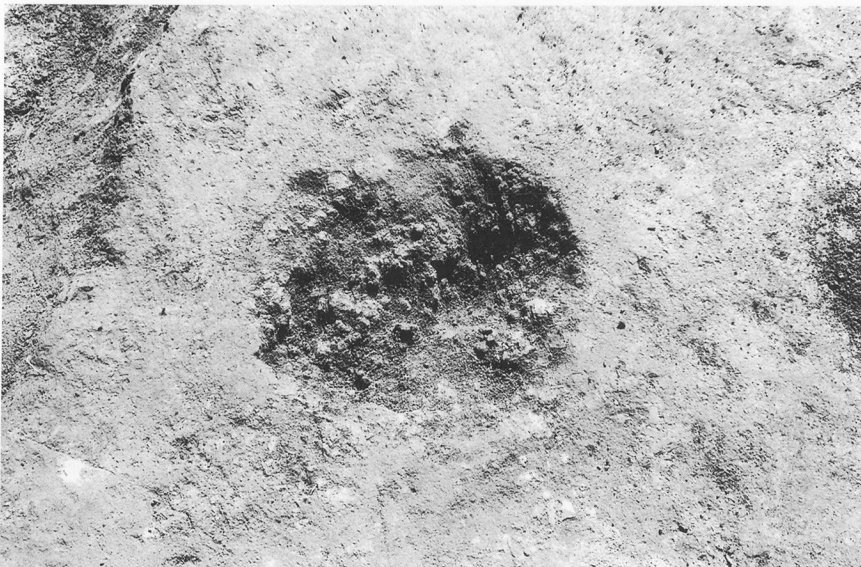
PL 4



第136号住居跡完掘状況



第136号住居跡
遺物出土状況



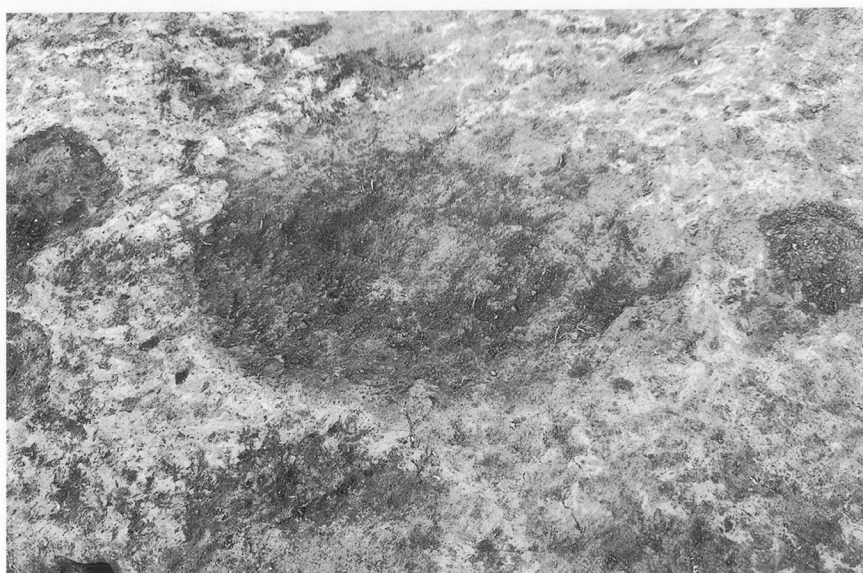
第136号住居跡
炉完掘状況



第139号住居跡完掘状況



第139号住居跡
遺物出土状況



第139号住居跡
炉完掘状況



第139号住居跡
遺物出土状況（廣口壺）



第139号住居跡遺物
出土状況（廣口壺）



第140号住居跡完掘状況



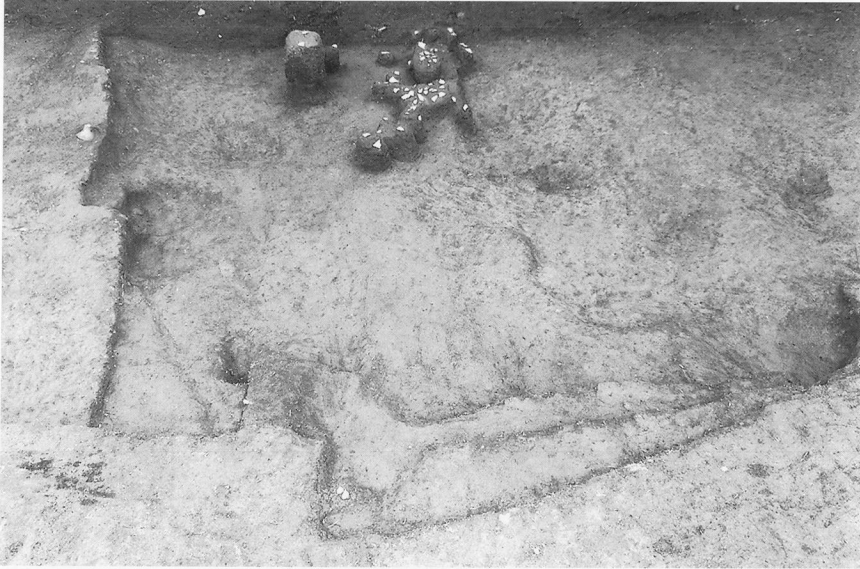
第140号住居跡
遺物出土状況



第142号住居跡
遺物出土状況



第142号住居跡遺物
出土状況（蓋）



第142～144・148号
住居跡遺物出土状況



第59号溝跡完掘状況



第59号溝跡遺物
出土状況



第59号溝跡
遺物出土状況



第130号住居跡完掘状況



第134号住居跡完掘状況



第142~144・148号
住居跡完掘状況



第147号住居跡完掘状況



第155号住居跡遺物
出土状況



第39号墳現況



第39号墳表土除去後



第39号墳構築状況



第39号墳埋葬施設遺物出土状況（鏡は復元）

第39号墳現況（南側から）



第39号墳埋葬施設
（鏡は復元）



第39号墳遺物出土状況
（剣）





第39号墳遺物出土状況
(復元)



第39号墳埋葬施設
完掘状況



第67号溝跡
遺物出土状況



Ⅰ 郭完掘状況（北東より）



Ⅰ 郭完掘状況（北西より）



I 郭現況 (II 郭から)



第129号住居跡完掘状況



第145号住居跡
遺物出土状況



第146号住居跡完掘状況



第150号住居跡
遺物出土状況



第150号住居跡
遺物出土状況



第1号井戸跡遺物
出土状況



第1号井戸跡遺物出土
状況（四耳壺，石臼片）



第2号井戸跡完掘状況



第12号堀南西部現況（Ⅱ郭から第1号虎口跡方向を望む）



第12号堀現況（左：Ⅰ郭・右：Ⅱ郭）